日中両言語における数字を含む同形副詞の対照研究
――副詞と動詞とのコロケーションを中心に

同志社女子大学大学院　文学研究科博士後期課程
日本語日本文化専攻　万礼

目　次

序　論 1
第一章　本研究の課題および先行研究 2
1. 本研究について 2
2. 日中の副詞に関して 3
2.1. 日本語の副詞に関して 3
2.2. 中国語の副詞に関して 6
2.3. 本研究における副詞 9
3. 中日同形語に関して 10
3.1. 同形語の定義 10
3.2. 同形語に関する先行研究 11
3.3. 日中の数詞「一」に関して 13
3.3.1. 先行研究 13
3.3.2. 辞書における「一」／“一”の意味 14
3.3.3. 「一」／“一”のほかの語との組み合わせ 15
3.3.4. 本研究での研究範囲 17
第一部　副詞と動詞とのコロケーション 21
1. コロケーションとは 21
1.1. 日本語におけるコロケーションに関する先行研究 21
1.2. 中国語におけるコロケーションに関する先行研究 23
2. 新川忠（1979）「副詞と動詞とのくみあわせ試論」 24
3. 数字を含む二文字副詞と動詞とのコロケーションに見られる特徴 26
第二部　数字「一」／“一”を含む中日同形副詞 32
第一章　「一一」「一つ一つ」と“一一” 33
1. はじめに 33
2. 意味について 33
2.1. 中国語の“一一” 33
2.2. 日本語の「いちいち」 33
2.3. 日本語の「一つ一つ」 34
3. 考察 34
3.1. 「いちいち」「一つ一つ」“一一”の形態 35
3.2. 「いちいち」／“一一”の修飾する動詞 37
3.3. 「いちいち」／「一つ一つ」の修飾する動詞 38
3.4. 「いちいち」／“一一”の述語形式について 39
3.5. 「いちいち」／「一つ一つ」の述語形式について 41
3.6. 文中の位置について 41

3.7. 「いちいち」のマイナスの評価的意味 42
4. まとめ 43
第二章 「一度」「ひとたび」と“一度” 44
1. はじめに 44
2. 先行研究 44
3. 意味の解釈 45
3.1. 辞書による意味解釈 45
3.2. 実例の意味の分析 46
4. 共起動詞の分類 52
4.1. 共起動詞の語彙的意味について 53
4.2. 共起動詞の時間表現について 55
5. 述語形式について 56
6. まとめ 58
第三章 「一旦」と“一旦” 59
1. はじめに 59
2. 辞書での意味の対照 59
2.1. 日本語の「一旦」 59
2.2. 中国語の“一旦” 60
3. 『中日対訳コーパス』における「一旦」と“一旦”の対応実態 62
4. 共起動詞の意味の対照 64
5. 述語形式の対照 66
6. まとめ 68
第四章 「一向」と“一向” 70
1. はじめに 70
2. 意味の対照 70
2.1. 日本語の「一向」 70
2.2. 中国語の“一向” 71
3. 『中日対訳コーパス』における「一向」と“一向”の対応実態 72
4. 文中における形態 73
5. 共起動詞の意味の分類 75
6. 述語形式について 78
7. 日中「一向」と“一向”の歴史的変遷 79
7.1. 中国語の“一向”語彙化と文法化 79
7.2. 日本語「一向」の変遷諸相 81
8. まとめ 82
第五章 「一概」と“一概” 84

1. はじめに 84
2. 語彙の意味の対照 84
2.1. 日本語の「一概」 84
2.2. 中国語の“一概” 85
3.『中日対訳コーパス』における「一概」／“一概”の対応実態 87
4. 共起動詞の語彙的意味の対照 88
5. 述語形式について 91
5.1. 肯定形式 91
5.2. 否定形式 93
6. まとめ 95
第六章　「一斉」と“一齐” 96
1. はじめに 96
2. 意味の対照 96
2.1. 日本語の「一斉」 96
2.2. 中国語の“一齐” 97
3. 『中日対訳コーパス』における「一斉に」／“一齐”の対応実態 98
4. 共起動詞の意味の分類 100
5. 動作の発する主体について 102
6. まとめ 103
第七章　「一挙」と“一举” 105
1. はじめに 105
2. 辞書での意味の対照 105
2.1. 日本語の「一挙」 105
2.2. 中国語の“一举” 106
3. 『中日対訳コーパス』における「一挙」と“一举”の対応実態 106
4. 共起動詞の意味の分類 108
5. 否定形式と肯定形式 111
6. まとめ 111
第八章　「一時」と“一时” 113
1. はじめに 113
2. 辞書での意味の対照 113
3. 『中日対訳コーパス』における「一時」と“一时”の対応実態 117
4. 共起動詞の意味の分類 119
5. 述語形式について 121
6. まとめ 122
第三部　「再」／“再”を含む中日同形副詞 123

第一章　「再度」と“再度” 124
1. はじめに 124
2. 「再度」の「度」について 124
2.1. 中国語の“度” 124
2.2. 日本語の「度」 125
3. 意味の対照 126
3.1. 日本語の「再度」 126
3.2. 中国語の“再度” 126
4. 文中での形態および動詞とのコロケーション 127
4.1. 文中形態 127
4.2. 共起動詞とのコロケーション 128
5. 文中での位置について 129
6. まとめ 130
第二章　「再三」と“再三” 132
1. はじめに 132
2. 日中「再三」の意味解釈 133
2.1. 日本語「再三」 133
2.1.1. 現代日本語の「再三」 133
2.1.2. 古代日本語 133
2.2. 中国語“再三” 134
2.2.1. 現代中国語の“再三” 134
2.2.2. 古代中国語 134
3. 「再三」／“再三”の文中での機能 135
3.1. 日本語「再三」の機能 135
3.2. 中国語“再三”の機能 137
4. マイナス・プラスの評価的意味について 139
5. 共起する動詞の語彙的意味について 139
6. 動詞の否定形について 142
7. 「再三」／“再三”を含む主節・従属節について 143
8. まとめ 145
第三章　「再び」／“再” 146
1. はじめに 146
2. 意味の対照 146
2.1. 日本語の「再び」 146
2.2. 中国語の“再” 147
2.2.1. “再”の変遷 147

2.2.2. “再”の意味について 148
3. 共起する動詞の分類 149
4. 述語形式について 151
4.1. 否定的な表現 151
4.2. テンスとアスペクト 153
4.3. モダリティについて 155
4.4. 主節、従属節について 155
5. まとめ 156
第四章　ほかの「～再～」／“～再～” 157
1. 日中の[再三再四]..... 157
2. 日中の「一再」／“一再” 158
2.1. 意味の対照 159
2.2. 文中での形態および文法的特徴 160
3. 日中の「再再」／“再再” 161
3.1. 意味の対照 161
3.2 形態および文法的特徴 162
4. まとめ 164
結論と今後の課題 165
補充考察：日本語の類義語「思わず／うっかり」の動詞との共起 167
1. はじめに 167
2. 先行研究 167
3. 研究方法 167
4. 考察一：動詞との組み合わせ 168
4.1. 「用の類」における使用傾向 168
4.2. 分布傾向 169
5. 考察二：述語および動詞文型 174
【謝辞】 177
【参考文献】 178

序　論

第一章　本研究の課題および先行研究

1. 本研究について

本研究は、日本語と中国語の副詞の中で、数字を含む二文字副詞を研究対象とするものである。したがって、本研究では副詞全般に関するものではなく、数字を含む同形副詞を中心に、日中両言語の副詞と動詞とのコロケーションを通して、日本語と中国語の数字を含む同形副詞のおもな共通点と相違点について対照考察する。本研究は同形副詞と動詞との組み合わせを調査し、動詞の意味のタイプ、その述語形式、文中での位置などを対照考察する。

中日同形語の研究はこれまで多くの研究者によって進められてきたが、その多くが語彙に関するもので、日中両言語の意味の相違について言及したものが多く、コロケーションに関する研究はほとんどない。本研究では、先行研究を踏まえた上で、数字を含む同形副詞に焦点を絞り、それぞれの意味的か、統語的な側面、とくに動詞との組み合わせ、述語形式に着目しながら、異同を検証する。《现代汉语词典》(第 6 版) における数字“一”を含む二文字副詞は 37 個ある（“一” から始まる副詞)。一方、日本語『大辞林（第三版)』における「一」を含む二文字副詞は「一一」、「一度」、「一旦」、「一向」、「一挙に」などの 49 個が記載されている（「一」から始まる副詞)。[1]本研究では、同じ漢語表記に注目し、日本語の「に」が付いている副詞も視野に入れて、両言語において使用頻度が比較的高い数字「一」／“一”を含む同形副詞を八つ選択し、その動詞とのコロケーションを対照考察する。また、数字「一」／“一”以外には、「二」／“二”、「三」／“三”、さらには、「再度」／“再度”、「再三」／“再三”などの「再」／“再”を含んでいる同形副詞も研究の範囲に入れている。

研究の方法については、日中両国のデータベースを活用し、可能な限りの用例を収集し、言語実態を整理することを通し、実際の用例をもとに対照分析する。本研究でコーパスとして用いたのは次の三種類である。

1 つ目は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese，略称 BCCWJ）で、これは大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が構築した現代日本語のコーパスである。 総語数は約 1 億語である。この中には書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Web の掲示板、ブログなどで多用される日本語が含まれている。

2 つ目は、“北京大学现代汉语语料库”で、北京大学が構築した現代中国語のコーパスである。総語数は約 4.77 億語である。その中には書籍、雑誌、新聞などが含まれている。

3 つ目は、『中日対訳コーパス（ 第一版)』で、北京日本学研究センターが造った中日対訳のコーパスである。その収録内容は、文学作品では中国 23 篇、日本 22 篇とその訳本を合わせて 105 件（ほぼ 1,130.3 万字）である。文学以外では中国 14 篇、日本 14 篇、日中共同 2 篇との訳本を合わせて 45 件（ほぼ 574.6 万字）である。

---

[1] 日中両言語において、「一」が始まる二文字副詞以外には、「万一」などの「一」が後ろに位置するものもある。本研究では語頭に「一」が入るものに限ることを予め断る。

2. 日中の副詞に関して

周知のように、日本語にも、中国語にも「副詞」という品詞があり、多くの共通点がある。副詞は日本語にしても、中国語にしても、主に動詞などを修飾するという役割を果たしている。それは主な共通点であり、本研究の対象研究の基礎である。

2.1. 日本語の副詞に関して

副詞とは何かというのは、多くの言語学者を悩ませてきた問題である。『日本語文法事典』の定義によると、副詞とは「品詞の一つ。自立語のうち、用言や述部、文に対する修飾限定（副詞的修飾）を行う単語をとりまとめたもの。」[2]である。『事典』では「ゆっくり 歩く」、「とても 寒い」「たぶん 来ないだろう」という具体的な使用例をあげて、それぞれを「動きの様子」、「状態の程度」、「発話者の主観的な捉え方を表すもの」と明確に解釈されている。しかし、副詞の認定に関しては、認定されにくいものが多く残されているので、副詞は「品詞の掃き溜め」と認識されることも少なくない。

日本語文法上の副詞の認定に関しては、大きく異なる二つの立場があるとされている。一つは、「それ自身語形変化せず、もっぱら連用修飾機能に働く品詞」であり、もう一つは「体言や用言のように主語・補語・述語といった文の骨組み成分とならず、それに副える形で補助し調節する機能に働く品詞」[3]である。

日本語では、副詞についての定義や用語は学者によって相当異なっている。まず、前者の立場をとっているのは大槻文彦、山田孝雄、橋本進吉をはじめとする学者である。現在の学校文法の副詞の規定は大槻文彦の「語法指南」に由来する。「品詞分類」に「洋学」系の用語と枠組みが採用され、「名詞・動詞・形容詞・助動詞・副詞・接続詞・弖爾乎波（テニヲハ）・感動詞」[4]という八品詞をあげている。

山田孝雄は、機能的な側面から副詞及び副詞的修飾成分の分類を示した。まず「副詞（いわゆる副用語）」を、「それより前にあらわれたる語句の意を下の語句に連ねて意義上二者を媒介結合するもの」である「接続副詞（現在の接続詞にあたるもの）」と、「その意が下なる語句のみに関するもの」である「先行副詞」に二分した上で、先行副詞を「ある文句に先行するもの」か、それとも「ある語に先行するもの」かによって、「感動副詞（現在の感動詞にあたるもの）」と「語の副詞」とに分けている。この「語の副詞」は、現在よく言われている副詞にあたるものである。また「用言に属性と陳述の力との二要素の存在する事実に並行する」ことを根拠に、「語の副詞」を「属性副詞」と「陳述副詞」とに分類し、「属性副詞」をさらに「それ自身がある属性観念を具体的に有し」「自ら属性を表し、かねて属性の修飾をなしうるもの」である「情態副詞」と、「意義として単に程度を表すもので専ら他の属性を表す副詞又は用言に属してその属性の程度を示すに用いられるもの」[5]であ

---

[2] 『日本語文法事典』による。
[3] 『日本語文法事典』による。
[4] 『広日本文典』による。
[5] 『日本文法論』による。

る「程度副詞」とに分けている。副詞を情態・程度・陳述の三種に分けるという山田の三分類は、副詞の下位分類の中でもっとも注目されるものであり、現在でも広範囲に常識として定着している。

橋本進吉は、単独で文節を構成しうるかどうか、活用するかしないかの基準により、品詞を「自立語」と「付属語」とに大きく分類している。この中で、副詞を活用せず、主語とならぬ副用言に入り、体言を修飾する副体詞と対立し、用言を修飾するものと定義した。ただし、「副詞はほかの副詞や体言を修飾することもある」[6]と付け加えている。

後者の立場をとっている松下大三郎、川端善明、渡辺実の研究は、山田の主張の再検討と連用修飾語の再分類とを軸に進められた。

松下大三郎は、まず語をそれだけで観念を表す「詞」と、詞についてはじめてその観念を表す「原辞」とに大別したうえで、副詞は「他の概念の運用に従属する属性の概念を表示する」ものと考え、それを「他の概念の運用に従属する属性の概念を表して他詞運用を調節するものであって叙述性の無い詞である」[7]と定義している。

渡辺実は、語の意味・形態・機能という三つの基本的要素を重視し、語を構文論的に分類し、語の構文的機能を素材表示の機能と関係構成の機能に分け、それぞれ詞と辞に相当するものとした。その中では副詞を関係構成の機能をもつものとして、「連用副詞」（程度副詞）と「誘導副詞」[8]（陳述副詞）の提起をした。

上述の代表的な文献では、品詞論・形態論・文章論・構文論など様々な観点から副詞を考察しており、定義の基準と分類の仕方もそれぞれ異なっている。

日本語では、副詞についての研究は、山田の分類を踏まえ、従来の構造を重視する立場から、機能を重視する立場へ変わってきていると考えられる。副詞に対する定義の仕方もその傾向が見られ、構文上の機能を重視する傾向になってきている。

これまでの日本語副詞の分類を概観してみる。

まず、明治期におけるいくつかの「副詞の分類」は下記のとおりである。

- **田中義廉『小学日本文典』（1874）の分類：**位地副詞、時刻副詞、反復副詞、順序副詞、分量副詞、状態副詞、決定副詞、否不副詞、種分副詞、併合副詞、推量副詞、疑問副詞、発語副詞
- **中根淑『日本文典』（1876）の分類：**作為、地位、時刻、分量、決定、非否
- **臼田寿恵吉『日本口語法精義』（1909）の分類：**時に関する副詞、順序に関する副詞、地位・方向・距離に関する副詞、程度・分量に関する副詞、状態に関する副詞、想像・願望に関する副詞、希求・願望に関する副詞、疑問・不定に関する副詞、反動に関する副詞、確信に関する副詞、仮定に関する副詞、否定に関する副詞

明治期の副詞の分類には英文典の分類の影響が強いという特徴が見られる。

山田孝雄はそれまでの副詞の規定や分類を批判した上で、新しい機能的分類を提示して

---

6 『国文法研究』による。
7 『改撰標準日本文法』による。
8 『国語構文論』による。

いる。

- **山田孝雄『日本文法論』（1908）の分類：**情態副詞、程度副詞、陳述副詞、感動副詞、接続副詞

現在日本語の副詞に関しては、一般に山田の分類を踏まえ、動詞を修飾して形容詞を修飾しない情態副詞（「やっと」「しっかり」「とうとう」など）、形容詞または情態副詞など情態や性質を表す語の前にきてその程度を示す程度副詞（「とても」「少し」「極めて」など）、陳述の機能を担う陳述副詞（「たぶん」「まさか」「もし」など）の三つに分類されている。さらに、その性質と機能により、情態副詞・程度副詞・陳述副詞のほかに、一般に感動詞と接続詞に含めているものを感動副詞・接続副詞とし、あわせて五分類としている。

- **松下大三郎『改選標準日本文法』（1928）の分類：** 副詞に実質副詞、帰着副詞、接続詞の三種と、もう一つ接頭副詞というのが有る。実質副詞以外の三つは実質副詞に対して形式副詞である。
- **橋本進吉『改制新文典別記文語篇』（1939）の分類：** 程度の副詞、叙述の副詞、状態の副詞

橋本進吉は、山田の分類を部分的に受け継ぎ、「接続副詞」と「感動副詞」を副詞から除いて、それぞれ従来の「接続詞」「感動詞」という独立の品詞として立て、残りの「語の副詞」を「状態の副詞」「程度の副詞」「叙述の副詞」の三つに分類している。橋本の三分類は学校文法の基礎となり、広く採用されている。

近年副詞の分類には、渡辺実、益岡隆志・田窪行則、仁田義雄の分類などがある。

- **渡辺実『国語構文論』（1971）の分類：**連体副詞、連用副詞、誘導副詞、接続副詞、並列副詞、陳述副詞

渡辺氏は構文的機能から分類を行い、語を職能上から助詞類、用言類、副詞類、体言類の四種類に分け、従来の情態副詞を体言類の情態詞に入れ、副詞から切り離している。

- **益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』（1992）の分類：**様態の副詞、程度の副詞、量の副詞（テンス・アスペクトの副詞、テンスの副詞、アスペクトの副詞）、陳述の副詞（疑問と呼応、否定と呼応、依頼・命令と呼応、概言・確言と呼応、伝聞と呼応、比況と呼応、感動と呼応、条件・譲歩と呼応）、評価の副詞、発言の副詞、その他の副詞
- **中右実「文副詞の比較」（1980）の分類：**①命題内副詞：時・アスペクトの副詞、場所の副詞、頻度の副詞、強意・程度の副詞、様態の副詞、②命題外副詞：価値判断の副詞、真偽判断の副詞、発話行為の副詞、領域指定の副詞、接続副詞

従来の副詞の分類と違い、中右氏は、副詞を命題内に収まる副詞とモダリティに関わる副詞に二分し、それぞれを「命題内副詞」と「命題外副詞」と名づけ、またさらにこの二種を下位分類している。この分類は、日本語と英語の文副詞の比較において共通した基準でなされたもので、「英語にも日本語にもあてはまる」という特徴がある。

- **仁田義雄『副詞的表現の諸相』（2002）の分類：**結果の副詞、様態の副詞、程度量の副

詞、時間関係の副詞、頻度の副詞

仁田義雄は従来の情態副詞を結果の副詞と様態の副詞に分け、「結果の副詞、様態の副詞、程度量の副詞、時間関係の副詞、頻度の副詞」というような状況修飾関係にあたるものを結果副詞の周辺的な存在としている。

そのほか、副詞と動詞の組み合わせについて詳細に記述した新川忠（1979）は、副詞的修飾成分の意味の類型と動詞の意味の類型の組み合わせに注目し、副詞的修飾関係を「規定的なむすびつき」と「状況的なむすびつき」に二分し、また「規定的なむすびつき」を「質規定的」「結果規定的」「量規定的」「方法規定的」に、「状況的なむすびつき」を「空間的」「時間的」「原因」「目的」に分けた。

これまで、副詞に関する研究は、分け方と名称が違うだけでなく、意味的分類から、機能的分類を経由し、意味・機能的分類にまで至っている。以上のように、副詞の分類について代表的な論のみをあげても、研究者によって分類の基準や方法などが異なり、それぞれ特色を持っている。

2.2. 中国語の副詞に関して

中国語の副詞は「主に動詞や形容詞を修飾し、それらが表す動作・行為や性質・状態に関わる範囲や時間、程度、頻度、及び肯定或いは否定を述べるものである」[9]と定義されている。文法的機能から言えば、主に動詞、形容詞、あるいはセンテンスを修飾するもので、時には名詞の前に来て形容詞的修飾語となるものである。主に時間、地点、方式、程度などの概念を表すのである。形態上では、いつも動詞、形容詞、時には名詞などのことばや語句の前にきて、「状語」[10]という成分を担当している。

中国語の品詞を区分する際の基準は、主として単語の文法的機能に基づき、あわせてその語彙的意味も考慮に入れる。実在の意味をもつ語は「実詞」[11]として分類され、実詞は文成分になることができ、一般に実質的な語彙的意味をそなえている。実在の意味をもたない語は、「虚詞」[12]として分類されている。ここでは、実詞であると認める『現代中国語文法総覧』における具体的な品詞分類と、虚詞であると認める《语法讲义》における品詞分類を下記のように例示する。

---

[9] 『現代中国語文法総覧』による。

[10] 状語：述語の前にあって修飾の働きをする成分を状語という。(『現代中国語文法総覧』)

[11] 『現代中国語文法総覧』ｐ５を参照。「実詞は文成分になることができ，一般に実質的な語彙的意味をそなえている。」他には、胡裕树《现代汉语》などは副詞が「実詞」であると認めている。それに対して、朱德熙《语法讲义》，王力《中国现代语法》，吕叔湘《中国文法要略》などは、副詞が「虚詞」であると主張する。本研究では、副詞が「実詞」であるか「虚詞」であるか、扱わないことにする。

[12] 虚詞は一般に単独では文成分になれず、主にさまざまな文法的意味、或いは語気や感情を表す。

＜副詞が実詞であると認める場合＞

実詞
- 1）名詞：桌子 国家 科学 明天 外 里边
- 2）動詞：走 懂 喜欢 是 醒 可以 应该
- 3）形容詞：红 伟大 胖 对 男 高兴 自由
- 4）数詞：一 三 十 百 千 万 亿
- 5）量詞：个 件 斤 双 副 次 遍
- 6）代詞：我 你们 每 这 那 怎么样
- 7）副詞：很 又 都 永远 渐渐 亲自

虚詞
- 8）介詞：在 从 自 向 由 于 给
- 9）連詞：和 与 因为 虽然 因此 即使
- 10）助詞：構造助詞：的 地 得 等 所
  - アスペクト助詞：了 着 过 来着
  - 語気助詞：啊 呢 吧 的了 吗
- 11）擬音詞：砰 咚咚轰 噼里叭啦 哗哗
- 12）感嘆詞：唉 哼

（『現代中国語文法総覧』による）

＜副詞が虚詞であると認める場合＞

実詞	体詞	1. 名詞　水 树 道德 战争 2. 場所詞　北京 图书馆 邮局 3. 方位詞　里 上 里头 东边 4. 時間詞　今天 现在 从前 星期一 5. 区別詞　男 女 金 银 新式 高级 6. 数詞　一 二 十 百 千 万 7. 量詞　个 只 块 条 8. 代詞（体詞性）　我 谁 这 那 什么
	述詞	代詞（述詞性）　这么 那么样 怎么 9. 動詞　来 写 买 研究 10. 形容詞
虚詞	11. 副詞　很 也 已经 再 12. 前置詞　把 被 从 连 13. 接続詞　可是 如果 即使 和 14. 助詞　的 所 得 似的 15. 語気詞　啊 吗 呢 吧	
	16. 擬声詞　啪 哗啦 叮叮当当 叽里咕噜 17. 感嘆詞　哦 哎呀 嗐	

（朱德熙《语法讲义》による）

以上の実詞、虚詞以外に、王力（1943）の《中国现代语法》の半実詞、张志公（1982）の《现代汉语》の半虚詞、などは副詞を半実半虚の性質を帯びていると主張している。これまでの中国語研究においては副詞を実詞か虚詞か、あるいは半実半虚として扱うのかという問題には、まだ定説がないのである。

中国語で副詞はいくつかの分類に分かれている。一般的な文法書では副詞を程度副詞、範囲副詞、時間副詞、情態副詞、疑問副詞などのように下位分類をしている。

中国語の副詞に関する分類は以下のような研究がある。

黎锦熙（1924）の《新著国语文法》では副詞を(1)時間副詞(過去時、現在時、未来時、不定時)、(2)地位副詞、(3)状態副詞(客観的、主観的)、(4)数量副詞(次数、程度、範囲)、(5)否定副詞(6)疑問副詞という六種類に分けている。

王力（1943）の《中国现代语法》では、(甲)程度修饰（程度の修飾）、(乙)范围修饰（範囲の修飾）、(丙)时间修饰（時間の修飾）、(丁)方式修饰（様態の修飾）、(戊)可能性和必然性（可能性と必要性）、(己)否定作用（否定の作用）、(庚)语气末品（語気を示す要素）、(辛)关系末品（関係を示す要素）という八種類に分類している。

吕叔湘（1956）の《中国文法要略》では、副詞を(1)方所限制（場所や方位に関する制限）、(2)时间限制（時間の制限）、(3)动态动相限制（動態動相副詞）、(4)程度限制（程度の制限）、(5)判断限制（判断の制限）、(6)否定限制（否定の制限）、(7)一般限制（一般の制限）、という七つの種類に分けている。

张静（1980）の《新编现代汉语》では副詞を、(1)程度副詞、(2)時間副詞、(3)範囲副詞、(4)推量副詞、(5)語気副詞（モダリティー）、という五種類に分けている。

朱德熙（1982）の《语法讲义》では副詞を(1)範囲副詞、(2)程度副詞、(3)時間副詞、(4)否定副詞という四種類に分けている。

黄伯荣、廖序东（1978）の《现代汉语》と胡裕树（1979）の《现代汉语》では、(1)程度副詞、(2)範囲副詞、(3)時間頻率副詞、(4)肯定否定副詞、(5)情態方式副詞、(6)語気（モダリティ）副詞、という６つの種類に分かれている。その分類をそれぞれ次のようにあげる。

① 程度副詞:（通常、絶対程度副詞と相対程度副詞に分かれる）例えば、「很、最、极、太、非常、十分、极其、格外、分外、更、更加、越、越发、有点儿、稍、稍微、几乎、略微、过于、尤其……」 である。

② 範囲副詞:（通常、主語の範囲と述語の範囲と目的地の範囲という三種類に分かれる）例えば、「都、总、共、总共、统统、处处、到处、四处、随处、只、仅仅、单、净、光、一齐、一概、一律、单单……」 である。

③ 時間副詞:（黎锦熙の分類では、事物が完成しているのか否か、何時発生するか、時間の長さ、時間の早さ、進度の緩急、事情の重複と延長、事情の順序、事情の頻度などの下位分類がある）例えば、「已、已经、曾、曾经、刚、才、刚刚、正、在、正在、将、将要、就、就要、马上、立刻、顿时、终于、常、常常、时常、时时、往往、渐渐、早晚、从来、终于、一向、向来、从来、总是、始终、水、赶紧、仍然、还是、屡次、依然、重

新、还、再、再三、偶尔……」などである。

④ 肯定副詞と否定副詞:「必、必须、必定、准、的确、不、没有、没、未、别、莫、勿、是否、不必、不用（甭)、不曾……」などである。

⑤ 方式副詞:「大肆、肆意、特意、亲自、猛然、忽然、公然、连忙、赶紧、悄悄、暗暗、大力、稳步、阔步、单独、亲自……」などである。

⑥ モダリティ副詞:「难道、岂、究竟、偏偏、索性、简直、就、可、也许、难怪、大约、幸而、幸亏、反倒、反正、果然、居然、竟然、何尝、何必、明明、恰恰、未免、只好、不妨……」などである。

中国語の副詞は他の品詞に転成することが珍しくない。例えば、「正巧（凑巧)、忽然（突然)、偶尔（偶然)、必定（必然……」では場合によって、副詞から形容詞への転成がよくある。また、「陆续（连续)、没有、没」では、副詞は時々動詞へと転成している。「刚刚（刚才)、从来（从前)、曾经（过去)」では、副詞から時間名詞への転成がよくある。「能、能够、会、须、必须、必定」では副詞から助動詞（能愿动词）への転成が多い。「却（然而)、却（但是)」では副詞から連語への転成がある。副詞は他の品詞とどう判別するかは一言では断定できないのである。

日中両言語における副詞の認定基準にしても、副詞の構成にしても現在までまだ定説は見られない。中国語の副詞は「もともと大雑炊のようなものである」という吕叔湘（1979）の表現、また、日本語の副詞は「品詞論のハキダメだ」という工藤浩（1982）の表現は、両方とも副詞の複雑さをよく表していると言えよう。

日本語の副詞は中国語と比べれば、副詞とされるものの範疇が極めて広い。山田孝雄（1908）における接続副詞（接続詞)・感動副詞（感動詞）を除いて、普通、程度副詞・陳述副詞・情態副詞とされるものは中国語にもあり、類似性が見られる。

2.3. 本研究における副詞

本研究ではおもに日中両言語における数字「一」を含む副詞（「一」が始まる副詞）について対照考察する。具体的にあげると、「一一」「一度」「一旦」「一挙」「一斉」「一向」「一概」「一時」という日中両言語において同じ漢語表記をする副詞を対象にしている。研究対象を選定する際には、同じ漢語表記、また、中国語の《现代汉语词典》(第 6 版)および日本語の『大辞林』（第三版）において同じく副詞として認めるという基準にしたがう。日本語にしても、中国語にしてもふさわしい下位分類がない。日中両言語における対象副詞に共通している特徴は数字「一」が含まれているということである。したがって、本研究では数字を含む副詞を「数・量の副詞分類」に分けて考察する。

まず、日本語の副詞の分類を見てみると、明白な数・量の副詞という分類は存在していないが、北原博雄（1996）は副詞の中で数・量に関するものを「数・量の副詞」と名づけて、下記のように言及している。

「副詞は普通、用言（から成る句）を修飾すると規定されるが、次の（1）～（4）に挙げる数・量の副詞は、そのような機能の他に、主体や対象の数量を限定する機能を持つという特徴がある。

（1）かなり、随分（と）、少し、など

（2）たくさん、たっぷり（と）、いっぱい、など

（3）すべて、大部分、半分、ほとんど、など

（4）5 人、5 冊、５こ、5 枚、5 本、など

この他に、否定文脈に用いられる数・量の副詞として「あまり、たいして、さほど、まったく」などがある。(『日本語文法事典』p 335)

ほかには、「いつも、時々」などを数・量の副詞の周辺的なものについて、数量化副詞の性質をもつかどうかは、究明されていないままであると言及している。

「一一」、「一度」という数字を含む副詞は、範囲の量、時間の量、動作の量、対象の数量などにかかわるものであるが、先行研究では、「時間副詞」、「頻度副詞」などの副詞下位分類に分けられることがよく見られる。また、中国語の副詞の分類をみてみると、黎锦熙（1924）の副詞分類には「(4)数量副詞(次数、程度、範囲)」という数・量にかかわる下位分類が見当たるが、黎锦熙のほかにはそういう分類は言及されていない。それに対して、数字を含む副詞は時間副詞、範囲副詞、頻度副詞、動量副詞など様々な下位分類に点々として分布することがよく見られる。そのことから、本研究では、数字を含む副詞について、下位分類の試みを省き、日中両言語における数字を含む同形副詞について、副詞と動詞とのコロケーションから日中対照考察を行うことにする。

3. 中日同形語に関して

3.1. 同形語の定義

古来、日中両国間で交流は盛んであった。漢語は双方の交流の共通した道具と見なされていたため、中日同形語という言語現象も誕生した。中日同形語に関する比較研究は日本語教育と研究に携わる人々の関心を寄せる焦点の一つとなっている。しかし、現時点では、明確な同形語についての定義はないと言わざるを得ない。日中両言語において、同じ漢字（簡体字は問わない）で表記されるものを同形語と呼ぶようになったのは、比較的最近のことであろう。

大河内康憲（1997）は同形語の範囲と定義を以下のように説明している。

「「政治」、「文化」のような、日本語と中国語両言語において同じ漢字で表記される語である。ただし、漢字一文字からなり、音読みと訓読みと両方ともできる語はその中に属していない」。

現在、中国語については、中国大陸で使われる「簡体字」、台湾、香港、東南アジア地域で使われる「繁体字」があり、日本語においても「簡体字」「繁体字」とは異なる漢字（新

字体）が用いられている。本研究では、以上の定義にしたがって、日中で同じ漢字（簡体字は問わない）表記である数字を含む副詞に絞って考察したい。

3.2. 同形語に関する先行研究

この数十年の間、日本と中国の学者は中日同形語に関してさまざまな研究を行っている。その中で、典型として扱われるのは、文化庁（1978）、荒屋勒（1983）、大河内康憲（1997）などの語彙を中心とする初期の研究である。また、文法を中心する研究は、石堅・王健康（1983）、侯仁鋒（1997）、中川正之（2002）、村木新次郎（2004・2008）などがあげられる。

さらに、この数年の間、さまざまな視点と角度から中日同形語を考察する研究が盛んに行われている。たとえば、時代また文体に絞って、対照研究されているのは、朱京偉（2012, 2013）の中国近代新聞における「日语借词」の研究、彭広陸（2013）の中国語の新語における日本語からの借用語に関する研究、常暁宏（2014）の魯迅作品における「日語借詞」の研究、などである。ほかにも、于冬梅(2013)は、中日同形語の中の、意味の異なるものをとりあげ、歴史的な観点により考察を行っている。何宝年（2012）は中日同形語を体系的に取り上げ、多方面にわたるアプローチを試みようとしており、今後の中日同形語の研究にとって重要な参考文献となると思われる。

中日同形語に関する分類には、文化庁（1978）がよく用いられる。中日同形語において、文化庁（1978）は『中国語と対応する漢語』で 1,800 個の語彙を収録し、それらを S、O、D、N という四種類に分類した。

（S）…日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

（O）…日中両国語における意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれのあるもの。

（D）…日中両国語における意味が著しく異なるもの。

（N）…日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

以上の分類については、実は(S)(O)(D)の三分類で理解することも可能である。その中の(N)分類は、日本語にしかない漢語で、中国語には同形語が存在していないので、比較できないからである。

大塚秀明（1990）では、「中国語と対応する漢語」の不備を指摘しながら、同形語の対訳から中日同形語の意味用法の差異を測り、「現代漢語 800 語」に出ている中日同形語の分類を行った。そして、「以上」「一切」「始終」「前後」「上下」「本来」「満足」「以内」「以外」「以前」「以後」「一概」「一斉」「一般」「活動」「充満」「需要」「大概」「中間」「発生」「除去」の 21 語を挙げ、これらは（S）グループではなく、（O）グループになると述べている。

「同形語といえども意味が全く同じであるということはありえない」[13]と述べる研究者もいるように、意味を厳密に規定することは難しく、まして他の言語と比較して同じであるという可能性は高いとは言えない。

[13] 石・王（1983），p57 による。

施建军（2014）では、『中国語と対応する漢語』における分類について、理論上、問題ないが、中日同形語意味用法の実際の状況はそう簡単ではないと強調している。この研究では、具体的には同形語の一つ、「貴重」を例示し、『中国語と対応する漢語』の同形同義語に分類されているが、実際の運用には中国語と日本語の間にズレがあると説明している。全く同じ意味の同形語であるのに、そのずれについて、「貴重」と共起できる単語から日中の差異を考察し、「共起できる単語に相違が生じた場合、必ず日中間の意味のどこかにズレがある」と強調している。施建军（2014）は「中日同形語には意味のまったく同じものもあれば、まったく違うものもある。この二種類のものを中日同形語の意味の分類の両端にすれば、その間にまたいろいろな種類があることは言語的事実である。」と述べて、SOD の三種類に分類することを支持していない。また、施建军は問題を解決するため、コーパスを利用して、「語彙的意味、コロケーション、品詞、文法機能などの要素から中日同形語意味用法の距離の考察」を試みた。そして、施建军（2016）では、対訳コーパスをベースにして、中日の対訳比較の視点から F-measure 値で中日同形語意味用法の差異を実際に考察している。

以上からもわかるように、中日同形語に関する研究は日中両国で盛んに行われている。初期の研究実態は、おもに日中両言語の語彙表における同形語の数量考察から、語彙の意味の日中対照に進み、数多くの研究者が同形語についての研究に注目し、様々な視点から研究し始めた。音声、文字、語彙、文法などの面からより詳しく比較されるようになって、研究の視点や研究方法も以前より進歩している。近年に至って、コンピューター技術の発達とともに、新しい技術を利用する研究も多くなり、言語コーパスを使って、同形語の共起する単語の分析を通し、中日同形語の差異を見出すという試みも行われるようになった。

先行研究には中日同形語に関して、さまざまな視点から考察している。日本語と中国語の同形副詞についてはあまり力を入れて研究されていないというのが現状である。近年、あげられるのは施建军等（2012）の研究であり、それは程度、情態、陳述、時間、頻度という五章から「大体」「多少」など 24 個の同形副詞を分けて全面的に同形副詞について対照を試みようとしている。また、刘晓忱(2016)の誤用から 23 個の同形副詞に関する研究も行われている。ほかには、方香兰(2011)の「多少」、万礼（2012a、2015）の「一一」、「再三」などのような個別の同形副詞に関する研究も若干行われている。

しかし、副詞は日中両言語において不可欠な存在であり、重視されるべきであろう。動詞とのコロケーションというと、共起動詞の種類、文法上の共起動詞の文法特徴、文体修飾の書き言葉と話し言葉、文脈上のプラス評価・マイナス評価、センテンスの部分的または全体に係るか、その陳述性との関連が注目される。

本研究で扱う同形副詞は、繁体字・簡体字・日本の漢字のうち形が異なっていても、「もとの字（康熙字典体に準じるもの)」 が同じものであれば「同形語」であるとみなし扱う。さらに、中国語《现代汉语词典》(第 6 版)と 日本語『大辞林（第三版)』において副詞と認定しているものを限定している。

3.3. 日中の数詞「一」に関して

3.3.1. 先行研究

中国では、“一”、“二”などの数字が甲骨文字で見つかった最初の漢語である。原始人の採集成果を記録する方法として用いられたのである。すなわち、数字というのは人間が最初に創った文字の一種だと認められる。数詞の「一」は、日中両国では、一見すると極めて簡単な漢字で、その意味については問う必要がないという見方もある。「一、二、三、四、五、六、七、八、九」は中国語の基数数字と言われているが、言語で使用頻度が異なっている。《现代汉语词典》(第 6 版)をみると、“一”の語彙解釈は 10 項目であり、“一”の詞組[14]も 310 個あり、ほかの数字と比較すると、著しく高い使用頻度だと分かる。これまで“一”に関する研究は、哲学、言語学、文学、文字、文化など様々な角度から行われている。

言語学からみれば、この数十年の間、李全祥（2001）、闫文文（2010）などは語彙の意味および数字の文化的意味などについて研究している。中国語において、最初の“一”は本格的な数値を表す数字として使用されているが、言語の発展とともに、自由語素としてほかの語と組み合わさり、新しい単語となっている。“一”は自由語素としても研究されている。たとえば、陈庆斌（1998）は「語素」としての“一”の造語力を強調した。また、刘红妮(2007，2008)は、“一律”“一概”などの個別語について、語彙化、文法化という側面から語素“一”の造語を考察した。すなわち、“一”については、語彙の意味および造語の一部として、「一＋量詞」「一＋動詞」、“一”を含む熟語などに関する研究も数多く行われている。

先行研究における“一”の意味をまとめてみると、いくつかの意味が中心的な意味から派生してきたというものである。その中心的な意味とは“数字，最小的整数”であり、“相同，同一”（相同）、“ 满，整个”（全部、すべて）、“ 专，纯”（もっぱら）、“ 另一”（そのほかの一つ）などはその中心的意味から派生、発展してきたのである。

日本語における「一」に関する研究は、まず「一」の「数」としての意味に注目している。矢野健太郎(1965)は、日本人はどのようにして数としての「一」を知ったのか、その表し方を工夫してきたのかを考察した。また、「一」の特殊性について、加藤美紀（2003）、建石始（2006）などは、数詞「一」に関して、他の数詞と振る舞いが異なるということを指摘し、岩田一成（2013）は、「一」という概念には 2 パターンのイメージスキーマからその特殊性が説明できると主張している。

日中両言語をみると「自然数の最初の数」は日本の「一」の基本義で、“最小的正整数”（最小の整数）は中国の“一”の基本義である。基本義のほかに、日本語「一」の「一個」という意味で、「ひと」という発音ももっている。中国語の「一」が日本に伝わったとしても、日本人は固有の日本語「ひと」の意味の上で、中国の「一」を吸収してきたと思われる。中日同形語対照研究の視点から比較すれば「一」／“一”は極めて似ている意味と用法を持っていると思われる。それゆえ、数字を含む副詞を選定する理由として「一一」、「一度」な

[14] 詞組：“语素和语素组合成词(合成词)，词和词组合为词组”(フレーズ「句」：形態素は組み合わされて語(合成語)となり、語は組み合わされてフレーズとなる。)朱德熙(1982)《语法讲义》による。

どのような「一」とほかの語と組み合わさり、副詞になる場合にも、中日同形語の視点から考察すれば、相当に近い意味と用法があると考えられる。この点について、本研究では問題として、とくに副詞と動詞とのコロケーションの側面から検証する。

3.3.2. 辞書における「一」／“一”の意味

まず、辞書をもとに、日中の「一」／“一”の記述がどうなっているかを整理する。

1)『日本国語大辞典』（第2版）による「一」の意味

【名詞】

①数の名。最初の基本数。

②物事の始め。最初。第一番目。

③最もすぐれていること。最も大事なこと。また、そのもの。第一。最上。一等。

④多くの中の不確定な一つをさす。ある。

⑤極端なこと。極端なこと。はなはだしいこと。

⑥三味線に糸の中の最も太いもの。いちのいと。

⑦髷などの、元結でくくったところから、後方に出た部分。

⑧酒の一合。

⑨「一日」の略。

⑩さいころの一の目のこと。

⑪笙の管名。

【副詞】

⑫一番。第一に。最も。

以上の語釈と比べて、『明鏡国語辞典』には、「①ひとまとまり。②それだけ。もっぱら。③わずか。ちょっと。④多くの中の一つ。ある。」という「造語」項目も記載されている。

2)《汉语大字典》による“一”の意味

(1)数词。最小的正整数。如：一加一等于二。《玉篇・一部》：“一者，数之始也。”

(2)全；满。如：一身是胆；一屋人。《左传・宣公十四年》：“谋人，人亦谋己；一国谋之，何以不亡？”

(3)相同；一样。如：“长短不一；一视同仁。《玉篇・一部》：“一 ，同也。”

(4)纯一；纯正。《意・系辞下》：“天下之动，贞夫一者也。”孔颖达疏：“皆正乎纯一也。”

(5)专一。《书・大禹谟》：“惟精惟一。”孔颖达疏：“将欲明道，必须精心；将欲安民，必须一意。”

(6)少许。《玉篇・一部》：“一，少也。”

(7)每；各。如：分为三队，一队十人；一人十份。

(8)另；又。唐封演《封氏闻见记・蜀无兔鸽》：“娑罗树一名菩提……”

(9)单独。《方言》卷十二：“一 ，独也。南楚谓之独。”

(10)统一；划一。《孟子・梁惠王上》：“孰能一之？对曰：‘不嗜杀人者能一之。’”

(11)均；平。《旧唐书・薛平传》：“兵甲完利，井赋均一。”

(12)协同。《书・大禹谟》：“尔尚一乃心力，其克有勋。”孔颖达疏：“汝等庶几同心尽力，以从我命，其必能有大功勋。”

(13)相当于“某”。如：一天，天下着大雨；一次，他忘了带钢笔。

(14)古代哲学概念。a.指万物的本源，“道”。《庄子・天地》：“一之所起，有一而未形。”b.指由“道”派生的原始混沌之气。《老子》第四十二章：“道生一，一生二，二生三，三生万物。”

(15)指自身。《庄子・徐无鬼》：“上之质，若亡其一。”陆德明释文：“一，身也。谓精神不动，若无其身也。”

(16)公尺谱符号之一，表示音阶上的一级。《辽史・乐志》：“各谓之中，度曲协音，其声凡十，曰：五、凡、工、尺、上、一、四、六、勾、合。”

(17)助词。

(18)连词。

(19)副词。

(20)姓。《万姓统谱・质韵》：“一，见《姓苑》。”

日本語と中国語の辞書によると、「一」／“一”の記述はかなりの分量になる。両語の基本義には区別があり、中国語では“一”の基本義を“最小的正整数”と解釈し、“整数”を強調するから“整体”という意味が出てくる。また、“整体”という意味があるからこそ、“部分”という意味がある。それは古代中国の哲学概念と関係があると思われる。つまり、古代中国から“一”が“整体”だという思想はすでに定着していたのである。一方、日本では「一」は「自然数の最初の数」、つまり最初の日本語の「一」は自然に出てきたもので、“整体”の意味を重視されなかった。「一」／“一”の意味範囲について、中国語の“一”の意味の範囲は日本語の「一」の意味の範囲より大きい。また、文語の用例があがっていて、古代の意味、現代の意味ともに、「一」／“一”の意味を総合的に記述しているのである。しかし、辞書の中では、品詞の分類によって、各意味が記述され、単純な意味だけでなく、文法上でも偏っている。

3.3.3. 「一」／“一”のほかの語との組み合わせ

日中両言語の「一」／“一”は、ほかの語と組みわさる能力が非常に高く、その中核的な意味から周辺的な意味が多数派生してきた。また、辞書によって、語釈の記載が多少異なっているので、『日本国語大辞典』を含め、任冬娜（2006）では、「一」／“一”に関する10種類の中国と日本の国語辞書に記載している意味を下記のように要約している。まず日本語「一」の意味である。

① 自然数の最初の数。「一匹」

② 一個。単独のもので、いくつか物事の中の一つの意を表す。「一つ」

③ 順序の最初。「第一文学部」

④　一回。「一度」
⑤　一歳。一つ　「一つ上」
⑥　物事のはじめ。物事の最初。「一から十まで」
⑦　　最高、最上。　「一番」
⑧　　全。（一つのものの全体に満ちている意、すっかり、全部）　「一面に」
⑨　一方。（一つの方面、片方、側面）「一方」
⑩　もっぱら。「一意専」
⑪　ちょっとの。　「一目」
⑫　ひとしきりの。　「一雨」
⑬　どうか。（それとなく相手の意向を窺いながら何かを提案することを表す。軽く人に依頼するときに用いる。）「一つお願いします」
⑭　同一、同じ。「一様」
⑮　統一。「一致団結」
⑯　少し。　「一息」
⑰　わずか。　「一文半銭」
⑱　或る。不特定のある点を漠然と表す。　「春の一日」
すなわち、日本語の「一」には「自然数最初の数」という中核的な意味があって、ほかの語と組み合わさり、様々な周辺的な意味が用いられるようになった。
また、中国語の“一”についても、22 個の意味が要約されている。
①　最小の整数　“一个”（一つ）
②　序数的第一位。（一番目の序数）“第一节车厢”（一輌め）
③　事物数量的起点。（物事の数量の起点）“一片”（ 一葉）
④　初始，开始　（初め）“一见如故”（ 一度会っただけであるのに昔から友達のように親しいこと）
⑤最少数量（数量が最も少ない）“一本万利的买卖”（ぼろい商売）
⑥单独（単独）“一意孤行”（ひたすら自分の考えを押し通す）
⑦无与可并，独一无二(唯一無二、ただ一つしかない)“唯一”（ただ一つ）
⑧微小（微小である。）“一丝一毫”（ごくわずかなことをたとえる、ほんの少し）
⑨时间短促　（時間が短い、時間が差し迫っている）“昙花一现”(うどんげの花のように)現れてすぐ消えて去ることのたとえ、朝顔の露、朝顔の花一時。）
⑩表示动作的一次　（一回動作を行うことを表す。）　（一回）
⑪动作迅速。短暂　（速く一回動作を行うさまを表す。）“一把抢过报纸”（急いで新聞を奪いとった）
⑫完整。整体　（全体）“一体”（ 全体、すべてそろっている）
⑬全，满　（すべて、全部）“一切”
⑭时间之长（時間が長い）“一直”（ずっと）

⑮相同，一样　（同じ）“一模一样”（完全にそっくり）
⑯部分（部分）　「一面之词」—一方だけの分
⑰统一（統一）「言行一致」—言行一致、言葉と行動が一致している。
⑱逐一，每一　（一つ一つ）　一头一头（一頭一頭）
⑲专一　（専一）一个心眼儿（いちずに）
⑳纯一不杂　（純粋）「一色」はすべて同じ、純一でまじりけのないことを表す。
㉑另一　（もう一つの、またの）　＜番茄一名西红柿。＞ ‘番茄’は‘西红柿’ともいう。
㉒某一个（或る）　有一次（ある日、不特定のもの）

以上のように、中国語における“一”は語素としてほかの語と組み合わさり、22 の意味を表せる。日本語と比べると、意味の分布範囲が広いと考えられる。さらに、辞書における「一」／“一”の意味について、「空間」・「時間」から分類することができるだろう。

空間の意：1.ものを数える時に具体的なものの数量を表す。2.空間の順序を示し、ものの順序の一番目を表す。3.容器と見なされる。

時間の意：1.時間の一つの単位を表す。2.時間の長さを示す。3.時間の前後の順序も示す。4.時間の起点を表す。

ほかには、両言語の「一」／“一”には、「同じ」という意味が含まれ、同じ場所、同じ時間という概念から、同じ種類、状態、性質、内容などの意味が派生する。そして、空間の順序から、等級という意味も生じる。また、程度、方面、範囲などの意味を表すことができるようになった。

ようするに、日中「一」／“一”の差異を考えてみると、まず、中国語のほうは、“一，惟出太始，道立于一，造分天地，化成万物”[15]（一はすべての初めであり、天地を作って、万物を生み出す。）の“始”という意味を強調する。また、空間の意を表す場合、中国語のほうは、“一”が一つの容器という考えを重んじるので、「整体」であることを重んじるのに対して、日本語のほうは「一」が「点」であることを重んじるのであろう。その原因については、社会文化と人々の認知の側面から考えなければならない。日本の「一」の形は中国から伝わったものであるが、その後、日本なりの文化が加わり、時間の経つのにつれて、中国語の元の意味と食い違いが出てきたと思われる。

3.3.4. 本研究での研究範囲

日中の意味を対照してみれば、「一」／“一”の意味は「数量」、「時間」、「程度」、「空間」、「回数」、「相同」をあらわす方面においては概ね同じである。「一」／“一”を含んでいる二文字副詞は多数用いられていて、「数量」「時間」「程度」「空間」「回数」という意味を集中的に表している。

日本語『大辞林（第三版）』によって、「一」が語頭に位置する二文字副詞を抽出すると 49

[15] 《说文解字》による。

個もある。

「一意，一円，一応（一往），一旦，一定，一月，一度，一発，一概に，　一端，　一合，一日，一段，一挙に，一倍，一番，一隻，一層，一体，一枚，一面，一斉に，一切，一気に，一時，一物，一同，一入，一遍，一寸，一向，一点，一心に，一一，一再，一朝，一際，一服，一頃，一回，一躍，一見，一等，一杯，一霞，一切り，一頻り，一種，一生」

中国語《现代汉语词典》(第 6 版）における“一”が語頭に位置する二文字副詞は 37 個である。

“一边，一划，一道，一旦，一定，一动，一度，一发，一概，一共，一经，一径，一举，一口，一力，一例，一连，一律，一面，一齐，一起，一时，一手，一同，一头，一味，一下，一向，一心，一一，一再，一朝，一直，一致，一总，一路，一准”

以上の数詞“一”が始まる副詞グループについて、中国語副詞に集中して、漢字の源から、語の構成、意味表示などから分析し、そのグループなりの特徴を考察しよう。

朱德熙(1982)は、現代中国語の合成語の構成方式を重畳 [16]、付加 [17]、複合 [18]と三つに分類している。朱德熙の分け方に従い、37 個の副詞を分類してみよう。

一）重畳合成語

“一一”

二）複合合成語

1.偏正タイプ [19]

一边，一划，一道，一旦，一定，一动，一度，一发，一概，一共，一经，一径，一举，一口，一力，一例，一连，一律，一面，一齐，一起，一时，一手，一同，一头，一味，一下，一向，一心，一朝，一直，一致，一总，一路，一准

2.連合タイプ [20]

“一再”

語構成から分類してみれば、37 個の中国語副詞は基本的に偏正タイプの複合合成語であることが分かった。“一一”は数詞“一”が重畳されてできたものである。また、“一再”には“再”が数詞“二”の意味で、“一”と等しく連合されている。この二つの語を除き、残りの 35 個は偏正タイプの複合合成語に入れることが妥当であろう。さらに、35 個の偏正タイプの副詞を特徴づけて考えれば、下記のような下位分類が可能である。

①「一+名詞」

---

[16] 重畳というのは“妈妈［お母さん］，看看［ちょっと見てみる］，个个［一つ一つ］，酒清楚楚［はっきりしている］”のようなたぐいの造語法を指す。(朱德熙『文法講義』p 22)

[17] “桌子”（机）の “子”のような形態素は接辞と呼ばれる。接辞に対応する“桌”は語根と呼ばれる。接辞を語根に貼り付ける造語法を「付加」と呼ぶ。。(朱德熙『文法講義』p 28)

[18] 複合とは二つあるいは二つ以上の語根要素を組み合わせて語を形成する造語法である。この方式を用いて造られた合成語を複合語と呼ぶ。(朱德熙『文法講義』p 32)

[19] 統語論における構造関係には、主述、動目、動補、偏正、連合などがある。偏正タイプには名詞“意外”動詞“重視”形容詞“冰凉”副詞“至少”接続詞“不但”などがある。(朱德熙『文法講義』p 32)

[20] 連合タイプには名詞“音乐”動詞“调查”形容詞“奇怪”副詞“千万”接続詞“而且”などがある。(朱德熙『文法講義』p 33)

（方位）一边，一道，一径，一路，一向
（身体）一口，一力，一面，一手，一头，一心
（時間）一旦，一朝，一时
（その他）一例，一律，一味，一概
②「一+動詞」
一划，一动，一度，一发，一共，一同，一总，一经，一举，一直，一致，一下，一起，一连，一齐，一定，一准

語構成からみれが、グループ①「一＋名詞」とグループ②「一+動詞」に二分類できる。ここでは、①と②の区別を分析する。まず①「一+名詞」グループの副詞は、数詞“一”と「物」、「空間」、「時間」を指す名詞とが組み合わさり、後ろの容器の整体、また容器の中にあるすべてを意味する。劉月華など『現代中国語総覧』では名量詞を二種類に分けていて、一つは、連続した量を表すもので、この種の量詞が表す単位は「さらに小さな単位から成り立っている」という特徴を持つ。例えば“一斤”が“十两”であり、“一连”（一個中隊）は“三个排”（三つの小隊）である。もう一種の名量詞は不連続量を表すもので、主に個体量詞“个体量词”で、“个”、“只”、“把”などがそれである。「一+物名詞」の“一”が名量詞を修飾しているかどうかは別問題として、「物、空間、時間」などの容器がさらに小さな単位から成り立っていると考えられる。ようするに、「一+物名詞」グループには、「物事の整体、そのすべて」「いっぱいの、満ちた」「全部の、全体の」という意味を表し、描写性をもつ、という特徴があるのではないだろうか。

また、「“一”が動詞の前に用いて、突然生じた動作や変化、或いは間断なく一つの動作が引き続き起こることを表す。例えば、“他一抬头，看见了一个陌生的人。”（彼はパット頭を上げると、一人の見知らぬ人が目に入った）。動作は普通すでに実現しているか終わっている（但し、時間とは無関係である）。」[21]グループ②「一+動詞」の副詞は、数詞“一”と「動作」を指す名詞と組み合わさり、その生じた動作や変化、或いは間断なく一つの動作が引き続き起こることを表す。「一」は動作行為を発生から終了まで、丸ごととして扱って意味し、動作行為の発生回数を限定している。グループ①が連続的な量を意味することに対して、非連続的な動作量を意味する特徴を有していると考えられる。

ほかには、重畳合成語の“一一”は、かかり先の動作行為を規定的に修飾するより、それらの状態について描写すると考えればより妥当であろう。

以上の日中両言語における二字副詞が同じ表記（漢字の簡体繁体を考えない）であるものは「一一、一旦、一度、一概、一向、一挙、一斉、一時、一発、一面、一同、一心、一再、一定、一朝」という 15 個がある。本研究ではさらに副詞関係の辞書、日本語の『副詞用法辞典』、中国語の《汉语副词词典》、《现代汉语虚词词典》などを参考し、「副詞」だと認められる語を取り出し、それぞれの使用頻度も考慮に入れ、「一一、一旦、一度、一概、一向、一挙、一斉、一時」という八つの対象語を選定し、動詞とのコロケーションを考察

[21] 『現代中国語総覧』による。

する。また、数字「一」／“一”以外に、「三」／“三”にも触れていき、「再三」／“再三”も視野に入れて同じ方法で比較する。さらに、日中両言語において、「再三」と類似する副詞も取り出して考察する。具体的にあげると、「再び」／“再”、「再度」／“再度”、「一再」／“一再”、「再再」／“再再”、「再三再四」／“再三再四”など一舉而二也”（二回、重複）[22] の意味をあらわす「再」／“再”を含んでいる中日同形副詞である。

[22] 《说文解字》による。

第一部　副詞と動詞とのコロケーション

1. コロケーションとは

1.1. 日本語におけるコロケーションに関する先行研究

コロケーション（collocation）という語はラテン語“collocare”に起源したものであり、com(together)と locare(to place)との組み合わせである。Firth(1951)の《Modes of Meaning》ではコロケーション（collocation）が文学作品の文体分析に用いられ、言語学の一概念として提唱された。Firth は「コロケーションはある鍵となる語［key-word］が常に伴う仲間について述べる。語はいずれかのレベルで、それぞれのありふれた普通の言語的環境の中で額面どおりに受け取られなければならない。[23]」と述べ、コロケーションを「他の語と習慣的に共に現れる語である」と定義している。Firth の後継者 Halliday, Sinclair は語彙レベル（lexis）においてのコロケーションを強調し、たとえば“bright, shine, light, hot, lie, come out ”など、“sun”との共起語彙を、一つの語彙集合（lexical set）[24]にまとめている。

Leech(1981)などの学者は語彙の意味からコロケーションを研究しているが、Kjellmer(1984)は「高頻度」「二つ以上の単語」「複雑な構文」という三つの基準のもとで、構文上のコロケーションを強調する。コロケーションの定義は研究者によって様々ではあるが、Firth が提唱したコロケーションという概念は、現在に至るまで、英語教育において重要視され、多くのコロケーション辞典が出版されている。さまざまな研究者の主張から、コロケーションに関する研究は「共起」、「高頻度」、「結びつきの強さ」という基準で集約されている。

日本語において、コロケーションは「連語、語群、語結合」と呼ばれるが、その中でも、「連語」と呼ばれることが多い。日本語の連語を対象とする連語論研究は、数十年の歴史を有する。そして、連語論は、奥田靖雄をリーダーとする言語学研究会によって展開されたものでもある。これまで、学界では明確な規定が与えられてきたとは言えない。研究者により、その定義の解釈も異なっている。

『現代言語学事典』：「コロケーション（collocation）とは、「二つ以上の語が連なって用いられるために、語の単位にまで分離することなく、まとめて学習されるべき語群(word group)をいう。」[25]

言語学研究会：「従属的なむすびつきをつくる二単語あるいは三単語の組み合わせだけを連語とよぶことにしよう」[26]

村木新次郎（2007a）:「自立的な単語の組み合わせで、命名（名づけ、現実のさししめし）の側面のみをになった文法的単位」

野田尚史（2007）：「語（または成分）と語（または成分）のつながりのことであるが、

---

[23] F・R・パーマー編・大束百合子訳（1968）による。
[24] Halliday （1966）による。
[25] 成美堂『現代言語学事典』による。
[26] 言語学研究会（1983）による。

語（または成分）どうしが構造的に直接関係していて、一方の語（または成分）が他方の語（または成分）の選択に影響を与える場合だけを指す。」

ほかには、「語と語の慣習的な結びつき」[27]や「二つ以上のことばが結びついてできたことば」[28]などがコロケーションの辞典に載っている説明である。

以上のように、日本語においてコロケーションの定義は様々である。

また、コロケーションの範囲については、言語学研究会の「a.陳述的なむすびつき（predicative）b.従属的なむすびつき(subordinative) c.並列的なむすびつき（coorinative）」三つのタイプがある。すなわち、名詞づけの単位であるという点で、単語の延長上にあり、陳述をもたないという点で文と区別される。

村木新次郎（2007a）では、コロケーションを自立的な単語間の関係として扱い、「山と川」「歌ったり踊ったり」「痛いだの痒いだの」のような並列関係、また、「桜が咲く」「桜が美しい」のような相互依存の関係は典型的な連語とみなさず、典型的な連語は、「桜を見る」「公園の桜」「美しい桜」「綺麗に咲く」のような一方依存の単語の結びつきだと強調している。すなわち、一つの核となる支配語と被支配語とからなる組み合わせである。言語学研究会の範囲規定と比べると、コロケーションを広くとらえている。

野田尚史（2007）では、「一万円しか持っていない。」の「しか」が否定の形式をとる（限定する）ようなものを「文法的なコロケーション」、また、「焼肉を食べた」とは言えるが、「ビールを食べた」とは言えないという意味的な限定を「意味的なコロケーション」としている。

連語論の研究対象となる連語は、核となる単語の品詞性によって分類することがよく見られる。下記のような連語のタイプがある。

1. 名詞と動詞との組み合わせ
2. 副詞と動詞との組み合わせ
3. 名詞と形容詞との組み合わせ
4. 副詞と形容詞との組み合わせ
5. 名詞と名詞との組み合わせ
6. 形容詞と名詞との組み合わせ
7. 動詞と名詞との組み合わせ
8. 副詞と副詞との組み合わせ

研究成果からみれば、ほとんど名詞と動詞との組み合わせや、名詞と名詞との組み合わせを中心に研究は行われてきた。その中で、典型的な研究として、まつもとひろたけ（1979）の名詞と形容詞との組み合わせ、鈴木康之（1978）の名詞と名詞との組み合わせ、高橋太郎（1994）の動詞と名詞との組み合わせ、などがあげられる。その研究内容からみれば、

---

[27] 『日本語表現活用辞典』による。

[28] 『知っておきたい日本語結びついたことばコロケーション辞典』による。

副詞的な結びつきは極めて少ない。新川忠（1979）は動詞を核とする副詞との組み合わせの特徴を究明することを提言し、「副詞と動詞との組み合わせを、規定的なむすびつきと状況的なむすびつき」の二つに分け、また、規定的なむすびつきが副詞と動詞との組み合わせの基本的なものだと強調している。

1.2. 中国語におけるコロケーションに関する先行研究

中国語文法の歴史上、文法用語の中で、単語と単語の組み合わせに対する名づけ方が非常に多く、おおよそ 16 種類ぐらいある。そのなかには“词组”，“词语搭配”などと呼ばれるのが多く、また、その下位分類が複雑だと思われる。まず、代表的な分類を下記のように紹介する。

吕叔湘（1956）：「連合関係」「組合関係」「結合関係」

王力（1943）：「二つ以上の実詞が組み合わさって一つの合成的な意味単位をなしているものは「仂語」である。」

张志公（1953）：「詞組」→主述、連合、偏正

丁声樹（1961）：単語と単語との結びつきを認めない。

以上は現代中国語における単語と単語の組み合わせに対する初期の研究である。続いて、朱德熙（1982）による「詞組」の六つの分類は以下のように要約できる。

「偏正的構造（“新书”などの修飾と被修飾の関係）」

「述賓的構造（“洗衣服”“下雨”などの動詞と名詞の関係）」

「述補的構造（“洗干浄”などの動詞と結果補語の関係）」

「主謂的構造（“飞机起飞了”などの主語と述語の関係）」

「連合的構造（“北京、上海、广州”などの並立的な関係）」

「連謂的構造（“打电话通知他”などの動詞的な結びつきの連用的な形）」

朱德熙の研究は現代中国語に大きな影響を与えた。その分類を見ると、「陳述的・並列的・従属的むすびつき」のいずれも連語とみなし、さらに「電話をして彼に知らせる（連謂的構造）」といったものまでも連語とみなしている。これは英語や日本語には見られない分類である。

ほかには、「在学校里（学校で）」などの「介詞的な結びつき」を連語と認める立場もある。さらに「应该（～はずだ）」や「能够（～できる）」などの助動詞と動詞の組み合わせや、「是（～である）」や「叫（～という）」などの関係動詞と名詞との組み合わせなども連語とみなすものがあるという。

近年、中国で出版されたものに、张寿康，林杏光(2002)《现代汉语实词搭配词典》という辞典があり、意味から動詞を中心語としてのコロケーションを分類している。李裕德（1998）《现代汉语词语搭配》という著書は比較的コロケーションを総合的に網羅する研究だといわれている。単語と単語との組み合わせに見られる意味について、おもにその類型、要素、関係という三つの部分から分析し、組み合わせの妥当性を提示している。しかし、コロケ

ーションに関する研究は総合的なもの、理論的なものが盛んに行われているとは言えない。

ほかには、张谊生(1996)<现代汉语副词“才”的句式与搭配>、 王霞(2005)〈汉语动宾搭配自动识别研究〉などの研究では、「動賓的なむすびつき」、個別副詞の動詞とのむすびつきというように部分的に焦点を当て考察している。とくに、個別語に関するコロケーション研究はよく中国語の類義語の意味・用法の区別に用いられる。その言語のコロケーションを知ることは、発話・文章をより自然にするために必要であり、日本語・中国語それぞれのコロケーションを明らかにすることは、日本語・中国語教育を行っていく上で非常に重要であると思われる。

これまでの研究では、同形副詞について、コロケーションに焦点を絞ってなされた数量的な研究が管見の限りでは見当たらなかった。したがって、本研究では中日同形語の中で数字を含む二文字副詞を対象に、両言語のデータベースを用いて大量の用例にあたることにより、それらのコロケーションの実態とその差異を明らかにすることにした。

2. 新川忠（1979）「副詞と動詞とのくみあわせ試論」

新川忠（1979）は副詞と動詞との組み合わせを、規定的なむすびつきと状況的なむすびつきの二つに分け、また、規定的なむすびつきが副詞と動詞との組み合わせの基本的なものだと強調している。さらに、いくつかのタイプに分けて紹介しており、以下のように要約できる。

1 規定的なむすびつき

① 質規定的なむすびつき

② 結果規定的なむすびつき

③ 量規定的なむすびつき

④ 方法規定的なむすびつき

2 状況的なむすびつき

① 空間的なむすびつき

② 時間的なむすびつき

③ 原因のむすびつき

④ 目的のむすびつき

新川忠（1979）では第１分類は規定的なむすびつきである。これもむすびつきの中の基本的なもので、「かざりになる副詞は、動詞がさししめす動き、変化、状態などをいろんな側面から規定し、特徴づける。」と述べている。

① 質規定的なむすびつき（かざりは動きや変化などのようす、仕方を特徴づける。）

(1) 人、いきもの、物に共通する動きや変化の特徴づけ

a はやさ

b ゆれはば（振幅）

c 力のつよさ

d 声・音の質

e はげしさ

f 軌跡

g 面の向き

(2) とくに人の動作の特徴づけ

1) 生理的(肉体的)な側面

2) 心理的な側面

a 感情・気分

b 態度

〔相手に対する態度〕

〔行為に対する態度〕

(3) 現象・知覚の明瞭さ

(4) 質＝評価的な特徴づけ

(5) 動きや変化の進行のようす、存在のようす

a 動きの進行のようす

b 変化の進行のようす

c 存在のようす

② 結果規定的なむすびつき

(1) 客体の質、状態　　（生産動詞）

(2) 主体の質、状態　　（変化動詞・出現動詞）

③ 量規定的なむすびつき

(1) 程度

(2) 数量

(3)空間的な量

a 位置変化の度合い

b へだたりの量（とおさ、たかさ、ふかさ）

(4) 時間的な量

(5) 頻度

④ 方法規定的なむすびつき

以上の規定的なむすびつきが基本的なものである。新川忠（1979）は、副詞と動詞との規定的なむすびつきについて、極めて詳しく下位分類したが、「タイプらしきもののとりだしの段階」と述べている。

2 つ目の分類としては状況的なむすびつきがある。

① 空間的なむすびつき

② 時間的なむすびつき

③ 原因のむすびつき

④ 目的のむすびつき

状況的なむすびつきが日本語では数が少ない。おもに、空間、時、原因、目的という四つの下位分類がある。

新川忠（1979）は題目通り「試論」の段階にどどまっているけれど、副詞と動詞とのコロケーションを研究するには、大きな手掛かりを提示していると思われる。本研究では、おもに、量規定的なむすびつきに注目し、数字を含む同形副詞について検討したい。

3. 数字を含む二文字副詞と動詞とのコロケーションに見られる特徴

本研究の第二部では、数字「一」を含む同形副詞、また、第三部では「再」を含む同形副詞について、対照考察する。それぞれ副詞と動詞との組み合わせを中心に、両言語のデータベースを用いて、共起動詞の意味、述語形式および文中での位置から日中両言語の差異を調べた。本研究の対象語は数字を含んでいる副詞であるので、数・量に深くかかわると考える。

したがって、新川忠（1979）の「副詞と動詞とのくみあわせ」における分類を参考しながら、「量規定的なむすびつき」のタイプを中心に、副詞と動詞との組み合わせを考察する。その結果としては、日中両言語における同形数字副詞は「量規定的なむすびつき」に分けられることが明らかになった。本研究ではそれを参考しながら、さらに詳しく分析するため、「連続的な量」と「非連続的な量」という二種類に分類して試みた。

（一）連続的で量的な結びつき

「一向」、「一旦」、「一時」、「一概」

(ア)時間的な量

副詞は、動作や現象が一定のあいだ継続したり持続することをあらわす。このような副詞とくみあわせをつくる動詞は、一定のあいだ継続、持続する動作や現象をさししめすものである。

「一向」／“一向”

日中両言語における「一向」と“一向”は同じように古代中国語を起源とした漢語であるにもかかわらず、現代語での文中成分、意味、用法、共起動詞、構文の特徴などの面では相当の差異が存在していることが本研究の調査では明らかになった。

中国語“一向”は方向名詞の用法が徐々になくなり、時間名詞として若干用いられるが、主に副詞用法として用いられる。中国語“一向”は「 いままでずっと」「その後」の意を表し、過去および過去から現在までの時間を指すというニュアンスが含まれている。

例１）周瑜贞在吴遥面前，一向[29]就用这种口气说话，她可不管他是什么书记不书记。（周瑜

[29] 分かりやすくするため、該当語に下線を引いた。以下同じ。

貞は呉遥の前では、彼が書記であろうが何だろうがお構いなく、いつもこういう口調で話しをする。）（《天云山传奇》）

例１）の副詞“一向”と組み合わせをつくる動詞“说话”（話をする）は、一定のあいだ継続、持続する動作をさししめすものである。その動作の有する時間から瞬間動詞と継続動詞の分け方[30]にしたがうと、その動詞は継続動詞であることが要求されている。

日本語「一向」は名詞、形容詞という使い方が徐々になくなり、「一向に」としての副詞用法が主となっている。打消し表現と共起し、「すこしも～ない」「まったく～ない」の意を表し、程度がはなはだしい様子を表す。

例 2）緑に囲まれた書斎での執筆も 一向に 衰えることがなかった。（《山の絵本》）

例 2）の「一向に」と組み合わせをつくる動詞「衰える」は、状態の変化をさししめす変化動詞である。また、副詞「一向に」が動詞の打消し表現と共起することにより、状態を表している。日本語の副詞「一向に」の動詞とのむすびつきは、「時間的な量」と比較すると、「程度」分類に入れたほうが妥当であろう。中国語の“一向”は一定のあいだ継続、持続する動作や現象をさししめす動詞とむすびつき、「量規定的なむすびつき」、さらに詳しく言えば「時間的な量」となっている。それに対して、日本語の「一向に」は状態の変化を指し示す変化動詞とむすびつき、また、打消し表現による状態とむすびつき、「量規定的なむすびつき」の「程度」となっている。

「一旦」／“一旦”

古代中国語を起源とする現代中国語の“一旦”と現代日本語の「一旦」について、名詞としての用法は古語の使用を続けていると考えられる。副詞としてみると、それぞれの意味と語用が変わってくる。両語はともに、本格的でない短時間を意味する副詞用法が少なくなったが、日本語のほうは中国語よりやや多用する傾向がある。

日本語「一旦」で条件や仮定などを前節に使い、重要な結果をもたらす行為として、それを行うさまを表す用例は半分ほどである。また、「時間的な量」をあらわす動詞とのむすびつきも若干見られる。

例 3）車に乗って、少し走らせると、〈ヒトミ〉は車を 一旦 停めた。（『鏡よ、鏡』）

例 3)の動詞「停める」が時間的な量を有する継続動詞であり、日本語の「一旦」は古語の時間名詞の役割が現代用語に多少残っている。

例 4）他知道 一旦 倒下，他可以一气睡三天。（この場で寝こんでしまったら、二日や三日、白川夜船で行ってしまうことはわかりきっていたので、どんなことであれ考えつづけ、目をあいていなければならなかった。）（《骆驼祥子》）

中国語“一旦”は前節で使用され、条件あるいは仮説を出して、後節では推測される結果が出現することが要求される。中国語“一旦”のほうは文の全体にかかる陳述的用法がより顕著になっていると考えられる。

「一時」／“一时”

---

[30] 金子亨（1995）による。

日本語の「一時」と中国語の“一时”は、文の意味からいえば、「(かつて）ある時、しばらくの間、当座」という共通の意味を有している。一方、異なっている意味についてみると、日本語には「時刻」、「同時」の意、中国語には「時には」という特別の使い方がある。副詞と動詞とのコロケーションからみれば、日本語「一時」より中国語の“一时”は「心」という精神的活動において多く用いられる。日本語「一時」は「作用」など動的な意味を表す動詞によく用いられる。また、述語形式からみると、日本語「一時」より中国語の“一时”は否定形式およびポテンシャルな用法に傾斜している。

日中の「一時」、「一向」と「一旦」はともに古代中国語における時間の意味を持っているが、言語の発展とともに、両言語の「一時」がともに時間の意味を表せるが、「一向」と「一旦」は日中両言語において大きな違いが起こった。中国語の“一向”はそのまま、継続動詞とむすびつき、時間的な量という質規定的なむすびつきをつくるようになった。日本語の「一向に」の使用は打消し表現状況と共起することにより、「時間的な量」から「程度」という規定的なむすびつきとなった。一方、日本語の「一旦」は昔のまま、継続動詞とむすびつき、「時間的な量」という量規定的なむすびつきが多少使用されている。中国語の“一旦”は「時間的な量」というむすびつきが徐々になくなり、文全体にかかる陳述的な意味を帯びてきた。

(イ)空間的な量

以上の時間的な量を意味する副詞「一旦」「一向」「一時」と異なり、「一概」は時間的な量より、動き・状態をその主体や客体の範囲などを相対的に表している。

「一概」／“一概”

両語の共通点は古代中国語の容量測定を起源とする点である。また、おもに副詞として文中で連用修飾語となり、「個々の差異を無視し、同一基準で判断する」という意味を有しているのも共通している。さらに、構文上はともに否定文によく使用される。

例 5）あくまでも好みにもよるし、一概にはいえない。（《水墨画の描法》）

日本語の「一概に」は「言う」などの言語表現をさししめす動詞とよく共起し、中国語の“一概”と同じく「すべて、全部」といういう空間的な量規定的なむすびつきをつくる。

（二）非連続的で量的な結びつき

「一度」、「一挙」、「一斉」、「再度」

新川忠（1979）は「規定的なむすびつきでは、かざりになる副詞は、動詞がさししめす動き、変化、状態などをいろんな側面から規定し、特徴づける」と述べている。その中で、量規定的なむすびつきは、かざりになる副詞が量の側面から動き、変化、状態などを規定する。具体的には「程度」「数量」「空間的な量」「時間的な量」「頻度」という五つの下位分類が挙げられている。

まず、「頻度」について、＜ときどき、たびたび、しばしば、しげしげ、ひんぱんに、よく、たまに、時たま、まれに、ちょいちょい、ちょくちょく＞などの副詞は、「動作や現象がどのくらいの割合でおきるのか、ということを相対的にあらわす。」と解釈されて

いる。

「一度」／“一度”

同形副詞「一度」／“一度”については、頻度をあらわす場合、中国語の「一度」はほとんど名詞だけを修飾する一方、日本語のほうは名詞、動詞両方を修飾する。また、時間量を意味する場合、例 6)中国語の“一度”は継続動詞“攻读”（専攻する）とむすびつき、「時間的な量」を表す。

例 6）他 一度在南洋公学攻读电机工程科（彼はしばらく南洋公学で電機工学を専攻していた。）（《韬奋》）

共起する動詞の時間表現、すなわち動作行為の継続・非継続の見方から比較考察した結果、中国語の“一度”は継続動詞が全体の約 7 割となっており、日本語の「一度」は継続動詞と非継続動詞の使用率は半々である。この差異は、中国語の“一度”では動作行為の時間量「しばらく」を意味する用法が比較的多いという傾向を補足できるだろう。

例 7）僕は一度緑に電話をかけてみた。（『ノルウェイの森』）

日本語「一度」は「心、言語」を表す動詞とよく共起する。頻度副詞として用いられるとき、「一回の回数」を表す。「一度」は動作や行為がどのくらいの割合でおきるのか、ということを相対的にあらわす。中国語と比べると、日本語の副詞「一度」は動詞と、「頻度」というむすびつきをよりよくつくる。

「一挙」/“一举”

同形副詞「一挙」と“一举”はともに古代中国語“一举”を語源としているため、「物事を一度に行うさま」という共通の意味を有している。日本語のほうは「変化」を表す動詞とよく共起し、中国語のほうは「軍事」にかかわる動詞とよく共起する。その後続動詞の意味は日本語にはプラスまたはマイナスのイメージはないが、中国語のほうは好ましい結果を表す文がほとんどである。「一挙」／“一举” は動作の方法を指し示して、動詞と方法規定的な関係でむすびつく。

「一斉」／“一齐”

数詞「一」／“一”には、「同じ」という意味が含まれ、同じ場所、同じ時間という概念から、同じ種類、状態、性質、内容などの意味が派生する。同形副詞「一斉に」と“一齐”はともに古代中国語を起源とし、その後の言語使用過程には、それほど大きな差異はみられない。日本語の「一斉に」は書き言葉として、新聞、雑誌、ニュースによく見られ、とくに、社会活動と運動にかかわる文章によく用いられている。中国語の“一齐”は日本語「一斉に」のような堅いイメージを持たず、書き言葉と話し言葉両方とも使用することが可能である。意味の上では、中国語のほうは二つの意味に分けられる。つまり、「複数の主体が同時に同じ動作・行動を行うさま」と「同一主体が同時に複数の動作・行動を行うさま」である。日本語のほうは、「複数の主体が同時に同じ動作・行動を行うさま」の意味のみを帯びており、単一の主体についての用法は見当たらない。“齐”という漢字は、“齊,禾麦吐穗上平

也。”[31]のように、最初は形容詞として「整然」という意味を表し、後に「整然化する」の動詞用法も現れてきた。「一斉に」／“一齐”は動作の協同する意味を表し、動詞と状況的にむすびつく。

「再度」／“再度”

日中両言語における「再度」は、意味上からみれば、ともに「もういちど、ふたたび」の意味で用いられる。ただし、日本語のほうは、副詞以外に、名詞としても使われる。動詞との組み合わせからみれば、いずれも「頻度」という「時間的な量」をあらわす。

「再び」／“再”は頻度副詞として動作・状態の重複を表す。それ以外に、中国語の“再”は程度副詞としては程度の増加も表せる。例 8)の場合、“再”の前に“不”を置くと、単に動作を再び行わない、状況が継続しないという主観的な意思を示す。“再”は文法的な手段によって状態をあらわす動詞と組み合わせをつくり、「程度」という「質規定的なむすびつきとなった。

例 8) 他们不再想听这支歌，不敢再说什么，也不敢再往下想了。（彼らはこの歌について、もう聴きたがらなくなり、話す気もなくなって、考えることさえしなくなった。）（《歌·生活·力量》）

（三）その他—状況的な結びつき

また、偏正形式ではない対象語は、「一一」「再三」の二つもある。「一一」は数詞「一」の重畳形式であり、「再三」は数詞「再（二）」と「三」の並列連合形式である。いずれも、数詞がうしろの「一、三」を限定修飾するとは言えず、並列関係にあり、また、一副詞となり、かかり先のありかたや動作や現象の状態を描写する。副詞と動詞とのコロケーションからみれば、規定的な結びつきより、描写的状況的な結びつきとするのが妥当であろう。

「一一」／“一一”

副詞と動詞とのコロケーションからみれば、中国語“一一”より日本語の「いちいち」は精神的活動において多く用いられる。日本語の「一つ一つ」は物理的活動に多用されている。日本語の「一つ一つ」は中国語の“一一”と近い使い方が見られる。副詞「一つ一つ」／“一一”は人間の具体的な動作(肉体を使う活動)をさししめす動詞と共起し、人の生理的・肉体的な条件を特徴づける。すなわち、「人の動作の特徴づけ」という質規定的なむすびつきとなった。一方、日本語の「一一」は精神的活動をさししめす動詞とよく共起し、動作をおこなうときの行為者の心構え、物事のとりあつかいかたの側面から特徴付けが行われる。そして、「行為に対する態度」というむすびつきとなった。

「再三」／“再三”

現代の日中両言語の「再三」には、「何度も繰り返す様子を」という共通点があるが、日本語のほうは、「ややマイナスイメージ」という違いが見られる。中国語の「再三」の

[31] 《说文解字》による。

古代の用法は頻度を表すものと程度を表すものの二つがあるが、現代中国語では程度を表す用法が消えてしまっている。また、日本に伝わった「再三」は頻度を表す用法だけに用いられるということが分かった。

　また、文の意味上からみれば、現代日本語では副詞「一一」と「再三」の「マイナスの評価的意味用法」と「文頭に位置する」ことが目立っている。それは、文全体にかかわる陳述性の資格を持つようになっていると考えられる。

第二部　数字「一」／“一”を含む中日同形副詞

日中両言語において「一」が始まる二文字副詞の数は少なくない。日本語『大辞林（第三版）』では「一」が語頭に位置するのは 49 個であり、『現代副詞用法辞典』では 37 個であり、中国語《现代汉语词典》(第 6 版)では 37 個であり、《汉语副词词典》では 20 個であり、《现代汉语虚词词典》では 23 個である。日中の国語辞典と副詞関係の辞書を参考し、「副詞」だと認められる語を抽出し、それぞれの使用頻度も考慮に入れ、「一一、一旦、一度、一概、一向、一挙、一斉、一時」という八つの対象語を選定し、動詞とのコロケーションから対照研究する。

数詞“一”が始まる副詞グループについて、中国語副詞に集中して、それぞれの漢字の源から、語の構成、意味表示などから分析し、そのグループなりの特徴を抽出した。

語構成からみれば、数詞「一」を含む二文字副詞はおもに偏正複合合成語に属し、「一」が後ろの「空間」、「時間」、「身体」などの意味を表す名詞、あるいは「動作、行為」を指す動詞を修飾している。そして、数詞“一”と「物」、「空間」、「時間」を指す名詞と組み合わさり、後ろの「容器の整体、また容器の中にあるすべて」を意味する。また、「整体」はさらに小さく分けられ、連続的な量を意味する。一方、数詞“一”と「動作行為」の意を表す動詞と組み合わさり、その生じた動作や変化、或いは間断なく一つ動作行為が発生から終了まで、丸ごととして扱われ、動作行為の発生回数を限定している。本研究では連続的な量の意味だけではなく、非連続的な動作量を意味するという特徴も加えて対象副詞を分類する。

ほかにも、重畳合成語の“一一”がかかり先の動作行為を規定的に修飾するより、それらの状態について描写すると考えればより妥当であろう。

第一章　「一一」「一つ一つ」と“一一”

1. はじめに

石黒圭（2004）は、「全然」「一番」「多分」などといった漢語副詞が実際に中国語母語話者の作文で多用されている実態を調査するとともに、漢語副詞が話し言葉的な印象をもたらす原因を考察した。また、高英善（2005）はいくつかの国語辞典をはじめ、『現代副詞用法辞典』などにおける意味の記述や用法を中心に、副詞「いちいち」の意味・用法とその周辺の語彙について調べた。その結果、現代日本語においては、表記の形態も様々であるうえ、意味・用法も過去に比べて大きく変わってきていること、副詞「いちいち」はもともと名詞として使われていたものが、後に副詞用法が加わって、特に現代の意味・用法ではマイナス的な評価が付加されて用いられていることが分かってきた。本章では、日本語の「いちいち」と中国語の“一一”を対照するとともに、日本語「一つ一つ」も考察の対象とする。主に①副詞の意味と形式、②副詞と組み合わさる動詞の意味タイプ、③その述語形式、④文中での位置という四つの側面から考察する。

2. 意味について

中国語の《现代汉语词典》（第 6 版）、日本語の『大辞林（第三版』などに基づくと、中国語の“一一”、日本語の「いちいち」と「一つ一つ」の意味はそれぞれ以下のようである。

2.1. 中国語の“一一”

A　全部、すべて、悉く

1）并把大连、福冈与日方商谈的情况 一一 告曹。（大連、福岡での日本側との商談の状況について、いちいち曹に伝えた。）（《民国暗杀记实》）

2）这些条款，父老们欣然答应了，而且 一一 照办。（みんなは、これらの条項を喜んで受け取って、いちいち言うとおりにした。）（《看家》）

B　逐一に、一つ一つに、一つずつ

3）她把茶 一一 送到每位同志面前。（彼女はお茶を一つずつ、一人一人の前まで配った。）（《山道弯弯》）

4）诸如此类，我不必 一一 抽出来说。（このようなことは、いちいち挙げる必要がありません。）（《音乐通论》）

中国語の“一一”は(1)と(2)では「A 全部、すべて、悉く」の意味を表すが、3)・4)では「B 逐一に、一つ一つに、一つずつ」の意味を表す。また、AB 両方にまたがって、はっきり識別できない例文も若干ある。とくに、プラスマイナスの評価的意味は感じられない。

2.2. 日本語の「いちいち」

A　一つの例外もなく、すべてに及んでいる様子を表す。

5）君の言うことは いちいち もっともだ。　　（『現代副詞用法辞典』）

6）あいつのやることなすこと いちいち癪にさわる。（『現代副詞用法辞典』）

B　細かい点まで取り立てて問題にする様子を表す。（一つ一つ、逐一）

7）「お客が、勝手に手につかんで、お金を払っていくの？それとも、君たちが、いちいち取って渡すのかな？」(『上野駅殺人事件』)

8）「計画のリゾートマンションは、まわりの美観を損なわないように二階建てに抑えてましてね、この広い土地を緑の芝生で敷きつめる。林のなかには小径を巡らせ、森林浴とバードウォッチングも…」　鎖を握った手で奥の林を指さし説明する高木に、傘の下の室津と田村が真面目な表情で いちいち うなずく。（『人妻秘書』）

B'細かい点まで取り立てて問題にする様子を表す。（ややマイナスの評価的意味を帯びる）

9）産後はとてものどが渇くけど、いちいち起き上がるのが大変なときもあるから、布団に入りながら飲めるので助かりました。(『マタニティ』)

10）これが画像１つならいいけど、何個も使うごとに いちいち これを書くのは嫌になる。(『CGI ハッカーズ・プログラミング』)

日中両言語の実例をみると、日本語「いちいち」は、Ｂの意味では、「一つ一つ、逐一」の使用例が少ない。一方、B'のマイナスの評価的意味の使用例が著しく多い。また、A の用法は「-もっとも」とよく共起する（ほかの共起が少ないという傾向がみられる）。

2.3. 日本語の「一つ一つ」

A　複数のものの要素を表す。プラスマイナスの評価的意味はない。名詞の「一つ」を重ねた語で、複数の対象すべてを個々の要素に視点をおいて表した語である。要素を丁寧に取り扱うという暗示がある。

11）ところがここの料亭ではお手伝いさん達がとても手間のかかることですが、一つ一つ を きちんと お盆に重ならないように並べて運ぶのです。私はすっかり嬉しくなりました。(『女らしさ物語』)

B　個別に処理する様子を表す。ややプラスよりのイメージの語。述語にかかる修飾語として用いられる。一つ処理が終わってから次にとりかかる丁寧さの暗示がある。

12）家族復元法では、もともと洗礼帳簿・婚姻帳簿・埋葬帳簿とそれぞれ別々の帳簿に時間の順に書き込まれている個々人の情報を、一つ一つ 丹念に拾って一枚のカードに書き込み、一世帯の構成員の再構成をめざしています。(『お産椅子への旅』)

日本語の「一つ一つ」には 11)のように名詞用法が用いられることがある。実例では、「一つ一つ」の名詞用法が比較的多くみられる。12)では「丹念に」が現れているので、丁寧さの暗示が分かる。

3. 考察

データベースから抽出した用例について、“一一”「いちいち」「一つ一つ」[32]の単語の形

[32]　検査範囲：書籍（1971-2005）、雑誌（2001-2005）、新聞（2001-2005）、教科書（2005-2007）
文例数：日本語「いちいち」文例数 450；中国語“一一”文例数 506；和語「一つ一つ」169 文例

式、また、それぞれの単語と修飾する動詞との組み合わせ（動詞の意味タイプから）、その述語形式、文中での位置などの側面から考察する。

まず、予め、本章でとった分析方法について述べておく。

1） 中国語の単語の品詞分類は不安定で、はっきりしないところがある。“一一”には数詞と副詞二つの用法があるが、ここでは、“一一”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心にあつかう。

2） 日本語副詞「一一」は現代日本語書き言葉均衡コーパスにおいては、「いちいち」、「一々」、「一一」が基本表記になっているが、「いちいち」の用例数が圧倒的に多いので、本章では、「いちいち」の表記を用いることにする。同じように、「一つ一つ」の表記を採用している。

3） 「いちいち」には主に名詞用法（「いちいちを繰り返す」）と副詞用法がある。また、副詞用法には動詞にかかるものが多いが、形容詞にかかる場合（「いちいちうるさいな」、「いちいちごもっともだ」）もわずかながら見られる。本研究の趣旨は副詞と動詞のむすびつきを考察することにある。

4） 語彙的意味に基づき動詞を人間主体か否かで二分する。人間主体動詞には物理的活動・社会的活動・精神的活動という三種類が属する（今井（2000）を参考にする）。以下の表は人間主体の動詞を分類したものである。

人間主体	物理的活動	具体的な運動の中でとらえられる形や位置などの変化を伴う動詞:行く 入る 作る 押す 取る（に）現れる 進む 倒れる 近づく 出る 到着する ぶつかる 向かう 潜る 寄る（を）編む 横断する 乾かす 超える 抱く たたく 建てる 抜く 乗せる 曲げる
	社会的活動	社会生活を営む上で人との関わりや人の存在が前提となる動詞：もらう 伝える 誘う 助ける(に)挨拶する あげる 応募する 教わる 勤務する 参加する 就職する 出席する 問い合わせる 連絡する（を）預かる 禁止する 採用する 誘う 育てる 助ける 報告する 訪問する 招く 譲る
	精神的活動	知覚・感覚・感情・思考などを表す動詞・・・驚く 喜ぶ 好む 望む 愛する(に)飽きる 呆れる 憧れる 甘える 怒る 感謝する 感心する 感動する 気づく 困る 賛成する 集中する 注意する 同情する 慣れる 反対する 迷う 見える 酔う（を）愛する あきらめる 疑う 遠慮する 恐れる 思い出す 悲しむ 我慢する かわいがる 感じる 嫌う 好む 叱る 心配する 尊敬する 楽しむ 憎む ほめる 予想する 理解する

13）在他的笔下，祖国大好河山，绚丽夺目，辉煌灿烂，一一呈现在我们眼前。（彼の作品を通して、国の山河がまばゆいほど美しくて、いちいち私達の目の前に現れます。）（《观画思人祭》）

「河山」という自然物が「呈現」という動詞と組み合わさっているが、文の意味を考えれば、「人間」が「見る」という語彙的意味が含まれているので、精神的活動だと判断した。

3.1. 「いちいち」「一つ一つ」“一一”の形態

副詞として用いられる場合、「－φ」の形式と「－に」“－地”・“－的”の形

式が見られる。「いちいち」の形態について、例 15)のような「-に」形は 450 の用例中 1 例しかない。

「いちいち - φ」（99.8%）

14）飲みたかったら自分でコーヒーをいれるし、ジントニックも作る。いちいち自分が飲みたいものや食べたいことで妻をわずらわせない。(『マイ・ファミリー』)

「いちいち - に」（0.2%）

15）比叡山を焼討ちして、「僧俗・児童・智者・上人 いちいちに 頸を切り…数千の屍算を乱し」という地獄絵……(『黄金太閤』)

副詞「一つ一つ」の形態については、「 - φ」形式が用例のすべてである。

「一つ一つ-φ」（100%）

16）自然を 一つ一つ 味わいながら、毎日を、一刻を楽しく過ごせ。(『冒険』)

中国語“一一”の「-φ」形式も中心的に使用されているが、副詞接尾辞“的”／“地”を伴う実例 18)－20)も若干みられる。朱德熙(1982)は一部分の二音節副詞において副詞接尾辞“的”を伴うことができる。「“的”を伴うかたちと伴わないかたちとで特に機能上の顕著な差異が存在するわけでもない。」と指摘する。ふつうは、書き言葉では副詞接尾辞“的”を“地”と書く場合が多い。

“一一 - φ”（96.44%）

17）“来啦——”老板把菜酒 一一 放上桌，“二位吃好，不够再添。”（「来たぞ。」オーナーはお酒と肴をいちいちテーブルの上に並べながら、「ごゆっくり、どうぞ。また出しますから。」）（《埋在地下的爱》）

“一一 - 地”（1.98%）

18）李桂祥 一一地 说出了这十九家厂商的名字和投资经营的项目。(李桂祥はこれら 19 のメーカー名およびその投資経営しているプロジェクトをいちいち言い出した。）（《人生之碑》）

19）我 一一、一一地 记在了心里。(私はいちいち、よく覚えている。）（《苦楝》）

“一一 - 的”(1.58%)

20）为了节省时间，不能 一一的 都讲一遍，就以李琳同志做个例子吧。(時間がないので、すべてをいちいち話すわけにはいかないので、李琳さんを例にして話しましょう。）（《张士珍三故事》）

日本語副詞「いちいち」「一つ一つ」と中国語副詞「一一」は、ともにφ形式の使用が中心である。一方、日本語「いちいち - に」、「一つ一つ - に」、中国語“一一 - 地／的”の形式がわずかながら見られる。“ - 地”がつく形式は中国語副詞用法の重要なマーカーであるが、“ - 的”の例文は使用上のゆれだと思われる。

3.2. 「いちいち」／“一一”の修飾する動詞

次に、副詞「いちいち」／“一一”がかかる動詞の意味タイプについて考察する。動詞を人間主体の動詞と非人間主体の動詞の二つに分類し、前者を精神活動、社会活動、物理活動の三つに分類する。物理活動的動詞、精神活動的動詞、社会活動的動詞を一つずつ以下のように示す。例文 21)－23)は日本語の、例文 24)－26)は中国語の例である。

21）ゴミを捨てるときにいちいち丸められた紙をあけたりしていたらキリがありませんから、ゴミ箱の中のものをひとつずつ手にとって、外見と重さで判断するようにしています。（帝国ホテルが教えてくれたこと）

「あける」　開閉・封/　物理的活動動詞

22）飲みたかったら自分でコーヒーをいれるし、ジントニックも作る。いちいち自分が飲みたいものや食べたいことで妻をわずらわせない。（『マイ・ファミリー』）

「煩わせる」　苦悩・悲哀/ 精神的活動動詞

23）一般読者には、そんなに知名度ないかなって。乱歩賞だったら、いちいち推理小説と言わなくていいんですよ。（『このミステリーがすごい！』）

「言う」　言語活動/　社会的活動動詞

24）博里斯打开手术器械箱，将注射针、无菌刀、止血钳等一一取出。（ボリスは手術器具ボックスを開け、注射針、メス、止血鉗子などを、いちいち取り出した。）（《机器人卡雷尔的悲剧》）

“取出”（取り出す）　出・出し/　物理的活動動詞

25）这样的一一想罢，他的心中很平静坦然。（彼は以上のように、すべてをよく考えたら、落ち着きました。）（《柏慧》）

“想”（考える）　思考・意見・疑い/ 精神的活動動詞

26）因忙，不能一一回信，就在此择要作简单的答复。（忙しいので、いちいち返信することができません。ここで簡単に答えます。）（《我曾是勃列日涅夫卫队长》）

“回信”（返信する）　通信/ 社会的活動動詞

「いちいち」と“一一”のかかる動詞の種類による統計の結果は表 1 のとおりである。

表 1 「いちいち」・“一一”の人間主体動詞の分類

動詞		日本語「いちいち」	中国語“一一”
人間主体	社会的活動	49.78%	59.68%
	精神的活動	34.89%	18.38%
	物理的活動	15.33%	18.58%
非人間主体		0%	3.36%

表 1 に示されるように、中国語“一一”と共起する動詞には非人間的な動作を表すものが多少見られるが、日本語「いちいち」には見当たらない。例文 27)・28)は非人間主体の例で

ある。27)では「概念」が主体で、28)では「水」が主体である。

27）概念用词表达，但是概念和词并不是一一对应的。（概念は言葉で表示されているが、概念と言葉とはいちいち対応するわけではない。）（《语言学概要》）

“对应”（対応する）　相対／非人間主体動詞

28）水又从潭出，……远望颇似庐山香炉峰倒悬的银河；真是一一蔚成壮观。（水はまた淵から出て、……遠くから、廬山香炉峰の銀河のようにみえる。すべていい景観になっている。）（《仙游二题》）

“蔚成”　成立／非人間主体動詞

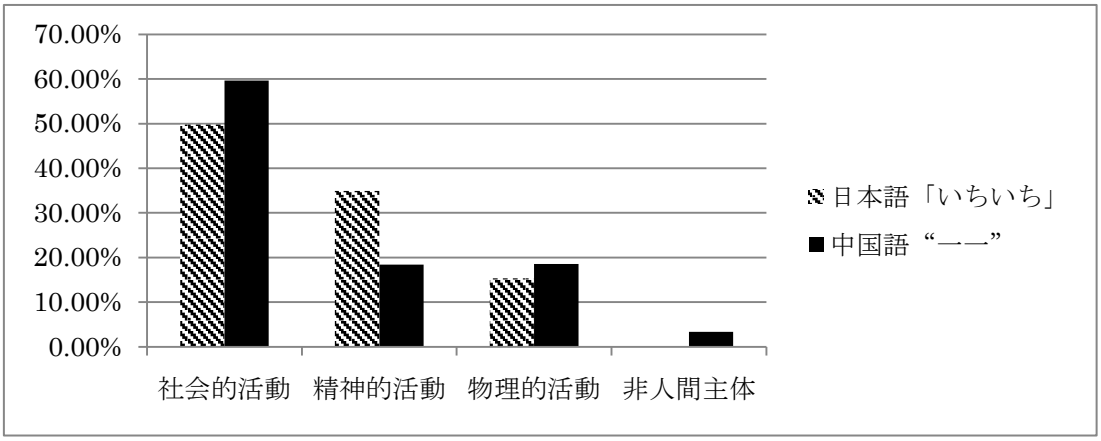

図１　「いちいち」・“一一”の人間主体動詞の分類

また、図１で、人間の物理的活動、精神的活動と社会的活動という見方からみれば、日本語「いちいち」の精神的活動を表す動詞の使用例は中国語“一一”の約２倍である。

3.3.　「いちいち」／「一つ一つ」の修飾する動詞

同じ方法で「一つ一つ」の後にくる動詞を分析する。

29）（小室さんの要望に応え、河童さんは愛用のカバンを持ってきて一つ一つ中身を取り出す）河童まず、アイマスクと耳栓ね。（『河童が覗いたニッポン』）

「取り出す」　出・出し／物理的活動動詞

30）新作が出たといって、軽い興奮を覚え、その作品の変遷や立場の偏差にたいして、一つ一つ自分の現在の位置を確認し、あるいは姿を覗き見るような感慨を味わってきました。（『悪の読書術』）

「確認する」　注意・認知・了解／精神的活動動詞

31）封元は領内を巡視したおりなど、名主の宅に農民を集め、この八か条を一つ一つわかりやすく解説しながら、意味の深いことをわからせようとした。（『江戸幕府の代官群像』）

「解説する」　説明／社会的活動動詞

「いちいち」と「一つ一つ」の修飾する動詞の種類による統計の結果は表２のようになる。

表２ 「いちいち」・「一つ一つ」の人間主体動詞の分類

動詞		いちいち	一つ一つ
人間主体	社会的活動	49.78%	30.18%
	精神的活動	34.89%	37.28%
	物理的活動	15.33%	28.99%
非人間主体		0%	3.55%

表２に示されるように、「一つ一つ」の後ろに来る非人間的な動作を表す動詞がわずかながらみられる。例 32)では「りんご」が主体である。

32）アチソン次官の考えでは、「樽のなかでりんごが一つ一つ腐っていくように、ギリシャの腐敗はイランから東方に及ぼう。(『マーシャル・プラン』)

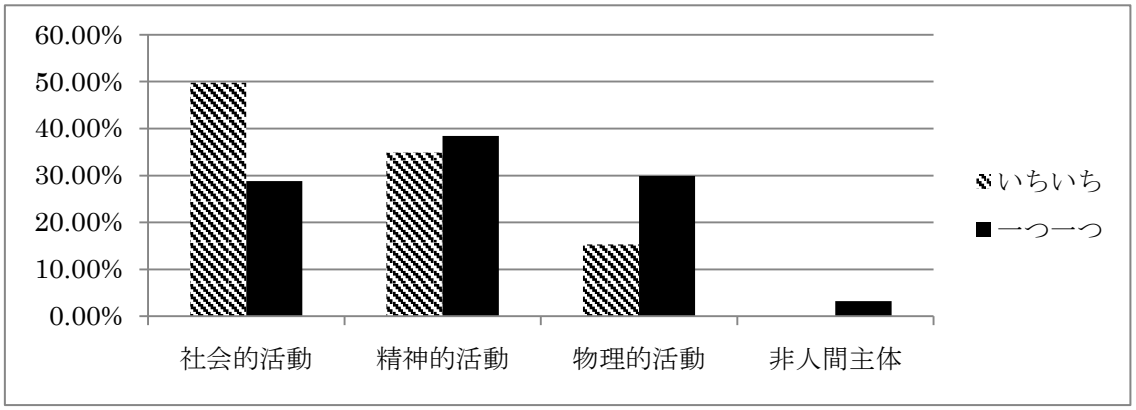

図２ 「いちいち」・「一つ一つ」人間主体動詞分類

図２が表すように、「いちいち」は社会的活動を表す動詞と多く組み合わさって使用される傾向がある。それに対して、「一つ一つ」のほうは物理的活動を表す動詞とより多く組み合わさっている。

3.4. 「いちいち」／“一一”の述語形式について [33]

次に、副詞「いちいち」／“一一”の述語関係について分析する。おもに、述語の否定形式について日中の相違を調べる。

日本語「いちいち」の否定形式述語文は 221 文例で全体の半分を占める高い比率である。

[33] 本研究の趣旨は副詞と動詞のコロケーションを考察することにある。共起する動詞の意味を中心的に対照する上に、述語形式について、とくに副詞が修飾する動詞の肯定否定形式なども考察の一対象としている。

「いちいち」の使用の特徴として、否定述語との共起を指摘することができる。その中でも、「～てもしょうがない」「～義務はない」「～なくてもいい」「～必要なく」など「不必要」の意味をあらわす文例、「～わけにはいかない」「～ていられない」など「不可能」の意味をあらわす文例、「～ようとはしない」「～ないでくれ」など「非願望」の意味をあらわす文例がほぼ 1／2 にあたる。

33）それか黙っているか。いちいち 腹を立ててもしょうがないでしょう。(『壊れかけの高校生』)

34）「殿下のようなお立場のかたにもプライバシーはあります。ご自分の気持を いちいち わたしに話す義務はないのです」(『魔法の鏡にささやいて・雇われたプリンセス』)

35）この金銀の財宝はすべてあなた様のものでございます。いちいち 見て歩かなくてもいいのです。ゆっくりと湯浴みをなさってお疲れを癒してください。(『ギリシアの女神の物語』)

36）その後会うようになったことなど、いちいち 報告するはずもない。 (『もう君を探さない』)

37）出発前に予約しておけば、現地で いちいち 窓口に並ぶ必要もなくその分時間を有効に活用できる。(『ヨーロッパ鉄道ハンドブック』)

38）中学二年生の男子が、同じ部に所属している女子生徒のことを いちいち 事細かに親に話したりするわけがない。名前を知っているだけでも驚きだ。(『UFO の夏』)

39）それぞれの言葉やニュアンスを、いちいち 解釈していられません。(『「愛される声」に生まれ変われる本』)

40）話すべきことはきりがないほどありそうだが、それを いちいち 挙げていくわけにはいかない。(『にっぽん国恋愛事件』)

41）「おい、おい、亭主の仕事先まで来て、そんな下らないことで いちいち 僕を煩わせないでくれよ」(『ラブ・アクチュアリー』)

42）小笠原たちは、何を言っているのかよくわからない。通訳のアーネスト・サトウも、いちいち 通訳しようとはしない。(『十五代将軍徳川慶喜』)

一方、中国語“一一”の否定形式をもつ文は全体の 1 割にとどまっている。その中では、例 43)・44)のように“不能”の用例数が多いが、例 45)－47)のように“不必”“不是”“ 不再”などの使い方も多少みられる。

43）亲爱的朋友们，最后请你们原谅的是，我不能 一一 给你们回信。(親愛なる友人達、最後に許してほしいのは、いちいち返信することができないことだ。)(《不骄傲，继续前进》)

44）为了节省时间，不能 一一的 都讲一遍，就以李琳同志做个例子吧。(時間がないので、いちいちもう一度話すわけにはいかないので、李琳さんを例にして話しましょう。)(《张士珍三故事》)

45）诸如此类，我不必 一一 抽出来说。(このようなことは、いちいち挙げる必要がありま

せん。）（《音乐通论》）

46）概念用词表达，但是概念和词并不是一一 对应的。（概念は言葉で表現する。でも、いちいち対応しているわけではない。）（《语言学概要》）

47）主持人不再一一 介绍演员，演员们以自由活泼的形式登场亮相。（司会者は役者をいちいち紹介することはなく、みんな、好きなように生き生きと登場してきた。）（《北京日报》1989-2-3）

このように、中国語“一一”と比べて、日本語「いちいち」は否定形式文に傾斜していることが指摘でき、さらに、必要性、願望、可能などのポテンシャルな用法がより多く使用されている傾向がみられる。ポテンシャルな用法は具体的一回的な運動をさすアクチュアルな用法と対立するもので、一般的潜在的な運動の側面を意味する。

3.5. 「いちいち」／「一つ一つ」の述語形式について

述語の否定形式に注目して「いちいち」と「一つ一つ」の相違を調べる。「いちいち（49%）」が述語の否定形式とよく共起するのと異なり、「一つ一つ（8%）」のほうはあまり否定形式と共起しない。下記のような例文がわずかにあるだけである。

48）こうしたグローバル化については、実に様々な見方がなされてきています。それらを一つ一つ ここで取り上げることはできません。（『遺伝子組換え作物』）

49）そこにどんな要因がはたらいているかは、誰しもがよく知っていることなので、私は一つ一つ 立ち入らないが、言語の維持は、たいていのばあい、まず不可能なのかどうかと訊ねられれば、そこで私は答えざるを得ない。（『ことばへの権利』）

3.6. 文中の位置について

次に、当該単語の文中での位置をとりあげる。文頭にくるか、当該単語がかかる述語の直前にくるかで大別される。

（一）文頭

- 中国語“一一”：文頭に位置する文例が見つからない。（0%）
- 日本語「いちいち」：文頭に位置する例が相対的に多く見られる。（14%）

50）飲みたかったら自分でコーヒーをいれるし、ジントニックも作る。いちいち 自分が飲みたいものや食べたいことで妻をわずらわせない。（『マイ・ファミリー』）

- 日本語「一つ一つ」：文頭に来る文例が若干ある。（7%）

51）「だけどね、おばあちゃん。ちゃんと確認しとけば大丈夫。一つ一つ 厳重に、泥棒が来てもわからないように保管しときましょう。（『騙しのカラクリ』）

（二）述語の直前

- 中国語“一一”：述語の直前に位置する使用例がほとんどである。（95%）

52）主持人不再 一一 介绍演员，演员们以自由活泼的形式登场亮相。（司会者は役者をいち

いち紹介することはなく、みんな、好きなように生き生きと登場してきた。）（《北京日报》1989-2-3）

以下の例文には“一一”は述語「消失」の直前に位置していない。

53）模仿者没有一个站得住脚的，一一从舞台上消失。（物まねの人々は、誰も長くいられず、一人一人舞台から消えていく。）（《王景愚与哑剧艺术》）

- 日本語「いちいち」：述語の直前に位置するのは全体の半分である。（52%）

54）いちいち 仲裁するのは面倒なんですからね。（『月と貴女に花束を』）

次の例 55)は、「いちいち」と述語「伺いをたてる」の間に「上司に」が入っているので、述語の直前にではないと判断している。

55）そうすれば、いちいち 上司にお伺いをたて、承認を得ることもなくなる。（『日本経営品質賞とは何か』）

- 日本語「一つ一つ」：述語の直前に位置する例は全体の半分である。（53%）

56）スタッフは毎週金曜日の朝、提出された理科の問題を 一つ一つ 実験します。（『NHKクイズ面白ゼミナール』）

下記(56)では、「一つ一つ」は述語「見る」の直前に位置していないと判断している。

57）そのため必要な材料は 一つ一つ 、自分で全て現物を見て、厳選して選んでいかなければなりませんでした。（『第二の人生・南国で楽しく暮らそう』）

日本語の「いちいち」は文頭に位置する使用例が相対的に多く、後ろにくる文の全体と関わって、評価的な捉え方を反映していると思われる。日本語の「いちいち」は文頭に位置することによって、陳述詞の資格を得ていると考えることができる。

3.7. 「いちいち」のマイナスの評価的意味

意味上からみれば、日本語の「一つ一つ」および中国語の“一一”に比べて、日本語の「いちいち」にはマイナスの評価的意味が認められる。日本語「いちいち」には例 58)の「～ったく（「まったく」のくずれた形式）」、例 59）の「面倒」、例 60)の「大変」などの単語と共起しているので、明確にマイナスの評価的意味が伝わる。このような文例が全体の 1/4 ほどある。以上の述語否定形式およびマイナスの評価をともなう文は日本語「いちいち」全体の 2/3 という高い比率を占めている。一方、中国語“一一”、日本語「一つ一つ」の使用文例に、マイナスの評価的意味は特に感じられない。現代日本語では副詞「いちいち」のマイナスの評価的意味用法がより目立っていると考えられる。

58）携帯電話で身代金要求したわけでもないでしょ。なんで いちいち 注意されなきゃならないのよ。ったく」（『医療機関はトラブルがいっぱい』）

59）こちらのほうもどこどこに行きましたって、いちいち説明も 面倒なものですから、まあ「はい」と申しますと、「あっちはよっぽど景気がよかっじゃろなあ」って。

（『ヤポネシアの海辺から』））

60）産後はとてものどが渇くけど、いちいち起き上がるのが 大変なときもあるから、布団に入りながら飲めるので助かりました。（『マタニティ』）

4. まとめ

本章では、四つの観点から日本語「いちいち」、「一つ一つ」と中国語“一一”を対照して、それらの異同を考察した。

1）文の意味からいえば、中国語“一一”、日本語「一つ一つ」と比べて、現代日本語副詞「いちいち」はマイナスの評価的意味をともなうものが圧倒的に多い。機能からみれば、修飾用法を中心に、三者ともに「-φ」の使用数が著しく多い。

2）副詞と動詞とのコロケーションからみれば、中国語“一一”より日本語「いちいち」は精神的活動において多く用いられる。日本語「一つ一つ」は物理的活動に多用されている。

3）述語形式からみると、中国語“一一”・日本語「一つ一つ」より日本語「いちいち」は否定形式およびポテンシャルな用法に傾斜している。

4）日本語「いちいち」は文頭に用いられることが多いことから、「一つ一つ」・“一一”に比べて陳述性的な意味がより高いと考えられる。

第二章　「一度」「ひとたび」と“一度”

1. はじめに

日本語の「一度」と中国語の“一度”は同形副詞である。しかし、現代語の使用実態からみれば、日本語の「一度」のほうは多様なパターンが存在するが、中国語の“一度”はより単純な使用実態だという差異が分かる。たとえば、現代日本語において、「一度に」、「もう一度」、「いま一度」、「一度ならず」などのパターンが用いられているが、中国語の“一度”はそれほど多様な使用実態とは言えない。

表１『中日対訳コーパス』における「一度」と“一度”

「一度」と“一度”の出典	実例数	「一度」＝“一度”	実例数
日本語原文「一度」	509	その訳語“一度”	12
中国語原文“一度”	46	その訳語「一度」	13

表１のデータをみれば、日本語「一度」の使用は中国語“一度”より、大幅に上回ることが分かる。両語は同形副詞でありながら、「一度」＝“一度”のように対応する訳語数が少ない。あるいは、同形副詞「一度」と“一度”は使用上、かなり異なっていると考えられる。その差異は一体どのような内容であろうか。

本章は、日本語の「一度」と中国語の“一度”を対照するとともに、日本語「ひとたび」も考察の対象とする。主に下記のような、①「一度」／“一度”の意味と形式、②共起動詞の意味タイプ、③その述語形式、④文中での位置という四つの側面から考察する。

2. 先行研究

中日同形語「一度」と“一度”を対象にする先行研究はほとんど見当たらないが、張林の《汉语“一度”和日语「一度」》(《汉日语同形副词研究》施建军（2012)）は数少ない先行研究のひとつである。上記研究はおもに意味、用法から「一度」と“一度”を比較している。具体的には、両言語における同形語について、類似した意味、用法から、その修飾する名詞、動詞などの使用傾向を比較しているのである。その中では、頻度副詞としての意味、用法について、中国語の「一度」はほとんど名詞だけを修飾する一方、日本語のほうは名詞、動詞両方を修飾する、と結論付けられている。本研究では、コーパスを利用して、その結論の妥当性について検討したい。

張林の研究はまずコーパスから抽出した日本語「一度」を意味上から 7 つに分類し、中国語の“一度”と比較した。

表 2 現代語における“一度”と「一度」の意味の比較　（張（2012）による）

項目番号	意味	“一度”	「一度」
A	具体数としての一回、一遍	○	○
B	他の副詞と組み合わせて「再度」「再び」を表す	◿	○
C	過去の経験、事態を表す	○	○
D	しばらくの間、一時	×	○
E	複数の事柄が同時に発生する	×	○
F	抽象化された数量	×	○
G	音程、温度、角度などの単位	○	○

しかし、筆者は以上の日本語「一度」の意味の分類については問題があると考える。A「具体数としての一回、一遍」と G の「音程、温度などの単位」という意味は日中両言語において同じ用法である。それ以外にも、B の「再度」「再び」と E の「一度に」の用法は副詞「一度」の意味、用法より、むしろその周辺的な用法だと理解するほうが適当であろう。また、C「過去の経験、事態を表す」と D「しばらくの間、一時」との分類はどのような基準で分けられているのかが不明瞭である。特に、D「しばらくの間、一時」の意味の項目をみると、日本語の「一度」と比べ、中国語“一度”のほうは「しばらくの間、一時」の意味、用法が存在していないと張林論文では主張されているが、この点についても再検討が必要であろう。以上から、本研究では、日本語と中国語の言葉コーパスを利用して、その意味の分類を再検証する。

3. 意味の解釈

まず、辞書の意味から日本語の「一度」「ひとたび」と中国語の“一度”について、見てみよう。

3.1. 辞書による意味解釈

（一）日本語の「一度」

【一度】名：①物事の起こる回数で、一つ。一回。一遍。「一度や二度の失敗でくじけるな」「年に一度のお祭り」「オペラは一度も見たことがない」；副：①あることを一つの試み（特に、初めての試み）として行うさま。「物は試し、一度食べてみよう」「一度遊びに来ないか」②〔条件節の中で使って〕あることを一つの行為や経験として行うさま。「一度言い出したら、後へは引かない」「一度食べたら忘れられない味だ」（行為の回数よりも行為の試みや経験などに注目したい言い方）（『明鏡国語辞典』）

【一度】【名】（一）①ひとたび。いっぺん。一回。②同時。いっしょ。→一度に。③杯に一杯の酒を飲むこと。また、その酒。（二）温度、角度、経度、緯度などを自

然数を用いて示す時の最小単位。(『日本国語大辞典』(第 2 版))

ほかにも、『現代副詞用法辞典』において、「①一回の回数を表す。②ある行為を試みる様子を表す。プラスまたはマイナスのイメージはない。」と解釈されている。

（二）日本語の「ひとたび」

【ひとたび】　名：いちど。一回。「ひとたびは中止を考えた計画」; 副 :《条件節の中で使って》一つの行為や経験をするさま。いちど。いったん。「ひとたび地震でも起こればひとたまりもない。」(『明鏡国語辞典』)

【ひとたび】①一回の回数を表す。「大会は資金難のためひとたびは延期が決定した。」; ②非常に重要な局面であることを強調する様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。条件句を作って述語にかかる修飾語になることが多い。この「ひとたび」は「いったん」や「いちど」に似ているが、「いったん」のほうが日常的で用法が広い。「いちど」はある行為を試験的に試みる様子を表し、それが重要な局面になるかどうかには言及しない。　(『現代副詞用法辞典』)

（三）中国語の“一度”

1.计量日月星辰运行距离的一个单位。

2.犹一次。“一年一度秋风劲，不似春光。胜似春光，寥廓江天万里霜。”

3.有过一次。徐迟 《牡丹》七 :“ 魏紫记不得他们了。但终于记起了当年那位年轻的剧作家和那位一度的合演者，十分高兴。”

4.一次渡过。度，渡。《新编五代史平话·唐史上》: “大王若提兵一度渭桥 ，京都又復惊骇。”

5.谓按现成曲调唱一次。

6.指温度、角度、经纬度、电量等的一个单位。(《汉典》)

呂叔湘は《现代汉语八百词》において、“一度”の意味、用法を二つに分類し、下記のように主張している。①数量詞“一次或一阵”（一回、しばらく）の意を表す。“一年”とよく共起し“一年一度”となって、連体修飾語として機能する。②副詞“过去发生过”（過去に起きたことがある）を意味し、連用修飾語として機能する。

現代中国語の“一度”は、以上の１の計量、6 の角度、温度の使い方以外には、おもに２“犹一次”（一回）と３“有过一次”（一度～ことがある）用法がよくみられる。

以上の辞書の意味からみれば、三語の共通点と相違点は下記のようにまとめられる。

共通点：①一回、②経験、③プラスマイナスの評価的意味はない。

相違点 :「一度」の「行為の試み」、「ひとたび」の「重要な局面の強調」、“一度”の「しばらくの間」というそれぞれの独自の意味を持っている。

3.2. 実例の意味の分析

本章では、まず日本語の「一度」を対象にして、『中日対訳コーパス』を利用して、182 例を抽出した。表３は、日本語の「一度」とその中国語訳語の対応実態となっている。

表 3 『中日対訳コーパス』における「一度」とその中国語訳語

日本語「一度」	中国語の訳語	182例
頻度にかかわる意味 121 例　　（ 66.48%）	(有)一次	90
	動詞重複、動詞+“一”+動詞	8
	一下	7
	“一张，一口”など	6
	(见）一面	4
	一回	3
	一遍	3
陈述にかかわる意味 22 例　　（12.09%）	一旦	22
時間性にかかわる意味 21 例　　（11.54%）	一度（曾经、过、暂时）	9
	曾经/已经	6
	(去) 过	5
	暂时	1
その他	訳なし	18

表 3 からみれば、日本語の「一度」が中国語の“一度”に訳される数が少ないことが分かった。また、『中日対訳コーパス』における中国語の“一度”例文が 46 例である。日本語訳語「一度（は)」15 例、「一時（は)」9 例、「ことがある」7 例、「かつて」2 例、「さきほど」1 例、「一頃」1 例というような対応実態となっている。「一度」／“一度”は使用上にはかなり異なっていると考えられる。その差異は一体どのような内容であろうか。まず、182 例の日本語の原文を「一度」の表す意味を踏まえて分類してみれば、①動作行為の発生する回数などを表す動作量にかかわる意味、②強い気持ち、遠慮や勧誘などのような陳述的な意味、③事態が過去発生したことを表す時間性にかかわる意味、という三つの意味が分類される。

日本語の「一度」について、現代日本語書き言葉均衡コーパスを利用して、文中での意味を以上のように分類を試みる。

表 4 日本語の「一度」の意味の分類

日本語「一度」の意味分類		「一度」の例文	180
頻度にかかわる意味	年／週に+一度 （名詞に係る連体修飾語）	三年に一度の試験	3
	年／週に+一度 （動詞に係る連用修飾語）	三ヵ月間､私たち 週に一度 デートしたの。	81

	過去の一回	前 に一度 一緒に来たことある。	29
時間にかかわる意味	A 過去しばらくの間、進行すること。「ちょっと」「少し」	一度 ためらい、それから…さるぐつわを解いてやった。	5
	B 物事の進行を一時的に中断するさま。「ちょっと」	受付の女は 一度 奥へ行って来てから、どうぞお上がり下さいと言った。	1
陳述にかかわる意味	A あることを一つの試み（特に、初めての試み）として行うさま。	物は試し、一度 食べてみよう。	24
	B 挨拶語として、語気など、実際の一回の意味が薄くなる。「社交辞令」「遠慮を表す」	ぜひ 一度 遊びに来てください。	4
	C 重要な結果をもたらす行為として、それを行うさま。「強い気持ちを表す」条件を表す	この男は 一度 言わないって決めたら絶対に言わないんだもの。	33

日本語の「一度」は中国語から伝わった言葉であるが、元々は動作、行為の回数あるいは頻度を表しているが、時間量の程度を表すことになって、条件節と共起する場合には強い気持ちなどを表して、また、相手に働きかけの表現と共起する場合には、遠慮や勧誘など、陳述的な意味が感じられる。

さらに、中国語の“一度”について、ＣＣＬコーパスを利用して、その意味分類を試みよう。

表 5 中国語の“一度”の意味分類

	意味分類	中国語“一度”の例文	193
頻度にかかわる意味	A（名詞に係る連体修飾語）具体数としての一回、一遍	一年一度 的″忘年会″	30
	B（動詞に係る連用修飾語）動作行為の一回を表す	一年一度 海棠花开	8
時間にかかわる意味	A 過去しばらくの間、進行すること（しばらく）	帝国 一度 繁荣强盛 双目 一度 几乎失明	23 60
	B 過去、経験したこと（かつて）	一六〇四年曾 一度 侵入澎湖	64

中国語“一度”の意味分類には日本語のような「陳述に係るもの」という分類が見つからない。また、中国語の“一年一度”の頻度を表す用法は、日本語の実例にもみられる。後ろに来ることばを分析してみれば、中国語のほうは｛“一年一度”+的+N｝の形がほとん

どである。日本語の場合は、{「週（に）一度」+V} の形でよく使用される。すなわち、中国語の“一度”は頻度を表す時、名詞を修飾し、動詞を修飾することがあまりみられない。日本語の「一度」は頻度を表す時、動詞・名詞を修飾することが可能である。

“一度”+形容詞→「しばらくの間」、「持続」

1）有一半城市位于 一度 很繁荣的阳光地带。（半分以上の都市はかつて繁盛していた地域に位置する。）（《天津日报 1984-10-23》）

2）于是她又 一度 的疯狂。（そして彼女はまたしばらく気が狂った。）（《群像》）

3）第二次世界大战后，西欧、北美 一度 失业率相对较低。（第二次世界大戦のあと、西欧、北アメリカでは、しばらくの間、失業率が比較的低かった。）（『教育经济学导论』）

本研究には以上のような実例が 23 例見つかった。“一度”が修飾する形容詞は“低”、“繁栄”、“衰退”等が多い傾向がある。

例 1）のように、“一度”がその後ろにくる形容詞“繁荣”を修飾し、「当時の町はしばらくの間繁栄していた」という意味が読み取れる。すなわち、こういう場合には“一度”が「過去にあったこと」と「しばらく持続すること」という意味を含んでいると考えられる。

例 2）について、“疯狂”は人間主体の状態を表す形容詞である。例 3）の、“一度”は後ろの文“失业率相对较低”を修飾し、単に“低”の形容詞を修飾するというより、むしろ、「失業率が相対的に低い」という文全体を修飾すると考えられる。

修飾される形容詞は、もの、ひと、ことの状態を表すものであり、時間量からみれば、ある程度の時間帯において、その事態が持続し存在するという意味を含んでいる。すなわち「しばらく持続すること」である。また、概ね過去の時間帯を表す時間副詞と共起するので、「過去にあったこと」として理解することが可能であろう。

“一年一度”→　「一回」、「瞬間」

4）一年一度 的舞蹈演员的招生考试就要开始了。（年に一度の踊り子応募試験がまもなく始まる。）（《长生水》）

“一年一度”のかたちで使用される実例 30 例に注目すると 、文法機能からみれば、後ろの名詞である“考试”（試験）にかかり、連体修飾語の機能を発揮していると認められる。

5）一年一度 海棠花开时，邓大姐总要请总理来海棠树下散步。（年に一度ミカイドウの花が咲くとき、鄧姉さんはいつも総理をここで散歩しようと招いた。）（《中南海畔海棠红》）

“一年一度”の後ろにはほとんど名詞がくるが、実例のようにわずかながら、“海棠花开”（ミカイドウの花が咲く）のような動詞述語文も修飾可能である。

6）“月月红如此，那能数见鲜，一年开一度 ，应博世人怜”。 （月々に赤く咲き、なんと美しいこと。年に一度可憐に咲く。）（《绘画与中国文化》）

また、“一度”が動詞の直後に “動量補語”[34]のくる使い方も見つかったが、稀な例である。これは、「年に一回だけ咲く」という意味を表す。文体からみれば、硬い文章表現、あるい

[34] 動量補語は動作・行為が行われる数量―回数を表し、専用の動量詞や臨時に借用される動量詞が補語に用いられる。『現代中国語文法総覧』による。

は古語らしい言葉づかいである。現代中国語では“一年开一次”の言い方が一般的である。

7）美国民主党 4 年一度的全国代表大会在纽约市中心的麦迪逊广场花园大厦降下了帷幕。（4 年に一度のアメリカ民主党大会はニューヨーク市中心にあるマディソン・スクエア・ガーデンで幕を閉じた。）（《中国青年报 1992-7-20》）

8）1981 年，法国举行 7 年一度的总统大选，德斯坦败北，社会党领袖弗朗索瓦·密特朗入主爱丽舍宫。（1981 年、フランスの 7 年に一度の大統領選挙では、デスタン氏が敗北、社会党党首ミッテラン氏が当選しエリゼ宮に入った。）（《当代世界史》）

そのほかには、「4 年」「7 年」+「一度」の実例が多少みられる。「N 年一度」のパターンは、「N 年」に事態、行為が一回起こることを表す。すなわち、“一度”を「N 年一度」のように使用する場合には、事態が起こる回数、頻度を表す用法になっている。

“曾（経）”+“一度”→「過去」、「経験」、「持続」

9）由于材料供应等问题，致使小区工程曾一度缓慢。（材料の供給などのせいで、団地の工事はしばらく滞っていた。）（《北京日报 1985-6-14》）

10）从 50 年代即开始部分土建施工的反应堆，中途曾一度停顿。（50 年代からスタートした原子炉建設は、途中で一度停止した。）（《炫目的世界》）

11）在巴黎学习期间，马约尔穷困潦倒，一度曾想跳入塞纳河自尽。（パリで学習しているマイヨール氏は貧しくて、一度セーヌ川に飛び込んで自殺しようと思いました。）（《马约尔和他的模特儿迪娜·韦埃尼》）

12）而她总是这样苦恼着自己，所以我曾经一度想和她切实表明。（しかし、彼女はいつもこのように頭を悩ませている。私はかつて彼女にはっきりと告白しようと思った。）（《前夜》）

“一度”は時間副詞“曾（経）”と共起することもよくあり、本研究では 64 例みつかった。“曾（経）”（かつて）は「動作、行為、事態が過去に起こったことがある」という意味であり、「過去」と「経験」の二点が捉えられるが、どちらかというと、「経験」のほうが強調されていると考える。「頻度」であるか、あるいは「しばらくの間」であるかというと、「過去しばらくの間に何事かがある」というニュアンスで捉えられる。修飾する先は、形容詞、継続動詞であり、位置は、“曾（経）”+“一度”または“一度”+ “曾（経）”となる。

“一度”+動詞→「過去」、「しばらくの間」

13）忽必烈一度考虑等到秋天再行进攻。（フビライハーンはかつて秋になったら再び攻めようと思った。）（《文天祥》）

14）他一度迷信于"还原到表象的真实"的艺术信条。（彼はかつて「表象に戻る真実」という芸術信条を誤って信じていた。）（《燃烧的迷津》）

以上のような実例以外では、“一度”が動詞を修飾することから、連用修飾語の使い方が“一度”の主な役割だと考えられる。13）・14）のように、動作行為の継続する時間を表すことが多いが、事態の頻度一回を表す用法は 15）・16）の 2 例しかみつからなかった。

15）用艺术把这种生活再一度变成实在的，这并不能说是他们的过错。（芸術の形で生活を

一度現実化したことは、彼らの間違いとは言えない。）（《文艺概论新编》）

16）市政府不能任意罢免官吏，官吏若被罢免，须由行政法院或其他惩诫委员会举行 一度 正式审判，被告人尚可上诉于高级法院。（政府は任意に官吏を免じることはできない。すべて、行政裁判院また懲戒委員会によって正式に裁判を行わなければならない。なお、被告人が高等裁判院までに告訴することもできる。）（《比较市政学》）

“曾（経）”＋“一度”の使い方と比べると、「経験」の意味が薄く、主に「過去しばらくの間持続していたこと」の意味として捉えられる。

整理すると、中国語の“一度”には「一回」「しばらくの間」「経験」の意味が含まれている。“一度”のかたちと意味、使用がきれいに対応している傾向がみられる。｛週・年…一度｝➔頻度、｛ø一度｝➔経験の中でのしばらく、｛“曾（経）”～一度｝➔経験の中での過去一回。

また、現代日本語書き言葉均衡コーパスを利用して、日本語の「ひとたび」という表記の実例も補充的に考察してみたが、下記表６のようになっている。

表 6 日本語「ひとたび」の意味の分類

意味分類		日本語「ひとたび」の例文	229 例
頻度にかかわる意味	B（動詞に係る連用修飾語）動作行為の一回を表す。	勇敢なる人はただ ひとたび しか、死を味わうことはない。	6
陳述にかかわる意味	C 重要な結果をもたらす行為として、それを行うさま。	ひとたび 花開けば満開にならねばならない。	222
	A あることを一つの試み（特に、初めての試み）として行うさま。	その魅力を感じるだけでも、ここは ひとたび 身をおいてみることをお勧めします。	1

日本語「ひとたび」の使用例を分析してみれば、時間にかかわる意味を帯びる例が見つからない。陳述にかかわる意味の項目、とくに条件従属節に、集中的に多用されていることが明らかになった。

以上の表 4－表 6 をまとめ分析すると、下記の表 7 のようになる。

表 7 日本語「一度」「ひとたび」と中国語“一度”の意味の比較

意味分類		日本語「一度」	日本語「ひとたび」	中国語“一度”
頻度にかかわる意味	A（名詞に係る連体修飾語）具体数としての一回、一遍	△	×	○
	B（動詞に係る連用修飾語）動作行為の一回を表す	◎	△	△
時間にかか	A 過去しばらくの間、進行すること	△	×	◎

わる意味	B 過去、経験したこと	○	×	◎
	C 物事の進行や行為を一時的に中断するさま。普通、再開するという含みでいう。	▲	×	△
陳述にかかわる意味	A あることを一つの試み（特に、初めての試み）として行うさま	○	▲	×
	B 挨拶語として、語気など、実際の一回の意味が薄くなる	△	×	×
	C 重要な結果をもたらす行為として、それを行うさま	○	◎	×

（◎とても多い　○多い　△わずか　▲殆どない　×なし）

中国語の“一度” の“度”は動量詞で、動詞“度過”からきたものである。動詞“度過”の意味が弱化し、動作行為の回数を表す動量詞としての性格をもつようになった。現代中国語では使用頻度の高い動量詞“度”は動作行為を意味することから動量詞へと文法化したものである。動量詞は、動作行為の量を指すものであり、連続量を表す場合と離散量を表す場合とに大きく分けられる。連続的量とは、動作が継続する時間や期間のことで、“分钟，小时，年……”などの単位で示される量である。一方、離散的量とは、動作行為の回数を指す。現代語では離散量である回数を表す場合も数詞に動量詞を付加するのが一般的であるので、漢代以降、動量詞の付加が義務的となるような変化があった。動量詞は漢代あるいは魏晋南北朝期に生まれたという二つの主張があるが、唐代に入ると、“度”が広く動作行為の量を表すために用いられている。

本研究の結果により、“一度”が離散量である回数のみを表すのではなく、動作行為の連続量も表せることが分かった。

4. 共起動詞の分類

まず、ここでとった分析方法について述べておく。

①「一度」／ “一度”には名詞と副詞２つの用法があるが、ここでは、「一度」／ “一度”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心にあつかう。

②日本語副詞「一度」は現代日本語書き言葉均衡コーパスにおいては、「一度」、「ひとたび」の表記がよく用いられる。本章では中国語“一度”と同じ形式の「一度」の表記を主に採用して対照する。また日本語「ひとたび」の表記も視野に入れて分析する。

③語彙的意味に基づき動詞を『語彙分類表』にしたがって、分類する。

④時間の意味をあらわす動詞を金子亨（1995）にしたがって、継続動詞・非継続動詞に２分類する。

4.1. 共起動詞の語彙的意味について

日本語の「一度」「ひとたび」と中国語の“一度”の三語はおもに連用修飾語として動詞を修飾する。しかし、それ以外の用法も多少存在することも事実である。たとえば、日本語「一度」は名詞として用いられる実例もある。（彼女がどなったのを見たのはあとにも先にもこの一度きりだった。）また、「一度や二度」のかたち（一度や二度の見合い）で、連体修飾語の機能を発揮し、名詞にかかる場合も稀にみられる。

本研究は以上の場合を除外して、副詞と動詞とのコロケーションを中心に、まず、三語の共起動詞の意味について比較する。

表 8 日中両言語における「一度」と“一度”の動詞意味の比較

	日本語 176		中国語 155		ひとたび 229	
2.12 存在	5	2.84%	30	19.35%	31	13.36%
2.15 作用	60	34.09%	54	34.84%	91	39.22%
2.16 時間	—	—	—	—	3	1.29%
2.30 心	44	25.00%	21	13.55%	47	20.26%
2.31 言語	24	13.64%	7	4.52%	6	2.59%
2.32 芸術	—	—	—	—	1	0.43%
2.33 生活	13	7.39%	3	1.94%	13	5.60%
2.34 行為	5	2.84%	8	5.16%	5	2.16%
2.35 交わり	12	6.82%	11	7.10%	8	3.45%
2.36 待遇	1	0.57%	5	3.23%	4	1.72%
2.37 経済	1	0.57%	4	2.58%	7	3.02%
2.38 事業	7	3.98%	8	5.16%	6	2.59%
2.50 自然	—	—	1	0.65%	0	0.00%
2.51 物質	—	—	—	—	4	1.72%
2.57 生命	4	2.27%	3	1.94%	3	1.29%

日本語の「一度」の後ろにくる動詞の語彙の意味は「作用」と「心」、「言語」の項目に集中している。

17）本格的な治療はそれから始まるのだが、まず 一度 自然に帰るというプロセスをとり入れたこの療法は、文字どおりすぐれて人間的なものといえるだろう。（『心の危機管理術』）

「帰る」　2.15 作用

18）しかし 一度 知った以上は、それを失っては生きてはゆけないような気がします。（『友情』）

「知る」　2.30 心

19）僕はどこにいくというあてもなくただ町から町へとひとつずつ移動していった。世界は

広く、そこには不思議な事象や奇妙な人々が充ち充ちていた。僕は一度緑に電話をかけてみた。彼女の声がたまらなく聞きたかったからだ。　(『ノルウェイの森』)

「電話を掛ける」　2.31 言語

中国語の“一度”が修飾する動詞の語彙の意味は日本語と比べて、「存在」を表す項目がより多い。

20）在经济发展过程中，一度出现某些领域过热、物价涨幅过高的问题。(経済発展の過程で、一部の分野が過熱したり、物価の上昇幅が高すぎたりする問題が一時見られた。)(《人大报告 98》)

“出现”(現れる)　2.12 存在

21）1897 年 6 月，山东人民反抗德国侵略者占地修筑铁路，二十余人竟遭屠杀。于是民众奋起，武装抗敌，迫使德国计划一度停顿。(一八九七年、山東人民はドイツ侵略者が土地を奪って鉄道建設を企てたのに反抗して、十数名が殺された。そこで民衆は決起して、敵を武装攻撃し、ドイツの計画を一度は頓挫させた。)(《我的父亲邓小平》)

“停顿”(滞る)　2.15 作用

22）在薛永全当喇嘛时，他一度相信时间是一个很大很大的圆圈。(彼がラマの小坊主だったころ、時間はとてつもなく大きな輪だと信じていた。)(《钟鼓楼》)

“相信”(信じる)　2.30 心

日本語「ひとたび」が修飾する動詞の語彙の意味は中国語“一度”の傾向と似ているが、おもに、「存在」「作用」「心」の項目に集中している。

23）また、原発がひとたび大事故を起こした場合の被害は、チェルノブイリ原発の事故をみるまでもなくまさに破局的である。(『放射能汚染の現実を超えて』)

「起こす」　2.12 存在

24）誕生後七日目には、まことに王者の子にふさわしい宴会と饗宴が催されたのでありました。ひとたび祝宴が終ると、バスラの大臣はヌーレディンを連れて、いっしょに帝王の御許に参内いたしました。(『美食』)

「終わる」　2.15 作用

25）彼は、三十一文字の中にまで“三分の一拍子”が入り込んでいることを知り、深く反省するとともに、“三分の一拍子”からの脱出を本気で決意した。ひとたび決意すると、騒ぐ児童も、けしからぬ同僚や先輩も“三分の一拍子”を破るためのお師匠さんだと気がついた。(『今を生きる』)

「決意する」　2.33 心

以上のデータから分析してみると、頻度を表す場合、日本語「一度」は、動詞を修飾することも可能である。一方、中国語のほうは名詞しか修飾することはできない。また、動作の時間量を表す場合、両方とも、動詞を修飾することが可能である。後ろにくる動詞の語彙の意味には多少差異がみられる。日本語「一度」のほうは、より心、言語をあらわす動詞とよく共起する。中国語“一度”のほうは存在、作用を表す動詞とよく共起する傾向があ

るといえるだろう。また、日本語「ひとたび」の動詞使用傾向は、日本語「一度」とは異なり、中国語“一度”と似ている。その原因については、言葉の歴史的な変遷を考える必要があるだろう。

4.2. 共起動詞の時間表現について

「一度」「ひとたび」“一度”の共通点は連用修飾語として動詞を修飾する点である。本研究では三語の修飾する動詞について、言葉の時間表現から、継続動詞と非継続動詞の２つに大別し、その相違を考察する。

表 9 共起動詞の時間表現の比較

動詞分類		日本語「一度」（176 例）	中国語“一度”（155 例）	ひとたび（229 例）
継続動詞	状態動詞	7 例	7 例 形容詞 23 例	--
	継続動詞	82 例	100 例	48 例
	合計	（89 例） 50.57%	（107 例） 69.03%	（48 例） 20.96%
非継続動詞	瞬間動詞	87 例	48 例	181 例
		49.43%	30.97%	79.04%

下記 26）－28）は日本語「一度」の共起動詞である。

26）こういう経験は、若い時代には誰でも一度あることでしょうが、私に取っては実にその時が始めてでした。私は電気の技師であって、文学だとか芸術だとか云うものには縁の薄い方でしたから、小説などを手にすることはめったになかったのですけれども、その時思い出したのは嘗て読んだことのある夏目漱石の「草枕」です。(『痴人の愛』)

「ある」（状態動詞）

27）「ある日文官たちに招かれた際に、彼らにたくさんの漢字を書かせ、それを一読して記憶術を用いて最初ははじめから、次は逆から全部暗誦してみせました。」するとリッチは一度文章を読むと全部覚えてしまうという種の術で人に評判が立った。(『マッテオ・リッチ伝』)

「読む」（継続動詞）

28）　女が、夜食に戻って、枕元のランプを点けたのも、ちゃんと知っていた。途中で一度、水を飲みに起きると、それっきり目が覚めてしまった。(『砂の女』)

「起きる」（瞬間動詞）

中国語“一度”の共起動詞は 29）－32）である。

29）由于材料供应等问题，致使小区工程曾一度 缓慢 。（材料供給などのせいで、団地の工事はしばらく滞っていた。）（《北京日报》1985-6-14）

“缓慢”（遅い）　（形容詞、状態を表す）

“缓慢”（遅い）は通常、形容詞と認められるが、言葉の時間的表現からいうと、事柄の状態を表す場合も少なくなく、23 例の使用例も見られる。

30）从 1958 年初到 1966 年 7 月，全国人大及其常委会的立法工作日趋削弱，一度 处于停顿状态。（1958 年初めから 1966 年 7 月まで、全国人民代表大会およびその常務委員会の立法機能が弱くなって、一時は滞った状態になった。）（《中国社会发展报告》）

“处于”（にある）（状態動詞）

31）从韬奋后来所写的一些回忆录看来，他 一度 在南洋公学攻读电机工程科，就是跟他父亲这种"实业救国"的思想直接有关的。（彼の回想録によれば、韬奋はかつて南洋公学で電機工学を専攻していた。）（《韬奋》）

“攻读”（専攻する）（継続動詞）

32）在经济发展过程中，一度 出现某些领域过热、物价涨幅过高的问题。（経済発展の過程で、一部の分野が過熱したり、物価の上昇幅が高すぎたりする問題が一時見られた。）（《人大报告 98》）

“出现”（現れる）（瞬間動詞）

日本語「ひとたび」の共起動詞をみると「状態動詞」は見られない。例 32）のような「瞬間動詞」が圧倒的に多い。

33）水質総量規制制度の背景　後背地に大きな汚濁源を有する湖沼，内湾などにおいては，そこに流入する汚濁負荷量が大きいことに加え水の交換が悪く，ひとたび 汚濁が進行すると水質の改善を図ることは容易なことではない。（『環境白書』）

「進行する」　（継続動詞）

34）ひとりが優秀になるのではなく、従業員全体のレベルをあげたかった。キャディは ひとたび コースに出たら、ひとりで判断しなくてはならない仕事です。（『サービスの天才たち』）

「出る」　（瞬間動詞）

三語の共起動詞の時間表現、すなわち動作行為の継続・非継続の見方から比較考察した結果、「ひとたび」は非継続動詞が全体の約 8 割で、中国語“一度”は継続動詞が全体の約 7 割となっており、日本語「一度」は継続動詞と非継続動詞の使用率は半々である。この差異は、中国語“一度”では動作行為の時間量「しばらく」を意味する用法が比較的に多いという傾向を補足できるだろう。

5. 述語形式について

文中での位置、従属節のタイプ、また、動詞の主体という三つの側面から、三語の差異を考察すれば、下記のようになる。

文頭位置

中国語の場合、文頭に位置することは不可能であるが、日本語「一度」の約 2 割、「ひと

たび」の約 3 割が文頭に位置している。

35)「おれのみるところでは、みんな克平が悪いよ。あいつ、わがままでいかんところがある。一度 言ってやろうと思うんだ」 (『あした来る人』)

36) さらに、ドナウ汽船会社のオーストリア側持株返還に対し、ロシアに二百万ドルの支払いを約束した。ひとたび これらの義務を忠実に、しかも予定通り果たし終えた時、オーストリア経済は急速に成長した。(『オーストリアの歴史』)

条件従属節

条件を提示する節に用いられる比率は、中国語"一度"が 0 であり、日本語「一度」が約 1 割、「ひとたび」が 7 割以上である。

37) 「そうじゃないんだ。自分自身が、砂になる……砂の眼でもって、物をみる……一度 死んでしまえば、もう死ぬ気づかいをして、右往左往することもないわけですから」(『砂の女』)

38) いま日本は、この二つの極を行ったりきたりしているといってよい。どちらかといえば、前者の勢いのほうが強い。ひとたび 火がつくと、共鳴効果の強い日本のことだ。この勢いは強まりこそすれ弱まることはないだろう。(『「日本の技術」いまが復活の時』)

日本語の「一度」と「ひとたび」は比較的条件節と文頭で多用されていることが明らかになった。動作行為の時間量・回数を表すより、ポテンシャンルな意味を表していると考えられる。一方、中国語の"一度"は実際発生した動作行為の時間量・回数を表し、アクチュアルな意味用法が比較的多いだろう。

非人間主体との共起

日本語「一度」が非人間主体と共起することが不可能であるのに比べ、日本語「ひとたび」と中国語"一度"は共起が可能である。

39) 消防は、もともと管轄地域の日常的な災害に対処する組織なのである。では、ひとたび 地震や台風、工場火災といった大規模な災害が起こったらどうするのか。現在の市町村消防では、たちまち太刀打ちできなくなる。(『ドキュメント新潟県中越地震』)

40) 这几年，农村原来单一的合作医疗形式陆续解体，涌现了多种办医形式，全市村级医疗摊点 一度 达到 474 个。(この数年の間、農村において、単一の提携式医療機構が次々と解体し、多形式の医療機構が現れた。全市において、村レベルの医療機構は一度 474 に達したこともある。) (《人民日报 1987-10-6》)

41) 从那间寂静的小房子里凭窗眺望，一年一度 春风绿，在独身生活中给过她不少安慰，眼前却使她触景伤情。(寂しげな小さい部屋から眺めて、年に一度、春が来て、一人暮らしの彼女が癒された。が、いまは悲しませるだけ。) (《她有多少孩子》)

また、{中国語"一度" ＋用言の否定形式} は 1 例だけ発見された。

42) 是他，经过巧妙的交涉、叙谈友谊，打破了伦敦港工人一度 不 卸滑石粉的规定…… (彼は、上手な交渉で友情などにも触れて、かつてロンドンの港湾労働者がタルクを下さないという決まりを破りました。) (《新闻写作基础与创新》)

6. まとめ

日本語の「一度」「ひとたび」と中国語の“一度”について、意味、共起動詞、述語形式、文中での位置という四つの側面から対照考察した。3 語はともに頻度の意味を有していて、連用修飾語として「一回の動作、行為」を表せる。また、異なっているところは下記のようになる。

① 語彙の意味からいうと、日本語「一度」のほうはより広い範囲で「頻度・時間・陳述」にかかわる意味を表す。とくに、独自の「試み」という陳述の意味を帯びている。

② 共起動詞の意味の対照から見れば、日本語「一度」は「心、言語」を表す動詞とよく共起する。それに対して、日本語「ひとたび」は中国語“一度”と似ており、「存在、作用」を表す動詞とよく共起する。また、継続動詞と非継続動詞との共起使用率からみれば、日本語「一度」は 5：5 であり、「ひとたび」は 2：8 であり、中国語“一度”は 7：3 という結果になっている。

③ 述語形式からいうと、中国語“一度”と日本語「一度」を比べると、日本語「ひとたび」は条件従属節によく用いられている。さらに、日本語「一度」が非人間主体と共起不可能であるのに比べ、日本語の「ひとたび」と中国語の“一度”は共起可能である。

④ 文中での位置からいうと、中国語“一度”は文頭に位置することが不可能であるが、日本語「一度」「ひとたび」は文頭に位置することが可能である。

第三章　「一旦」と“一旦”

1. はじめに

日本語の「一旦」と中国語の“一旦”は、同じ漢字表記で、いずれも時間の意を表す名詞の働きと、動詞・形容詞などを修飾し、連用修飾語になるという点では共通している。しかし、副詞としての語彙の意味からみれば、日本語の「一旦」は物事の進行や行為を中断する様子を表す。それに対して、中国語の“一旦”は事象が短い時期に急に行うさまを指し、突然という意味を表す。日中両語の表記が一致しているにもかかわらず、意味の差異が大きいともいえるだろう。本章では、まず①その語彙の意味について現代語に限らず、それぞれの歴史変遷についても分析する。②副詞と組み合わさる動詞の意味タイプを考察する。また、③その述語形式の特徴、④文中での位置という側面から、両語について詳しく分析を行っていく。

2. 辞書での意味の対照

2.1. 日本語の「一旦」

下記『日本国語大辞典』（第 2 版）に記載されている内容から、「一旦」の歴史上の使用実態を整理する。

一　名　（「旦」は朝の意）：

①ある日の朝。また、朝の時間の一回分。ある朝。ひと朝。また、一日。

※霊異記（810-824）下・一一「一旦に二人の命を亡（ほろぼ）さむ。願はくは我に眼を賜へ」

日葡辞書（1603-04）「Ittan（イッタン）。すなわち、ヒトアサ。」

②本格的でない短時間。また、永続的でない短時間。一時。しばらくの間。多く「いったん」の形で用いられる。

*日葡辞書（1603-04）「Ittan-no（イッタンノ）エイガニ　ホコル」

*史記-蕭相国世家【奈何欲以一旦之功而加万世之功哉】

③一度。ひとたび。かつて一度心に決めたことなどについていうことが多い。

二、副

①本格的でなく、かりそめであるさま。また、持続的でなく一時的であるさま。しばらくの間。一時的に。ちょっと。

*古事談（1212-15 頃）三・清義加持令蘇生安養尼事「一旦蘇生せさせて、念仏をも申してきかせまほしく侍り」

*平家（13 c 前）七・福原落「いかに況んや、汝等は一旦したがひつく門客にあらず、累祖相伝の家人（けにん）也」

*風姿花伝-（1400-02 頃）一「これは一旦珍しき花なりと思ひ悟りて」

*歌舞伎・兵根元曽我（1697）一「此方（このかた）には聞えませぬ。私に一旦の断もなしに聞えぬ」

②（一時的である可能性はあるが、ともかく）今までとは異なる事態に移る区切りとなるさま。ひとたび。一朝（いっちょう）。仮にも。

*徒然草（1331 頃）一二九「一旦恥ぢ恐るることあれば、必ず汗を流すは、心のしわざなりといふことを知るべし」

以上の記述のとおり、『日本国語大辞典』（第 2 版）に収録されている「一旦」は最初 9 世紀ごろに現れる。その意味は「ある日の朝」、「朝の時間の一回分」という字面通りの時間的意味を指し、その後、そうでない短時間「しばらくの間」の意味が現れ、さらに、「一度」の意味で用いられた時期もある。字面通りの時間であろうとなかろうと、いずれも名詞として使用されるということは明白である。また、13 世紀にはいって、副詞としての機能が記録され始めた。その意味は「一時的に、ちょっと」、あるいは「ひとたび、仮にも」となっている。

また、『現代副詞用法辞典』によると、現代日本語で「一旦」は「物事の進行や行為を中断する様子、非常に重要な局面であることを強調する様子」を表し、述語を修飾する時によく用いられるということである。飛田氏は辞典において、「一旦」の副詞用法を下記のように二つに分類している。

一. 物事の進行や行為を中断する様子を表す。プラスまたはマイナスのイメージはない。述語にかかる修飾語として用いられる。「パリで道に迷ったら一旦川へ出ることだ。」での中断される行為は「道に迷うこと」である。すなわち、進行中の行為を中断するニュアンスで、行為が再開される暗示がある。

二. 非常に重要な局面であることを強調する様子を表す。プラスまたはマイナスのイメージはない。述語に係り用いられる。「男なら一旦決めたことは守れよ。」のように、過去の非常に重要な局面であることを表す。また、「彼女はいったんしゃべり始めたが最後止まらない。」のように、仮定条件を作る形で用いられ、非常に重要な結果をもたらす条件であることを表す。

ようするに、日本語の「一旦」は古代から現代に至る中で、字面通り「朝」の意味から、そうでない時間「しばらくの間」に変わりつつあり、現代では、「ひとまず、ひとたび」の意に発展し、文中での働きからいえば、主な文中機能は体言から述語に係る連用修飾語に変わってきた。

2.2. 中国語の“一旦”

《汉典》における“一旦”の解釈は以下のとおりである。

i. 一日之間。（一日の間）

三國演義．第二回：「可憐漢室天下，四百餘年，到此一旦休矣！」

ii.忽然有一天。（実現した日）

文選．江淹．恨賦：「一旦魂斷，宮車晚出。」

文明小史．第四十一回：「當初他上摺子的時候，還自以為倘若拿某人扳倒，一旦直聲

震天下，從此被朝廷重用起來。」

iii.假設有一天。（未来のある日）

戰國策．趙策四：「一旦山陵崩，長安君何以自託於趙？」

《现代汉语词典》(第 6 版)では次のように述べられている。

⑴ 名词 :“一天之内”，指很短的时间内。⑵ 副词:不确定的时间,表示有一天。用于已然,表示忽然有一天;用于未然，表示假如有一天 。（名詞：「一日の内」短い時間を指す。副詞：不確定の時間、ある日のことを指す。過去の場合は「急に」の意を表し、未来の場合は「仮のある日」の意を表す。）

《汉语副词辞典》によれば、副詞“一旦”が未来の場合に新しい事柄あるいは仮に新しい事柄が起こることを意味し、マイナスイメージのニュアンスがある。下記例 a・b のように、よく“就”と共起し、「ひとたび」「いったん」「仮定」を表す。

a. 仓库里不能抽烟，一旦着火就麻烦了。（倉庫は禁煙です。一旦火事になったら大変です。）（《汉语副词辞典》）

また、過去の場合に用いられると、本当にその日が来たら「急に」の意を表す。

b. 他从前就想当老师，一旦有一天当上了，又不觉得这个工作好了。（彼はずっと前から教師になりたいと思っていたが、一旦なったら、その仕事に文句ばかりだ。）（《汉语副词辞典》）

要約すれば、現代中国語の“一旦”は時間関係の意味を表し、名詞、副詞という二つの品詞として用いられる。既に起きたことや未然のことを表し、未来の場合には仮定を表し、続きの内容にはあまり望ましくない結果になるマイナスの評価的意味が含まれている。

“一旦”は古代中国語でどのように使用されて、どのような意味変遷、語用変化があるのか。古代中国語の資料を調べて下記の①－⑧のようにまとめてみよう。

《汉语大字典》に載せている“旦”は“ 旦，明也。”，“旦，早也，朝也，晓也。”であり、そのもともとの意味は“天明；早晨”（夜が明けること；朝）として解釈されている。

① 先王昧爽不显，坐以待旦 。 （《书・太甲上》）

さらに、“天明，早晨”から“天，日”の意味が派生した。

② 投竿东海，旦旦而钓，期年不得鱼。 （《庄子・外物》）

先秦時代に数詞“一”は時間名詞“旦”と組み合わさり、“一旦”となって、名詞として用いられるようになった。

③ 盖由相知非一事一物，相尽非一旦一夕。 （《三国志・魏书・任城陈萧王传第 十九》）

以上の“一旦”は名詞として用いられ、「一朝、一日」などの字面通りの時間を意味する。文中で動詞の対象語、または動詞の修飾語として働く。しかし、数詞“一”と“旦”の組み合わせは完全に固定化されていないようで、“三旦”という数詞“三”との組み合わせも資料に存在している。

④ 人有卖骏马者，比三旦立市，人莫之知。…伯乐乃还而视之，去而顾之，一旦而马价十。（《战国策・卷三十・ 燕二》）

字面通りの時間を意味する用例が戦国と漢の時代の資料で見られる。

⑤ 民之望兵，若待父母。是故天下，一旦而定有四海。(《逸周书》)
⑥ 奈何欲以一旦之功而加万世之功哉！萧何第一，曹参次之。(《史记・萧相国世家》)
例③－⑥のように、“一旦”の時間名詞として短い時間を意味する用法は現代に至るまで使用されてきた。現代の時間副詞としての用法は短い時間を意味する用法から派生してきたと思われる。
⑦ 今臣一旦为狂疾，而曰“必赏女”，与余以狂疾赏也，不如亡！ (《国语・晋语》)
前節で示した“一旦”は、後ろの前提を表し、前後には順接あるいは因果関係が含まれている。また、“一旦ＶＰ”の形で定着して使用される例文も漢の資料に記録されている。
⑧ 今臣临复适三十，诚恐一旦不保中室，则不知死命所在！(《汉书・王莽传》)
時間の意味を表す数量連語“一+旦”は「短い時間、しばらくの間」を指す時間名詞となり現代まで用いられている。言語使用の過程をみると、字面通りの時間を意味する用法から、そうでない時間を表すようになり、文中での働きも述語にかかる連用修飾語として用いられた。
古来の中日同形語「一旦」と“一旦”は同じ語源から発展してきたと考えてもいいだろう。現代に至り、両語ともに時間名詞として「しばらくの間」を表しており、時間副詞として「ひとたび」という「仮に」の意も含まれている。両語の違いといえば、日本語の「一旦」は「とりあえず、ちょっと」という意味で事柄の中断・再開を表す一方で、中国語の“一旦”は“忽然，一下子” の意味で「事柄を急に行うこと」を表す。

3. 『中日対訳コーパス』における「一旦」と“一旦”の対応実態

北京日本学研究センターが 2003 年に開発した『中日対訳コーパス』(第一版) を使用し、コーパスにおける中日両言語の原文に用いられる「一旦」と“一旦”を抽出し、それぞれの訳語を整理し、両言語の対応実態を考察する。

表 2 中国語“一旦”49 例

中国語“一旦”の使用数	日本語の訳語	個数
49	「一旦」「いったん」	19
	「一度」「ひとたび」	17
	訳なし	12
	「一朝」	1

表 3 日本語「一旦」35 例

日本語「一旦」の使用数	中国語の訳語	個数
35	“一旦”	16
	“既然	2
	“已经”	2

	“重新”	2
	“一时”	1
	“一经”	1
	“原来”	1
	“尽管”	1
	“总之”	1
	“暂且”	1
	訳なし	7

1）可是，有一个情况我必须向您指出：庞其杉 一旦 同你相熟了，他也会变得非常活泼健谈，而且使你出乎意料地感到他非常坦率、非常热心……（でも、龐さんって人は、いったん打ち解けると、明るくてよくしゃべるんですよ。それも意外なほど、率直で、熱心で…）（《鐘鼓楼》）

2）おれはそんな呑気な隠居のやる様なことは嫌だと云ったら、亭主はへへへへと笑いながら、いえ始めから好きなものは、どなたも御座いませんが、一旦 この道に這入ると中々出られませんと一人で茶を注いで妙な手付をして飲んでいる。（我说：“那些都是消闲无聊的老爷们干的，我不喜欢。”房东嘻嘻地笑道：“不，谁也不是一开头就爱上这一行的，一旦进入此道，就再不想放手啦。”他一个人沏好茶喝起来，那动作很是奇特。）（『坊ちゃん』）

例 1）-2）は、中国語“一旦”＝日本語「一旦」の対応する例文である。こういう中日同形語の「一旦」と“一旦”が対応している場合は使用例の半数弱ということが分かった。また、完全に対応する例文以外にはどのような対応例文があるのかについて、下記の例文をみてみよう。

3）一旦 黄河再次决堤，这十几万大军，这河边数百万人民群众怎么办?（黄河が ひとたび 決壊したら、この十数万の大軍、それに河辺に住む数百万人の人民大衆はいったいどうすればいいのだ？）（《我的父亲邓小平》）

また、中国語の“一旦”が日本語「一旦」に訳される用例数とほぼ同じ程度で、「一度（ひとたび）」と訳されている。日本語の使用例文では、中国語の“一旦”に訳されることが最も多く、ほかには“一时、一经、原来、尽管、总之、暂且……”など様々な表現が使用されている。

すなわち、半分ほどで、それぞれの意味の使用が異なっている。同形語として、その意味、動詞との共起、文中での使用などについてどこに相違点があるのかという問題を明らかにするために、ここでは意味の対照、共起動詞の意味の対照、所在文の文法などの面から、対照して分析しようとする。

4. 共起動詞の意味の対照

まず、ここでの分析方法について述べておく。

① 中国語における単語の品詞の分類は不安定で、不明瞭な部分がある。“一旦”には名詞と副詞の二つの用法があるが、ここでは、“一旦”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心に扱う。

② 「一旦」にはおもに名詞用法と副詞用法がある。また、副詞用法には動詞にかかるものが多いが、形容詞にかかる場合も僅かながら見られる。本章の趣旨は副詞と動詞の結び付きを考察することにある。

『語彙分類表』での語彙の意味に基づき動詞を分類する。以下の表は日中の「一旦」と“一旦”の共起動詞を分類したものである。

表 4 共起動詞における意味の分類の比較

項目	日本語「一旦」233 例	中国語“一旦”232 例
212 存在	11.16%	24.14%
215 作用	40.77%	32.76%
230 心	16.74%	15.52%
231 言語	7.30%	2.59%
233 生活	8.15%	4.31%
235 待遇	4.29%	3.88%
236 交わり	0.00%	4.31%
237 経済	2.58%	6.03%
その他	9.03%	6.46%

日本語の場合は「作用、言語、生活」の項目で共起する場合が比較的多い。中国語の場合は、「存在」の項目で日本語の 2 倍以上になっている。

例 4－8）は日本語「一旦」のよく共起する動詞の使用例である。

4）もちろんカッターでもメスでもかまわない。一旦 切り口ができたら、正確に同じ場所を切り開いて行く。(『今どきの拷問術』)

「出来る」2.12 存在

5）車に乗って、少し走らせると、〈ヒトミ〉は車を 一旦 停めた。「タレント業はどうだ？」「知ってたの？」　(『鏡よ、鏡』)

「停める」2.15 作用

6）日頃は優しいが、一旦 怒ればおそろしい男なのかもしれない。(『江戸の敵』)

「怒る」2.30 心

7）自分を思い出してはいるが、それ以上事実に触れることは避けたかった。一旦 喋り出したら、もう止まることができないのをよく知っていたから。(『耳を切り取った男』)

「喋りだす」2.31 言語

8）「……まるで餓鬼やないか」　俺は、一旦 座って、己の掻巻を握りながら言った。(『やみとり屋』)

「座る」2.33 生活

日本語「一旦」は「作用」を表す動詞「停める」、「動き始める」とよく共起している。つぎの例 9）－12）は、中国語の“一旦”のよく共起する動詞の例文である。

9）那好吧，一旦 有了机会，我们互相帮助。(そうしましょう。一旦チャンスがあったら、助け合いましょう。)（《金光大道》）

“有”（ある）2.12 存在

10）他知道 一旦 倒下，他可以一气睡三天。(この場で寝こんでしまったら、二日や三日、白川夜船で行ってしまうことはわかりきっていたので……)　（《骆驼祥子》）

“倒下”（倒れる）2.15 作用

11）设若 一旦 忘了这件事，他便忘了自己，而觉得自己只是个会跑路的畜生，没有一点起色与人味。(これを忘れたら自分を忘れたもおなじこと、甲斐性なしの人でなしの、道を走りまわることができるだけの畜生になってしまう……。そんなふうに思っていた。)（《骆驼祥子》）

“忘”（忘れる）2.30 心

12）在资本主义制度下，工人的劳动力 一旦 出卖，他的劳动活动或劳动过程便成为属于他人的，为他人生产剩余价值的过程。(資本主義では、労働者が一旦自分の労働力を売り出せば、彼の労働そのものは他人のものになって、その過程は他人のために働く過程になる。)（《马克思主义哲学基本原理》）

“出卖”（売り出す）2.37 経済

以上のように、中国語の使用例では「存在」「作用」を表す動詞と共起するのが全体の半分である。ほかには、精神活動を表す動詞「決定、怒る」などと共起する例文も 15%以上になっている。

表 4 のデータを図として表すと、よりはっきりする。

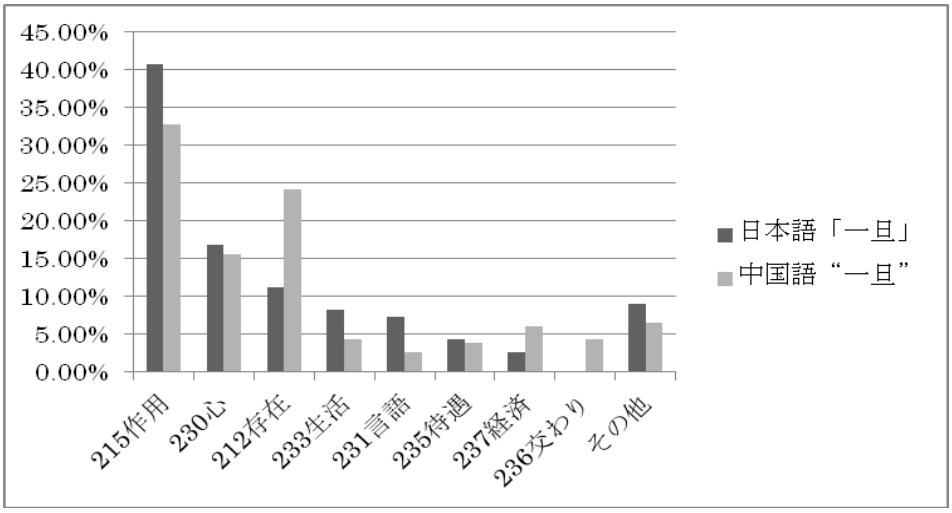

図１ 「一旦」と“一旦”の共起動詞

以上の例文を分析してみれば、日中の「一旦」と“一旦”はおもに「作用、存在、心」項目に属する動詞と共起している。人間主体が発する動作を表す動詞と比べると、事象が行うことを表す動詞とよく共起する。また、中国語と比べると、日本語「一旦」は「言う」「言葉をきる」などの「言語表現」を表す動詞、および「座る」「退職する」などの「生活」を表す動詞とややよく共起している。

5. 述語形式の対照

日中両言語における副詞「一旦」と“一旦”は、述語にかかる連用修飾語として用いられている。本章では、文中での位置、従属節の特徴などの面から「一旦」と“一旦”を比較する。

まず、文中での位置、とくに文頭に来るかどうかに注目する。

日本語「一旦」をみると、233 例の使用例で文頭にくるのは次例 13・14）のように、合計 35 例である。

13）福原の肩がかすかに震えているのが見て取れた。一旦 、顔を上げた福原だったが、もう一度墓石に頭を下げた。(『転々』)

14）「…復帰した事例が約 6 割強存在した」というものである。一旦 不登校となったとしても，より早期の段階でのデータがあれば…」(『システム論からみた思春期・青年期の困難事例』)

それに対して、中国語の副詞“一旦”は文頭にくるのが 45 例見られる。

15）当着我们向战略上取守势的敌人进攻时，红军往往是分散的。一旦 敌人大举向我进攻，红军就实行所谓“求心退却”。(戦略上守勢をとっている敵を進攻するときには、赤軍は往々にして分散しているものである。しかし、ひとたび敵がわれわれにむかって大挙進攻してきたときには、赤軍はいわゆる「求心的退却」をおこなう。)(《毛泽东选集》第一卷)

日中で「一旦」と“一旦”が文頭に位置する例文はそれぞれ 2 割ほどであり、陳述性をもち、文頭に来てうしろにくる文の全体にかかる傾向があると思われる。

次に、主節と従属節での使用実態からみれば、「一旦」と“一旦”はおもに従属節で用いられることが明白であろう。とくに、「仮説、条件、局面」などを示し、重要な結果をもたらす行為として、それを行うさまを強調している。「一旦」と“一旦”は仮定従属節によく用いられることがその使用実態のもう一つの特徴である。

日本語の場合、「一旦」の後ろにくる動詞が「～ば、～と、～たら、～なら」という仮定形式で使用されるのは 56 例である。

16）もちろんカッターでもメスでもかまわない。一旦 切り口ができたら、正確に同じ場所を切り開いて行く。(『今どきの拷問術』)

17）これは、一旦 ある球団と選手が契約すると、引退するまで自主的に他球団への移籍が認められないものである。(『ザ・メジャーリーグ』)

ほかには、下記のように「一旦」が「以上、ても、場合」と共起し、条件や仮定を提示する使用例も見つかる。

18）しかし、一旦 言ってしまった以上、天武は、草壁の立太子を発表しないわけには…(『外伝役小角』)

19）一旦 不登校となったとしても，より早期の段階でのデータがあれば…(『システム論からみた思春期・青年期の困難事例』)

20）そして 一旦 すべりが生じた場合，その進行度は男性に比べて女性のほうが大きい。(『骨粗鬆症の診断と鑑別』)

日本語「一旦」で条件や仮定などを前節に使い、重要な結果をもたらす行為として、それを行うさまを表す用例は半分ほどである。

また、他の使用例をみると条件を提示することでなく、ずっと継続していることが中止される、または再開されるさまを表す場合では、「一時的」という短時間を暗示する。

21）「いいです。もっていってください」　女の人は 一旦 車に戻り、助っ人を連れてやってきた。(『ピアノ・サンド』)

22）六年９月から半年間の一時中断を経て、六十九年４月に 一旦 廃止された。(『政策効果分析レポート』)

中国語“一旦”は前節で使用され、条件あるいは仮説を出して、後節では推測される結果が出現することが要求される。

23）如果 一旦 情况摸清，条件成熟，就可以对房租进行改革。(我々は、一旦状況を把握しすべてが整ったら、家賃の変更を行う。)(《当代中国社会主义经济理论》)

例 23）は中国語の“假设复句”（仮定複文）であり、前節にある仮定を述べ、後節にそのような状況のもとで出現するであろう結果を説明する。話し言葉で常用される関連語句は“要（是）……，（就）”、“如果……，（就）……”などであり、書き言葉では、前節で“假如”，“倘若”，“如”“倘使”などが多く用いられ、後節では“就”“便”“那么”などが多く用いられる。「一旦+就（会/可以/能）」の使用例は 97 例で、“就”は非常によく用いられる副詞で、時間や範囲、ある種の語気を表し、また語句と語句を結びつける関連付けの働きもする。また、“就”

は、よく条件を表す連詞と組み合わせて用いられる。ほかには、「往往/常常/总」、「能/可以/会」「很难/势必/应当」というような人間の主観的な望み、判断、推測を表す言語表現とよく共起することが顕著である。無論、こういう言葉表現は“就”とともに文中でも多用されている。「一旦+便」の 22 例、「一旦+将/则/即 」の 11 例、「一旦+往往/常常/总是」の 11 例、「一旦+能/可以/会」の 27 例でも使用されている。「一旦+就/便/则/将/即」というパターン（用例の半分ほど）は前節に条件あるいは仮説を提示し、後ろの結果（望ましくない結果が多い）との何らかの関係を暗示している。中国語“一旦”がそういう仮定従属節に用いられる使用例は全体の 8 割以上である。

例 24）は「既に起こった場合、動作・行為が急に行われたさま」を表す。合計 25 例（1 割ほど）となっており、アクチュアルな含意であろう。

24）科技商品因受到无理限制而延误了大好时光，一旦 在市场上抛头露面，立即惊动四方，身价百倍，前景无限美好。（科学商品はむりやりに制限されて、いいチャンスを逃した。が、一旦市場に出たら、世間の注目を引いて、何百倍にも値が上がっているとよく受けられるだろう。）（《羊城晚报》1984-12-29）

述語形式のもう一つの重要な特徴は肯定否定の使い分けであるが、中国語の“一旦”は否定の意味を表す“不・没”と共起することがほとんど見られず、下記の 4 例しかない。

25）一旦 孩子不出息，长大了把希望和理想再寄托给他们的孩子……（出世できない子供が大人になったら、またその希望や理想を彼らの子供に押し付ける……）（《粉红色的梦》）

26）尽管如此，一个人 一旦 不再考虑哲学本身，而开始考虑人们在历史进程中进行哲学思维的方式，那么仅仅对哲学本质进行思考就不够了。（それにしても、もし哲学そのものを考えずに、人間の哲学思惟様式を考察しようとすれば、哲学の本質だけ思考するのでは不十分だ。）（《现代基督教思想》）

27）或是他当顺民当惯了，一旦 没有长官骑在身上，就不知道那日子应当怎样渡过。（彼は服従に慣れたかもしれず、長官がいなければ、どう過ごすか戸惑ったようだ。）（《社会主义民主的新开端》）

28）这老家伙目前还有利用的价值， 一旦 无用，一脚把他踢开就完了。（あいつはまだ使えるぞ。使えなくなったら、蹴っ飛ばしてやろう。）（《春风得意》）

例 25－28）のように、否定形式の述語に用いられる使用例が僅かながら、共起することが可能だといえるだろう。それに対して、日本語「一旦」は否定形式と共起する使用例は見られない。

6. まとめ

① 古代中国語を起源とする現代中国語の“一旦”と現代日本語の「一旦」について、名詞としての用法は古語の使用を続けているのであろう。副詞としてみると、それぞれの意味と語用が変わってくる。両語はともに、字面通りでない短時間を意味する副詞用法が少なくなったが、日本語のほうは中国語よりやや多用される傾向があ

る。

② 日中の「一旦」と“一旦”はおもに「作用、存在、心」項目に属する動詞と共起している。人間主体が発する動作を表す動詞と比べると、事象が行うことを表す動詞とよく共起する。また、中国語と比べると、日本語「一旦」は「言語表現」を表す動詞、および「生活」を表す動詞とややよく共起している。

③ 述語形式からみれば、中国語と比べると、日本語の「一旦」は否定文には用いられない。また、主観的なポテンシャルの含意も比較的少ない。両語で共通している主な用法は仮定従属節に用いられ、主観的なポテンシャル用法になっている。

④ また、文頭に位置するかどうかなどの側面から、さらに両語の異同を観察すると、中国語のほうはやや文頭によく来る傾向が見られる。すなわち、中国語“一旦”のほうは文の全体にかかる陳述的用法がより顕著になっていると考えられる。

第四章　「一向」と“一向”

1. はじめに

日本語の「一向」と中国語の“一向”は、同じ漢字表記で、いずれも動詞・形容詞などを修飾し、連用修飾語という点では共通している。しかし、語彙の意味からみれば、日本語の「一向」はおもに程度がはなはだしい様子を表す。それに対して、中国語の“一向”はおもに過去または現在の一時期を指し、「今までずっと」という意味を表す。日中両語の表記が一致しているにもかかわらず、意味の差異は大きいともいえるだろう。本章では、まず①その語彙の意味について現代語に限らず、それぞれの歴史変遷についても分析する。②文中における形態から「一向」／“一向”の異同を比較する。③副詞と組み合わさる動詞の意味タイプを考察する。また、④その述語形式の特徴、⑤文中での位置という側面から、両語について考察を行っていく。

2. 意味の対照

2.1. 日本語の「一向」

「一向」には名詞、副詞、形容動詞という使い方があるが、名詞のほうは「一向宗」の略語で専門的な仏教用語として用いられる。また、形容動詞のほうは、「その儀では候はず、一向御一家の御上とこそ承り候へ」〈平家・二〉というような古文にしか見当たらない使用例である。文中での意味は「話にならないほどひどいさま。全くひどいさま」となっている。

『日本国語大辞典』（第 2 版）の解説によると、副詞としての意味は下記のようになる。

① （下に打ち消しの語を伴って）
㋐ 行為や状況に少しも動じないさま。まるきり。少しも。 「しかってもーこたえない」 「 ーに驚かない」
㋑ 以前からの状況が全く変わらないさま。 「 ー元気にならない」 「 ーに返事が来ない」
② 全く。 「 ー平気だ」 「口がーに無調法な女であった／新世帯 秋声」
③ ひたすらに。ひたむきに。 「唯本願をたのみてーに称名すれば／一遍上人語録」
④ いっそのこと。むしろ。 「 ーに重忠と刺し違へて死なんとは思ひしが／浄瑠璃・出世景清」
⑤ すべて。全部。 「大小事ーなんぢにこそ言ひ合はせしか／平家 10」

現代日本語で、「一向」は主に「一向に」の形で用いられ、連用修飾語の機能として働く。その意味は①「一向に驚かない」のように、「ちっとも、少しも」となっている。「一向に元気にならない」のようにあとに打消しの語を伴って、「以前からの状況が全く変わらないさま」の意を表す。②「一向に平気だ」の肯定文に用いられ、「全く」の意である。辞書に

は③「ひたすら。ひたむきに。」と④「いっそのこと。むしろ。」⑤「すべて。全部。」の用法も載っているが、現代日本語ではその使用例は見当たらない。

飛田良文（1994）は『現代副詞用法辞典』において、「一向」は程度がはなはだしい様子を表し、ややマイナスの評価的意味を帯びる語であり、「一向」、「一向に」という形で述語にかかる修飾語として用いられ、後ろに否定や打消しの内容を伴うことが多く、肯定的な内容の事柄についてはふつうは用いないと述べている。また、用例を挙げながら、以下のように文のニュアンスについて補った。「いっこう」は「ぜんぜん」「すこしも」という意味ではあるが、可能性を全部否定するだけでなく、相手の期待や予想に反するという暗示がある。また、時間の進行に伴う事態の進展がないというニュアンスもある。したがって、「秘書のことは私はいっこうに存じません。」のように釈明の言葉として用いられた場合には、質問者は知っているという期待があるだろうが、私は全然知らないという意味になっている。

飛田の解釈は「一向」の基本的用法を知るうえで有益であるが、「ぜんぜん」「すこしも」という具体的な意味の解釈以外には十分に言及されていないので、「一向」の本質的意味に迫っているとは言えない。

2.2. 中国語の“一向”

張斌は《现代汉语虚词词典》で、“一向[副]，表示行为、状态从以前直到现在始终如此。”（行為・状態が以前から現在までずっとこのままであるという意を示す。）と述べられている。副詞の用法以外には、過去のある時間を表す名詞用法もある。また、過去から話す時点までの時間であり、将来のことではない。

また、『中日辞典』には以下のように解説されている。

①副詞　いままでずっと；平素から。
□他一向不吸烟。（彼は平素からタバコは吸わない。）
□他一向很健康。（彼はいつも元気です。）
②副詞　その後；先回会って以来。
□你一向好哇！（このところお元気ですか。）
③《過去または現在の一時期をさす》　…のころ、あのころ；このところ
□这一向去国外旅行的人很多。（近頃海外旅行に出かける人がとても多い。）

日中解釈について比較してみれば、日中両語の副詞用法において、かなり異なっている部分が見られる。まず、日本語のほうは主に打消しと共起し、「まったく」、「少しも」の意味を表すが、中国語のほうはほとんど肯定文に用いられ、「以前から現在までそのまま」の意味を表す。

3. 『中日対訳コーパス』における「一向」と“一向”の対応実態

本章では北京日本学研究センターが 2003 年に開発した『中日対訳コーパス』(第一版) を使用し、コーパスにおける中日両言語の原文に用いられる「一向」と“一向”を抽出し、それぞれの訳語を整理し、両語の対応実態を考察する。

表 1 『中日対訳コーパス』の「一向」と“一向”

	日本語の訳語	訳語数
中国語“一向” 80 例	訳なし	23
	これまで	15
	ずっと	14
	いつも	11
	日頃	4
	一貫として	3
	普段	2
	その他	8
	中国語の訳語	訳語数
日本語「一向」 57 例	一点儿 8，半点儿 1，任何 4，毫不 4，丝毫 9（打消し）	26
	完全	4
	根本	4
	一直	4
	简直	2
	实在	1
	一向	1
	訳なし	15

表 1 からみれば、中国語の訳語においても、日本語の訳語においても、「一向」＝“一向”の対応は一つしかない。

1）私はその人を先生の親類と思い違えていた。先生は「私には親類はありませんよ」と答えた。先生の郷里にいる続きあいの人々と、先生は一向音信の取り遣りをしていなかった。私の疑問にしたその留守番の女の人は、先生とは縁のない奥さんの方の親戚であった。（我把她误认为先生的亲戚了。于是先生说：“我可没有亲戚呀。”他同故乡的亲戚，是一向没有书信往来的。那位我不认识的看门女人，是同先生没有亲缘关系的夫人的亲戚。）（『こころ』）

ほかには、日本語の「一向」は、半分以上、中国語の“一点儿（すこしも），丝毫（ちっとも）”に訳され、また、中国語の“不”、“没”のような打消し形式とともに用いられ

ている。

2）城があった……いや、城でなくても、工場でも、銀行でも、賭博場でもかまわない。当然、衛兵か、守衛か、用心棒であっても、一向に差支えないわけだ。（真有城堡……不，即使不是城堡，工厂也好，银行也好，赌场也好都没关系，当然，卫兵也可以是警卫、也可以是保镖，都丝毫没有影响。）（『死者の奢り』）

3）そんな噛み合わないやりとりにも、一向に気を悪くした様子はなく、白い歯をみせて、さわやかに笑うのだ。（这样不相吻合的谈话，对方也没有一点心情烦躁的样子，露出洁白的牙齿爽朗地笑了。）（『砂の女』）

中国語の“一向”はおもに「これまで、ずっと、いつも」という日本語に訳されている。

4）周瑜贞在吴遥面前，一向就用这种口气说话，她可不管他是什么书记不书记。周瑜貞は呉遥の前では、彼が書記であろうが何だろうがお構いなく、いつもこういう口調で話しをする。（《天云山传奇》）

5）“你不是不知道，我一向不接受别人的介绍。我觉得那就等于把自己变成一个商品让人家挑选。”「私がこれまで人の紹介を受けつけなかったことは、あなただって知ってるじゃない。それじゃ、自分を商品にして人に選ばせるのと変わらないもの」（《人啊，人》）

6）话再说回来，刚才不是讲到我们祖坟的风水么？其中还有个道理，一向我都藏在心里，今天不妨告诉你们。（話はもどるけど、さっきうちの墓地の話をしたっけね、あれにはまだつづきがあるんだよ。じつは、これはいままでずっとわたしひとりの胸にしまっておいたことなんだけれどもね。）（《霜叶红似二月花》）

「ずっと、いつも」のような状況の持続を表す副詞に訳される場合以外には、「ふだん、ひごろ」という時間を指す副詞でも多少訳されている。

以上のように、日中両語の対応実態を考察してみると、日本語のほうは陳述的な意味合いがよく働くこと、中国語のほうは時間関係を表すことが両語の最も異なっているところであろう。

4. 文中における形態

『大辞林（第三版）』の解説において、「一向」は副詞として「いっこう」と「いっこうに」の形で用いると記述されているが、現代日本語で一体どういう使用状況になっているのか。BCCWJ を利用して、「一向」の表記で検索してみると、871 例出てくる。その中の「一向一揆」、「一向宗」などの名詞を除くと、「一向に」の使用例は 624 例であり、「一向」の使用例は 79 例である。「一向に」の形がほとんどで、「一向」+ＶＰ/ＡＰの形は僅かであり、その中の大部分の出典はやや古風な作品ばかりである。文中では連用修飾語として「一向+VP」、「一向に+VP」、「一向に+AP」という三つの形で下記のように使用されている。

7）私自身は一向に平気でした。（『きもの日和』）

8）村山は、心得た、と早速押し掛けたが、待たせる待たせる、一向に田中が出て来ない。（『敵討の話幕府のスパイ政治』）

9）その口元は引き結ばれたままで、動く気配は 一向に ない。表情も、無表情なままだ。(『水晶の谷を越えて』)

10）社長は益ゝ得意になって、或日のこと、「雇員は 一向 見かけないが、これからは使用人全体を集めることにしちゃどうだね？（『ガラマサどん』)

11）だがそれで 一向 構わないのです。なぜならば、これから皆さんは、新古典派経済学を学ぶことになるはずだからです。(『朝日新聞』2002/5/8)

ようするに、日本語「一向」は文中で連用修飾語として働く場合、「一向に」の形が最も多い。その後続述語は動詞述語と形容詞（形容動詞）述語の 2 種類である。「一向」の形で連用修飾語となる場合は、動詞述語に係っている。

中国語“一向”が連用修飾語として使用される場合、「一向+AP」、「一向+VP」という形になる。ほかには、文中で連体修飾語としても用いられる。そして、「(这）一向的+N」（“这一向子”“前一向子”）という時間名詞として認められている。

中国語 CCL コーパスを利用して、“一向”の名詞用法と副詞用法を調べてみると、“这一向”と“前一向”のように、指示詞“这”、“前”と共起する例文が名詞用法のほとんどである。しかも、すべて合わせても 28 例しか見当たらない。要するに、中国語の“一向”は主に副詞として用いられ、後ろの動詞・形容詞などを修飾し、文中での働きでは、連体修飾語、連用修飾語になることが可能である。

12）这使天津自行车厂这个 一向 的利税大户，从 1992 年底开始出现亏损。(天津自転車工場とはいつもの大納税者だが、1992 年末から赤字を出し始めた。）(《人民日报 1995-8》)

“这个一向的”（このいつもの）の“一向”は時間名詞であり、後ろにくる“利税大户”（大納税者）が人間であるので、助数辞“个”（個）が用いられ、連体修飾語となる。

13）“……看着你这 一向 的劲头，就知道你心里做事了。(このようないつものやる気をみれば、君が真面目に決心したことが分かった。)(《姐姐》)

“这一向的”（このようないつもの）の“一向”は後ろにくる“劲头”（やる気）にかかる連体修飾語となる。

14）相反，她这 一向 兴高采烈。(逆に、彼女はこの間上機嫌だった。)(《鼓书艺人》)

15）平儿她娘说：“这 一向子 你不来，我还以为你老子变卦了。”(「ずいぶん久しぶりだね。親父さんの気が変わったと思った。」平ちゃんの母さんは言いました。)(《龙骨》)

例 13）－15）には“这一向”という決まった形で後ろにくる名詞、形容詞、動詞にかかり、それぞれ連体修飾語と連用修飾語としての機能を帯びている。

16）她是一个浪漫气息颇浓的女性，对爱情与婚姻 一向 抱有理想主义色彩。(彼女はとてもロマンチックな女性で、愛情と婚姻をいつも理想的に考えている。)(《作家文摘报 089 期》)

17）胡说，我们关系 一向 很好，直到今天还保持着友谊。”(違うぞ。我々はずっと仲がいい。今日まで友情を保っている。)(《我是“狼”》)

18）他不顾明朝 一向 的标准，大兴土木营造府第。(彼は明の時代の決まりを無視して、大いに土木工事を興して屋敷を建てた。) (《北京晚报 1985-10-31》)

例 16）－17）は“一向”の形であり、“一向抱有”（ずっと抱える）の“一向”は後ろの動詞“抱有”（抱える）にかかる連用修飾語となる。“一向很好”の“一向”は後ろの形容詞“很好”（良い）を修飾している。例 18）では「“一向”+“的”」の形で後ろの名詞“标准”にかかり、連体修飾語となる。

19）因为没有家小，他 一向 是住在车厂里，虽然并不永远拉厂子里的车。（一生そこの車を引くつもりはなかったのだが、独り身だったので、ずっとそこに寝泊まりしていたのだ。）(《骆驼祥子》)

中国語の“一向”は、関係詞“是”の前に来て、後続の状況関係などを修飾する例文が多数見られる。

20）出去一看，只见豆撒得满地，没有我们的阿毛了。各处去 一向 ，都没有。（出ていってみますと、豆がそこらじゅうに散らばっでるだけで、うちの阿毛は見えないんです。あちこちへ行って聞いてみましたが、いないんです。）（《彷徨》）

例 20）“去一向”の“一向”は場所名詞として方向を表す。

21）她这个 一向 被别人服侍惯了的千金小姐，如今也能亲手操持，尽心尽力地服侍丈夫，这是许多人不曾料到的。（彼女は普段から他人に世話をされていて、今自ら家事をして夫に仕えたが、これは人々にとって予想外のことだった。）（《作家文摘报第 219 期》）

「現在」の意味の時間副詞と共起することも多少ある。例 21）のように“如今”（今）という時間副詞と共起する場合には、“一向”が修飾することで「いままで変わらなかったこと」が、“如今”（現在）になり、なにかの変化が起きたという意味になる。文脈上では、前後の文節で意味が対立するニュアンス、あるいは逆接のニュアンスが含まれている。

5. 共起動詞の意味の分類

ここでは、本章でとった分析結果について述べておく。

① 中国語の単語の品詞分類は不安定で、不明瞭な部分がある。“一向”には名詞と副詞の二つの用法があるが、ここでは、“一向”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心に扱う。

② 日本語副詞「一向」は現代日本語においては、「いっこう」、「いこう」という表記になっているが、本章では、漢字表記「一向」を用いることにする。

③ 「一向」には主に名詞用法と副詞用法がある。また、副詞用法には動詞にかかるものが多いが、形容詞にかかる場合も多少見られる。本章の趣旨は副詞と動詞のむすびつきを考察することにある。

④ 『語彙分類表』に従って、語彙の意味に基づき動詞を分類する。以下の表は日中の「一向」と“一向”の共起動詞を分類したものである。

日本語「一向」の表記は日本語 BCCWJ を利用して、242 例抽出し、中国語“一向”の表記は中国語 CCL コーパスを利用して、252 例抽出した。その共起動詞の意味を『分類語彙表』にしたがって、下記表 2 のようにまとめた。

表 2 共起動詞の意味の分類

意味項目	日本語「一向」242 例		中国語“一向”252 例	
2.12 存在	10	4.13%	9	3.57%
2.13 様相	2	0.83%	0	0.00%
2.14 力	3	1.24%	0	0.00%
2.15 作用	70	28.93%	12	4.76%
2.30 心	78	32.23%	92	36.51%
2.31 言語	16	6.61%	15	5.95%
2.33 生活	6	2.48%	11	4.37%
2.34 行為	1	0.41%	3	1.19%
2.35 交わり	5	2.07%	11	4.37%
2.36 待遇	1	0.41%	10	3.97%
2.37 経済	5	2.07%	4	1.59%
2.38 事業	0	0.00%	4	1.59%
2.57 生命	1	0.41%	0	0.00%

（用例には両語の形容詞との共起も出てきたが、その比率をみると日本語は 18.18%、中国語は 24.21%である。また、中国語のほうは“是”の使用率が 7.94%であるが、本章では対象として扱わないことにする。）

下記の例 22）-25）は日本語における共起動詞の意味の分類である。

22）大真面目にシラノの姿を探すのだが、無頼漢は 一向に 現れる様子がなく、すでに三十分の待ちぼうけになっている。（『二人のガスコン』）

「現れる」2.12 存在

23）緑に囲まれた書斎での執筆も 一向に 衰えることがなかった。（『山の絵本』）

「衰える」2.15 作用

24）自分の前途、経済的混迷、それは闇そのものだったが、一向に 深刻には考えなかった。（『六十歳からは好きなように生きよう』）

「考える」2.30 心

25）フラメンコが、まなじりを決して、地団駄踏んでみせても、誰も 一向に こたえなかったんです。（『慈悲海岸』）

「答える」2.31 言語

日本語「一向に」は、変化を表す動詞「減らす、進むなど」および精神活動を表す動詞「分かる、知る、構うなど」とよく共起する。

次に、以下で中国語“一向”の共起動詞を例示する。

26）在上海住过四五年，为甚么我 一向 不曾碰到你？（上海に四、五年間住んでいましたが、一度も君と会ったこともないのはなぜでしょう。）（《命相家》）

“碰到”（会う）2.15 作用

26）她 一向 认为“万般皆下品，唯有读书高”，要是还能读书，该是多么幸福呀。（彼女はこれまで「この世のものはすべて下等で、ただ読書のみが高尚」だと思いこんでいた。もしも、つづけて学問の道をきわめることができたなら、どんなにしあわせだろう。）（《青春之歌》）

“认为”（考える）2.30 心

27）校长，您是 一向 主张公道的，请问您来给我们念这种颠倒黑白的训令是什么意思？（学長、あんたは、一貫して正義公道を主張している、それなのに、こんな白黒顛倒させた訓令を、われわれのまえで読みあげるのは、どういうことか？）（《青春之歌》）

“主張”（主張する）2.31 言語

28）既然你们 一向 就很少往来呢，哦，梅生兄也可以帮忙，就是我兄弟，能够效劳之处也一定不肯躲懒呵。（面識もないというんだったら、馮梅生だって口をきいてくれるだろうし、ぼくもできるだけのことはするぜ。）（《霜叶红似二月花》）

“往来”（付き合う）2.35 交わり

中国語“一向”は精神活動を表す動詞“认为，干涉，关心” などと最も共起しやすく、36.51%の使用率である。そのほかの動詞と共起する比率は明確な傾向が見られず、集中していない。

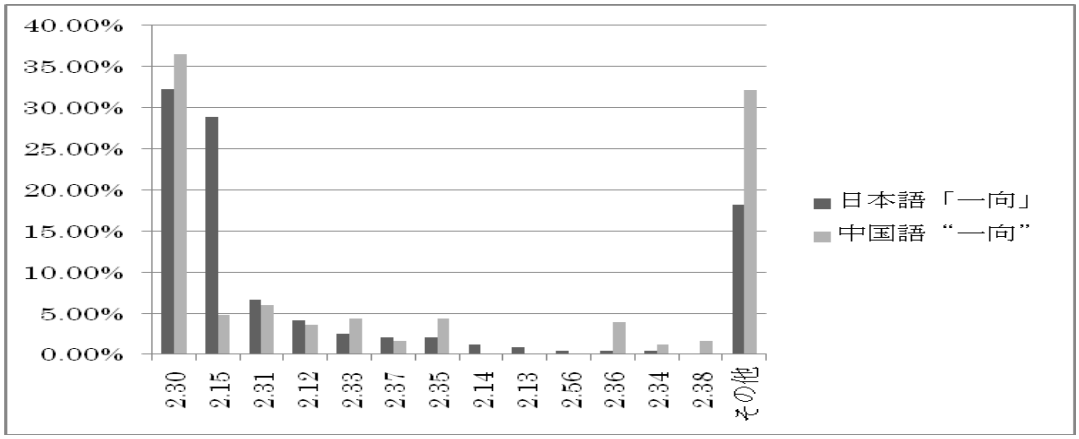

図１ 「一向」と“一向”の共起動詞

図１で示したように、日中両語ともに、作用・心・言語・生活という項目の使用例が多くみられる。しかし、日本語のほうの作用の項目は中国語より多いが、その一方で、中国語のほうは精神活動を表す動詞以外は、高い使用率が見られない。

また、形容詞・形容動詞との共起も 2 割以上であることも両語の共通点になる。中国語のほうは関係動詞“是”の共起も多少見られる。

以上を踏まえて、データベースから抽出した用例について、“一向”「一向」の単語の形式、それぞれの単語と修飾する動詞との組み合わせ（動詞の意味のタイプから）、その述語形式、文中での位置などの側面から考察する。

6. 述語形式について

(一)肯定形式と否定形式

辞書では、日本語の「一向」は述語にかかる修飾語として用いられ、後ろに否定や打消しの内容を伴うことが多く、肯定的な内容の事柄については、普通は用いないと述べている。それに対して、中国語の“一向”は否定と肯定の使い分けについては言及されていない。データベースから抽出した例文を分析すると、下記のような結果が示された。

まず、中国語では否定形式の文例が 23 例で、1 割にも満たない。中国語の否定副詞“不”“没”とともに用いられる例は下記のようである。

29）“你不是不知道，我 一向 不接受别人的介绍。”（「私がこれまで人の紹介を受けつけなかったことは、あなただって知ってるじゃない。」）（《人啊，人》）

“一向不接受”の“一向”は“不”の前にきて、全部否定の意味を有している。

30）他 一向 没遇到过象曹先生这样的人，所以他把这个人看成圣贤。（彼はこれまでついぞ曹先生のような人にお目にかかったことがなかった。それで彼はこの人を聖人と思いこんだのである。）(《骆驼祥子》)

例 29）・30）のように、“一向”は否定副詞“不”“没”の前にくることが可能で、「いままでずっと～ない」のように時間的に全て否定する意味となっている。逆に、“不”“没”の後ろに後続することは不可能である。“我也不是一向如此的 （私はいつもこういうわけではない。”のように、“不是”の後ろにきても、“一向如此”の述語内容を部分的に否定している。

日本語では、肯定形式の例文があまり見当たらないが、「一向に平気だ」という肯定形式では用いることが可能である。

31）『夢記』には、「同七月より、一向に仏光観を修す」という記載がある。(『明恵夢を生きる』)

「一向に仏光観を修す」の「一向に」は「専らに」という古語用法として扱うのが妥当であろう。

32）おふくろはせいぜい自分自身を苛酷に扱ってみたが、腹のなかの私は 一向に 平気で育っている。(『三浦哲郎自選全集』)

33）何者だって構わない、映画館の狐だって、都会の小鬼だって一向に平気なのだが、しかし、知らないよりは知った方が便利だし……（『銀幕座二階最前列』）

例 32）－33）のように、「一向に平気だ」の形のように肯定文で用いられると、「全く」の意である。そのような使用例はコーパスでは 5 例しか見当たらない。

ようするに、日中の「一向」と“一向”の述語形式には大きな差異が存在しているとはいえるだろう。日本語のほうは「一向に」の形で否定形式あるいは打消し表現とともに用いられ、全て否定する意味を有している。肯定形式に用いられる使用はほぼ消えてしまって、僅かながら、「一向に平気だ」の決まり文句が「まったく」の肯定的意味を表している。一方、中国語のほうは 9 割ほど肯定形式に用いられ、全部肯定の意味を有している。また 1 割が否定副詞“不”“没”の後ろにきて、全部否定の意味も表せる。

(二)文頭に位置するかどうか

日本語の「一向」であれ、中国語の“一向”であれ、文頭に位置することはほぼ不可能である。日本語の使用例で文頭に位置するのは 4 例だけで、中国語のほうは 6 例だけである。

34）軽く引いては流し、また引いては流す繰り返し。一向に 手ごたえがない。庄司さんが一匹釣り上げた。(『雑想小舎便り』)

35）七代は一つ深呼吸をして、「一向に 構いません」と返事をして、コードレスの受話器を手にした……　(『死なないで』)

36）一向 老实巴交的张守义，从没有和人吵过架。(張守義はいつもおとなしいので、他人と喧嘩したこともない。)(《一位封面画家的故事》)

7. 日中「一向」と“一向”の歴史的変遷

7.1. 中国語の“一向”語彙化と文法化

(一)語彙化

中国語の“一向”は既に先秦時代における《孫子》に現れている。次の例①－⑥に見られるように、数詞“一”が名詞“向”と組み合わさり、等位連語として“同一个方向、方位或目标”(同じ方向、方位、目標）という空間的意味を表す点が注目される。

例①　故为兵之事,在于顺详敌之意,并敌 一向 ,千里杀将,此谓巧能成事者也。(孙子 ·九地)

“并敌一向”(兵力を集中して敵に対して一方向ばかりに進撃する）の“一向”は動詞の後ろに位置して補語[35]の機能で働く。

漢の時代に数詞“四”が名詞“向”と組み合わさるのも《史記》に記述されている。漢の時代以降には、“一向”の使用が下記のような文献で存在している。

例②　蓄力待 时，并兵 一向 。　(晋钟会 《檄蜀文》)

例③　乃分其骑以为四队,四向 。(司马迁 《史记 ·项羽本纪》)

例④　招车,招,遥也,遥远也。四向 远望之车也。(刘熙 《释名 ·释车》

例①-④の“一向”は数詞と名詞との臨時的な組み合わせであり、数詞“一”以外には“四”も用いられる。

漢の時代に、仏教が中国に伝わり、経典の漢訳も盛んになっていた。そして経典の漢訳は中国語語彙の発展に大きな影響を与えた。それらの漢訳経典には“一向”の使用例がよく見られる。

例⑤　十二为 一向 心可闻法。十三为莫有余意可闻法。(东汉安世高《佛说普法义经 》)

例⑥　如是二慧内起生。是定从 一向 致得琦得道行。如是三慧内起生。是定见致乐行受亦好。如是四慧内起生。是定从是定自在 坐自在起。(东汉安世高《十报法经》

---

[35] 補語：述語動詞と述語形容詞の後にあって補充説明をする成分が補語であり、補語は述詞性の語句であることが多い。数量フレーズも補語になれる。　(『現代中国語文法総覧』)

例⑤の“一向心可闻法”の“一向”は後ろの体言“心”に係る連体修飾語となっている。“一向心”は「同じ方向に集中して一意専心」という意味である。例⑥“从一向致得琦得道行” の“一向”は後ろの“致”（思想の落ち着き先）に係る連体修飾語で、「一意専心すれば修業を達成できる」という意味を表している。

この時期の例文を分析してみると、中国語の“一向”は最初の「数詞+名詞」の空間を指す等位連語から、「一意専心」という意味の仏教用語に固定化され、一つの単語となっている。文中での働きからいえば、先秦時代に動詞のうしろにきて「補語」成分から、体言のまえにきて連体修飾語となってきた。董秀芳（2002）に基づくと、「語彙化」とは“一个从非词的分离的句法层面的单位到凝固的单一的词汇单位的词汇化过程”（「連語が構文機能を失って一語彙単語として固定化すること」）である。

(二)文法化

時代が下り、魏晋南北朝の時、中国語“一向”が文法化して、普通名詞としての用法から副詞の用法が発達した。中国語の文法化について、刘坚など（1995）は“某个实词或因句法位置、组合功能的变化而造成词义的演变,或因词义的变化而引起句法位置、组合功能的改变,最终失去原来的词汇意义,在语句中只具有某种语法意义，变成了虚词。”（「実詞の構文上の位置また組み合わせ機能の変化のため、あるいは、語彙の意味の変化により構文上の位置また組み合わせ機能が変わる。その結果、もとの語彙の意味が失われ、文法機能を帯びて虚詞となる。」）と主張している。

例⑦　一向专念无量寿佛。　（曹魏康僧恺译　《无量寿经》）

例⑧　一向信如来,其心不退转。　（东晋佛陀跋陀罗译　《六十华严经五》）

例⑨　君能捐弃邪俗,洗涤尘秽,专心一向,当得痊愈。　《古小说钩沈下》

この時代の仏教経典における“一向”の語彙の意味は同じく「一意専心」を表すが、文中での働きはだいぶ異なっている。例⑦⑧“一向专念”、“一向信如来”の“一向”が動詞“专念（読経する）”、“信（信じる）”に係る副詞に変容した。また、仏教経典以外の世間の文献にも“一向”の使用は見られる。その使用から“一向”がすでに当時の書き言葉として人々の間に広がっていたと考えられる。

現代中国語で用いられる“一直、一贯（ずっと）”という持続的時間の意味を形成するのは唐の時代である。

例⑩　圣者世尊教法一向勤修。　（唐义净译　《义净译经》）

例⑪　充州节度使慕容彦超，不知恩信 ·……主持镇务，一向残害生聚，百般诛敛货财，赡养奸凶，图谋悖乱，割剥之苦，所不忍闻。　（全唐文 · 唐卷一百二十二）

唐の時代以降、仏教経典だけではなく、歴史文献でも“一向”が用いられるようになった。例⑩⑪は現代用語のように、それぞれの語彙の意味が“一直、一贯（ずっと）”となり、それぞれの文法機能は動詞を修飾する連用修飾語になっている。

要するに、中国語の“一向”の歴史的変遷としては二つの過程が明らかになっている。一つは語彙の意味の変遷で、「空間」→「一意専心」→「ずっと」となり、もう一つは文法

機能の変遷で、空間名詞→様態副詞→時間副詞となる。

7.2. 日本語「一向」の変遷諸相

(一)様態副詞

日本語「一向」は、既に平安時代において、男の言葉として現れる。それは、出自が漢語であることに因るものであるが、文法的に見たときには、次の例に見られるように「ひたすら、一途に」の意で一動詞に係るところの様態副詞である点が注目される。

例Ⅰ.いと悲しくて、隠れたまひにしを、その代はりに、一向に仕うまつるべくなむ、心ざしを励まして、今日は、いとひたぶるに、強ひてさぶらひつる。　（玉かつら）

例Ⅱ.唯九郎判官程の人はなし。鎌倉の源二位は何事をか爲出したる。世は一向判官の儘にてあらばや。（平家物語）

例Ⅲ.平家やがて加賀の国へ超いて、林、冨樫が二か所の城郭をも攻め落すによって、一向はや面を向けうやうもなかったとみえた。（小城鍋島文庫本 163）

例Ⅱは「一向」の意味が「ひたすら、一途に」から「全く」へと移り、述語全体を支配する点では、陳述副詞の用法に似ている。しかし、山田潔（1997）が『天草本平家物語』の「一向」使用状況を調べた結果、16 世紀末においては、「一向」を、否定（辞）を伴う陳述副詞として意識していたと主張されている。

(二)陳述副詞

渡辺実（1949）は、「陳述副詞は、用言文節（用言＋辞）にも体言文節（体言＋辞）にも係りえるものでなければならない」と定義している。現代語において「一向」は体言文節には係りえず、渡辺によれば、「否定辞と呼応する習慣の固定せる連用修飾語である」ということになるのであるが、次の如く、「一向」の係る「ナイ」が体言文節を否定するところの辞である用例が認められる。

例Ⅳ.ヨノツネ人ノハマグリガイテ大海ヲハカルト心ユルソ朔カ傳ノ注ハヒサコソハマグリテハ一向ニナイゾ（一八 18 ウ）

山田潔（1997）は『玉塵抄』の副詞「一向」について調査しており、同成果に基づくと、その使用実態は下記のようになる。

「一向」の使用例は 27 例で、その中で 15 例が否定を伴う。また、12 例は否定を伴わないけれども、大部分はそれ自体否定の意を含んだ消極語と伴う。「一向ニ」の使用例が 105 例で、98 例が否定を伴う。ほかには、ほとんど消極語あるいは文脈上消極語を伴う。

山田潔（1997）はその結果に基づき、「一向」は否定の陳述副詞の用法が大勢を占めることと主張している。

(三)誘導副詞

また、『四河入海』においては、比喩表現と呼応する用法を用いることで、誘導副詞の働きをしている。「一向」149 例のうち、最も多い用法は「如シ」と呼応するところの比喩表

現であり、87 例になる。
例Ⅴ.一盃ノミテ忘之則 一向 湯ヲ以テ雪ニカクルカ如キソ（二〇ノ一 9 オ）
(四)程度副詞
『史記桃源抄』の用例は「一向」5 例、「一向に」9 例である。
例Ⅵ.五月ノ子ハヨケレハ 一向 ヨシ。サナケレハワルイソ。先五月ノ子ハワルイモノソ（三 242）
例Ⅵは五月五日に生まれた孟嘗君が、それ故に、父王田嬰から捨てられようとする文言に関する注釈である。「一向ヨシ」が肯定的・積極的意味合いであることは明白であり、ここにおいて、「一向」は「大変・非常に」の意味の程度副詞として用いられていることは明らかである。
次に、江戸時代の「一向」が程度副詞として用いられたことを示す記述について言及する。
例Ⅶ.江戸にては いつこう といふことは。わるきことにのみそへていへど。京にてはよきことにもいっこうよい。いっこうゐらいといふ。（五十九　祇園の方言）
山田潔（1997）は時代ごとに「一向」の使用実例を調べ、「様態副詞—陳述副詞—誘導副詞—程度副詞」という諸相をまとめて示した。「一向」の文中での働きは動詞に係る連用修飾語の機能として、否定か肯定かに共起することによって、修飾する動作・行為の様態、文全体に係る陳述性、事態の甚だしさを意味する。

8. まとめ

日中両言語における「一向」と“一向”は同じように古代中国語を起源とした漢語であるにもかかわらず、現代語での文中成分、意味、用法、共起動詞、構文の特徴などの面では相当の差異が存在していることが本研究では明らかになった。

① 意味：日本語「一向」は打消し表現と共起し、「すこしも～ない」「まったく～ない」の意を表し、程度がはなはだしい様子を表す。中国語“一向”は「 いままでずっと」「その後」の意を表し、過去および過去から現在までの時間を指すというニュアンスが含まれている。また、その歴史的変遷からみれば、中国語“一向”は「語彙化」と「文法化」を経ており、二つの過程とは「空間」→「一意専心」→「ずっと」と、空間名詞→様態副詞→時間副詞である。日本語「一向」は古代の資料に「様態副詞—陳述副詞—誘導副詞—程度副詞」という諸相が存在している。
② 形態：日本語「一向」は名詞、形容動詞という使い方が徐々になくなり、「一向に」の形式の副詞用法が主となっている。中国語“一向”は方向名詞の用法が徐々になくなり、時間名詞として若干用いられるが、主に副詞用法として用いられる。
③ 共起動詞の意味タイプ：「一向」と“一向”はともに「心」にかかわる精神活動を表す動詞と共起しやすい。日本語のほうは「作用」項目といった変化などを表す動詞との共起は中国語使用例の 6 倍以上になる。

④　述語形式：肯定形式か否定形式かの視点から言うと、「一向に平気だ」という決まり文句の肯定形式以外には、日本語「一向」はほとんど否定形式と共起する。中国語“一向”はほとんど肯定形式で用いられ、否定形式は約 1 割ほどで使用例文が見つかるのみである。

⑤　文中での位置：両語はともに文頭に位置することは不可能である。

第五章　「一概」と“一概”

1. はじめに

中日同形副詞「一概」と“一概”はともに古代中国語“一概”を語源としているため、「細かい差異を問題にしないで一様に扱うさま」という共通の意味を有している。本章は日中両言語における「一概」と“一概”について、まず①その語彙の意味について現代語に限らず、それぞれの歴史的変遷についてもふれる。また②「一概」／“一概”の文中での形態を対照する。さらに③副詞と組み合わさる動詞の意味タイプを考察する。最後には④その述語形式の特徴、特に肯定形式・否定形式という側面から、両語について詳しく考察を行っていく。

2. 語彙の意味の対照

2.1. 日本語の「一概」

『大辞林（第三版）』によれば、「一概」は「一概に」の形で（多くの場合、下に打ち消しの語を伴う）すべて同じようには扱えないさまを表す。

『日本国語大辞典』（第 2 版）に載っている「一概」の解釈から、その意味の歴史的変遷が見られる。

【一概】【名】（形容動詞）

「概」は「斗掻（とかき）」の意で、枡（ます）の縁をならす短い棒。枡で物を量るときに量に過不足がないように、平らにかきならす意。

①おしなべて同一に扱うこと。すべてをひっくるめること。大概。*楚辞-九章・懐沙「同糅玉石兮，一概而相量。」

②「いちがいに」の形で副詞として用いる

③まったくそう思い込むこと。また、そのさま。自分の意志を立て通すこと。強情なこと。がんこなこと。*毛詩抄-三「犯人は一概を守て云ものぞ」*日葡辞書「Ichigaiuo（イチガイヲ）タツル＜訳＞自分の意志を強情に通す。Ichigaina(イチガイナ)モノ＜訳＞強情な人」*評判記・色道大鏡-五「いやとおもはばこぬがよし、むねにあはずはあはぬがよしと、ただ一涯（いちガイ）にをのが心に埒（らち）をあけて」*浄瑠璃・八百屋お七-上「なんにも御存（ごぞんじ）ない故に御贔屓（ひいき）が一がいな」

日本語の「一概」は中国古代の容器「斗掻」を起源とし、「一概に」の形で副詞として用いられ、「細かい差異を問題にしないで一様に扱うさま」の意を表す。現代に至るまで、その意味がどのように変化したのかについて、『現代副詞用法辞典』の解説をみてみよう。

①子供の非行はいちがいに親のせいにはできない。

②二人の言い分を聞くと、彼女がいちがいに悪いとは言い切れない。

③スポーツをいちがいに礼賛するのもどうかと思う。

④「うちの子、ちっとも勉強しないんですが」「子供なんていちがいにそんなもんです

よ。」

【解説】個々の違いを認めずに全部同様に扱う様子を表す。ややマイナスよりのイメージの語。すぐ下の述語にかかる修飾語になる。後ろに打消し（①②）または否定（③）の表現を伴って用いられることが多いが、肯定の場合④にも用いられる。個々の条件や違いを無視して全部同様に扱うことについて、軽い慨嘆の暗示があるが、表現としてはかなり冷静である。

要するに、日本語「一概」は「一概に」の形で副詞として用いられ、述語にかかる修飾語になる。個々の条件や違いを無視してすべて同様に扱うことについて、軽く慨嘆するというニュアンスがある。後ろに打消しまたは否定の表現を伴って用いられることが多いが、肯定の場合にも用いられる。さらに、「一概に」は「がいして」や「あながち」「かならずしも」などに似ているが、「がいして」は全体の傾向を述べるニュアンスがある。「あながち」は断定するのがためられるという意味で、全体を等しく扱うというニュアンスはない。「かならずしも」はある一定の上限に対する決まった結果以外の例外を認めるニュアンスになる。本研究は日本語「一概」と中国語“一概”を対照考察するので、それぞれの同義語については詳しく比較を行わないことにする。

2.2. 中国語の“一概”

《现代汉语八百词》においては、“一概”は副詞で、“没有例外（例外なし）”の意を表すと解釈されている。その用法についてみると、主に後ろの動詞を修飾し、形容詞も少しながら修飾することが可能である。とくに、修飾する語は単音節ではいけないと強調されている。物事・人間など広範囲にかかわる総括に“一概”が用いられるが、その同義語である“一律”は人間にかかわる総括にしか用いられない。

また、年代ごとに中国語“一概”の使用実態をみるために、詳細に解説している《汉典》から整理する。

1.概，為古代平斗斛的木條。一概引申為同一標準。（昔の容器「(とかき)」の意で、枡（ます）の縁をならす短い棒。枡で物を量るときに量に過不足がないように、平らにかきならす意。）

楚辭．屈原．九章．懷沙：「同糅玉石兮，一概而相量。」

唐．韓愈．讀皇甫湜公安園池詩書其後詩二首之一：「誠不如兩忘，但以一概量。」

2.相同、一律。（同じ、一律）

後漢書．卷四十九．王符傳：「其輕薄姦軌既陷罪法，怨毒之家冀其辜戮，以解畜憤，而反一概悉蒙赦釋，令惡人高會而誇吒。」

唐．杜甫．秦州雜詩二十首之四：「萬方聲一概，吾道竟何之。」

3.一端、一面。（一面）

淮南子．詮言：「自樂於內，無急於外，雖天下之大，不足以易其一概。」

新唐書．卷一七七．韋表微傳：「尤好春秋。病諸儒執一概，是非紛然，著三傳總例，完會經趣。」

4.全部。（すべて）

紅樓夢．第十六回：「小的們只在臨敬門外伺候，裡頭的信息一概不知。」

文明小史．第二十四回：「學監是頂要緊的差使，學生飲食起居，一概都要老兄照料。」

先秦時代の資料での“同糅玉石兮,一概而相量”の“一概”は、数詞「一」と量詞「概」との組み合わせであり、容器の意味を表している。“一概”の“概”は容器「枡」の縁をならす短い棒である。もともとの書き方は“槩”であり、“槩㪷斗斛”[36] と解釈されている。

その後、「一概」は容量を量る容器から「同一基準」の意味が派生してきた。下記①－⑤が示したように、“一概”は時代の流れとともにその使い方も変わっている。

① 诸吏各敬尔在位,孤推一概之平,功之宜赏,于疏必与；罪之宜戳,在亲不赦。（三国《黄初五年令》）

② 无所修为，犹常如此，况又加之以知神仙之道,其亦 必不肯役身于世矣，各从其志，不可一概而言也。（晋《抱朴子·内篇卷》之八）

以上のような「一概」の用法がよく使われ、現代中国語の起源だと言われている。しかし、時代が変遷するにしたがって変化し、唐の時代では「一概」の容器を指す意味が薄くなり、語彙化して、「一様、一律」の意味になり、形容詞として文中で機能するようになった。

③ 万方声一概,吾道竟何之?（唐《秦州杂诗》之四）

④ 伊川云“知非一概，其为浅深有甚相绝者”云云。（宋《朱子语类》卷 18）

宋の時代の資料では“一概”と否定副詞“不”との共起が出てきた。また、形容詞としての用法は唐以降あまり使用されておらず、現代では、形容詞としての用法はもうなくなった。

また、この時代には述語の前に来る連用修飾語の働きが発展し、「すべて」という総括の意味を帯びるようになった。楊栄祥（2005）によれば、この時期から“一概”の語彙の意味は実質的な意味が希薄になり総括副詞になった。

⑤ 开元六年，水泛溢，河口堰破,棣州百姓一概没尽。（唐《朝野佥载》卷 2）

こうして、現代中国語における“一概”の総括的意味と連用修飾語の機能が完成してきたと思われる。

日中両言語における「一概」／“一概”の意味について、辞書の解釈に基づくと、同じく古代中国語の容量を量る容器を起源としていることが分かった。現代語においても、「同じ基準で違った物事を扱うこと」という意味で共通している。両言語はそもそも最初から、語源の意味の一部だけを借用していたが、意味や用法が全く同じとは限らない。それゆえ、日中両言語における意味の相違と語用の差異などについて、実証的な研究を行う。

[36] 《说文解字》による。

3.『中日対訳コーパス』における「一概」／“一概”の対応実態

本研究は北京日本学研究センターが 2003 年に開発した『中日対訳コーパス』(第一版) を使用し、コーパスにおける中日両言語の原文に用いられる「一概」／“一概”を抽出し、それぞれの訳語を整理し、両言語の対応実態を考察する。

表 1 中国語“一概”の 45 例

中国語“一概”の使用数	日本語の訳語	個数
45	「すべて」「悉く」「全部」「みな (みんな)」「だれ／なにも」	26
	「一律」	3
	「一切」	3
	「一概に」	2
	「一様に」	2
	「一向に」	1
	「普遍的に」	1
	「全然」	1
	「すっかり」	1
	訳なし	5

中国語“一概”を日本語「一概に」に訳す例文は少なく、45 例の中で 2 例しかない。

1）“各个学校的情况不同，我看绝不能 一概而论 。去年北大的社联，又遭受了一次严重的破坏，元气大伤，现在广大同学虽然是有爱国热情，可是，马上推动他们行动起来，我看还有点为时过早……”（「大学の情況は、それぞれ違う、一概に論じる ことは、できないと思うんだ。去年、北大の社連（訳注共産党の外郭組織、社会主義連盟の略称）が、またもやひどい弾圧をくってから、すっかり志気を挫かれちまって、いま、広はんな学生諸君は、国を愛す熱情はもっていても、すぐにかれらを起ちあがらせるのは、やはり時期尚早だと思うんだ……」）（《青春之歌》）

2）是封建主义残余比较严重，还是资产阶级影响比较严重，在不同的地区和部门，在不同问题上，在不同年龄、经历和教养的人身上，情况可以很不同，千万不可 一概而论 。（封建制の残りかすの方がひどいのか、ブルジョアジーの影響の方がひどいのか、これは地区や部門が異なり、問題が異なり、その人の年齢、経歴、教養が異なるに応じて状況も変わってくるから 一概に論ずる ことはできない。）(《邓小平文选》第二卷)

以上の『中日対訳コーパス』におけるわずか 2 例は普通の副詞用法ではなく、現代中国語の“一概而论”という決まった形で、日本語では「一概に論ずる／論じる」という形で訳している。すなわち、中国語の“一概”について、日本語としてはよく「すべて」という意味で理解されているだろう。

3）但是各类做作我 一概 不喜欢，因为它是一种病态。（しかし、おれはその すべて が嫌いだ。どれも一種の病理の表われだから。）(《人啊，人》)

4）现在她什么人都不要——可憎的人，可爱的人，她 一概 都不要。（いまの流蘇はいかなる人間も必要としないー憎むべき人も愛すべき人も、みんな いらない。）（《倾城之恋》）

例 3)・4）のように、中国語の“一概”は日本語の訳語において、「すべて」「全部」「みんな」などの範囲を総括する副詞とよく対応していて、45 例の使用のうち、26 例はそのような副詞で訳されている。

表 2 日本語「一概」の 11 例

日本語「一概に」の使用数	中国語の訳語	個数
11	“一概”	5
	“不加区别地”	3
	“一样”	1
	“一定”	1
	“都”	1

日本語「一概に」の使用例は 11 例だけであるが、「一概に」＝“一概”の対応例文は 5 例もある。

5）これはもともとムラ的な組織への帰属意識の強い日本人の特性でもあり、それが会社への忠誠心にもつながるから、一概に 悪いともいえない。(其实，这也源于日本人的固有特性，即是古代日本人对村落这类群体组织的强烈的归属意识于今的反映。它也关系到职员对公司的忠诚，所以说，我们不能予以 一概 否定。）（《心の危機管理術》）

6）「しかし、土屋君」と敬之進は引取って、「そう君のように 一概に 言ったものでもないよ」　(“不过，土屋老弟，”敬之进接过话碴儿，“事情不能像你那样 一概 而论啊。”)（《破戒》）

漢語の影響で、中国翻訳者が副詞をそのまま漢字表現を利用して訳す傾向があると思われる。そして、そのことが、僅か 11 例の日本語例文に 5 例の“一概”訳語があるという要因の 1 つになると考えられる。

4. 共起動詞の語彙的意味の対照

ここでとった分析方法について述べる。

① 中国語の単語の品詞分類は不安定で、はっきりしないところがある。“一概”には名詞と副詞二つの用法があるが、ここでは、“一概”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心に扱う。

② 日本語副詞「一概」は現代日本語においては、「一概に」という表記になり副詞用法として用いられるので、本章では、漢字表記「一概に」を用いることにする。

③　本章の趣旨は副詞と動詞の結びつきを考察することにある。

④　『語彙分類表』に従って語彙の意味に基づき動詞を分類する。以下の表は日中の「一概」と“一概”の共起動詞を分類したものである。

日中両言語における「一概」と“一概”の共起動詞を抽出し、『分類語彙表』にしたがって、動詞を語彙の意味から分類すると、下記表 3 のようにまとめられる。

表 3 共起動詞の意味の分類

項目	中国語 226 例	比率	日本語 227 例	比率
2.12 存在	13	5.75%	0	0.00%
2.15 作用	10	4.42%	7	3.08%
2.30 心	49	21.68%	26	11.45%
2.31 言語	39	17.26%	176	77.53%
2.35 交わり	82	36.28%	9	3.96%
2.37 経済	16	7.08%		0.00%
その他	17	7.52%	9	3.96%

表 3 が示しているように、両語で最も異なっているところは「言語」を表す動詞（言う）との共起である。日本語のほうは多用されていて、ほぼ 8 割近くの比率となっているが、中国語のほうは 2 割にも満たない。中国語の“一概”は「交わり」を表す動詞「反対／断る／否定」などとよく共起するという結果となった。具体的な用例は下記のようにまとめられよう。

次の例 7）－9）は日本語の用例である。

7）具体的に私見を以下に記述した。あくまでも好みにもよるし、一概に はいえない。勿論、茶道や花道などその道の専門的なことは理解していないので省略する。(『水墨画の描法』)

「言う」2.31 言語

8）それにも倍する苦痛が日々の生活面にあったのだ。途中脱落した人々を 一概に 不忠臆病と決めつけることはできない。(『峠の群像』)

「決めつける」2.30 心

9）わたしはこの説に 一概に 反対しようとは思はない。(『文章読本』)

「反対する」2.35 交わり

現代日本語における「一概」の使用は多いとは言えない実態であるので、選択範囲は本、雑誌、新聞以外に、Yahoo などの書き込みも入れている。その中には話し言葉、「結婚資金については、彼の経済的な事もあるので、一概には言えませんけどね……」(Yahoo!知恵袋)などもたくさん見られる。特に「一概に」と「言う」の否定形はよく共起している。

次に、中国語の用例をみてみよう。

10）出租车司机只知道九运会在广州召开,至于还有哪些其它赛区他们 一概 不知。(タクシー

運転手は第九回スポーツ大会が広州で開催することを知っているが、ほかの試合場所について全然知りません。）（《当代》）

“知”（知る）2.30 こころ

11）她们都坐在一起，有的你看我，我看你，有的用笔在纸片上乱划什么，或是剜指甲、梳辫子、拧手绢，一概 不说不笑，也不发言。（互いに顔を見合わせたり、鉛筆で紙きれにゴチャゴチャ書いたりしている者もいれば、爪先をほじったり、おさげをいじったり、ハンカチをねじったりしている者もいる。誰も笑いもしなければ声も出さない。）（《金光大道》）

“说”（話す）2.31 言語

12）在不同的地区和部门，在不同问题上，在不同年龄、经历和教养的人身上，情况可以很不同，千万不可 一概而论。（これは地区や部門が異なり、問題が異なり、その人の年齢、経歴、教養が異なるに応じて状況も変わってくるから一概に論ずることはできない。）（《邓小平文选》第二卷）

例 12）のように「言語」表現をあらわす動詞と共起する場合、“一概而论” （一概に論じる）の決まり文句は 19 例も見つかる。

13）他也曾参加过几次,但每次回来都很不愉快,以后此类活动就 一概 拒绝。（彼はかつて何回も参加したことがあるが、帰ったら不愉快なことばかりだった。それで、これからこのようなことはすべて断ることにした。）（《读书》011）

“拒绝”（断る）2.35 交わり

14）资本家们就很有理由地去拿百分之四十九或五十一，而把全民族的利益 一概 卖给敌人。（資本家たちがもっともらしく四九パーセントあるいは五一パーセントを手にいれ、全民族の利益をすっかり敵に売りわたせるようにするためである。）（《毛泽东选集》第二卷）

“卖”（売る）2.37 経済

以上、中国語の使用例には「言語」を表す動詞と共起するのは 39 例で、そのうち半分は慣用表現の“一概而论”（一概に論じる）となっている。

表 3 のデータを図として表せばよりはっきりする。

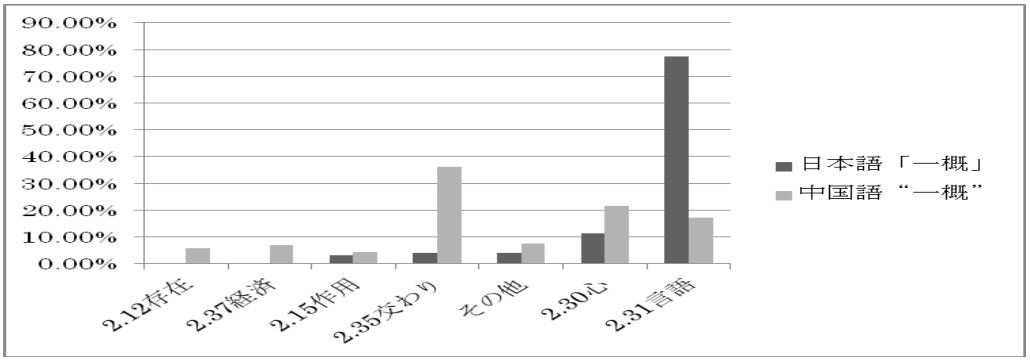

図 1 共起動詞の意味の分類

日中両言語における「一概」と“一概”のデータを分析してみると、日本語のほうは「言語表現」を表す動詞「言う」との共起に大きく偏っていることが分かる。中国語をみると、“一概”はほとんどが動詞述語にかかる連用修飾語である。また、打消しと共起することが多いにもかかわらず、共起動詞は消極的語彙の使用も多数ある。文中での主体がよく受け身で動作を受けていることも今後研究すべきである。

なお、消極的語彙としては、「废除、烧掉、排斥、废弃、拒之门外、抹煞、谢绝、取消、略去、否定、排斥在外、能免则免、疏离、退货、退回、幻灭、退货、放人、摈弃、删掉」などが挙げられる。

例示した消極的語彙以外をみると、とくに下記のように肯定文に共起する消極的語彙でない場合は 12.67%しか見られない。

15）犀牛说：“虽然远处的东西我看不清，但在我眼前的东西我 一概 都看得到。”（「遠くがはっきり見えないけど、目の前は何でも見えるよ。」って、サイが言った。）（《十分钟考试》）

“一概都看得到”（すべてのことが見られる）では、“一概”は「すべて・全部」を強調する意味で、文の内容から判断すれば、全部肯定という文脈上の意味としてとられる。

16）他带头并建议该刊同人从此以后，不论是写论文，还是通信，“一概 用白话。”（彼は先頭に立って当雑誌の同僚もこれから論文であろうと文通であろうと、すべて白話で書こうと勧めている。）（《中国新闻事业史》）

例 16）“一概用白话”（すべて白話で書く）では、“一概”は同じく「すべて、全部」を意味し、範囲を総括している。

5. 述語形式について

石立珣（2012）は「中国語“一概”は肯定共起と否定共起がほぼ半々となっているが、日本語「一概」は圧倒的に否定共起が多い」と指摘した。本章では、実例を調査したことによって、ほぼ同じ結果が得られた。

5.1. 肯定形式

日中両言語における「一概」と“一概”はともに辞書に打消し表現と共起すると記載されている。日本語 BCCWJ 現代日本語には「一概」の使用例が 492 例あるが、その中で、肯定文に使用される例は 28 しかなく、僅か 5.69%の使用率となっている。用例を分析すると、日本語「一概に」が肯定と共起する用法は以下の二種がある。

１．逆接節[37]に用いられる場合

17）一概に 占いといっても、いろんな種類があります。四柱推命・タロット・手相・姓名判断などなど。（Yahoo!知恵袋）

18）畑は沢山存在しますから。既出の通り生産者（社）名がつきます。一概に ヴィラージュといっても「ヴィラージュ・ヌーボーなになに」となります。（Yahoo!知恵袋）

以上の例文をみてみると、「前半が言いたいことなのではなく、後半に言いたいことが来

[37] 村木新次郎（2007ｂ）を参照。

る」というニュアンスで、いずれも後半には前半の含意を否定する内容が来るという暗示であろう。また文全体の否定とは言えないが、文の内容の部分否定としてとられるだろう。

2. 否定・マイナス意味をあらわす表現と共起する場合

19）修行の成果があらわれるまで歩け、歩け、歩きつづけろ！一概に 言って渋谷は嫌われている。(『イヤーな東京スポットガイド』)

20）だが、一概に 日本人には創造力が欠けていると決めつけるのは間違っている、と私は思う。(『日本の力量』)

21）それとも，単に，経営努力に基づく価格切下げなのかは，一概に 判断することが難しいところです。(『法と経済学』)

例 19）－21）はよく「一概に～の／ことは、難しい／困難／～にくい・づらい／～かねる／間違う」という形になる。また、「嫌う」などのマイナスの意味の言葉と共起することがほとんどである。いずれも、肯定の形式といっても、「否定的な内容」のニュアンスでとられる。

CCL 現代中国語で“一概”の表記を検索すると、2,609 例出てくる。「一概念」、「一概括」などの非研究対象を排除すると、「一概」は肯定文に 881 例（47.26%）使用され、否定文に 983 例（52.74%）使用されている。肯定文と否定文の比率をみると、概ね 50%ずつとなっている。

中国語“一概”は日本語「一概に」と比べて共起制限が緩い。下記のように 3 種類に分けられる。

1. 肯定的な意味をあらわす文に用いられる場合

22）对于国民党的旧工作人员，只要有一技之长而不是反动有据或劣迹昭著的分子，一概 予以维持，不要裁减。(すでに、国民党の元人員のうち、なんらかの能力をもっていて、しかも反動の確証あるいはひどい行状のないものは、みな、整理しないで残すよう、全国各地の共産党組織と人民解放軍に命じている。)（《毛泽东选集》第四巻）

23）对于敌方投诚的、反正的、或在放下武器后愿意参加反对共同敌人的人，一概 表示欢迎，并给予适当的教育。(敵側から帰順してくるもの、蜂起してくるもの、あるいは武装解除されたあと共通の敵との戦いに参加することを望むものに対しては、これを一様に歓迎し、これに適切な教育を施す。)（《毛泽东选集》第三巻）

以上の肯定文に用いられる“一概”は「例外がなく、すべて～」という意味で後続事象の成立範囲を示し全部肯定となっている。

例文を分析してみれば、「一概+“是/称/保持/加以/接受/斥之”等」のような形式で多用されることが明白になった。

２．消極的な意味をあらわす肯定式の語彙と共起する場合

24）根本改革过去的教育方针和教育制度。不急之务和不合理的办法，一概 废弃。(これまでの教育方針と教育制度を根本的に改革する。不急の事業や不合理な施策は、すべて廃止する。)（《毛泽东选集》第二巻）

25）牌：农会势盛地方，麻雀、骨牌、纸叶子，一概 禁绝。(牌あそび――農会の勢力が強いところでは、マージャン、かるた、花札などはすべて禁止された。)(《毛泽东选集》第一巻)

例 24)・25）と同様に多くの形式は「一概　+“拒绝/婉拒/排斥/反对”」となっている。

３．否定・マイナスの意味をあらわす表現と共起する場合

26）但近就此点而论，也似乎难以 一概 而论。(この点から見れば、すべてのことについてそう言えるわけではない。)(《猫赋》)

“难以”などの言葉表現が“一概”とその修飾している動詞の前にきて、例外を認め、事象が 100%成立するわけではなく、部分否定になることは、日本語「一概に+～にくい」の使用例に対応する。

以上から、中国語“一概”は肯定否定共起がほぼ半々となっているが、日本語「一概」は圧倒的に否定共起が多いことが分かる。

5.2. 否定形式

日本語「一概」が否定表現と共起すると「例外があって個々の条件を考慮せずには簡単に判断することができない」という意味で、部分否定を成す。構文上の特徴から三つに分類できる。

１．否定形の可能表現と共起する場合

27）いろいろの会社、さまざまなケースがあるので、一概に は言えないでしょうが、いわゆる金銭的な節約という近視眼的なことにとどまらないんです。(『基本からわかる環境 ISO』)

28）途中脱落した人々を 一概に 不忠臆病と決めつけることはできない。(『峠の群像』)

29）そんなことはあり得ないと 一概に 否定するわけにはゆかないのである。(『川端康成文学賞全作品』)

以上の形をもっている使用例は、後で判断や評価を表す否定のモダリティを求め、例外を認め、部分否定を成している。

2. 否定形の動詞と共起する場合

30）私は 一概に そのことは否定しませんが（『国会会議録』1981）

例 30）の使用は少ないが、否定的意味を持つ語彙「否定」は、それ自身で話者の否定の判断・評価が入っているため独自の否定形で文が成り立つのである。文の内容から無論肯定の意になる。

31）しかし、それはケースバイケースであり、ご相談者の身内の方がそのケースに該当するかどうかは 一概には わかりません。(Yahoo!知恵袋)

32）ADSL 回線を利用している人と ISDN 回線を利用している人の比率はどれくらいですか？一概には はっきりしていません。(Yahoo!知恵袋)

33）でも、貴方がキレるにはそれなりの理由が有るからでしょ。一概に 貴方だけが悪いと

は私は思いません。(Yahoo!知恵袋)

「分かる、はっきりする、当てはまる、思う」などのような動詞がよく使用されることが明らかになった。

現代日本語「一概に」は一般的に明示的な「ない」を構文上で要求し、文末に常に判断や評価を表す表現を伴って、部分否定を成している。渡辺実（1971）で言われている「誘導副詞」の性質を持っている。

日本語の部分否定に対して、中国語“一概”は部分否定も全部否定も成すことができる。

1.否定副詞“不”が“一概”の後ろに来る場合

34）我不喜欢眼前这个孙悦的做作。虽然，我知道人们故意做作有着各种各样的原因：为讨好，为虚荣，为掩盖真情……但是各类做作我一概不喜欢，因为它是一种病态。(おれは、目の前の孫悦のわざとらしさが嫌いだ。人がわざとらしい態度を取るのにはさまざまな理由があるものだ。ご機嫌を取るとか、見栄を張るとか本心を隠すとか……、しかし、おれはそのすべてが嫌いだ。どれも一種の病理の表われだから。)（《人啊，人》）

35）他走了，倒好，让她松下这口气。现在她什么人都不要——可憎的人，可爱的人，她一概都不要。(彼が去って、かえってよかった。ようやく流蘇は息抜きができる。いまの流蘇はいかなる人間も必要としないー憎むべき人も愛すべき人も、みんないらない。)（《倾城之恋》）

例 34)・35）は否定辞“不”が“一概”の後ろにくると、否定事象の成立範囲を総括し、全部否定を成す。日本語「一概に」にはこの用法がない。“一概都不要”は、「*一概に要らない」ではなく、「みんな要らない」と訳すべきである。さらに、同じく「否定」の打消し形と共起する「一概にそのことは否定しません」と、“一概不否定”は意味が異なる。「一概にそのことは否定しません」は、「そのことに対して、何の条件も考慮せずにすべてを否定するのではない」という部分否定である。“一概不否定”は、“不否定”という事象の成立範囲を総括し、全部否定である。

2.否定副詞“不”が“一概”の前に来る場合

36）本军对手蒋方人员，并不一概排斥，而是采取分别对待的方针。(本軍は、蒋介石側の人員に対して、一律に排斥するのではなくて、区別して扱うという方針をとる。)（《毛泽东选集》第四卷）

37）在不同的地区和部门，在不同问题上，在不同年龄、经历和教养的人身上，情况可以很不同，千万不可一概而论。(これは地区や部門が異なり、問題が異なり、その人の年齢、経歴、教養が異なるのに応じて状況も変わってくるから一概に論ずることはできない。)（《邓小平文选》第二卷）

例 36)・37）は“不(可・要・能)”といった否定表現が“一概”の前にくると「例外があって同じ基準で扱うことができない」という意味で部分否定となる。この点においては日本語「一概」と意味、用法がほぼ一致しており、構文上、否定の判断や評価を表す表現を要求している。

中国語“一概”は肯定とも否定とも共起し、全部肯定・否定も成せば部分否定も成している。否定辞がその前にくると部分否定になり、後ろに来ると全部否定になる。日本語「一概に」は肯定との共起にしても否定との共起にしても、部分否定しか成せない。実際は、日本語「一概に」が肯定と共起した時期があった。しかし、現代語では肯定との共起は許容度が低い。

6. まとめ

日中両言語における「一概」と“一概”の語彙の意味、形態、共起動詞の意味タイプおよび肯定文否定文との共起という四つの側面から検討した結果、下記のように整理できる。

①意味：古代中国語の容量測定を起源とする点である。またおもに副詞として文中で連用修飾語となり、「細かい差異を問題にしないで一様に扱うさま」という意味を有しているのも共通している。さらに、構文上はともに否定文によく使用される。

②形態：現代中国語をみると、副詞以外には、名詞の連体修飾語として、時に用いられている（“一概的不安”）。現代日本語においては、「一概に」の形で、副詞として述語にかかる連用修飾語となる。

③共起動詞の意味タイプ：日本語「一概」は「言語表現」を表す動詞「言う」などとよく共起する。日本語と比較すると、中国語“一概”のほうは「言語表現」を表す動詞が少ない。一方、日本語より「交わり」を表す動詞との共起が多い。

④述語形式:日本語において、9 割ほどの用例は否定文である。文の内容は部分否定になる。一般的に統語的な「ない」の明示を求め、文末に否定判断のモダリティを求め、部分否定を成しており、「誘導副詞」の性質が強い。一方、中国語のほうは、肯定文と否定文の使用は半々である。文の内容は全部肯定、全部否定および部分否定になる。さらに、消極的動詞と否定文の両方を分析すると、中国語のほうは 1 割ほどで完全に肯定内容を強調するという差異が見られる。中国語“一概”は構文上の制限が緩く、全部肯定・否定も部分否定も成すことができ、総括範囲副詞の性質を帯びている。

第六章　「一斉」と“一齐”

1. はじめに

日本語「一斉」と中国語“一齐”は繁体字と簡体字の違いを除けば、同じ漢語表記だと思われる。本研究は副詞用法を中心に考察するので、「一斉に」の形を取り上げ、中国語の副詞“一齐”と対照考察する。本章は日中両言語における「一斉」と“一齐”について、まず①その語彙の意味について現代語に限らず、それぞれの歴史的変遷もすこしふれる。また②文中での機能、③副詞と組み合わさる動詞の意味タイプおよび④述語形式という側面から、両語について詳しく対照考察を行っていく。

2. 意味の対照

2.1. 日本語の「一斉」

『大辞林（第三版）』の解説では、「① 同時にそろって物事をすること。② 等しく、そろっていること。」と記述されており、『明鏡国語辞典』においても、ほぼ同じように解釈され、多くの場合、「一斉に」の形で副詞的に用いられ、「同時にそろって物事をするさま」と記載されている。また、その語源と言葉の変遷については、『日本国語大辞典』（第２版）の記述に従う。

【名】（「に」を伴って副詞的に用いる）

①すべてに等しく一様なさま。平等。

*西国立志遍＜中村正直訳＞一〇・一六「時としては一斉に酒を給せらるること、定例なりき」

*荘子-秋水「万物一斉、熟長熟短」

②同時にそろうさま。「一斉攻撃」「一斉射撃」「一斉試験」のように熟合しても用いられる。

＊小説字彙「一斉イッショニソロフナリ」*浮雲＜二葉亭四迷＞二・七「友葉（ともば）を追って舞ひ歩き、ふとまた言合わせたやうに一斉にバラバラと伏（ふさ）って仕舞ふ」

*土＜長塚節＞一「後からも後からも林の梢が一斉に首を出す」

「一斉に」は中国先秦時代の「万物一斉、熟長熟短」が起源であり、近代に至り、副詞の意味「同時にそろうさま」が発達した。「一斉に」は漢語であるので、中国語から借用された言葉として、言語使用の過程でさまざまな変化があった。まず、古語の名詞としての用法が「一斉テスト」のような決まった形以外では使わなくなった。副詞用法は「一斉」+「に」の形になって、その意味はほぼ古語のままであろう。

『現代副詞用法辞典』の中で、現代日本語における「一斉に」の副詞用法がさらに詳しく解説されている。その意味について、複数のものがそろって何かをする様子を表すとさ

れており、プラスまたはマイナスのイメージはないと主張する。文中での機能からいうと、述語にかかる修飾語として用いられる。

2.2. 中国語の“一齐”

《现代汉语八百词》において、“【副】表示同时。 ①指不同的主体同时做一件事。 （同時に。①複数の主体が同時に同じことを行う。）如：大家一齐动手。（例：みんなで一斉にやる。） ②指同一主体同时做几件事。（同一主体が同時に複数のことを行う。） 如：这些问题可以提出来一齐研究。（これらの問題をすべて出してもいい。私は同時に研究する。）”と記述してある。

その起源と変遷をみると、《汉典》において、詳しく解釈されている。

- 一律、同様。

莊子．秋水：「萬物一齊，孰短孰長？」

- 一同、同時。

儒林外史．第五十二回：「眾人在旁，一齊贊歎。」

紅樓夢．第八十二回：「說著，二人一齊進來。」

如：「一齊下手」。

- 統一平治。

史記．卷一一八．淮南王傳：「當今陛下臨制天下，一齊海內，汎愛蒸庶，布德施惠。」

- 一切、完全。

明．高明．汲古閣本琵琶記．第十六齣：「情到不堪回首處，一齊分付與東風。」

古代中国語の資料をもとに“一齐”の歴史的変遷を具体的に①－④のようにまとめて見てみよう。“一齐”の“一”は事柄の単一性を表し、「同時に」の意味を強調し、中国語でよく双音節を構成することで用いられる。こうして、数詞“一”としての本来の意味が希薄になり、なくても“齐”という単音節で「同時に」の意味を表せる。もともと“齐”は「同時に」を表す。

先秦時代の資料において、“一齐”は並列連語で、“一”の意味は「同じ」で、“齐”の意味は「整っているさま」である。この時期に“一齐”はまだ一つの単語でなく、連語として用いられ、「整って同じになる」の意を表す。名詞の後ろに後続し、述語となっている。こういう用法が漢の時代まで使用されていた。

①《庄子・秋水》：“万物 一齐，孰短孰长。”

②《史记・淮南衡山王列传》：“当今陛下临制天下, 一齐 海内, 泛爱蒸庶, 布德施惠。”

漢の時代に、“一齐”が名詞の前に来て、「整って同じになる」から「統一する」の意味に変わってきた。漢以降に、“一齐”が連語から語彙化しつつあり、一つの単語になってきた。唐の時代になると、その語彙の意味には変化が起こった。

③ 苏拯《世迷》：“美者一齐美, 丑者 一齐 丑。民心归大朴, 战争亦何有？”（《全唐诗》）

“美者一齐美, 丑者一齐丑”にある“一齐”は「同じ」の意味で、後ろにくる名詞、形容

詞を修飾することが可能となる。今度は“齐”の本来の意味が希薄になってきたのである。
④《真珠髻・梅》：“乍几日,好景和风,次第 一齐 催发。”（《全宋词》）

“次第一齐催发”では、“次第”は「次から次へと」の意味で、「同時に」・「同じく」と共起するわけにはいかない。“一齐”の意味を「全部、すべて」として解釈するのがより適切だと思われる。また、文中での機能からいうと、動詞“催发”の前にきて、連用修飾語としての働きが発達してきた。この時期には“一齐”が連用修飾語として「すべて」と「同時に」両方の意味で用いられている。

要するに、中国語の“一齐”は最初に「並列連語」として「整って同じになる」という意味を有していて、漢の時代の前後、語彙化し「単独単語」として「統一する」の意味が派生した。その後、唐の時代ごろ、本来の意味が希薄になり、文法化し、連用修飾語として「すべて、同時に」の意味になり、元明時代の完成期を経て、現代に至ってもその用法が用いられており、“協同副詞”[38]という情態副詞の下位分類に入っている。

同形副詞「一斉に」と“一齐”はともにさまざまな変遷を経て、「複数のものがそろって同時に何かをする様子」の意味になった。意味が似ている「一斉に」と“一齐”は日中対訳で、どのような対応実態にあるのかについて、『中日対訳コーパス』を利用して考察してみよう。

3. 『中日対訳コーパス』における「一斉に」／“一齐”の対応実態

表 1 日本語「一斉に」とその訳語

日本語「一斉に」用例	中国語訳語	用例数
15 例	一齐	4
	一起	4
	同时	2
	都	2
	齐声	1
	一列	1
	一阵整齐的	1

表 2 中国語“一齐”とその訳語

中国語“一齐”用例	日本語訳語	用例数
157 例	一斉に（一斉）	51
	一緒に（一緒）	17

[38] 张谊生（2000）肖奚强（2001）张亚军（2002）などの研究者による分類である。“某些主体或客体同时、同地施行或承受某事”（ある主体や客体が同一場所で同時に行為を発し、受けること）を表す。

	そろって（そろえて）	14
	皆、すべて	6
	ともに	5
	同時に	3
	一度に	3
	一時に	2
	一挙に	1
	一遍に	1
	一様に	1
	訳なし	53

中日対訳コーパスにおける「一斉に」の用例は少ないが、中国語の“一齐”に訳される場合も 27%である。それに対して、中国語の“一齐”は 157 例も使用されて、またそのうち日本語の「一斉に」に訳される場合は 32%である。日本語の使用例が少ないが、両語の対応がある程度、一致していると考えられている。

1）北風が来て網戸の蛾が 一斉に 飛んだ。(一阵北风，纱窗上的飞蛾 一齐 飞了起来。)（『雪国』）

2）人影は 一斉に こっちを向いた。人形のように、彼等同士の間で忙しく顔を向け合い、それからまたこっちを向いて、じっとしていた。（那几个人 一起 转向我。他们先是像木偶似地彼此匆忙地交换了一个眼神，然后又立刻转过头，向我凝望。）（『野火』）

3）歓声に似た声が、一斉に 三人の口から洩れた。（三个人 不约而同 惊喜地叫起来。）（『野火』）

次の例 4）－6)は中国語の使用例が日本語に訳される場合である。

4）周永振说：“没啥了不起，刘祥大叔那地，咱们 一齐 动手，用镐刨，也给他种上！”「なあにたいしたことはねえ。劉祥さんとこの畑にみんなで 一斉に とっかかろう。万能で耕って、種蒔きもしちまおう」と周永振。（《金光大道》）

5）这时大家都已放下了碗，脸也揩过了。周氏便对张太太说:“大妹，还是到我屋里去坐罢，”于是推开椅子站起来。众人也 一齐 站起，向旁边那间屋子走去。（みな茶碗をおいて顔をふき終ると「さあ、あちらへいってくつろぎましょう」という周氏の言葉に、椅子をずらして いっしょに 立ち上り、わきの部屋へいった。）（《家》）

6）他说着，更勇猛地抡起板斧，只听得“咔嚓”一声，树根裂开了缝子。母子俩 一齐 欢呼起来了。（高大泉はいっそう気合いを込めて、まさかりを振りかぶった。バシッ！根株に大きな割け目が入った。母子は そろって 歓声をあげた。）（《金光大道》）

以上の例文が示しているように、中国語“一齐”の同義語は“一起”であり、日本語「一斉に」の同義語は「一緒に」であることが対訳コーパスにより理解できる。それぞれの区別につ

いては本研究では触れないことにする。

4. 共起動詞の意味の分類

中国語の副詞“一齐”は動詞及び形容詞両方とも修飾することができる。“要苦，大家一齐苦。”（苦労するなら、みんなでやりましょう。）の“苦”（苦しい）は形容詞で、“一齐”と共起することも可能である。その用法はすでに唐の時代から発達したということは前節にてすでに述べた。現代中国語における副詞“一齐”は動詞を修飾する用例が圧倒的に多い。

日本語の「一斉に」はおもに動詞を修飾している。本章は副詞と動詞とのコロケーションを中心に考察するものであり、副詞の後ろに来る動詞の意味を『分類語彙表』にしたがって対照する。

本章は中国語の CCL コーパスと日本語の BCCWJ コーパスを利用して、中国語“一齐”の使用例 236 例、日本語「一斉に」の 170 例をそれぞれ抽出した。そして、それぞれの共起動詞の意味を『分類語彙表』にしたがって、下記の表 3 にまとめた。

表 3 「一斉に」と“一齐”の共起動詞の意味の比較

項目	中国語“一齐”236 例	比率	日本語「一斉に」170 例	比率
2.12 存在	8	3.39%	2	1.18%
2.15 作用	99	41.95%	68	40.00%
2.30 心	30	12.71%	19	11.18%
2.31 言語	35	14.83%	21	12.35%
2.33 生活	29	12.29%	20	11.76%
2.38 事業	6	2.54%	15	8.82%
2.50 自然	5	2.12%	3	1.76%
その他	24	10.17%	22	12.94%

表 3 の共起動詞の意味の分類から見れば、日中両語にはあまり差異が見当たらない。ともに「作用、言語、生活、心」の項目で多用されているが、日本語の「一斉に」はより「事業」項目の動詞と共起することが明らかになった。

7）卖纸扇的好象都由什么地方忽然 一齐 钻出来，跨着箱子，箱上的串铃哗啷哗啷的引人注意。（うちわ売りがまるでどこかから一斉に湧いて出たみたいに街に立ち、肩からさげた箱につけられた鈴がチリンチリンと鳴りわたる。）（《骆驼祥子》）

“钻出来”（湧いて出る）2.15 作用

8）孩子们都吃惊，立时记起他来，一齐 注视西厢房，又看见一只手扳着木栅，一只手撕着木皮，其间有两只眼睛闪闪地发亮。（子どもたちはハッとして、すぐに彼のことを思いだし、一斉に西側の部屋に目を向けた。すると、片手で木の柵をにぎり、もう片方の手で木の皮をこすっていて、そこから二つの目がキラキラ光っているのが見えた。）（《彷徨》）

“注视”（目を向ける）2.30 心

9）“啊！”原来的两个青年显得很兴奋，一齐 说，“现在外面的情况怎么样？”（「へえ！」聞き役のふたりの青年は興奮して、口をそろえてたずねた。「いま、外の情勢はどうなんです？」）（《青春之歌》）

“说”（尋ねる）2.31 言語

10）三个局长 一齐 站了起来。（局長三人が一斉に立ち上がった。）（《男人的风格》）

“站”（立ち上がる）2.33 生活

また、日本語の「一斉に」の動詞とのコロケーション例文は下記のとおりである。

11）子どもたちは一斉に，円形に切り取られた形シートの上に移動する。次は 一斉に，三角形に移動だ。最初，形シートは，新聞紙を切り取って作った。（『この裏技で子どもをパッと集中させる攻略ポイント 40』）

「移動する」2.15 作用

12）「おい、聞いたか？ゴミがゴミに壊されるってよ」男たちが 一斉に 笑った。「こ、ここじゃなくてもいいだろう」　鉄男がすがった。（『ザホームレス！大逆転』）

「笑う」　2.30 心

13）いろりを囲んで店内を埋め尽くした企業経営者や役人、研究者、学生、銀行マンなど様々なＩＴ関係者が 一斉に 声を上げた。（『北海道 IT 革命』）

「声を上げる」　2.31 言語

14）「それでは、よろしくお願いします」兵藤隊長の言葉で、男たちは 一斉に 立ち上がった。　（『テロリスト潜入』）

「立ち上がる」　2.33 生活

15）千九百九十四年にはＣＤ－ＲＯＭ一体型の低価格パソコンが国内各社より 一斉に 発売され，文字も音楽も映像も同等に扱えることがその必須機能となっていった．（『マスターしよう情報リテラシー』）

「発売する」　2.38 事業

日中の使用データを分析してみれば、両語はともに「移動する」「笑う」「声を上げる」「拍手する」などのような「作用、心、言語、生活」にかかわる動詞と共起している。日中両言語にはあまり大きな差異が見当たらない。

また、表 3 のデータを図として表せば、下記のようによりはっきりする。

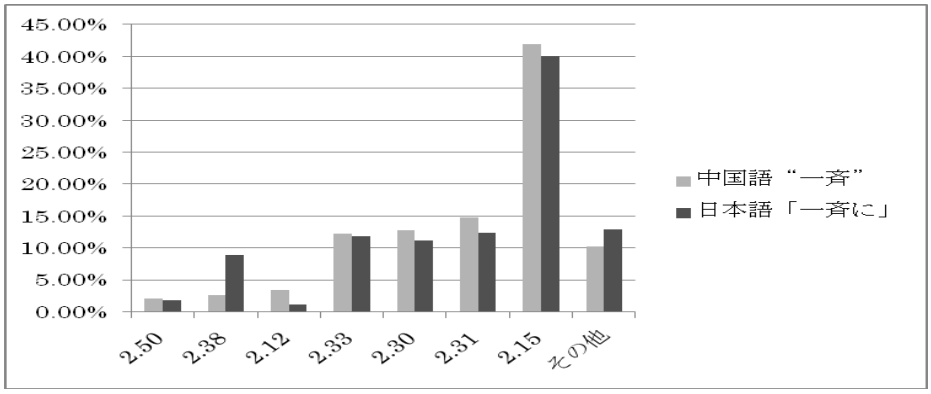

図１ 「一斉に」／“一斉”の共起動詞の意味の比較

図１が示しているように､動詞の意味の分布が相当似ていることがはっきり見てとれる。異なっているのは日本語の「一斉に」がより多く「事業」項目で「商業、軍事など」を表す動詞と共起している点である。

5. 動作の発する主体について

呂叔湘（1999）は中国語“一斉”の意味を「①複数の主体が同時に同じことを行う。②同一主体が同時に複数のことを行う。」というように二つに区分している。日本語の辞書にはそこまで言及されていないようであるので、両語の動作の発する主体について分析する。

中国語“一斉”のかかる主体

①同一主体が同時に複数のことを行う。15 例

16）我眼睁睁看着其中有一名消防队员，伸出两只手，把烧伤的两个大个子外国海员 一齐 扛在双肩上，而这位大力士连腰杆都没弯一弯。(私はずっとそのまま見ていて、消防士の一人は両手を出して、二人の火傷をしたデカい外人船員をともに肩で担がせた。しかし力持ちの消防士は腰がちっとも曲がらない。)（《吴淞口外的警报》）

その意味は同一主体が同時に複数の動作・行動を行うさまである。

17）有的企业把小额股票作为附加工资、奖金或津贴，随本企业职工工资 一齐 发放，强制职工接受。(ある企業は少額株をボーナスとして、強制的に給料と一緒に職員に支給する。)（《政治经济学原理》）

例 17)は同一主体“有的企业（ある企業）”が「株」を「給料」と一緒に払うことを表している。

②複数の主体が同時に同じことを行う。221 例

18）这时大家都已放下了碗，脸也揩过了。周氏便对张太太说:“大妹，还是到我屋里去坐罢，”于是推开椅子站起来。众人也 一齐 站起，向旁边那间屋子走去。(みな茶碗をおいて顔をふき終ると｢さあ､あちらへいってくつろぎましょう｣という周氏の言葉に､椅子をずらしていっしょに立ち上り､わきの部屋へ行った。)（《家》）

以上の用例のような、複数の主体が同時に動作・行動を行うさまを表す場合は 93.6%であり、圧倒的に高い比率を占めている。

日本語の「一斉に」はどうなるのか。データを調べた結果、ほとんどの例文において副詞「一斉に」は複数主体と共起している。しかし、下記のように、「一斉に」の修飾する動詞「ととのえる」の対象語である「いろいろの条件」が複数である場合も、僅かながら存在している。

19）前者の途をとるように、いろいろの条件を一斉にととのえることが望ましいことはもちろんであるが、後者の場合、道貸付牛を足場にして拡大していけるような、他の条件の整備・施策が伴うかどうかが評価の基準であって、無牛農家に貸しつけること自体を問題にするのは的はずれの批判というべきではないか。(『北海道農業論・農業市場論補説』)

20）五十二．花丸をつけさせて時間調整をする。五十三．問題を一斉に読ませる。(『向山型授業のシステムづくりの法則』)

「一斉に」は複数の対象語と共起することも可能であるが、中国語の用例ほど多くはなく、日本語の動作・行為の発する主体が省略されている。このような使用例はもはや主体の動作を強調するのではなく、動作・行動が同時に行われるさまを強調しているのであろう。その一方、中国語“一齐”は二つの意味を有している。使用例の多くは「複数の主体が同時に同じ動作・行動を行うさま」という意味であるが、「単一主体あるいは同一主体が同時に多数の動作・行動を行うさま」という意味もある。

6. まとめ

中日同形副詞「一斉」と“一齐”の用法について、以下のような共通点がまとめられる。

① 動作の発する主体が複数であることが多く、また特定されている。

A1 孩子们一齐唱起歌来。(子供たちが一斉に歌を歌い出した。)

A2×一些人一齐唱起歌来。(×ある人たちが一斉に歌を歌い出した。)

B1 三个老师一齐站了起来。(先生三人が一斉に立ち上がった。)

B2×李老师一齐站了起来。(×李先生が一斉に立ち上がった。)

② 動作主体および動作対象が同じ場所で同時に行う場合には、時点を表す時間副詞と共起する。

A1 当天，我们一齐聚到工厂,共同商讨对策。(その日、私たちは一斉に工場に集まって、一緒に相談した。)

A2 ×他们一齐工作了两年。(×彼らは一斉に二年間仕事していた。)

③ “一齐”のかかる動作・行為が同時に行われる。動作・行為の主体あるいは動作・行為の対象が離散的である。

A 他一走进来,在座的人们一齐站了起来。十几只手一齐伸了出来。(彼が入ったとたん、みんなが一斉に立ち上がって、十数人が一斉に手を伸ばした。)

主体“在座的人们”（みんな）は、「一人一人」に分けられ「立つ」という動作を同時に行う。“几十只手”も人のことを指し、同じく分けられる。

また、「一斉」と“一齐”の相違について、下記のようにまとめる。

① 意味の上では、「一斉」と“一齐”はともに古代中国語を起源とし、その後の言語使用過程には、それほど大きな差異はみられない。日本語「一斉」は書き言葉として、新聞、雑誌、ニュースでよく見られ、とくに、社会活動と運動にかかわる文章にはよく用いられている。中国語“一齐”は日本語「一斉」のような堅いイメージを持たず、書き言葉と話し言葉両方とも使用することが可能である。また、中国語のほうは二つの意味に分けられる。つまり、「複数の主体が同時に同じ動作・行動を行うさま」と「同一主体が同時に複数の動作・行動を行うさま」である。日本語のほうは、「複数の主体が同時に同じ動作・行動を行うさま」の意味のみを帯びており、単一の主体についての用法は見当たらない。

② 文中での機能をみると、中国語のほうは後ろにくる動詞を修飾することが圧倒的に多いが、形容詞を修飾することも可能である。日本語のほうは後ろにくる動詞述語しか修飾しない。

③ 共起動詞の意味の分類では、両語の共起動詞はともに「作用、心、言語、生活」という四つの項目にほぼ平均的に分布していて、比較的似た傾向を示している。

④ 述語形式からみれば、「一斉に」と“一齐”について、構文上から日中対照考察をしたが、両方ともほとんど肯定文で用いられる点が共通している。その点から、日中両言語の「一斉に」と“一齐”はともに本来の動作を修飾して、そのアクチュアルなニュアンスが強調されていると考えられる。

第七章　「一挙」と“一举”

1. はじめに

中日同形副詞「一挙」と“一举”はともに古代中国語“一举”を語源としているため、「物事を一度に行うさま」という共通の意味を有している。構文上においては、かなりの共通点を持ちながら、それぞれの特徴をみせている。本章では北京大学漢語言語学研究中心現代漢語コーパス（CCL)、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）を利用し、中国語“一举”を 215 例、日本語「一挙」を 242 例抽出し、①「一挙」と“一举”の意味、②文中での機能、③副詞と共起する動詞の意味タイプ、④述語形式の特徴などの面から、両語の相違について詳しく考察する。

2. 辞書での意味の対照

2.1. 日本語の「一挙」

『大辞林 第三版』の解説によれば、「一挙」は名詞と副詞という二つの用法がある。名詞としては、「一つの動作。一回の行動。一つのくわだて」の意を表す。副詞としては、(「一挙して」の形で)「物事がすみやかにはかどること。 」の意をあらわす。

また『日本国語大辞典』(第 2 版）における「一挙」についての解釈をみて、その歴史的な変遷を見てみよう。

名詞

①ひとたび行うこと。一つの動作、行動。一つの企ての決行。また、その企て。いっこ。

*延喜式-一三・図書寮「凡元日、大極殿前庭左右設火炉榻一脚＜略＞寮官人左右書く一人進就榻下共焼香一挙、畢即共復本列」

*浄瑠璃・源頼家源実朝鎌倉三代記-七「勝負の一挙（キョ）はあすに有（あり)」

*春秋左伝-襄公二五年「九世之卿族、一挙而滅之可哀也哉」

②一飛びすること。ツル、コウノトリなど大型の鳥についていうことが多い。いっこ。

*色葉字類抄「一挙イッキョ千里名　鶴一挙ニ千里ヲ以」

*楚辞-惜誓「黄鵠之一挙兮、知山川之紆曲紆再挙兮、睹天地之圜方」

③物事がすみやかにはかどること。また、そのさま。いっこ。「一挙して」の形で用いる。*読本＊椿説弓張月-拾遺・四六回「事成て後、利勇等が罪の軽重を正し給はば、一挙（イッキョ）して邦定りてん」

副詞的に用いる。「に」を伴うことが多い。

*和英語林集成（初版)「タダ ikkiyoni（イッキョニ）セメヤブル」

*内地雑居未来之夢＜坪内逍遥＞八「万一危しと見たらんには、一挙（イッキョ）にわ庫（くら）を倒（さかさ）にすべし」

日本語「一挙」は中国語から借用された漢語の使用であると『日本国語大辞典』(第 2 版)の解説が裏付けている。最初の名詞用法から「に」を伴って、副詞的な用法で用いられるようになった。現代に至っても、「一挙」の用法はほぼ古語のまま残っている。

2.2. 中国語の“一举”

《现代汉语词典》(第 6 版)の解釈によれば、“一举”は名詞と副詞の両用法を持っている。名詞としては、“一种举动，一次行动（一つの動作、一回の行動)”の意をあらわす。副詞としては、“经过一次行动就完成，一下子（一度にまとめて物事をやること、一気に)”という意をあらわす。

古代中国語の資料から“一举”の歴史的変遷を見ると、下記の①－⑧のように表すことができる。

①（春秋战国《兵法》)：负之机，在此一举，诸君何疑？

②（春秋战国《左传》)：九世之卿族，一举而灭之。

③（春秋战国《兵法》)：一举便尽，无所留难。

最初の中国語の“一举”は春秋時代の資料で見られる。おもに名詞の用法で「一つの動作、一回の行為」を意味するが、副詞の用法でも若干用いられ、単独で使用されてはないが、“而、便”などと組み合わせ、後ろの動詞を修飾する機能が発達してきた。

④（汉《史记》)：鸿一举而进千里者，羽翼之材也。

⑤（隋唐五代《晋书》)：然国家之计在此一举。

⑥（隋唐五代《晋书》)：宜缮甲养锐，劝课农殖，待可乘之机，然后一举荡灭。

⑦（元明《警世通言》)：后来收心勤读诗书，一举成名。

⑧（元明《明珠缘》)：“成两家之好，笃朋友之情，一举两得，自是美事”

唐の時代に至り、名詞と副詞の用法はともに普及し、“一举荡灭”のように直接動詞の前に来て修飾機能を果たす場合もよく見られる。また、元・明の時代では現代中国語での使用と変わらないものになっている。

日中の辞書の解釈によると、現代日本語「一挙」と現代中国語 “一举”は、ほぼ同じように名詞と副詞の用法をもち、副詞としては「一度にまとめて物事をやること、一気に」の意を表す。

3. 『中日対訳コーパス』における「一挙」と“一举”の対応実態

『中日対訳コーパス』における日中「一挙」と“一举”の対応実態をみると中国語の 11 例はすべて日本語「一挙に」に訳され、日本語の 14 例のうち、中国語“一举”に訳されているのは 3 例である。使用例数は少ないが、中国語の 11 例が全て日本語「一挙に」と対応することにより両語の一致度がより高いと推測される。

まず、日本語「一挙」が文中で使用される形態は下記のとおりである。

データベース BCCWJ を使って、「一挙」の表記で検索すると、名詞「一挙」の使用率は 4.13%しかない。

1）孝明天皇は幕府に勅許をお与えにならなかったのだ。この 一挙 は、徳川幕府の拠って立つ土台を根本からひっくり返してしまい、日本は激動を開始した。(『天皇破壊史』)

2）あき江は、私の 一挙一動 まで、干渉して、「あんたって人は、それでも奥さんなの？」と、笑ったり……（『木馬館』)

現代日本語において、「一挙」の名詞用法は僅かであり、その中では「一挙一動」の決まった形が多数である。

「一挙」+ＶＰのように、「一挙」が裸の形で述語にかかる例文は 1 割近くである。

3）昼夜を問わず働き続けるＳＲＣとその関係者、『コスモス』世界を彩った人々を 一挙 紹介しよう！（『ウルトラマンコスモス』)

4）一般客向けにもメークメニューを展開している、編集部おすすめ、選りすぐり 5 軒を 一挙 公開。(『Jewelry & beauty』)

ほかには、「一挙にして」の形で連用修飾の働きである例文は 1 例しか見られなかった。

5）その一昼夜の間に、あなたがたの国はすべて、一挙にして 大地に呑み込まれ、またアトランティス島も同じようにして、海中に姿を消してしまった。(『アトランティス失われた帝国の謎』)

とにかく、「一挙に」の形で述語を修飾する例文が最も多く、「一挙に明らかになった」のような使用例は 8 割以上である。また、決まり文句「一挙両得」の使用も 22 例出てきた。

6）パリの街路に名をつける上で聖人たちが果たした役割は、革命において 一挙に 明らかになった。(『パサージュ論』)

日本語と同じく、中国語の“一挙” も副詞としての用法が圧倒的に多い。

7）二十日，蒋介石还得意地声称，“剿匪成功，在此 一举 。”（二十日、蒋介石は得意気に「匪賊討伐の成功は、この挙にあり」と公言した。）（《毛泽东传》）

8）盯着，盯着，我忽然发现他的 一举一动 都很象爸爸，但他的头发已经花白了。（目を離せず見ていると、ふと彼の一挙一動が父そっくりに思えてきた。ただ、彼の髪には白髪がまじっていた。）（《轮椅上的梦》）

例 7)・8）の“一挙”は全て名詞用法で、ほかには、 “一挙一动”“一举两得”“ 一举多得”などの決まり文句の使用が若干存在している。

9）蒋介石那号称可抵""四十万大军""的天然防线，为刘邓大军 一举 突破。（蒋介石が「四〇万の大軍」に匹敵すると称した天然の防衛線は劉・鄧の大軍によって一挙に突破されてしまったのだ。）（《我的父亲邓小平》）

例 9）“一挙突破”の“一挙”は後ろに直接にくる動詞“突破”を修飾し、副詞の用法で、「一度にまとめて物事をやること、一気に」の意味を有している。

日本語「一挙」は裸の形での名詞の用法が主であるが、動詞に係る副詞の用法が僅かな

がら現代語に残っている。現代日本語において、「一挙」は「に」と組み合わさり、副詞の用法としてよく働いていることが明白であろう。一方、中国語の“一举”は名詞と副詞の表記が同じで、いずれも後ろの成分との関係から離れれば判断しにくい。文中での形から見れば、日中両言語における「一挙」と“一举”は主に副詞として述語にかかる連用修飾語となっている。

以上の分析と考察から、両語の語彙の意味と文中での機能はかなり似ていると結論付けられる。しかし、実際には言語使用実態がどのような差異が存在するのかについては、それぞれの共起動詞の意味の分類から考えてみよう。

4. 共起動詞の意味の分類

ここでの分析方法について述べておく。

① 日中両言語における「一挙」と“一举”には名詞と副詞の二つの用法があるが、ここでは、「一挙」と“一举”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心に扱う。

① 日本語副詞「一挙」は現代日本語においては、「一挙に」という形になり副詞用法として用いられるので、本章では「一挙に」を用いることにする。

② 分析の趣旨は副詞と動詞の結び付きを考察することにある。

『語彙分類表』での語彙の意味に基づき動詞を分類する。表 1 は日中の「一挙」と“一举”の共起動詞について意味を分類したものである。

表 1 「一挙」と“一举”の共起動詞の意味の分類

	日本語「一挙」242 例		中国語“一举”215 例	
2.12 存在	21	8.68%	1	0.47%
2.15 作用	118	48.76%	45	20.93%
2.30 心	19	7.85%	4	1.86%
2.31 言語	24	9.92%	2	0.93%
2.34 行為	6	2.48%	3	1.40%
2.35 交わり	18	7.44%	107	49.77%
2.36 待遇	4	1.65%	7	3.26%
2.37 経済	15	6.20%	41	19.07%
2.38 事業	8	3.31%	0	0
その他	9	3.72%	5	2.33%

まず、日中「一挙」と“一举”の共起動詞の例文をまとめてみよう。次の例 10）－17）は日本語の共起動詞の意味分類である。

10）戦前の軍需生産による技術の蓄積のもとで千九百五十年代の大規模な設備投資の結果,

生産能力が 一挙に 増加した。(『台湾の経済発展と政府の役割』)
「増加する」2.15 作用
11) あなたに必要とされる合目的的行為の数は、突然 一挙に 減少します。(『建築する身体』)
「減少する」2.15 作用
日本語「一挙」は変化にかかわる動詞とよく共起する。変化動詞と共起する場合は、その意味はある動作・行動によって、なんらかの結果、大幅な数値変動・安定な状態変化をもたらすさま、またはなんらかの事態の下でそれらの結果・変化が発生するさまである。動作の対象または文の主語が、一人か一つの物事など、単数の場合が多い。
12) ため込みの一例をあげますと、退職引当金です。全従業員が 一挙に 全員やめた場合の退職金の四十%も引き当てています。(『職場をたたかいの拠点に』)
「やめる」2.15 作用
また、例 12) は複数のひとが同時にやめるという行動を起こすということである。すなわち、「一挙」は単数の動作対象以外には、「複数のもの・ひと・ことなどをまとめて同時の一つの行動として扱うさま、または複数のもの・ひと・ことなどで同時になんらかのことが発生するさま」を表せる。この場合には「やめる」「解決する」など瞬間動詞が多く共起している。
13) 人間は他との差を認識することで、自己の置かれている状況と自分の程度を 一挙に 知ることが出来ます。(『茶の湯からの発信』)
「知る」2.30　心
14) 超一瞬ミラクルイリュージョンは、世界トップマジシャンらの早業や神業の数々を 一挙 公開する。(『河北新報』)
「公開する」2.31　言語
15) 秋のレジャーを楽しくする MTB やゲーム、カメラ、さらにはアダルトグッズなどを一挙に発表！ (『sabra』)
「発表（する)」2.31　言語
言語表現の動詞と共起する場合が少なく、その中では「一挙に発表。」「一挙に公開。」のようなスローガン用語が多数ある。
16) キャラクターモデルでもある田波涼子さんの日常をシミュレートしながら、新作を 一挙に 紹介します。(『CLASSY』)
「紹介する」2.35 交わり
17) 堀江社長（三十二歳）はフジサンケイグループの本営（持ち株会社）のような存在のニッポン放送の株を 一挙に 買い集めました。(『ファイナンス理論「入門」』)
「買い集める」2.37 経済
次に、中国語の“一挙”の共起動詞について、下記の例 18) －20) を見てみよう。まず、中国語の“一挙”は【2.35 交わり】にある軍事にかかわる動詞とよく共起する。
18）蒋介石那号称可抵″″四十万大军″″的天然防线，为刘邓大军 一举 突破。(蒋介石が「四

〇万の大軍」に匹敵すると称した天然の防衛線は劉・鄧の大軍によって一挙に突破されてしまったのだ。）（《我的父亲邓小平》）

“突破”（突破する）2.35 交わり

また、「作用」「経済」を表す動詞とよく共起する。

19）许多用户纷纷前来洽谈业务，签订合同，一举 改变了过去“等米下锅”的局面，变“吃不饱”为“吃不了”。 （多くのユーザーが次々と注文に来て、契約する。注文が足りない状況から一挙に注文が多すぎる状況へと変わった。） （《北京日报 1980-5-20》）

“改变”（変える）2.15 作用

20）1985 年 2 月，船王出价 250300 亿港元，一举 收购会德丰。（1985 年 2 月、船王がＨＫ＄250,300 億を出し、一挙に会徳豊を買い上げた。）（《世界 100 位富豪发迹史》）

“收购”（買収する）2.37 経済

以上の例文から分析してみれば、中国語“一举”は日本語「一挙」のように、「複数のもの・ひと・ことなどをまとめて同時に一つの行動によって扱うさま、または複数のもの・ひと・ことなどで同時になんらかのことが発生するさま」は表せない。“一举”の起源から分析すると、そのもともとの意味は数詞“一”と動作行動「挙」とが組み合わさり、「一回だけ手を挙げる動作」を強調するニュアンスがあるだろう。副詞用法になっても、その動作行動が一回のみであることを強調し、主体は一般的に好ましい成果を収める様子を表している。それに対して、日本語「一挙」にはプラスまたはマイナスの評価的意味はない。

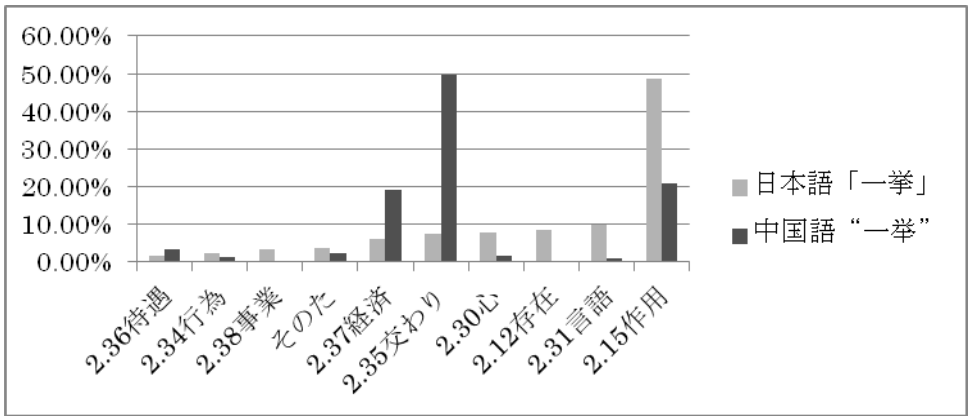

図１ 「一挙」と“一举”の共起動詞

両語における共起動詞の意味の分類について、最も異なっているところは、日本語の「作用」を表す動詞「増加する、減少する、変わる」などの使用が中国語の 2 倍であり、全体の半分ほどを占めている点である。一方、中国語のほうは「交わり」の項目で「軍事」にかかわる「突破する、占領する、殲滅する」などの動詞が全体の半分を占め、日本語の 5 倍以上の使用率を示している。

5. 否定形式と肯定形式

「一挙」と“一举”が「物事を一度に行うさま」の意を表しているが、また「一気に」のニュアンスもあり、「急の変化」の意味が含まれ、主に動作・行為の発生時間の短さを強調する。

否定形式の文に用いられるかどうかについて調べた結果、「一挙」と“一举”はともに否定形式と共起しにくいことが分かった。日本語の「一挙」では、一例のみ本格的な否定形動詞と共起している。

21）送出装置・受信装置のデジタル化コストが重く，一挙に は進まないという事情がある。（『ＮＨＫ放送研究と調査』）

「一挙には+進まない」のほかには、「一挙に実現したものではない」「一挙に成立せず」という形が極少数で使用されている。（7 例）

中国語の否定文では用いられないが、以下の三例は“亦非一举可以”“一举难以”“难以一举”の表現を用いて、「～一挙に～できない／～しにくい」という意味を有しているが、否定文に共起するとは言えないだろう。

22）战斗十二日，补给中断，加以日寇顽强坚守既得据点，我军攻击亦非 一举 可以夺取。（戦いが十二日間続いて、補給が中断し、さらに敵方が占領した要所を固く守衛しているので、我方が攻めても、一挙に奪回することは難しい。）（《中国远征军入缅对日作战述略》）

23）只怨我军兵马不足，一举 难以全歼众敌，真乃心有余力不足矣！”（わが軍の兵馬が不足で、一挙に敵を滅ぼすことが難しい。本当に悔しい。）（《棉田里的战役》）

24）圆真以武功论原是不输，但难以 一举 格杀二人，最多伤得一人（園真の腕前からいえば、負けるはずがない。が、一挙に二人とも殺すことはいかにも難しい。多くても一人しか殺せない。）(《倚天屠龙记》)

中国語の“一举”は直接動詞の前に来る文がほとんどである。そうでない例文は 19 例しか見られない。その中で「“一举”+而+ＶＰ」の使用例は 7 例である。

25）所以，应当在上海首先举事，尔后杭州响应，可 一举 而成。（だから、まず上海で蜂起し、それから、杭州で応援すれば、一挙に成功します。）（《蒋氏家族全传》）

すなわち、「一挙」と“一挙”はおもに肯定文において「物事を一度に行うさま」の意を表しているが、さらに「一気に」のように、動作行動の発生時間の短さも強調する。中国語と比べると、日本語の「一挙」はより「一挙に～ものではない」「一挙に～できない」というポテンシャルな意味が含まれている。中国語のほうは、おもに直接、動詞の前にきて、また「一挙に～できない／～しにくい」という表現は極僅かであり、“一挙”の使用文にはアクチュアルなニュアンスがより強くあるのだろう。

6. まとめ

日中のコーパスを利用し、実例に基づき、日中両言語における同形副詞「一挙」と“一挙”の異同について考察した。両語の副詞としての共通点と相違点については下記のよう

にまとめられる。

① 意味：両語は辞書における意味が似ていて、「物事を一度に行うさま」を表す。しかし、日本語のほうは「複数の動作主体か動作対象」や「単数の動作主体か動作対象」を表せるが、中国語のほうは「単数の動作主体か動作対象」のみを表す。

② 文中での機能：それぞれの主要な文中での働きは連用修飾語である。

③ 共起動詞の意味タイプ：日本語のほうは「変化」を表す動詞とよく共起し、中国語のほうは「軍事」にかかわる動詞とよく共起する。その継続動詞の意味は日本語にはプラスまたはマイナスの評価的意味はないが、中国語のほうは好ましい結果を表す文がほとんどである。

④ 述語形式：両語はほとんど肯定文に用いられる。中国語のほうはほとんど直接動詞の前に来て、「一挙に～できない／～しにくい」という表現からも分かるように、完全に否定する意を表す文がごく僅かであるので、そのアクチュアルなニュアンスがより強い。日本語のほうはすべて直接動詞の前に来るわけではなく、「一挙に～ものではない」「一挙に～できない」という完全に否定する意を表す例文も多少使用されているので、そのポテンシャルな意味合いが含まれている。

第八章　「一時」と“一时”

1. はじめに

日本語の「一時」と中国語の“一时”は、同じ漢字表記で、張・他（2007）に従って、いずれも「(かつて）ある時、しばらくの間、当座」という共通の意味を有しているが、異なっている意味についてみると、日本語には「時刻」、「同時」の意、中国語には「時には」という特別の使い方があると整理できる。両語は、いずれも名詞、副詞として用いられているが、本章ではおもに、動詞を修飾する副詞的な用法から両語について対照考察する。まず①その語彙の意味について現代語に限らず、それぞれの歴史的変遷についても分析する。また②それぞれの文中での機能、③副詞と組み合わさる動詞の意味タイプ、および④その述語形式の特徴、という四つの側面から、両語について詳しく分析を行っていく。

2. 辞書での意味の対照

『日本国語大辞典』（第 2 版）に記載されている内容から「一時」の歴史上の使用実態を整理する。

いっとき【一時】（名）

①昔の時間区分で、一日の十二分の一。今のおよそ二時間。一刻。奈良・平安時代の定時法では二時間、鎌倉時代以降の不定時法では季節により、また昼夜によって相違する。

*平家（13c 前）一二・泊瀬六代「よりあひよりのき一時（トキ　高良木ルビ）ばかりぞたたかふたる」

*太平記（14c 後）一一・書写山行幸事「是は上人当山より毎日比叡山へ御入堂の時、海道三十五里の間を一時が内に歩ませ給ひし屐也」

*随筆・孔雀楼筆記（1768）三「蓋し釣はひとりもせらるる、つれをさそひてもせらるる、或は終日、或は半日、或は一時、半時、自由なるべし」

②短い時間。ちょっとの間。暫時。

*玉塵抄（1563）九「朝廷になうては一ときもかなうまい人と云たぞ」

*日葡辞書（1603-04）「Ittoqi（イットキ）〈訳〉わずかの時間」

*説経節・説経苅萱（1631）中「そのなみだ一ときのこうすいとなって、くうかいも五六てうはかりはおなかれある」

*浄瑠璃・仮名手本忠臣蔵（1784）六「一（いッ）時も早うそなたやわしに金見せて、悦ばさふ迚（とて)」

③（「に」を伴って、副詞的に用いる）同時。いちじ。

*滑稽本・八笑人（1820-49）四・上「と、いふをきっかけに、皆一時（イットキ）に〈略〉手当たり次第にたたきたってはやす」

婦系図（1907）〈泉鏡花〉後・三三「段々馬場も寂れて、一斉（イットキ）に二頭（に

ひき）斃死（おち）た馬を売って、自暴酒（やけざけ）を飲んだのが、最（も）う飲仕舞で」

いちじ【一時】

①（名）少しの間。暫時。ひととき。いっし。

*本朝無題詩（1162-64 頃）八・秋日長楽寺即事〈藤原敦光〉「雲色泉声尋洛東。一時賞翫感相通」

海道記（1223 頃）萱津より矢矧「我は一時の命なれば後見を期し難し」

②その時だけ。かりそめ。

*西洋道中膝栗毛（1870-76）〈仮名垣魯文〉九・下「アノときゃア一時（イチジ）のしゃれをやったのだ」

③ある時。かつて。

*法華経-序品「一時仏住王舎城耆闍崛山中」

④その当時。同時代。当代。

*性霊集-序（835 頃）「前御史大夫泉州別駕馬摠一時大才也」

*国史略（1826）「頼山陽初在於京師、声名重於一時」

*後漢書-班超梁瑾伝論「亦一時之志士也」

⑤同時。また、一度。→一時に。

⑥時刻の名称の一つ。午前と午後とある。明治初期には「第」をつけ、「時」ではなく「字」を用いることが多かった。また、一時間をいう場合もある。

*公議案の可否を決して、第一字より里数改定の評論を、且読み且論じ、〈略〉第四字一同退散せり」

以上の記載にしたがって、漢字表記である「一時」には、以下のような意味用法がまとめられる。

①昔の時間区分で、一日の十二分の一。今のおよそ二時間。

②短い時間。ちょっとの間。暫時。

③（「に」を伴って、副詞的に用いる）同時。いちじ。

①（名）少しの間。暫時。ひととき。いっし。

②その時だけ。かりそめ。

③ある時。かつて。

④その当時。同時代。当代。

⑤同時。また、一度。→一時に。

⑥時刻の名称の一つ。午前と午後とある。

《汉典》に記載されている中国語「一時」の意味用法は下記のとおりである。

①.一個時辰。

朱子語類．卷一．太極天地上：「一年又有一年之陰陽，一月又有一月之陰陽，一日一時皆然。」

②.一個季節。

國語．周語上：「三時務農而一時講武，故征則有威，守則有財。」

漢書．卷九．元帝紀：「興不急之事，以妨百姓，使失一時之作，亡終歲之功。」

③.一段時間。

孟子．公孫丑下：「彼一時，此一時也。五百年必有王者興。」

文選．東方朔．答客難：「彼一時也，此一時也，豈可同哉。」

④.當代、一個時代。

文選．曹丕．與吳質書：「諸子但為未及古人，自一時之雋也。今之存者，已不逮矣。」

初刻拍案驚奇．卷二十二：「數年之間，聚賄千萬，累官至金紫光祿大夫兼授右僕射，一時薰灼無比。」

⑤.同時。

文選．曹丕．與吳質書：「徐陳應劉一時俱逝，痛可言耶。」

文選．張悛．為吳令謝詣求為諸孫置守冢人表：「凡諸絕祚，一時並祀。」

⑥.短時間內，即刻、突然。

儒林外史．第五十四回：「死是一時死不來，我明日就做和尚去。」

紅樓夢．第五十七回：「一時，面紅髮亂，目腫筋浮，喘的抬不起頭來。」

近臨時、暫時

反鎮日、持久、常常、時常

亦作「一時間」、「一時之間」。

⑦.一旦。

漢書．卷三十五．吳王劉濞傳：「吳與膠西，知名諸侯也，一時見察，不得安肆矣。」

紅樓夢．第四回：「倘若不知，一時觸犯了這樣的人家，不但官爵，只怕連性命還保不成呢。」

歷史から中国語“一时”を考察してみれば、先秦時代以降「時刻」、「しばらくの間」などの意味が用いられて、時代の発展とともに、とくに唐の時代に、“一代”“当代”/“同时”“一齐”/“实时，立刻”という多様な意味用法が現れていた。たとえば、“（《隋唐五代书断列传》）唐太宗贞观十四年，自真草书屏风以示群臣，笔力遒劲为一时之绝。”という用例では「一時代・唐時代」の意味を表し、“（唐《游仙窟》）众人皆大笑。一时俱坐。”という用例では「同時に、一斉に」の意味を表し、“（《韩擒虎话本》）王子唱喏，一时上马。”という用例では「当座」の意味を表している。明また清の時代には、“一会儿”（ちょっとだけの時間）という意味が盛んに使用されていた。

日本語「一時」は中国語に起源してきたものであるので、古代からほぼ同じ意味で使用されている。しかし、時の流れで、それぞれの意味用法が変わり、現代における両語の意

味が異なってきた。現代日本語において、古代中国語の意味用法が多くそのまま使用されているが、現代中国語“一时”の意味は古代用語と比べて、“一代”“当代”/“同时”“一齐”/“实时，立刻”などの使用がなくなり、下記のようになっている。

《现代汉语规范词典》（第 2 版）：①一个时期;一段时间②短暂的时间;③（副）偶尔；④连用,有“时而”的意思，表示情况交替出现。（①ある時期、②ちょっとだけの時間、③副詞たまに、④時には）

『明鏡国語辞典』:【一時】名／副詞　過去のある短い期間。（副）長続きしないで、一時的に。当座の処置として。物事がすぐにもとの通常な状態に戻るという含みで使う。物事がすぐに（または、遠からず）終わるという含みで使う。【ひととき】①しばらくの間；②｛副詞的に｝以前のある時期。ひところ。いっとき。③昔の時間の単位で、現在の約二時間。いっとき。【いっとき】①名　わずかの間。また、ある一時期。②＜「～に」の形で、副詞的に＞　同時に。いちじに。いちどきに。やや古風な言い方。③昔の時間区分で、いまの二時間。ひととき。

以上の辞書意味を対照してみれば、日中両語の差異は以下のようになる。

①(かつて)ある時

彼は一時えらい人気だった/他红极一时。

②しばらく，少しの時間

この流行は一時の現象にすぎない/这种流行只不过是一时现象而已。

③その時かぎり，当座

一時の出来心からした事だ。/因一时的邪念干的事情。

日[異]①時刻

午後一時に来なさい。/请下午一点来。

②同時，一度

一時に乗客が殺到した。/乘客一下子纷涌而至。

中[異]①時には(一时…一时…の形で)

心情一时好，一时坏。/時によって機嫌がよかったり悪かったりする。

こうしてみると、「一時」と「一时」は同じ意味を持つだけでなく、日中両言語がそれぞれ別の意味も持つことが分かる。日中両言語で共通する意味を表す場合でも，その表現は必ずしも一致しない。例えば、｛一时难以解决/しばらく解決するのが難しい｝においては、「一时」は「少しの間」、「しばらく」の意味であり、日本語に訳す時に同じ意味の「一時」でよいと思われるだろうが、実際、上のように表現を変えなければ自然な表現にならないのである。これは品詞の誤用ではない別の問題を含んでいる。さらに、中国語の「一时」が「ある時」という意味を表す場合、日本語と共有する意味として使ってよいが、一般にはむしろ書き言葉で使うのが自然であるといった制約がある。

3. 『中日対訳コーパス』における「一時」と“一时”の対応実態

まず、文中での使用形態をみてみると、中国語において、“一时+的+N”という連体修飾語、“一时+V”という連用修飾語の形態が用いられている。日本語において、「一時+の+N」、「一時的な+N」という連体修飾と、「一時+V」、「一時に+V」、「一時的に+V」という連用修飾語が多用されている。本章では、漢語表記である「一時」と“一时”を対象にして、おもにそれぞれの連用修飾語としての使用を考察する。

つぎに、『中日対訳コーパス』における日中両言語の原文に用いられる「一時」と“一时”を抽出し、それぞれの訳語を整理し、両言語の対応実態を考察する。

表 1 中国語“一时”の訳語

中国語“一时”	日本語訳語	訳語数
236 例	「一時（的)」／いっとき／ひととき	70
	「すぐ（には)」	23
	「とっさ（には)」	14
	「しばらく（の間)」	9
	「一時期」	5
	「一瞬」	4
	「一世」	3
	訳なし	108

表２ 日本語「一時」の訳語

日本語「一時」105	中国語の訳語	訳語数
105 例	“一时（的)”	27
	“暂时”	22
	“一下子”	7
	“一度”	6
	“临时”	6
	“一个时期”	3
	訳なし	34

表 1 と表 2 が示しているように、中国語の“一时”が日本語の「一時」に訳される用例数が全体の 3 割ほど対応している。

1）投机分子的反水：革命高涨时(六月)，许多投机分子乘公开征收党员的机会混入党内，边界党员数量 一时 增到一万以上。（投機分子の寝がえり――革命の高揚期（六月）に、公然と党員を募集した機会に乗じて多くの投機分子が党内にもぐりこみ、省境地区の党員

数は 一時 一万以上にふえた。）（《毛泽东选集》第一卷）

2）觉民起初不过是跟弟弟开玩笑，这时看见觉慧真正动了气，想找话安慰他，但 一时 找不出一句适当的话来。（覚民ははじめはただ弟に冗談をいいかけただけだったが、覚慧がほんとうに怒った様子なのでなんとか彼をなだめようと思ったが、適当な言葉が すぐに はさがし出せず、ただ驚いて彼を見つめたままだまっている。）（《家》）

3）杏儿 一时 也答不出来。她很不善于概括。（これも、とっさに は答えられない。うまくまとめられないのだ。）（《钟鼓楼》）

4）“方丹，爸爸今天有些话必须告诉你，希望你能理解爸爸的心情……这段时间我和妈妈有些非常重要的事情，一时 恐怕脱不开身，所以去治病的事看来需要等一段时间……（「方丹、今日は聞いてもらうことがあるんだ。わかってくれるといいんだが……今、パパとママはとても大切な用事があって、しばらく 手がはなせない。だから病気を看てもらいに行くのは、たぶん、もう少し先になると思う……」）（《轮椅上的梦》）

例 1）－4）には、中国語の“一时”が日本語の「一時」、「すぐに」、「とっさに」、「しばらく」などに訳され、「一時／ひととき」の訳語がもっとも多い。

一方、日本語の「一時」の用例数は 105 例であるが、その中で、中国語の“一时”に訳されるのは 17 例（26%）である。中国語の「一時」に訳される用例数とほぼ同じ程度だといえるだろう。

5）話は自らそれに移った。平凡なる書画物語はこの一室に 一時 栄えた。（话题自然而然转到了这上面，两人 一时 热烈地谈论起书画来了。）（『布団』）

6）彼女は実家の人々に対し、追い出されて来た理由を正直に話したろうか？　それとも例の負けず嫌いで、一時 遁れの出鱈目を云い、姉や兄貴を煙に巻いてでもいるだろうか？（她所她是否对娘家的人老老实实地讲了被赶出来的原因呢？抑或还是象往常那倔强，谎称 暂时 跑出来，以此来蒙蔽哥哥姐姐呢？）（『痴人の愛』）

7）遽然丑松は黙って了った。丁度、喪心した人のように成った。丁度、身体中の機関が 一時に 動作を止めて、こうして生きていることすら忘れたかのようであった。（丑松突然沉默下来，像木偶人一样，好像体内各种器官 一下子 都停止了工作，从而甚至忘了自己还活着似的。）（『破戒』）

8）しかも、東京に残った人びとのかなりの数が満足な家に住むことができず、一時 しのぎの掘立小屋に住んでいたのである。爆撃によって高い建物がなくなったので、首相官邸のある小高い丘からは、はるか向こうの東京湾を見渡すことができた。（而且，留在东京的大多数人，没有满意的住房，只好在 临时 搭起的小屋暂避风寒。高层建筑已被轰炸得片瓦无存，站在首相官邸的高岗上可以远望东京湾。）（『激動の百年史』）

日中両言語の使用実態を分析してみると、日本語「一時」が中国語の“一时”に訳されることが多いことが明らかになった。ほかには、中国語の“暂时”に訳されることも少なくない。また、“一下子”などに訳される場合も若干見つかる。すなわち、翻訳される場合、日本語「一時」は中国語“一时”とよく対応し、両語の意味用法には差があまり大きくないとわかった。

4. 共起動詞の意味の分類

ここでとった分析方法について述べる。

① 日中両言語における「一時」／“一时”には名詞と副詞２つの用法があるが、ここでは、“一概”と後ろに来る動詞とのコロケーションを中心に扱う。

② 日本語副詞「一時」は現代日本語においては、おもに「いちじ」、「いっとき」という読み方なので、本章では、中国語の“一时”と同じ形式である「一時」をあつかう。さらに、「いっとき」の表記についてもすこし比較してみる。

③ 日本語「一時」は文中で連用修飾語として用いられる場合、「一時」「一時に」「一時的に」という形態が見られるので、本章ではそれぞれの差異にも多少触れる。

『語彙分類表』に従って語彙の意味に基づき動詞を分類する。以下の表は日中の「一時」と“一时”の共起動詞を分類したものである。

まず、『分類語彙表』にしたがって、副詞「一時」／“一时”がかかる動詞の意味タイプについて考察する。下記のように、例 9）－14）は日本語の、例 15）－19）は中国語の使用例である。

9）十代８人の女帝は、天皇の皇后か、母親などで、男系天皇が 一時 不在の間の代役を務める形になっている。(『週刊現代』)

「不在」　2.12　存在

10）病院や福祉施設で暮らす高齢者も、体の状態が良ければ年末年始は 一時 帰宅が認められることが多い。(『神戸新聞』)

「帰宅」2.15　作用

11）昨年十一月に日本国籍を取得。どこへ行っても過熱する報道陣やファンに囲まれ、一時は いつもの陽気な笑顔も消えていた。(『河北新報』)

「消える」　2.15　作用

12）社民党も 一時 、「衆院通過後に出しても与党は痛くもかゆくもない」（土井たか子党首＝似顔）と考えていた。(『朝日新聞』)

「考える」　2.30　心

13）「それなら、契約書通り、残金を 一時に 返済してください」(『らーめん屋おやじのここだけの話』)

「返済する」　2.37　経済

14）「片方の手足が 一時的に しびれる」(『神戸新聞』)

「しびれる」　2.57　生命

例 9）のように「不在」「帰宅」という漢語動詞と組み合わさって、「一時不在」、「一時帰宅」のような複合表現が多く用いられ、語彙化する可能性があるだろう。ほかには、作用をあらわす動詞「帰宅、消える、落ちる」などとよく共起する。

15）这样就比较顺利地形成了全国军民抗日战争的高潮，一时出现了生气蓬勃的新气象。（このため全国の軍隊と人民の抗日戦争の高まりが、一時は活気にみちた新しい気運として

あらわれていた。）（《毛泽东选集》第三巻）

“出现”（現れる）2.12　存在

16）投机分子的反水：革命高涨时(六月)，许多投机分子乗公开征收党员的机会混入党内，边界党员数量 一时 增到一万以上。（投機分子の寝がえり――革命の高揚期（六月）に、公然と党員を募集した機会に乗じて多くの投機分子が党内にもぐりこみ、省境地区の党員数は一時一万以上にふえた。）（《毛泽东选集》第一卷 ）

“增”（増える） 2.15　作用

17）“有了什么？”他 一时 蒙住了。（「えっ、なにが？」祥子はきょとんとした。）（《骆驼祥子》）

“蒙”（困る） 2.30　心

18）一时 也讲不完。你想想还有什么要我告诉你的，请你尽管问罢。（とてもいっぺんには話しきれないわ。聞きたいことがあったら、何でもいいからいってちょうだい。）（《霜叶红似二月花》）

“讲”（話す） 2.31　言語

19）怎么办呢？退老说柴油轮 一时 缺货，兼且价钱也不相宜。（さて、どうするか。退庵君は、いまディーゼル船はなく、値段も折合いがつかないというが）（《霜叶红似二月花》）

“缺货”（在庫切れる）2.37　経済

以上の使用例を分析してみると、中国語のほうは「心・精神」の動作をあらわす動詞とよく共起する。ほかには、言語表現を表す動詞と共起することもやや多い。

日本語「一時」と中国語“一时”のかかる動詞の種類による統計の結果は表３のようになる。

表 3 「一時」／“一时”の共起動詞分類

項目	“一时” 186 例	「一時」 119 例	「一時に」 107 例	「一時的に」 193 例	「いっとき」 111 例
2.12 存在	-	8.40%	3.74%	13.47%	4.50%
2.15 作用	22.58%	54.62%	30.84%	51.81%	44.14%
2.30 心	46.24%	9.24%	21.50%	8.29%	27.03%
2.31 言語	14.52%	5.04%	6.54%	0.52%	7.21%
2.33 生活	2.69%	0.00%	1.87%	3.63%	4.50%
2.34 行為	0.54%	0.84%	0.00%	2.59%	0.00%
2.35 交わり	0.54%	0.84%	0.93%	2.07%	0.90%
2.36 待遇	2.69%	4.20%	0.93%	5.18%	0.00%
2.37 経済	9.14%	13.45%	14.95%	8.29%	2.70%
2.38 事業	1.08%	0.84%	7.48%	2.59%	1.80%
2.50 自然	-	–	3.74%	0.00%	1.80%
2.51 物質	-	0.84%	2.80%	0.52%	2.70%

2.57 生命	-	1.68%	4.67%	1.04%	2.70%

表 3 に示されるように、中国語“一时”と共起する動詞には、「心」の意味を表す動詞が46.24%という高い比率である。また、“一时”がかかる述語は状態をあらわす形容詞（主述表現“一时心急”）もよく用いられている。一方、日本語「一時」は「作用」の項目に集中的に用いられ、54.62%である。日本語の「一時に、一時的に、いっとき」の使用例も分析してみると、同じ傾向がみられる。中国語の方は「言語」の意味をあらわす動詞と共起する用例も比較的にやや多い。すなわち、中国語の方はよく精神、状態など静的な述語を修飾することに対して、日本語の方はより変化など動的な述語を修飾していることが分かった。

5. 述語形式について

つぎに、副詞「一時」／“一时”の述語関係について分析し、おもに、述語の否定形式について日中の相違を調べる。

中国語“一时”の否定形式述語文は全体の 44.09%という高い比率である。とくに、“没 /不 +動詞”、“動詞 +不 +補語”などのような否定述語と共起している。また、“无法 /难以（～しにくい）+動詞”のような述語と共起し、「不可能」の意味をあらわす。

20）正拌着凉菜的路喜纯，瞟了这位詹姨一眼，心想真是越外行越敢支嘴，不过他搞不清薛家同这位詹姨的关系，所以，一时 便没有张嘴发话。（前菜をもりつけていた路喜純は、ちらっと彼女にひと目くれ、“これだから素人は困る”と思った。しかしここの家とどういう関係の人かわからなかったので、何も言わなかった。（《钟鼓楼》）

21）罗汉大爷被眼前发生的一连串事情弄得蒙头转向，一时 都分不清东南西北。（羅漢大爺は目の前で起きた一連の出来事に頭がくらくらして、とっさには東西南北の区別さえつかなくなってしまった。）（《红高粱》）

22）可见利用谣言和流言陷害别人的方法，在中国是源远而流长的。一时 难以绝灭。（噂を流して他人を陥れる方法は、中国では大昔からあったのだ。一朝一夕になくせるものではない。）（《人啊，人》）

一方、日本語「一時」の否定形式をもつ文は全体の 15.13%にとどまっている。その中では、例 23）のように「～できない」の用例がやや多いが、例 24）の「開かない」のように、動詞の否定形と共起する例が若干見られる。

23）被保険者または保険料の連体納付義務者（世帯主または配偶者）が、次の 1～３の理由のいずれかに該当し、保険料の全部または一部を 一時に 納付できないと認められた場合は、納付できない金額を限度に徴収（納付）が６ヵ月以内で猶予、または減免されます。（『広告紙「もみじだより」』）

24）彼女とクロードの関係は、リタとわたしのそれと同じくらい親密なものだった」いっとき、どちらも口を開かなかった。（『アイスバウンド』）

このように、日本語「一時」と比べて、中国語“一时”は否定形式文に傾斜しているこ

とが指摘でき、さらに、必要性、可能などのポテンシャルな用法がより多く使用されている傾向がみられる。

6. まとめ

本章では、四つの観点から日本語の「一時」と中国語の“一时”を対照して、二語の異同を考察した。

①文の意味からいうと、「(かつて) ある時、しばらくの間、当座」という共通の意味を有しているが、異なっている意味についてみると、日本語には「時刻」、「同時」の意、中国語には「時には」という特別な使い方がある。

②機能からみれば、両語はともに修飾用法を中心に、日本語「一時」には「ーに」、「ー的に」の使用数が比較的に多い。

③副詞と動詞とのコロケーションからみれば、日本語「一時」より中国語“一时”は「心」という精神的活動において多く用いられる。日本語「一時」は「作用」など動的な意味を表す動詞によく用いられる。

④述語形式からみると、日本語「一時」より中国語“一时”は否定形式およびポテンシャルな用法に傾斜している。

第三部　「再」／“再”を含む中日同形副詞

第二部では数詞「一」を含む二文字同形副詞を中心に対照考察した。数字「一」／“一”以外に、「三」／“三”を含む同形副詞「再三」／“再三”が日中両言語において比較的高い頻度で使用されている。本部分においては、「再三」／“再三”について同じ方法で比較する。さらに、「再三」と類似する副詞も補足的に考察する。漢字「再」は数詞「二」の意味用法をもっていて、動作行為の発生回数を限定して、「動作行為の繰り返し」という意味がメインとなる。両言語においてともに高頻度使用の「再度」、「再三」があり、また、現代中国語において高頻度で使用される“一再”に対して、現代日本語の「一再」はあまり用いられない。ほかには、両言語においてともに低頻度での使用となる「再再」、「再三再四」もある。具体的に上げると、「再び」／“再”、「再度」／“再度”、「一再」／“一再”、「再再」／“再再”　、「再三再四」／“再三再四”など一舉而二也”（二回、重複）　の意味をあらわす「再」／“再”を含んでいる中日同形副詞である。

「再」がほかの語と組み合わさり、「数詞＋数詞」タイプの連合複合語である「再三」「一再」「再三再四」「再再」と「数詞+動詞」タイプの偏正複合「再度」の二種類に分けられる。前に述べた「一」を含む副詞と比べると、「数詞+名詞」のタイプは見つからない。

この部分において、まず、日中両言語においてともによく用いられる「再度」、「再三」を取り上げ、意味的、形態的違い、とくに動詞との組み合わせ、述語形式における違いなどを検証する。また、日中両言語において、「再び」“再”が副詞としてよく使用されているので、「再び」／“再”も対象として研究に入れる。最後に、「一再」「再三再四」「再再」という実際に存在しても現代にはやや使用頻度が低い副詞にもすこし触れてみることにする。

第一章　「再度」と“再度”

1. はじめに

日中両言語には、ともに頻度を表す副詞がある。仁田義雄（2012）では「＜頻度副詞＞とは、一定期間内に、ある間隔を置いて生起する事態の生起回数のあり方を多寡性をも含めて表す副詞である」と規定されている。この定義をふまえて、「再」を含む１グループの頻度副詞を取り出して、日中対照の側面から、①それぞれの意味、②文中での形態、③共起動詞の意味タイプ、④文中での位置などの異同を考察する。

日中両言語では、「再度」は文章語として用いられるが、日本語のほうが中国語より多く使用されている。中国語「再度」については、データベースから 200 の例文を得た。また、日本語「再度」の使用例は何千もあるが、本研究では 200 の例文を抽出した。

2. 「再度」の「度」について

現代中国語には、動作行為の発生、反復する回数を表す「動量詞」がある。たとえば“次、遍、回、度”などがよく用いられている。それに対して、現代日本語では「助数辞」[39]と呼ばれる。「回、度」などのような「助数辞」は動作行為の回数を表している。本章では日中の「度」／“度”を対象にして、両言語において使用頻度の高い「一度」／“一度”、「再度」／“再度”の同形語二組について、それぞれの相違を考察する。

2.1. 中国語の“度”

中国語の“度”は動量詞で、動詞“度過”からきたものである。動詞“度過”の意味が弱化し、動作行為の回数を表す動量詞としての性格をもつようになった。現代中国語では使用頻度の高い動量詞“度”は動作行為を意味することから動量詞へと文法化したものである。動量詞は、動作行為の量をいうものであり、連続量を表す場合と離散量を表す場合とに大きく分けられる。連続的量とは、動作の継続をする時間や期間のことをいい、“分钟，小时，年……”などの単位で示される量である。一方離散的量とは、動作行為の回数のことをいう。現代語では離散量である回数を表す場合も数詞に動量詞を付加するのが一般的であるので、漢代以降、動量詞の付加が義務的となるような変化があった。

(ア) 《北史・李彪传》：“彪前后 六度 衔命”。
(イ) 唐　王勃《滕王阁诗》：“岳云谭影日悠悠，物换星移 几度 秋。”
(ウ) 唐　杜甫《天边行》：“九度 附书向洛阳，十年骨肉无消息。”
(エ) 宋　辛弃疾《青玉案*元夕》：“众里寻他 千百度，蓦然回首，那人却在灯火阑珊处。”
(オ) 郭小川《大海浩歌》：正月十五的月亮，又有 两度 下山崖。
(カ) 毛泽东《采桑子・重阳》：一年 一度 秋风劲。

---

[39] 『日本語文法事典』p 333 村木新次郎は「「ひと-つ」「ふた-り」「三-匹」「四-個」などの形式は、伝統的には助数詞と呼ばれているが、「つ」「り」「匹」「個」などは、単語の部分であるから、助数辞とするか、類別辞（classifier）とすべきであろう。」と主張している。

動量詞の発生は先秦時代、魏晋南北朝期、唐の時代という三つの主張[40]があるが、唐代に入ると、“度”が広く動作行為の量を表すために用いられている。おもに書き言葉として用いられ、動詞を修飾し、動作行為の回数を表す。「数詞+度+動詞」のパターンが一般的である。“度”は中国語の量詞として、数詞と共起し、上記のように「一度、六度、九度、千百度」などの言葉表現が作れる。

数詞“一”と組み合わさって、“一度”となって、文法からみると、動量詞および副詞の用法がある。また、意味からみると、①動作行為の行う回数「一回」（離散的動作量）、②動作行為の時間量「しばらくの間」（一が替えられなくなる。フレーズから一語になる）（連続的動作量）、③時間副詞「かつて」（時間軸の過去点）（一度は数詞+動量詞の組み合わせではなく、一つの単語として、数詞の置き換えも不可能である。）という三つの分類がある。唐の時代から副詞的な用法がみられる。

すなわち、中国語の“一度”の意味の変遷は“动量义 （‘一次’）> 时量义（‘一阵’）> 经历义（‘过去发生’）”文法特徴はまずすでに発生したこと、“一度+VP”のパターンである。

2.2. 日本語の「度」

日本語の「度」は中国語から伝わって、本研究では、動詞を修飾する副詞的な用法を考究するために、「度」が単語の部分であるから、「助数辞」の呼び方を使う。

(キ)『平家物語』（13c 前）八・法住寺合戦「天も響き大地もゆるぐ程に、時をぞ 三ケ度 つくりける」

(ク)『古今著聞集』（1254）一一・三八四「されば道風朝臣の申文にも、七度 けがせるよし載たり」

(ケ)『浄瑠璃・松風村雨束帯鑑』（1707 頃）一「一度 ふつっと喰ひ切たり」

(コ)『今昔物語集』(1120 頃か) 二九・二「多衰丸は顕れて人に被知たる盗人にて有ければ、常に蔵穿つ事をぞ役としける、度々被捕て獄に被禁けり」

(サ)『色葉字類抄』（1177－81）「度々トト」

(シ)『コンテムツスムンヂ（捨世録)』（1596）一・一〇「ヒトニ マジワル　マジキ　モノヲトヲモウ　コト　dodoni（ドドニ）ヲボユナリ」

以上の例文からみれば、12 世紀以降、日本語の「度」は、数詞「一、三、七」などと組み合わさり、動作行為の回数を表す用法として存在してきた。漢語から伝わった「度」は和語の「たび」と対応され、歴史の流れで、お互いに影響しあい、「度」の意味および文法用法なども変わってきた。

以上、日中両言語には「度」／“度”が存在しているので、数詞と組み合わさり、動詞を修飾する副詞がよく使用されている。本章では同形語対照するために、使用頻度が高い「一度」／“一度”、「再度」／“再度”をとりあげて考察する。

『中日対訳コーパス』を利用して、「再度」／“再度”の使用状況を調べてみると、書き言

[40] 吳伯芳（1990）では先秦、刘世儒（1965）では魏晋南北朝、王力（1980）では唐の時代とされている。

葉として、使用例が多くない。日本語の「再度」は 5 例で、中国語訳語“再次”3 例、“又”1 例、“再”1 例となっている。中国語の“再度”は 18 例で、日本語訳語「ふたたび」6 例、「もう一度」2 例、「また」3 例、「今度」「二度目」「さらに」など 1 例ずつである。日本語の「再度」＝中国語の“再度”という一対一の対応訳語は見つからなかった。

3. 意味の対照

3.1. 日本語の「再度」

『日本国語大辞典　』（第 2 版）に記載されている語釈は下記のとおりである。

【再度】[名詞]　もう一度。二度。ふたたび。両度。副詞的にも用いる。

＊康頼宝物集(1179 頃）上「治承元年の秋の比、薩摩国の嶋を出て、同二年の春 再度 旧里に帰て侍しかども」

＊高野本平家(13ｃ前）五・勧進帳「痛ましい哉。再度 （サイド）三途の火坑にかへって、ながく四生苦輪にめぐらん事を」

＊和英語林集成（初版）(1876)「Saido　サイド　再度」

＊幼学読本(1887)＜西邨貞＞初歩「一般に初度は楷書を以てし、再度 以上は行書を以てして之れを区別せり」

＊明暗(1916）＜夏目漱石＞一〇五「お延には夫の気持ちがありありと読めた。彼女は心の中で 再度 （サイド）の衝突を惧（おそ）れた」

つぎは、『現代副詞用法辞典』における副詞「再度」の語釈である。

「再度」:（副）ふたたび。二度。「～試みろ」

①彼は去年落ちた大学にさいど挑戦するそうだ。

②（選挙運動）さいどのお願いにあがりました。

【解説】同じ行為をもう一度繰り返す様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。動作をあらわす語にかかる修飾語として用いられる。かなりかたい文章語で、公式の発言に用いられることが多い。文章では「ふたたび」を会話では「もういちど」を用いることが多い。ただし「もういちど」にある追加の暗示はない。

3.2. 中国語の“再度”

まず、歴史的変遷の中での“再度”の意味の変化について、《汉典》を参考にすると下記のとおりである。

【再度】 [once more;once again] 再次;又一次　（ふたたび、もう一度）

例文：决不允许历史的悲剧再度重演!（歴史の悲劇が再度繰り返されることは決して許しません。）

＊毛泽东 《＜农村调查＞的序言和跋》:“我 再度 申明 :出版这个参考材料的主要目的,在于指出一个如何了解下层情况的方法, 而不是要同志们去记那些具体的材料及其结论。”

（私は もう一度 申し上げますが、この参考資料を出版する目的は、主に、如何に民衆の状況を把握するかを提示することです。その具体的な材料及びその結論などをそのまま暗記させるわけではありません。）

＊ 冰心 《追念振铎》:“当我们在一九三六年秋，再度 赴美的时候，他已经回到上海了。”（一九三六年の秋、わたしたちが ふたたび アメリカに行ったとき、彼はすでに上海に帰っていた。）

日中両言語における「再度」は、意味上からみれば、ともに「もういちど、ふたたび」の意味で用いられる。ただし、日本語のほうは、副詞以外に、名詞としても使われる。

4. 文中での形態および動詞とのコロケーション

4.1. 文中形態

次に、形態上、文中の働き、述語形式、動詞とのコロケーションから相違をみてみよう。日中の「再度」は話し言葉としては使わない。固い文章語として使われる場合が多い。

現代中国語では、「再度」が動詞の前に来て、主体の動作および行為を表す動詞を修飾する。形態からみれば、中国語「再度」は、例(1)のように、直接動詞の前にきて、動詞を修飾する役割を果たす。すなわち、「再度＋ø＋Ｖ」という形になっている。

1）许多专家还认为，在今后二十年内，这一情况将会 再度 出现。（今後 20 年以内に、このようなことが ふたたび 現れると多数の専門家は主張した。）（《自然辩证法简明教程》）

2）实际上我对于白苹给我美丽的印象，不愿意作 再度的 绘描，则是实情。（白苹の美しさについて、ふたたび描きたくないのは事実である。）（《风萧萧》）

例 2)は「再度+的＋Ｖ」は、名詞マーク“的”が付くことによって、動詞「绘描」が名詞連語「再度的绘描」となり、このことで、動詞「作」の目的語の役割を果たせる。“的”がなければ、「不愿意再度绘描」のように、「再度」は動詞「绘描」を修飾して、副詞的に用いることが可能である。

日本語「再度」の形態は、例（3）～（6）のように、「再度＋の＋Ｎ」、「再度にわたる＋Ｎ」、「再度にわたり＋Ｖ」、「再度＋Ｖ」などがある。

3）英語で話しかけたいのを、ぐっと堪えて、私は 再度 の訪問を約束して、その家を出た。（『ミステリー日本地図』）

4）広開土王の 再度にわたる 攻撃で漢水（漢江）以北の諸城や要衝の関弥城を奪われながら百済の辰斯王はまったく援軍を送らず見殺しにしたあげく、その年の十一月に亡くなったと述べたが……（『人物韓国史』）

5）千九百十二年以降 再度にわたり 、王宮跡と鶏園寺跡が発掘され……（インド佛跡巡礼）

6）従って貴殿の意思並びに行為を確定的に知りたいので 再度 左記の点に関し質問する。（この国の奥深く）

形態からみれば、中国語の「再度」はほぼ「再度＋Ø＋Ｖ」という形で、動詞の前にきて、

副詞として動詞を修飾する。一方、日本語の「再度」は「再度＋の＋N」、「再度にわたる＋N」という形で、名詞を修飾し得る。また、「再度＋V」、「再度にわたり＋V」という形で、動詞も修飾する。

4.2. 共起動詞とのコロケーション

ここでは、語彙的意味に基づき動詞を人間主体か否かで二分する。人間主体動詞には物理的活動・社会的活動・精神的活動という 3 種類が属する（今井（2000）を参考にする）。

表 1 共起する動詞の分類

動詞の分類	日本語（163 例）比率	中国語（200 例）比率
非人間主体の動詞	4.91%	42.5%
人間主体の動詞	95.09%	57.5%
物理的な活動を表す動詞	40.49%	12%
精神的な活動を表す動詞	13.50%	5.50%
社会的な活動を表す動詞	41.10%	39.50%

（データから副詞的な用法を抽出した。日本語 200 例の中には 163 あるが、中国語データでは全てが副詞的な用法である。）

7）许多专家还认为，在今后二十年内，这一情况将会 再度 出现。（今後 20 年以内で、このようなことが ふたたび 起こると多数の専門家は主張した。）（《自然辩证法简明教程》）

中国語「再度」のほうは非人間主体が発する動作をあらわす動詞とよく共起する。例 7）のように「現れる、入る、起こる、落ちる、高まる、なる…」など変化を表す動詞が多い。

8）高娃 再度 来北京，是 1979 年五月了。（高娃が２度目に北京に来たのは 1979 年５月だ。）（《斯琴高娃从草原上来》）

例 8）のように、「再度」が「来る／行く／戻る／入る／離れる」などの人間主体の移動動作を表す動詞とよく共起する。

また、「再度」の後ろにくる動詞の肯定否定の範疇からみれば、ほとんど動詞は肯定形式と共起しているが、否定形式は１例しかない。

9）1990 年，市场疲软，解放车销路下降，桦林轮胎 再度 卖不出去。（1990 年、市場が不景気なので、解放銘柄の車の売り上げが下がって、桦林タイヤがまた売れなくなった。）（《人民日报 1992-12-1》）

「再度＋卖＋不出去」をみると、「再度」は「売る」の否定式「売らない」を修飾するのではなく、「売れない」という結果を修飾している。言い換えれば、「再度」は動詞の否定形を直接修飾することは不自然な言語表現であろう。「再度」は動詞の肯定形式と共起するが、否定形式とは共起しない。また、非人間主体の発する動詞と共起する場合は、その状

況、結果などを修飾することが多い。人間主体の発する動詞と共起する場合には、「言い出す、表明する、当選する、受賞する」などの社会的な活動を表す動詞と共起することが比較的に多い。

日本語「再度」は人間主体の動詞とよく共起する。下記例 10）－12）のように、「社会」、「精神」、「物理」的な活動を表す動詞である。

10）「親に迷惑はかけたくない」と一年後にサンパウロ大学を 再度 受験したところ見事合格。(『世界の教育』)

11）むしろ判決は、人権侵害の程度を中心にしながら違法の程度を 再度 考慮する。(『捜査と防御』)

12）しかし、主丞の言うことを聞かずに霰は、今度こそとはばかりに、再度 銃口を向ける。(『乾いて候』)

13）アドベの壁は一メートル以上の厚さを持つ巨大かつ堅固なものだったが、ここは千八百四十七年に 再度 発生した通称「タオス・プエブロの反乱」と呼ばれる反アングロ支配を掲げる抵抗運動が起きた際の諸部族連合組織の作戦司令本部としても使われたという。(『ニューメキシコ』)

14）さらにこのように相転移によって作られたミニ宇宙の中でも 再度 相転移が進行するので，ミニ宇宙からさらにミニミニ宇宙が作られるのである。（『現代の宇宙像』）

15）植林しても根づかずに枯れたり、雨で流されたほか、止まらぬ煙害によって、再度 、枯れてしまったらしい。(『日本の美林』)

「再度」は日本語では主に人間主体の動詞と共起する。一方、中国語では、非人間主体と人間主体の動詞使用率がほぼ半々である。その人間主体の動詞において、日本語のほうは物理と社会的な活動を表す動詞との共起がほぼ同じく用いられているが、精神的な活動を表す動詞との共起は少ない。中国語のほうは、同じく精神的な活動を表す動詞とはあまり共起せず、社会的な活動に比較的に多く用いられる。

共起動詞の時間性から分析してみると、日本語「再度」と中国語“再度”は同じく継続動詞との共起がより多い傾向にある。状況動詞「ある」などの共起は見つからなかった。日本語「再度」の 164 例は、継続動詞 114 個、瞬間動詞 50 個である。一方、中国語“再度” の 93 例は、継続動詞 54 個、瞬間動詞 39 個である。

5. 文中での位置について

日本語の「再度」が文頭に用いられるのは全体の 6.13%であるが、中国語のほうは見当たらない。

16）証拠となる事実は一回目の裁判の時とほとんど同じだった。再度 テックスの過去の暴力行為の話を待ち出したベリーは、彼がマコーケタのワゴン・ホィールという酒場で、ある男をスツールから引きずり落とし顔を踏みつけた点、頭をフライパンで叩いたことがある……（『アメリカ殺人白書』）

17）千九百四年、当時の民族団体・一進会派遣の留学生として渡日、明治学院などで学ぶ。帰国後、定州の五山中学で教師として勤務しながら著作活動を始める。再度、日本留学し早稲田大で哲学を学ぶかたわら、長篇小説『無情』を「毎日申報」に連載、朝鮮最初の近代小説との評価を受ける。(『「酔いどれ船」の青春』)

18）降りしきる雨の中で、酒に酔いながら集結した人々は、「再度 御所に押しかけよう！」といった。真木和泉がその先頭に立っていた。真木和泉にすれば、ここで退いたのでは立場がない。(『夜明け前の女たち』)

19）以上の４例が原因で直線に裁断できないことが多いので、この項ではこれらのことを考慮しての練習。再度、前項の物差しでの練習をおこない、切ろうとする意識を捨てて、定規の側面にピタリと当てて引くということだけに意識を集中する練習をするとよい。(『私にもできる裏打と裁断』)

20）ボフィン氏は諦念の態で下り来るや、ヴィーナス氏に友好的な暇乞いをしてから、身柄を預けた。再度、監視人と被監視人は共々通りを縫い、かくしてボフィン邸の玄関先へ到着した。(『互いの友』)

中国語のほうは、文頭にくる例がほとんど見つからないが、日本語のほうは、若干見られる。中国語では、「再度」が主語の後にきて、主語の動作、行為を表す動詞を修飾し、日本語では、「再度」は同じような役割を果たすが、日本語は主語を省略する場合が多いので、文頭にくる例文もおかしくないと思われる。

6. まとめ

中日同形語「再度」／“再度”の相違について、下記のようにまとめた。

① 意味の上：同じく書き言葉で、「もう一度」の意味である。

② 文中での形態：中国語「再度」は「再度＋ø＋Ｖ」という形で、動詞の前にきて、副詞として動詞を修飾する。一方、日本語「再度」は「再度＋の＋Ｎ」、「再度にわたる＋Ｎ」という形で、名詞を修飾し得る。また、「再度＋Ｖ」、「再度にわたり＋Ｖ」という形で、動詞も修飾する。

③ 共起動詞の意味タイプ：中国語のほうは、人間主体の動詞と非人間主体の動詞と共起する。それに対して、日本語のほうはほぼ人間主体の動詞と共起する。そのうち、人間の物理的な動作を表す動詞がより多用される。また、両語はともに状況動詞とは共起しないが、日本語の場合は継続動詞と共起することがより多い。

④ 文中での位置：日本語のほうは文頭に来ることが可能だが、中国語のほうは文頭に位置することは不可能である。

また、“再度”の“度”は動詞“渡過”からきた動量詞であるので、歴史のなかで、動作行為が発生する時間量の役割から、動作行為の発生回数を表すようになった。中国語では、数詞“一、二、三...”などと組み合わさって動詞を修飾する役割を果たす。“一度”の場合は動作行為の発生時間量を表す機能が残っているが、特に状況動詞との共起が可能であ

る。しかし、“再度”の場合は、“度”の時間量をあらわす役割がなくなり、動作行為の発生回数しか表せなくなった。日本語では、「一度」「再度」の主な役割は動作行為の回数を表すことであり、すなわち頻度の意味を表しているが、“度”の時間量を表す役はほとんど見つからない。「一度」の場合は陳述的な意味という独自の役割を果たすようになったが、「再度」の場合はアクチュアルな回数を表す。その違いの理由について、数詞「一」「二」（再）と何か関係があるかどうかは、今後の課題として続けて考察していきたい。

第二章　「再三」と“再三”

1. はじめに

日中両言語における同形語「再三」／“再三”は、ともに副詞に所属し、中頻度をあらわす単語であるが、当該単語における両言語の使用には若干の相違がみられる。中国語“再三”については、周小兵，邓小宁（2002）、邹海清（2004）、陈全静（2011）、张焕香（2011）などが、歴史的変遷および類義語“一再”との比較などの点に言及している。日本語の頻度副詞については、江雯薫（2011）が頻度副詞、とくに低頻度に関わる副詞の類義語を対象にして研究した。日本語の「再三」と中国語の“再三”とを対照して研究したものとしては、施建军ほか（2012）といった成果がある。それはコーパスに基づいて「再三」／“再三”の使用実態を、共起動詞の特徴、文法機能、複文における節の前後関係という三つの角度から考察した研究である。とくに、中国語“再三＋V”パターンと“V＋再三”パターンに入る動詞について「単音節」「二音節」の差が観察されている。しかし、それぞれの意味の変遷、文中での働き、所属している主節・従属節の違いなどには詳しく言及されていない。本研究は以下の点で、先行研究とは異なる。

1. 共起動詞の意味的分類について

施建军ほか（2012）では次のように分けている。中国語の共起動詞については、①“说、告”類、②“思、疑”類、③“请、辞”類、④“谢、歉”類、⑤“问”類、⑥“品、味”類、⑦“其他”類と意味的に分けている。日本語の共起動詞については、①“说、告”類、②“非自主动词”類、③“请、辞”類、④“请、辞”類、⑤“问”類、⑥“思、疑”類、⑦“其他”類と七つに分けている。この分類は日中両言語で異なる基準が適用されているので、同じ基準でないという点で問題である。

本研究は比較のための中間項となる概念の体系として『分類語彙表』（2004）を利用する。利用したのは、その分類体系が優れているからである。

2. 文法機能について

施建军ほか（2012）は、中国語“再三”については副詞用法と数量名詞的用法という“再三”の品詞的用法に着目して分析した。日本語については「再三」の「再三にわたる、再三にわたり／わたって、再三ならず、再三に及び」といった慣用的表現を分析して、その副詞用法を強調した。

本研究では、「再三」／“再三”が文中でどのような成分として使用されているかを、比較対照した。文中での成分は、大きく、骨格成分と拡大成分に分かれるが、「再三」／“再三”の働きを分析した。

また、施建军ほか（2012）では、前節と後節の論理関係「逆接、譲歩、並列、時間、原因」などを比較している。

それに対して、本研究は、まず主節か従属節かでの使用異同を分析した。さらに従属節のうち「逆接節」に注目し、その使用を検討した。

本研究でコーパスとして用いたのは次の二種類のものである。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で「再三」の漢字表記で検索すると、369 回出現したが、文語「再三なり」の実例を除外して、368 の実例が得られた。“北京大学现代汉语语料库”で“再三”の表記で検索すると、2,414 回出現したが、日本語の実例数を考えて、出現した順序にしたがって、341 の実例を検討対象にした。

本研究では先行研究を視野に入れながら、日中両言語における同形語「再三」の①意味的、②形態的な側面、③動詞との組み合わせ、④述語形式に着目しながら、異同を検証することにしたい。

2. 日中「再三」の意味解釈

まず、日中両言語の複数の辞書の記述から、それぞれの意味を調べてみる。日本語の「再三」は中国から受け入れた漢語であるが、日本での使用過程で、中国語との間で意味上、かつ用法のずれが生じることもあったと思われる。本研究では現代語の「再三」／“再三”を対象にしているが、古代語の意味・用法を視野に入れながら、そのずれを考察する。

2.1. 日本語「再三」

2.1.1. 現代日本語の「再三」

飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』には下記のように「再三」の使用例をまとめている。

① その店はさいさんにわたる警告を無視して違法出店を続けた。

② （教師が生徒の母親に）「息子さんは遅刻が多いですね」「さいさん注意してるんですけど」

③ 彼女が映画が好きなのでさいさん付き合わされた。

④ 父は叔父のさいさんの頼みを聞き入れて甥を自分の会社に入れることにした。

例文からみれば、「再三」の意味は、「何度も繰り返す様子をあらわす」とあり、「ややマイナスイメージの語」と言われる。文中での働きからみれば、「①～③は述語にかかる修飾語、④は名詞にかかる規定語の用法である。述語にはならない」と記述されている。評価的意味からみれば、「主体が何度もある行為を繰り返した結果、目的を達せられない暗示があり、主体の不本意さが暗示される。」と強調する。さらに、④のように目的を達せられる文脈ではあまり用いない。③のように行為自体を修飾する場合には、同じ行為を何度も繰り返すことについて話者の迷惑や不本意さが暗示されるとしている。

本研究の調査範囲では、述語になる例文も僅かながら見つかった。また、文にマイナスの評価的意味が感じられることがある。

2.1.2. 古代日本語

『日本国語大辞典』（第 2 版）には【再三】について、「[名詞]ある動作が二度も三度も行われること。しばしばであること。たびたび。多くは副詞的に用いる。」と記述してある。

下記のように用例が取り上げられる。(例文の下線は筆者による)

①. 早稲田大学図書館所蔵文書—天平勝宝七年（755）11 月 13 日・相模国司牒（寧楽遺文)「酬価欲買、願一定早報、勿致 再三 者」

②. 米沢本沙石集（1283）三・一「再三（サイサン）辞し申せしかども」

③. 虎寛本狂言・布施無経（室町末—近世初)「再三の 御使で御座ったに依って」

古代日本語の「再三」は修飾語②と規定語③として用いられることがある。

2.2. 中国語“再三”

2.2.1. 現代中国語の“再三”

『现代汉语八百词』によれば、“一次又一次。表示频繁重复。用于动词前，做状语。有时能说‘再三再四’。”（度々、頻繁である様子や繰り返しをあらわし、動詞の前にくる。“状語”（修飾語に相当する）として用いられる。“再三再四”の言い方もある。）また、『现代汉语虚词词典』の解釈では、「“再三”は中立およびプラスの評価的意味の語の前にくる」と記述している。

中国語の副詞のもっとも重要な働きは“状語”として後置する述語を修飾することである。例えば、“再三嘱咐他”（再三にわたって彼に言い付けた）では、“再三”は動詞の前に置かれて“状語”として、後の述語“嘱咐他”（彼に言い付けた）に関する様態、反復などについて説明している。“再三”は、また“考虑再三”（何度も考える）のように、動詞の後に置かれて、述語のあらわす内容（動作、行為、性質、状態）をさらにくわしく説明することもある。こういう場合は、“再三”が“補語”（動詞に後置し、動作の結果、方向、回数などを特徴づけるもの）であると考えられる。本研究では“状語”であれ、“補語”であれ、いずれも述語にかかる修飾語として認める。

2.2.2. 古代中国語

《汉典》によると、中国語の“再三”は下記のように記述されている。

1.第二次第三次；一次又一次；一遍又一遍。(二回目、三回目；一回もう一回；)

①《易·蒙》：“初筮告，再三 瀆，瀆则不告。”（初めて占いに行くと、教えられるが、何度も繰り返すと、神様への冒瀆となって、教えを受けられない。)

『古漢語大詞典』では、“再”は数詞で、「第二次、二次」の意味とある。古代漢語の“再三”は“等位フレーズ”(複数の同類の語が並列関係に基づいて結びついたもの)として使われる。陈全静（2011）によれば、漢の時代までは、“再三”は“再”と“三”の二つの数詞からなる回数を強調するものであった。魏晋の時代に、副詞として使われるようになって、動作行為の反復をあらわすようになった。

2.犹言非常，极其。（非常に、極めて）

① 唐 刘知几 《史通·本纪》:“ 霸王者，即当时诸侯，诸侯而称本纪，求名责实，再三 乖繆。”(当時、覇王は諸侯でありながら、本記で記載されることになった。名義上また事実上から見れば、極めてでたらめであった。)

② 清 李渔 《奈何天·狡脱》:“未曾过门的时节，我替那女子十分担忧，又与这村郎 再三 害怕，不知进门的时节，怎生吵闹，何计调停。”（あの男は非常に怖くて、もし結婚したら、どんなに喧嘩するか。彼女が嫁入り前に、私はとても心配していた。）

以上のように、中国語“再三”の古代用法には、1. 頻度をあらわすものと、2. 程度をあらわすものの二つがあるが、現代中国語には程度をあらわす用法が消えてしまった。また、日本に伝わった「再三」は頻度をあらわす用法だけが用いられている。現代日中両言語の「再三」／“再三”には、「何度も繰り返す様子をあらわす」という共通点があるが、日本語では、「ややマイナスの評価的意味」という記述が見られ、この点で相違する。中国語では「中立およびプラスの評価的意味の語の前にくる」という記述が見られるが、そうであるか否かを確認する。

3. 「再三」／“再三”の文中での機能

3.1. 日本語「再三」の機能

「再三」はおもに述語にかかる修飾語と、名詞にかかる規定語の用法である。述語にはなりにくいが、述語の用例も僅かだが見られる。表１は「再三」の文中での形態である。

表１ 日本語「再三」の形態

文成分 368 例		バリエーション			
拡大成分[41]	規定語（14.1%）	再三の＋N	再三にわたる＋N	再三再四の＋N	再三再四にわたる＋N
	修飾語（84.5）	再三＋V	再三にわたって/にわたり＋V	再三再四＋V	—
骨格成分[42]	述語（1.4%）	再三である	再三にわたってである	—	—

（「再三なり」の文語用法が１例だけ出てきたが、現代日本語を対象にするので、その１例を研究対象から除去した。）

[41] 拡大成分：「対象的な内容の中核は、さらに、事態の成り立ちをさまざまな観点・側面から修飾・限定する成分を付け加えることによって、拡大していくことができる。」（『文の骨格』）本研究では、日本語の場合、文の規定語、修飾語にあたる成分を拡大成分として分析する。中国語の場合、文の“状語”、“補語”、“定語”にあたる成分を拡大成分として分析する。

[42] 骨格成分： 文の骨組みを作る主要な構文関係。本研究では、日本語の場合、文の主語、目的語、述語にあたる成分を骨格成分にする。中国語の場合、文の“主語”、“賓語”、“謂語”にあたる成分を骨格成分として分析する。

以下の例文 1）－4）では「再三」が規定語として後続の名詞にかかる。ただし、「誘い」「協定」「催促」「編成替え」などは、動作・行為をあらわす動作名詞であることが共通している。

1）ところが、われわれの大学の著名な哲学者は、再三の 誘いにもかかわらず今なお月を見ることも望遠鏡を見ることさえも拒んで、真理の光に対して目をつぶっております。（『相対性理論の誕生』）

2）最近では、寡占産業での 再三にわたる 価格協定に対し、価格についての一切の連絡が禁止された事例もあります。（『独占禁止法を学ぶ』）

3）広家は毛利秀元の軍勢一万二千を押しとどめて動かさず、小早川秀秋の一万六千人は、三成の 再三再四の 催促にも動かず、逆に大谷吉継の陣営に襲いかかった。（『日本を創った戦略集団』）

4）しかし維新期の混乱は行政機構の 再三再四にわたる 編成替えを余儀なくさせ、入会地を含む山林原野の地租改正は、明治八年からの鶴岡県の下で着手され、その完了時点の明治十年十一月においては山形県の管轄下にあった。（『農村社会の史的構造』）

また、例文 5）－8）では、「再三」が修飾語として動詞にかかっている。

5）それは、キリストはつねに一夫一婦を強く教えるにもかかわらず、「この世で配偶者に死別して、再三 結婚をしたものは、あの世での復活のとき、お互いの関係はどうなるのか。」とキリストに問うた者があった。（『山室軍平』）

6）「静かな夜を返して欲しい」という願いは、基地周辺住民の総意であることは、地元自治体の議会が 再三にわたって 党派を超えて採択した決議をみても明らかだ。（『東京・横田基地』）

7）まだほんの青二才が、ブルックナーの九番だなんて！　ラーベは 再三にわたり 、フルトヴェングラーの翻意をうながした。（『フルトヴエングラー』）

8）そこへギャング時代の仲間のディック・ミネ扮するジョーというヤクザが 再三再四 現れては、水島をまたもとの世界に引き込もうとするシーンがあったが、この場面と呉清源による執拗な双葉山への勧誘とがオーバーラップしたものだった。（『相撲牛場所』）

さらに、例 9）－11）は「再三」が「ある」「ない」といったコピュラを伴って述語になるものである。

9）氷島のなかで「いかんぞ」は出すぎている。「思惟」もあらわれること 再三である 。朔太郎の語彙は貧しいとその弟子にまでいわれた、可哀相な萩原さん！（『完本文語文』 ）

10）その結果、お静を責めたことも 再三ではなかつた 。しかし、お静はとりあはなかつた。（『徳田秋聲全集』）

11）次に、卸商であるグランドユニオンの倉庫に直接出向いてケースごと購入した。

再三 にわたってである。(『80,000 点に学ぶ新製品開発マーケティング』)

以上のように日本語の「再三」は述語にかかる修飾用法が中心である。しかし、名詞にかかる規定用法もみられる。述語になる使い方もないとは言えない。その述語用法は下記のような中国語“再三”の古代用例にも見られる。

12）李悝警其和曰：“谨警敌人，旦暮且至击汝。”如是者 再三 而敌不至，两和懈怠，不信李悝。（敵が朝か夜かきっと来るので、注意しなさいと、李悝は兵士に警戒を促した。このようなことが再三あったが、敵は来なかった。兵士達は怠けきって、李悝のいうことを信用しなくなった。）（《韩非子外储说左上》第三十二）

例 12）は「如是者」が主語で、“再三”が述語になって、文の陳述的な役割を果たしている。中国語では、現代語の“再三”は述語にならないが、古代には述語の用例がある。

3.2. 中国語“再三”の機能

刘月华（1988）は、“再三”が頻度をあらわす副詞であり、動作を描写する描写性状語と指摘している。描写性状語になる副詞は語末に“地”があらわれることが多いが、“地”の存在は義務的ではない。「妈妈再三（地）嘱咐他要当心（お母さんは、気を付けるよう再三彼に言って聞かせた）」のように、“地”があってもなくても意味は変わらない。下記表２が示すように、(「再三」+V）と（「再三」+“地”（“的”）＋V）の形態がよくみられる。“地”の使用が一般的であるが、まれに“的”が用いられることもある。

表 2 **中国語“再三”の形態**

文成分 341 例		バリエーション		
拡大成分	“状語”（86.8%）	再三＋V	再三“地”（“的”）＋V	再三再四“地”(“的”)＋V
	“補語”（12.3%）	V＋再三	—	—
骨格成分	“賓語”（0.6%）	V＋再三	—	—
	“謂語”（0.3%）	主語＋再三	—	—

（状語：述語の前にあって修飾の働きをする成分を状語という。補語：述語動詞と述語形容詞の後にあって補充説明をする成分が補語であり、補語は述詞性の語句であることが多い。数量フレーズも補語になれる。賓語：日本語の目的語にあたるが、動詞のあらわす動作の及ぶ対象、動作によって生じる結果、動作が行われたり到達したりする場所、動作に用いる道具・手段など。謂語：主語があらわしている題目について、何かを述べる部分、述語をいう。）

中国語“再三”は文中の位置によって、異なる文成分に分けられている。例 13）－17）では、“再三”は動詞の前に位置して動詞を修飾する役割を果たしている。中国語で“状語”というと、日本語の連用修飾語の用法に当たる。“再三”が動詞の後にくるので、“補語”と名付けられる。刘月华（1988）は「副詞の主な文法的機能は状語になること。…補語にもなれるものがあるが、“极”，“很”，“坏”，“死”，“透”等いくつかのものに限られる。」

と規定している。例 18）の“再三”は動詞との位置関係からみると、補語であるが、杨荣祥（2007）は“補語”の使い方は古代用法の名残りであるので、副詞ではなく、数詞であると主張している。本研究では、述語を修飾するという“再三”の機能から、例 18）のような使い方を“補語”として扱うことにする。

13）戴笠 再三 叮嘱我：“以后唐在上海有什么小麻烦事找你时，一定要尽全力去办…　（戴笠は、「唐氏がこれから上海で何か困ったことがあれば、ぜひ助けてあげてほしい…」と私に繰り返し言い聞かせた。）（《“花花公子”的晚节》）

14）我们院好事者围上去轮流握他那只手，再三地 握，双手捧住，紧紧抖动（うちのおせっかいな人達は順番に彼の手を握りに行き、何度も何度も握った。両手で持って、しっかりと振って）（《看上去很美》）

15）每逢她给客人拿出咖啡或果酱的时候，她必要 再三的 说明：“这是由英国府拿出来的！”（彼女がお客さんにコーヒーやジャムなどを振る舞うとき、必ず、「これはイギリスから持ってきたものだ」と説明するのが常だった。）（《四世同堂》）

16）张艺谋也帮着我 再三再四地 赔不是，并保证不重犯，要小伙子开恩。（張芸謀もわたしとともに再三再四にわたって謝って、二度としないと誓って、若い男に許してほしいと頼んだ。）（《我和张艺谋的友谊与爱情—〈往事悠悠〉》）

17）第二天见面，他会 再三再四的 道歉，说他母亲忽然的病了。（翌日会ったら、彼は何度も何度も、お母さんが急に倒れたのでと謝るはずだ。）（《四世同堂》）

18）在周恩来诞辰一百周年之际，我考虑 再三，最后还是鼓起了勇气，决心拿起笔来写这么一本书……（周恩来誕生 100 周年の際に、わたしは再三考えたあげく、勇気を出して、こんな本を書こうと決心した。）（《周恩来的最后十年》）

下記の例 19)の“再三”は動詞“没有”の“賓語”であり、名詞として用いられている。文脈での意味は「三回目」の使い方で、とくに“再一，再二，再三”という複数の節を並置する並列構造の中で用いられている。例 20）の「如是再三」は、例 12)「如是者再三」のような古代用法に似ているが、“再三”が述語になって、文の陳述的な役割を果たす。

19）彭钢常讲：一个参谋有三次建议权，我用两次，有再一，再二，没有 再三 。（一人の参謀には提案する権利が三回ある。わたしも二回行使した。でも、一回や、二回はいいが、三回もするのはよくない。彭鋼はよくそう言いました。）（《彭门女将》）

20）他把两手插入她的腋下，等于抱她起来。一松手她又坐下。如是 再三，方枪枪只得抱着她站在那里，（彼は両手を彼女の脇の下に差し込んで、ほとんど彼女を抱き起こした。しかし、手を引くと、彼女はまた座り込んでしまう。こんなことが何度もあったので、方槍槍は彼女を抱いて立っているほかなかった。）（《看上去很美》）

中国語“再三”は主に動詞の前にきて修飾する“状語”用法で用いられる。また、“再三”には動詞の後に位置する“補語”の用法（12.3%）が多少あるが、そこでは、動作の一定の時間量をあらわす。「考虑（考える），犹豫（躊躇する），央求（懇請する）」などのように、精神的活動をあらわす動作の時間量を示す。“再三”の前にくる動詞の中では 75%の高い比率で

ある。“再三”は動詞の前にくる場合に、「動作の回数」をあらわすことが多く、動詞の後にくる場合に、「動作の時間量」をあらわすことが多い。つまり、動詞との位置関係によって「回数（頻度）」と「時間量」が区別されることが多い。

4. マイナス・プラスの評価的意味について

『现代汉语虚词词典』によれば、中国語“再三”は中立およびプラスの評価的意味の語の前にくる。“再三失敗”の言い方はあまり使わないが、実例「经不起张太太 再三 怂恿，只好入局。（張氏に再三唆されたので、仕方なく参加した。）（围城）」の「怂恿」（唆す）はややマイナスの評価の語であるが、“再三”と共起することも可能である。本研究には、“再三纠缠”（再三付き纏う）のマイナス評価的な意味をもつ例文が 1 例しか見当たらない。

しかし『現代副詞用法辞典』によると、日本語の「再三」は主体が何度もある行為を繰り返した結果、目的を達せられない暗示があり、主体の不本意さが暗示される、ややマイナスの評価的意味を帯びる語であると指摘される。

21）彼の兄が帰国するようにと 再三 説得したが効果はなかった。（『第三の女』）

22）我 再三 向父亲要报纸看，父亲却不许可。（私は何度もお父さんに新聞を見せてくださいと頼んだけれども、見せてくれなかった。）（《辛亥革命与我》）

以上の例文のように、「再三」／“再三”が用いられる文にはマイナスの評価的意味が感じられる。特に逆接の文中でよく見られる。21)の「効果がなかった」のように事態の不成立をあらわす表現が続く。中国語“再三”も 22）の「却不许可（くれなかった）」という実態の不成立をあらわす。日中の「再三」／“再三”は主体が何度もある行為を繰り返した結果、目的を達せられない、ややマイナスの評価的意味が感じられることがある。

5. 共起する動詞の語彙的意味について

「再三」がかかる動詞の意味タイプについて考察する。まず『分類語彙表』に従って、動詞を分類して、例 23）－25）は日本語の、例 26）－28）は中国語の例である。

23）そして僕はアリスを週末にイェールに誘うことを 再三 考えはしたけれど、結局誘わなかった。（『偉大なるデスリフ』）

「考える」　2.3061 思考・意見・疑い／2.30 心

24）　これを私は 再三 言ってきました。（『「No」と言える日本』）

言う　2.3100 言語活動／2.31 言語

25）こちらの説明に、一言も質問や反論をしなかったのを見ると、どうやら息子から 再三 借金を懇願されていたのでしょう。（『なぜ人はジュンク堂書店に集まるのか』）

「懇願する」　2.3660 請求・依頼／2.36 待遇

26）她断言：“贝聿铭的唯美世界，无人可与之相比，我 再三 考虑后选择了他。”（「貝聿銘の耽美の世界は誰にも負けない。再三考えた末、彼にしました。」と彼女は断言した。）（『贝聿铭：世界建筑界的华裔皇帝』）

“考虑”（考える）　2.3061 思考・意見・疑い／2.30 心

27）我们 再三的 说下礼拜还要来，而且冬季要来看雪。（来週また来るよ。冬になったら、雪を見にくるよ。私たちは何度もそう言いました。）（《出游》）

“说”（言う）　2.3100 言語活動／2.31 言語

28）胡允恭见 再三 劝说无用，便急返上海向吴克坚汇报。（胡允恭は再三説得したが、駄目だと分かったので、急いで呉克堅に報告するために上海に戻った。）（《爱国将领陈仪被害案内幕》）

“劝说”（説得する）　2.3660 請求・依頼／2.36 待遇

以上の実例を分析してみると、日中の「再三」／“再三”の後の動詞は同じ動作をくりかえす反復性の特徴がみられる。「＊再三记得这件事。（＊再三覚えている）/＊再三喜欢看书。（＊再三好きだ)」のような状態をあらわす動詞とは共起しない。「＊再三死去（＊再三死ぬ)」のように、一回性だけの動詞と共起することはない。

「再三」／“再三”のかかる動詞の種類による統計の結果は表３のようになる。

表 3 共起動詞の意味分類

語彙分類項目	日本語368例	中国語341例
2.12存在	3.0%	0.0%
2.15作用	6.0%	1.2%
2.30心	12.2%	19.9%
2.31言語	29.3%	41.6%
2.33生活	3.3%	2.9%
2.34行為	2.7%	0.0%
2.35交わり	6.5%	7.0%
2.36待遇	14.9%	26.4%
2.37経済	1.6%	0.0%
2.38事業	1.4%	0.0%

表３に示されるように、日中両言語の「再三」／“再三”は「心、言語、待遇など」の精神的活動、社会的活動に関連した動詞との共起がよくある。共起する動詞の分布範囲は日本語のほうはより広い。しかし、「心、言語、待遇」の三項目で、中国語のほうはより多く用いられる結果が明らかになった。

以上のデータからみると、日中副詞「再三」／“再三”が修飾する動詞はほぼ人間主体の動作・行為をあらわす動詞であることが分かる。しかし、下記の例(29)（30）のように、「再三」は動詞「ある」と共起しているが、「ある」も人間主体の動作・行為をあらわす動詞であるか、という疑問が出て来る。

29）とにかく変わり者でね、気がおかしいんじゃないかと思うときも再三あるんだ。（『スラッシュグリーンからの風』）

30）洗濯は終わり、平気で干して、片付けてしまっていたでしょう。こんなことは再三ありました。（『カアサントコイク』）

例 29）では、何が「再三ある」のかといえば、「気がおかしいんじゃないかと思う…こと」がであり、例 30）も、再三あったのは「干して、片づけてしまう…こと」であった。この場合、述語「ある」の主語は「思う…こと」であり、「干して、片づけてしまう…こと」である。そして、副詞「再三」が実際に修飾しているのは、「思う」「干す」「片づける」のような人間主体の動作・行為をあらわす動詞にほかならない。

31）再発防止の徹底を図るよう米軍にも一層努力を求めまして、環境の保全に努力してまいりたいというふうに思っております。

○島袋宗康君：嘉手納飛行場からの油漏れというのは、再三再四油漏れが続発しているという状況でございます。（『国会会議録』）

例 31）では、国会質問という特別な場で、話し手の国会議員は、「油漏れが一向に解決されず、繰り返し起こっている」ということを強調するつもりで、「続出している」に、何回も何回も起こっているという意味の「再三再四」を付け加えて使ったと思われる。再三再四起こっているということと、続出しているとは同じ意味であるが、「再三再四続出している」というのはやや不自然であろう。「油漏れ」が人間主体とは言えないが、文脈から見れば、「再発防止」という人間的行為が欠けており、「人為的油漏れ」のニュアンスが感じられるので、人間の行為を修飾することに傾いているのではないだろうか。

また、例 32）「再三の噴火」の「再三」は動詞を修飾していない。非人間の出来事に用いられる。

32）駐車場があるため、マイカー登山者が多いようだ。駒ガ岳は再三の噴火による溶岩で全山が覆われており、砂原岳、隅田盛、剣ガ峰の三つのピークからできている。（『ふるさと富士百名山』）

中国語の“再三”は、日本語の例（32）のように、非人間の出来事に用いられる例が本研究では見当たらなかった。無生物主体の出来事が再三起こったことをあらわす文が実際の言語使用にはないとは言えないが、本研究の扱っている実例は限られたものであるので、今後さらに考察することにしたい。

例 29）・30）の「ある」は、人の意志でコントロールが不可能な「無意志動詞[43]」であるが、日本語の「再三」は、「ある」以外にも「出てくる」「発生する」「浮かぶ」のような「無意志動詞」と共起する実例が多少ある。ところが、中国語の実例では“再三”が「無意志

[43] 「意志動詞」：人の意志的な動作・人の意志でコントロールが可能な動作・行為をあらわす動詞。「無意志動詞」：人の意志的な動作・行為ではないもの・人の意志でコントロールが不可能な動作・行為をあらわす動詞。この基準にしたがうと、中国語には“自主动词”“非自主动词”という分け方がある。“自主动词由动作发出者作主，主观决定，自由支配的动作行为。非自主动词,动作行为发出者不能自由支配的动作行为，也表示变化和属性。”（马庆株 1992）（自主動詞は人間の意志でコントロールまた自由支配できる動作・行為をあらわす動詞。非自主動詞は人間の意志で自由支配できない動作・行為をあらわす動詞。）本研究では、日中両言語で「意志動詞」「無意志動詞」という分け方で統一する。

動詞」とともに使われる例は見当たらない。この結果は中国語“再三”は主に「意志動詞[6]」の前にきて、無意志動詞と共起しないという周小兵，邓小宁（2002）の指摘と一致した。文献資料のなかでは、唐の時代には、“再三”が無意志動詞の前に使われることもあった。（彼既聚兵，我更解甲，再三若此，贼以为常。《北史卷七十二列传第六五》）歴史の流れに従って、“再三”は無意志動詞の前に来る用法を“一再”という語に譲って、もっぱら意志動詞を修飾することになった。また、“再三”は動詞の後にくる用法で用いられ、“一再”のほうはその用法を失った。

6. 動詞の否定形について

日本語の「再三」であれ、中国語の“再三”であれ、動詞の否定形とは共起しにくい。史金生（2004）は、“再三”の頻度は実際発生した動作のものであり、否定的、未実現の動作のものではないので、否定副詞“不”と共起しないと主張している。すなわち、“再三”は「“不”＋V」を修飾しない。下記の例（33～35)には、“不是”“不必”“不”などの使用が見られるので、矛盾しているかどうか分析してみよう。

33）“和你看电影呀，你不是再三纠缠我吗？”　（私とあなたは一緒に映画を観るんですよ。あなたがそんなにしつこく私の後をつける必要があるんですか。）　（《瓦砾滩》）

34）先生，你不必再三盘问我，我们的背后，有没有操纵指使的人。（先生、我々の背後に、操る人間がいるかどうかって、再三問い詰めないでください。）（《天堂中的地狱》）

35）假若首长们不再三再四地指示，要准备，要准备，一个新同志怎能这样艺高人胆大呢？（もしも首長が再三再四にわたって、準備しろ、準備しろって指示してくれなかったら、新人が、こんなに腕前が優れて、度胸も据わっているはずがありません。）（《无名高地有了名》）

例 33）について、関係や判断をあらわす“是”の前に否定副詞“不”が置かれると、「再三纠缠我」を否定することになるが、語気助詞“吗”が添えられると、反語になって、肯定の意味となる。したがって“再三”は、動詞「纠缠」の肯定形式と組み合わさっていると思われる。例 34）は、能願動詞「不必」が「再三盘问我」の前に置かれるので、「再三問い詰める」必要はないという肯定的な意味をあらわすことになる。例 35）の場合、否定副詞“不”が「再三再四地指示」というフレーズの前に置かれる点では否定形式に見えるが、実は、その前に“假若”という仮定をあらわす連詞があるので、「仮に～だったらできなかったろうが、～ではなかったのでうまくいった」と、肯定的な意味が強調されている。

ところで、本研究では、「再三＋V 否定形」という例は見当たらない。また、中国語の“考虑再三”のような“補語”用法における否定形式「“不”＋V＋“再三”」も存在しない。

しかし、下記の例 36）は、「再三ではなかった」と、否定形式とともに使われている。これをどう理解すればよいのだろうか。

36）その結果、お静を責めたことも再三ではなかつた。しかし、お静はとりあはなかつた。（『徳田秋聲全集』）

実は、「お静を責めたことも再三ではなかつた」とは、形は否定形式であるが、意味は「再三」以上、つまり「四回も五回も（あるいはそれ以上）責めた」という意味である。「再三あったこと」自体を否定したのではなく、むしろ「もっと、もっと」と「再三」を強調した言い方かもしれない。日本語の「再三」で、述語となるもののうち、否定形式をとるものとしては、「再三ではない」という言い方が見られる。しかし、これは「再三」の否定ではなく、「再三」以上と、さらに強調するための表現である。

要するに、日中両言語における「再三」／“再三”は動詞を修飾する場合、動詞の否定形と共起しにくいという指摘が適切であろう。

7. 「再三」／“再三”を含む主節・従属節について

「再三」／“再三”を含む節が主節で用いられているか、それとも従属節で用いられているかを問題にする。村木(2007)は「従属節は、主節と対立するものであり、文を終止する主節に対し、なんらかの成分に後続する節のことである。」と説明し、さらに分類の提案[44]もしている。その提案に従って、実例の節について分類する。

「再三」が主節を修飾する場合、下記(37)のような実例がある。

37）仕事のかたわら、病院での寝泊まり、警察や検察、弁護士事務所、裁判所などへ 再三 足を運びました。（『家の光』）

「再三」と動詞との組み合わせが連体節に位置する場合は下記のようである。村木（2007）によれば、連体節は、後続の自立的な名詞に接続する真性連体節（例 38）と後続の自立的な名詞以外の形式に接続する擬似連体節（例 39）の二種類に分けられている。実例の中では、擬似連体節の使用はより多く見られる。

38）日本に 再三にわたり 派兵と軍事支援をもとめてきていた聖明王が、その見返りというつもりもあった（『産経新聞』）

39）キリストはつねに一夫一婦を強く教えるにもかかわらず、「この世で配偶者に死別し

---

[44] 村木(2007)節の分類提案

述語節→ ① 主節(終止節) 文を終止する節

② 従属節（接続節） 他の形式に接続する節

従属節→ ②－１ 連体節 後続の名詞に接続する節

②－２ 連用節 後続の用言もしくは文に接続する節

連体節→ ②－１－１ 真性連体節 後続の自立的な名詞に接続する節

②－１－２ 擬似連体節 後続の自立的な名詞以外の形式に接続する節

連用節→ ②－２－１ 修飾節(狭義の連用節) 後続の用言に接続する節（意味的な限定をくわえる）

②－２－２ 連文節 後続の文に接続する節

連文節→ ②－２－２－１ 状況節 文に接続し、意味的な限定をくわえる節

②－２－２－２ 並列節 文に接続し、意味的な限定をくわえない節

て、再三 結婚をしたものは、あの世での復活のとき、お互いの関係はどうなるのか。」（『山室軍平』）

「再三」と動詞との組み合わせが修飾節に位置する場合。

40）アイスターは 再三 謝罪を繰り返しながら、最後まで責任を熊本県になすりつけた。（『新潟日報』）

「再三」が動詞と組み合わさって、後の文に接続し、並列節、状況節になる場合。

41）そして僕はアリスを週末にイェールに誘うことを 再三 考えはしたけれど、結局誘わなかった。（『偉大なるデスリフ』）

例 41）のように、「再三」を含む節は「けれど」が使用されていて、後の主節と対立する関係になる。その従属節は並列節の一種類「逆接節」と分けられている。また、中国語の前節と後節 [45]の論理関係などを参考し、ここで「逆接節」について下記のように定義することを試みる。「従属節がある事実を叙述し、主節にはこの事実に即して得られる誰もが納得するような結論は述べられず、むしろそれとは反対の事実または部分的に反対の事実を述べる。」本研究では、そのような論理関係における従属節を逆接節という用語で用いることにする。

本研究では「再三」／“再三”を含んでいる節はそこで終止するかどうかという基準で、その文中使用を対照分析する。さらに意味的な関係から、逆接節も分析してみる。

表 4 **日中「再三」／“再三”を含む節について**

節	日本語「再三」368 例	中国語“再三”341 例
主節	（150 例）40.7%	（36 例）10.6%
従属節	（218 例）59.3%	（305 例）89.4%
（従属節の中の逆接節）	（61 例）16.6%	（52 例） 15.2%

主節と従属節の分け方からみれば、中国語“再三”のかかわる節は従属節である場合がほぼ全体の 9 割をしめる。一方、日本語のほうは主節と従属節がほぼ半々である。

また、逆接節に多少用いられることが両言語共通のところである。例 42）のように、日本語「再三」が「～のに」、「～けれども」、「～が」などの形式をもつ逆接用法は 16.6%、 例 43）のように中国語“再三”の逆接意味の用法は 15.2%ある。日本語の逆接用法は中国語よりやや上回るという傾向がみられる。

42）あなたがそんなことを気にしていられたとはね！　じつのところわしも再三気には

[45] 中国語の節について、朱(1995)は、「中国語学の分野では、日本語で一般に「複文」、「単文」および「節」と呼ばれるものに近似する概念を指すものとして、それぞれ“复句”、“单句”、“分句”といった術語が伝統的に用いられる。…節と節のあいだには必ず何らかの意味的な関係が存在する。そして、その意味的な関係は、多くの場合、文法形式を通じて表されるものであり、主に次のような三通りの状況が存在する。（ｉ）接続詞（または副詞）を用いて関連する節をつなぐ。（ⅱ）代詞の指示・代替機能もしくは連関機能を通して意味的関係をあらわす。（ⅲ）節の構造的な関係を通して意味的関係をあらわす。」と述べている。

なっていたんですが、教育のある人間なら、こんな縁起をかつぐこともありませんな。(『M.R.ジェイムズ怪談全集』)

43) 国王 再三 挽留，小双还是背上背兜，左肩站着小蛤蟆，右肩停着小蜂，象进宫时一样离开了王宫。(王様が再三引き留めたが、小双はリュックを背負って、左肩に蛙ちゃんを、右肩に蜂ちゃんを停まらせて、宮殿に来た時と同じように出て行きました。)(《大双和小双》)

日本語「再三」の逆接節には、例 42)のように、後にくる節が否定的な表現が多く見られた。中国語も例 44) －45) のように、後の節が否定的な表現になる実例が少なくない。

44 他当爸的，有些话开不了口。再三思量，他又迟疑不前。(父親として、あまり言えないので、彼は、再三考えたが、なかなかできませんでした。) (《鼓书艺人》)

45 他 再三再四的请 我上湖北，我还没有肯。(再三再四にわたって、彼に湖北に誘われたが、やはり行かなかった。) (《阿 Q 正传》)

述語形式からみれば、日本語「再三」が主節に用いられる割合が中国語“再三”より大幅に上回るということがわかった。単なる動作、行為の繰り返しを強調する実例には、日本語の場合は中国語より多い傾向がある。中国語“再三”は、従属節により多く用いられていて、それは、主節で述べられる事態に対して、前提となる、なんらかの前触れの役割をはたしているものと思われる。前触れの役割については、今後考察を進めたい。

8. まとめ

日中の「再三」／“再三”を意味の解釈、語の形態、修飾する動詞の意味、述語形式などの面から、対照分析した。

日本語の「再三」には、次の特徴がある。①意味の解釈：マイナスの評価的意味が感じられる。②規定語の使い方が目立つ。③名詞述語になれる。④無意志動詞とも共起する。⑤主節・従属節を問わず用いられる。

その一方、中国語の“再三”には、次の特徴がある。①中立およびプラスの評価的意味の語の前にくることが多いが、マイナスの評価的意味が感じられることもある。②「心、言語、待遇」などの精神的活動、社会的活動をあらわす動詞との連用は日本語より多い。③無意志動詞と共起しない。④主に従属節で用いられる。

第三章　「再び」／“再”

1. はじめに

日中両言語には、ともに頻度を表す副詞がある。仁田義雄（2012）では「＜頻度副詞＞とは、一定期間内に、ある間隔を置いて生起する事態の生起回数のあり方を多寡性をも含めて表す副詞である」と規定される。この定義をふまえて、「再」を含む１グループの頻度副詞を取り出して、日中対照の側面から、それぞれの意味、文中での形態・文法などの異同を考察しよう。

その中で、同形副詞「再三」は、ともに中頻度を表しているが、意味的、形態的違い、とくに動詞との組み合わせ、述語形式における違いなどを検証する。さらに、両言語には「再」をめぐって、重複、くり返しなどの頻度をあらわす副詞たとえば、「再三再四」、「一再」、「再度」、「再々」などが周囲的な存在としてある。中日同形副詞であるが、使用上にはどのような違いがあるのかについて、①意味、②形態、③共起動詞の意味タイプ、④述語特徴などの側面から比較してみよう。

2. 意味の対照

仁田義雄（2002）は「事態の発生・存在が既にあり、さらにそれに加えて、事態が生起することを表したものである」という定義で、「再び」を頻度副詞の周辺である「再発を表す副詞」に属させた。このことで、「時間副詞」から独立させ、「頻度副詞」という同一階層でのグループが名づけられた。中国語の“再”について、朱德熙（1982）、赵元任（1979）などの「時間副詞」という分類もあれば、「時間副詞」から分離させて、黎锦熙（1924）の「数量副詞」、张志公（1982）、刘月华（2010）などの「重複副詞」という分け方も見られる。

本章では、“再”と「再び」の「動作の繰り返しを表す」という意味を中心にして、頻度副詞としての意味と用法に限定し、その他の用法には触れないことにする。

まず日中「再び」と“再”の意味について、それぞれの古代での意味使いと現代での意味使いを調べて考察する。

2.1. 日本語の「再び」

『日本国語大辞典』（第２版）における「再び」の語釈は下記のように記載されている。

ふたたび【二度・再】[名]

①同じ動作や状態の重なることをいう。再度。副詞的にも用いる。

2.万葉（８c 後）五・八九「一世には二遍（ふたたび）見えぬ父母を置きてや長く吾（あ）が別れなむ＜山上憶良＞」

3.古今（905－914）春下・一三「声たえずなけや鶯ひととせにふたたびとだにくべき春かは＜藤原興風＞

4.浄瑠璃・女殺油地獄(1721)中「二たび侍の立つべき思案せずば此の分で刀は差されぬ」
5.日本読本(1887)＜新保磐次＞三「こだまは響きの返りて二たび聞ゆる者なれば、亦返響とも言ふなり」
②順番としての第二をいう。二番目。二遍目。
6.源氏(1001－14 頃）葵「ふたたひの御祓いへのいそぎ、とり重ねてあるべきに」
7.歌舞伎・小袖曽我薊色縫（十六夜清心）(1859）二幕「子細あって父を打ち、一度（ひとたび）逐電なしたれど、二た度我に討たれんと、覚期極めし甲斐もなく」

以上の解釈によれば、古代から「再び」は副詞的な用法と名詞「二番目」という用法があるが、現代になると、おもに副詞的な用法をもって、同じ動作や状態の重なることを表すと言われる。
以下は、『現代日本語副詞用法辞典』による「再」の語釈である。
①彼はいくら注意されても、同じ過ちをふたたび三たびと繰り返す。
②近鉄は７回の裏にチャンスがふたたびめぐってきた。
③この地をふたたび訪れることはないと思う。
④汚職事件は二度とふたたびおこしてほしくないね。
【解説】同じ動作や状態を二度目に繰り返す様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。述語にかかる修飾語として用いられる。ややかたい文章語で、単独ではあまり日常会話に登場しない。①が基本的な頻度の用法で、二度という意味である。②③は同じ動作や行為を繰り返し反復するという意味で、厳密に二度目のみを指すとは限らない。④の「二度と再び」は慣用句で、後ろに打消しの表現を伴って用いられ、ある時点よりも未来に問題の行為を行う可能性がまったくない様子を表す。

現代日本語における副詞「再び」はおもに動詞を修飾して、同じ動作や状態を二度繰り返す様子を表す。

2.2. 中国語の“再”

中国語“再”の用法は簡単なようにみえるが、実は厄介な副詞である。“再”について、歴史上の変遷にすこし触れていこう。

2.2.1. “再”の変遷

“再”の起源はもともと「二」にあるが、「二回または二回目」という“動量詞”（動作や変化の回数の単位を表す量詞を動量詞と呼ぶ）の用法として古代文で用いられる。下記の①－⑤のように、歴史的変遷をみてみよう。
(一)動量詞
① 田忌一不胜而<u>再</u>胜，遂得王千金。（田忌は一回目負けたが、二回目、勝ったので、王か

ら大金をもらった。）（《史记・孙子吴起列传》）

② 一不朝，则贬其爵；再不朝，则削其地；三不朝，则六师移之。（最初に拝謁しなければ、その官位を下げること。二回目だったら、その土地を削ること。三回目だったら、そちらに軍隊を出動させること。）（《孟子・告天下》）

ここでは、“再”が「二回」および“序数词”（順序を表す数詞である）、「二回目」の意味を有している。“再”が修飾する動詞はすでに前の文に現れているので、“再”の後の動詞が現れなくても済むことになる。同じ動詞を省略することによって、“再”の意味が変わってきた。「二回目」から「ある活動、状態が再び現れること」の「再び」になった。こうして、“再”が頻度副詞の用法を持つようになった。

(二)頻度副詞

③ 一鼓作气，再而衰，三而竭。（士気は、太鼓を叩くことで、初めて上がる。再び叩けば衰え、三回目はなくなる。）（《左传・庄公十年》）

④ 衣破再缝又得其新。（衣服が破れれば、また縫い直し、新しいものにする。）（《敦煌变文集新书・卷七・孔子项托相问书》

さらに、“再”が修飾する動詞の範囲が変わった。動作動詞以外にも、心理動詞、さらに形容詞まで修飾するようになった。心理動詞、形容詞などが状態の継続を表すので、重複によって、その動作、状態の程度が深刻になるだろう。こうして、頻度副詞が「更に」の意味を含む程度副詞に変わる。

(三)程度副詞

近代になると、“再”の程度副詞としての用法が定着する。

⑤ 那人说：“莫说三个搭车，再多些也不计较。”（その人は、「三人が乗るって、もっと多い人でも平気だよ。」と言った。）（《水浒传》第五十六回）

以上述べたように“再”の変遷過程は「動量詞→頻度副詞→程度副詞」となっている。

2.2.2. “再”の意味について

現代中国語における副詞“再”の意味について、『中国語用例辞典—現代漢語八百詞日本語版』に基づくと、下記のようにまとめられる。

「再」【副詞】

① 動作（あるいは状態）の繰り返しまたは継続を表す。まだ実現していない動作あるいは経常的な動作に多く用いる。

② ある動作が、近い将来ある状況の下で発生することを表す。

③ 形容詞の前に用い、程度の増加を表す。

④ ‘再’を否定詞と共に用いる。

⑤ ほかに、もう一度。

上記の解釈によれば、①は頻度副詞として用いられる。動作の繰り返しと継続に分けられているので例文を用いる。a「来，你再给我讲一遍。」（じゃ、もう一度説明してくれ。）“再”

は動作を繰り返し行うことを表す。b「她不能再等了。」（彼女はこれ以上待てない。）“再”は状態が継続していることを表す。a、b いずれも「これから起こる」という含意があると考えられる。

以上の意味の分析からみれば、中国語の“再”は１）頻度副詞として動作・状態の重複（継続）を表す。2)程度副詞としては程度の増加を表す。ほかには、補足的にこれからの動作を説明する。古代の用法としては、動量詞「二回」序数詞「二回目」の使い方もある。

日本語の「再び」は同じ動作や状態を二度繰り返す様子を表す。また、歴史上では、順番としての「第二」を指す。例えば、二番目、二遍目などであり、中国語の「序数詞」にあたる使い方であろう。本研究では動作の繰り返しと継続を表す“再”を頻度副詞として扱うことにする。すなわち、“再”と「再び」の「動作の繰り返し」という意味と用法に限定し、その他の用法には触れないことにする。

3. 共起する動詞の分類

本章では、中国語については、中国語のデータベースを利用し、中国語“再”の使用例を抽出し、前 500 例の中で頻度副詞の用法をもつ文 182 例を対象にしている。日本語については、日本語均衡コーパス少納言を利用し、「再び」の使用文を抽出し、全 239 例を対象にする。

「再び」と“再”の後ろにくる動詞について分類する。主に、人間主体の動作を表す動詞（動物などの人間のような動作も含む）と非人間主体の動作（自然、現象など）を表す動詞とで二つに分類し、さらに、人間主体の動作を表す動詞について、「物理的な活動」「精神的な活動」「社会的な活動」という形で三つに分類する。“再”の後ろにくる動詞の使用傾向は下記のようである。

表 1 共起動詞の意味の対照

動詞		中国語（182 例）比率	日本語（239 例）比率
人間主体	物理	31.87%	30.13%
	精神	22.53%	6.69%
	社会	42.31%	32.22%
非人間主体		3.3%	30.96%

下記の 1)－4）は中国語の例文で、5）－8）は日本語の例文である。

1）泪，擦了又流，他就再擦。（涙を拭いたら、まだ流して、彼は再び拭く。）（《小雨珠》）“擦”（拭く）人間主体の物理的な活動を表す動詞

2）我为求生存，也应该动动脑筋，再迷恋过去，未免糊涂！（生き残るために、もっと考えるべきだ。ずっと過去のことに夢中になっているのは、ばかばかしいぞ。）（《和尚脱下了袈裟》）

“迷恋”（夢中になる）人間主体の精神的な活動を表す動詞

3）亲戚那边至今未有信来，我又不好再去催，只得耐心等着。（親戚から返事をもらってないし、再び催促するわけにもいかないし、待つしかないだろう。）（《职业》）

“催”（催促する）人間主体の社会的な活動を表す動詞

4）现在，我可以说，那样的悲剧不会再重演了。（いまなら、言えるだろう。あんな悲劇は再び起こることはないはずだ。）（《悲剧不再重演》）

“重演”（再び起こる）非人間主体の活動を表す動詞

5） 再び ハンドルを握った私はしばらく行って、ヒッチハイクの父娘を降ろし、あとはマツダの性能にまかせてぶっ飛ばした。（『不肖・宮嶋のネェちゃん撮らせんかい！』）

「握る」　人間主体の物理的な活動を表す動詞

6） そこで 再び 、初めの言葉を思い出して下さい。（『Dr.コパの「人脈」風水』）

「思い出す」　人間主体の精神的な活動を表す動詞

7） 大きな目標「公営選挙」が実現し、K 子さんは 再び 立候補した。（『この町が好きだから』）

「立候補する」　人間主体の社会的な活動を表す動詞

8） 十七世紀と十八世紀で人口が 再び 減少する。（『流動する民族』）

「減少する」　非人間主体の活動を表す動詞

ほかには、日本語の「再び」は名詞の前にきて、例 9）のように、規定語の用法、また、例 10）のように、名詞述語文を修飾する用法などが、僅かながらみられる。

9） 日本の侵略による中国での局地戦もはじまっており、遠からず 再び の世界戦争が起こるだろう。（『外交官 E・H・ノーマン』）

10）王の追っ手を阻んだのは、再び アテナ女神だった。（『ギリシア神話物語』）

以上のような名詞および名詞述語文に係る「再び」の用法は中国語“再”の例文には見当たらなかった。

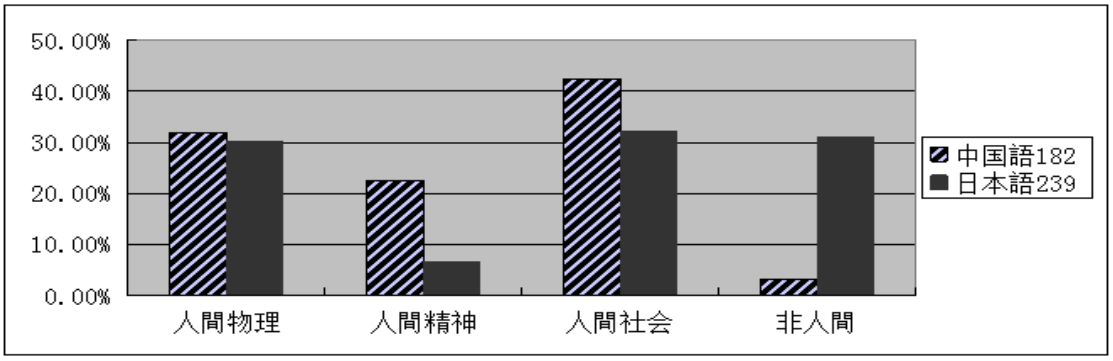

図 1 **「再び」／“再”の共起動詞の意味の対照**

図 1 のようにすると、表 1 の結果がよりわかりやすく示される。日中の「再び」と“再”の後ろにくる動詞の違いがよりよく分かる。中国語のほうは非人間主体の動詞とあまり共

起しないのに対して、日本語のほうは3割近くになり高い使用率といえるだろう。また、中国語の“再”（22.53%）のほうは「考える」などの精神活動を表す動詞との共起が日本語の「再び」（6.69%）より多く用いられる傾向が見られる。その違いは日中両言語の「再三」と“再三”に似ている。

4. 述語形式について

4.1. 否定的な表現

中国語“再”が位置している述語は、動詞あるいは動詞句の前に否定副詞“不”が用いられて、否定形式になることがある。同じ動作をもう繰り返さない、状況がもう継続せず存在しないという意味を表す。

“再”は否定副詞“不”と一緒に用いる場合、“不”の前にも後ろにも置くことができる。即ち“再不”と“不再”の両方がありうる。しかし“再不”と“不再”とでは意味が異なる。例えば“明天你还来吗？”（君あしたまた来る？）という問いに対して、“ 我明天不再来了，后天再来。”（あしたはもう来ない。あさってまた来る。）と答える場合における“不再”は“再不”に替えることはできない。というのは“再不”は「永久に～しない」、「二度と～しない」という含意があるからである。

(一)「不再～」

11）他们不再想听这支歌，不敢再说什么，也不敢再往下想了。（彼らはこの歌について、もう聴きたがらなくなり、話す気もなくなって、考えることさえできなくなった。）（《歌・生活・力量》）

「動作を表す動詞あるいは動詞句の前に用いられた“不”は、多くの場合、なんらかの意志に対する否定を表す。」と朱徳熙（1995）が指摘したように、例11）の場合は、“不”を“再”の前に置くのは話者の主観的な意志で、もう再びしないというニュアンスが含まれる。今までしていた動作を止めるということを示すために、文末に“了”が必要である。

(二)「再不」「“再”＋“不”＋能願動詞（能、会、要、必、願意、応、譲..）

ほかには、“不”が“再”の後ろにくる下記の例（12）のような場合もある。

12）（求饶）好了好了，再不叫了（よせ、よせ、私はもう二度と叫ばない。）（《寒灯夜话》）

13）它向我们大喝一声：教育青年一代、塑造青年一代的神圣事业，再不能轻慢，再不能蹉跎了。（若い世代を正しく導き、教育することはもう油断できません。）（《由“四星红旗”想到》）

“再”の前に“不”を置くと、単に動作を再び行わない、状況が継続しないという主観的な意思を示す。うしろに“不”を置くと、主観客観に関係なく、「永遠にしない、できない」という意味と、客観的に「否定的な状況」が継続することを示す。しかし、実例12）は、主観的な意志で叫ぶことをやめるという意味と思われ、“再不”が主観客観には関係ないとは言えない。

また、“不”の使用範囲を拡大して、“不＋能願動詞”をセットとして“再”との組み合わせを

考察したが、主観的ニュアンスもみられる。

14）这一点，不必再去考证，仅就故事情节来看，也十分明显。（この点については、再び考証する必要はない。ストーリーから見ればもう十分だ。）（《试论王实甫的〈西厢记〉》）

15）黄树中已改名黄复生，表示自己是死而复生的人，不愿意再干这种冒险的事情，可是他答应另找一个人。（黄树中はもう黄复生と改名して、死んでから甦る人間であることを表明した。彼はこんな危険なことをもうやりたがらず、代りにほかの人を推薦してくれと答えた。）（《武昌枪声皇冠落》）

16）"我是个下野总统，按理不应再问国事。"（わたしはもう大統領ではなく、国事に口を出すわけにいかない。）（《我们本来可以干得更好》）

17）我们要想保住这些，我们就要积极生产、支援前线，不让帝国主义再来。（今までのことを維持したいとすれば、帝国主義が再び来ないように、戦場に臨んでいる兵士達を支援して、もっと仕事で頑張らなくてはならない。）（《加强对女工进行抗美援朝的思想教育》）

“再”は“不必”“不敢”“不要”“不能”“不愿”など「能願動詞」とよく共起して、“再”の後ろにくる「動作の繰り返しや状況の継続」が望ましくないという意味を表している。

（三）「再＋没」

“再”の前に動詞“没や没有”を使うのは、過去のある時点でもう一度しなかった（繰り返さなかった）ことを示すためである。“不”はある時点からずっとしなかった事実を示す。

18）谁也没听清，可谁也没再问，因为她是那么腼腆，连头也不敢抬。（誰も聞き取れなかったが、誰ももう一度聞かなかった。なぜなら、彼女はそれほど恥ずかしがり屋で、顔さえ上げられなかったからだ。）（《中国小姑娘参加国际少年英雄节》）

19）舅舅去了台湾，再没有回来。（伯父さんは台湾に行った。それからずっと帰ってこない。）（《在开往巴黎的夜车上》）

中国語の“再”は、否定副詞“不”、「能願動詞」“不必”“不敢”“不要”“不能”“不愿”など、さらに動詞“没や没有”などの使用により、動作・状態の繰り返さないことと継続しないことを表す。本章では、その文を否定的な表現として扱うことにする。182 例のデータ全体の中で 38.46%という相対的に高い比率が見られる。

一方、日本語の「再び」は述語にかかる修飾語として用いられるが、同じ動作や状態を二度繰り返す様子を表す。ここでは、「再び」が修飾している述語に注目して、動作の繰り返しを分析してみよう。

20）こうすると、ボウルの底にたまった砂をあさりが 再び 吸いこむことがない。（『旬がいっぱい(夏)レシピ』）

21）チャンスは逃したが最後、再び とらえることは出来ないという意味だ。（『迷走日本の原点』）

22）再び 登場できるという保証はどこにもない。（『乃木希典』）

23) セックスの乱痴気騒ぎで 再び 女性を男の快楽の奴隷にすることではない。(『イスラームと日本人』)
24) 西に昇天した魂は 再び この地上にもどることはできない、などという話が語られている。(『英雄』)

表 2 “再”と「再び」が修飾する述語の肯定・否定

“再”と「再び」が修飾する述語	日本語（239 例） 比率	中国語（182 例） 比率
動作の繰り返しや状況の継続を表す例文	97.91%	61.54%
動作の繰り返しや状況の継続を否定する例文	2.09%	38.46%

まとめてみると、表 2 が示すように、日本語「再び」が修飾する述語はほとんど肯定の意味を表し、動作・状況の繰り返しを表す。「再び」の後ろにくる動詞は否定形として用いられないが、「再び～とらえることは出来ない」、「再び～ことではない」というような否定的な意味を表す文は僅かながらみられる。中国語“再”の修飾する述語について、否定的な意味をもつ例文は 38.46%という高い比率を示しているが、日本語の「再び」はそれ以上で、ほぼ全てが肯定的意味を表すという相違が見られる。原因の一つとして、日本語のほうには、否定的な意味を表すのに、もっぱら「二度と～ない」を用いることが挙げられると考える。

25) しかし、これから先の住宅政策を担っていく上で住都公団の責務はもっともっと大きくなるわけでありますから、心してそういうことが 再び 起こらないように、肝に銘じて今後業務に取り組んでいくように私どもも心がけてまいりたいと思います。(『国会会議録』1986)
26) しかし李忠の姿は馬群の中に消え、再び 現われなかった。(『水滸伝』)
27) 日本に 再び 来ないわけです。(『国会会議録』1997)
28) 僕はそこに眠っている者たちを 再び 見ないですむように、母屋の前でバケツをジンの息子に渡し、土間に運び入れることを命じて倉屋敷に帰った。(『万延元年のフットボール』)

本章で抽出したデータで例 25)－28) のような否定形式文は見当たらないが、実際に存在しており、非人間主体の動作を表す動詞とよく共起すると考える。また、「再び」は「～ないように」とよく組み合わさっているのかどうかについては確認すべきであろう。

4.2. テンスとアスペクト

前節で述べたように、中国語の“再”は「繰り返すことがこれから起こる」という意味を表すので、将来のことに用いられる。テンスからみれば、「繰り返し」は発話時以降に起

ることを表す。

29）「来，你再给我讲一遍。」（じゃ、もう一度説明してくれ。）（《老师敲门来》）

“再”はこれから動作の繰り返しを行うこと、つまり未来における重複を表し、過去のことには使えない。中国語の事態完了を表す“了”が用いられる文は 26 例もあり、中国語には「アスペクト助詞“了”」の用法があるが、動詞の後に使われ、動作の完了を表す。テンスからみれば、動作・行為が発話時以前にすでに起こったことを表す。また、アスペクトからみれば、動作・行為の「完了」を表す。実例を分析してみると、“了”は文末に使われ、ある事態に変化が生じた、または今まさに変化しようとしていることを表し、文を完結させる働きを有する。これが「アスペクト語気詞“了”」の用法である。

30）几位农民却不再说下去了，反而在揣测这个身材苗条、穿一身军装的姑娘要做什么。（農民たちは話を続けようとせず、この娘さんが何をしようとしているのかと考えている。）（《捉“鬼”记》）

31）伦敦八岁的孩子伊夫林祈祷似地写道："上帝呀，请别让爸爸妈妈再这样凶地吵架了。（ロンドンに住んでいる 8 歳の子供イフリンが祈るように書いた。「神様、パパとママがこんなに激しく喧嘩しないようにして。」）（《孩子对父母有哪些要求》）

32）无论如何不能再学了！（いかにも学ぶことが出来なくなった。）（《光耀世界的东方舞星—森下洋子》）

例 30）「不＋動詞」のフレーズ全体の意味は、行為が存在から消失に至るということを表している。それは元の状態から新しい状態への「実現過程」を含んでいるので、まさに「了」の意味上の制約と一致している。

例 31）のもともとの事態は「爸爸妈妈这样凶地吵架」で、“了”が添えられることを通して、「吵架」をやめる新たな状況の出現を表す。例 32）「不能再学と了」では、“了”は「不能再学」の事態に添えられて、現在との関わりにおいて、「勉強することが続かなくなる」という新たな状況の出現を表す。そして、その新たな状況の出現がもうすでに完了した事態を表す。「再と学了」のように、副詞“再”は動詞“学”の完了・過去と組み合わさるべきではない。

例 31)・32)をみると、消失の意味の「了」を伴う述語的成分は「不／～ない」、「別／～な」によって否定される。これは、命令願望、意志願望などの意味を表す「能願動詞」と合わさる場合も多い。中国語“再”の使用例で“了”と共起するのは、すべて否定副詞「不」（没）が用いられる文である。現在（発話時）との関わりにおいて、いままでの事態（肯定のこと）が、これから続かなくなる新しい事態（否定のこと）を表すものである。

一方、日本語の「再び」は「再び拒絶した」のように、「再び」が過去形式の述語を修飾することもできるし、「再びこう命じる」のように非過去形式の述語を修飾することもできる。

33）しかし、カッターネオはこの説得を 再び 拒絶した。（『イタリア史』）

34）おおよそ片づいたことを確認すると、ご老公は 再び こう命じる。「助さん格さん、もういいでしょう」　さあ、まさにここからがクライマックスシーンである。（『テレビ「水戸黄門」のすべて』）

4.3. モダリティについて

続いて、「再び」と“再”が位置している文のモダリティについて分析してみる。中国語の“再”は下記のように、命令、願い、禁止、希望などの他人への働きかけ文(32.42%)によく用いられることが明らかになった。“不能”“不必”“没有”などのポテンシャルな用法は 18.13%であった。

35）来，你再给我讲一遍。（じゃ、もう一度説明してくれ。）（《老师敲门来》）

36）还有一段，请你再帮我问问吧。（あと一段落残っていますので、もう一度訊いてくださいよ。）（《寻找遗失的童话》）

37）"警告你们，张建刚的事，不要再继续查找了，否则，小心脑袋！"（忠告するぞ。もう張建鋼のことを調べるな。さもないと、殺すぞ。）（《他们，在高等学府与牢门之间》）

38）我知道他是不愿再来的。（彼がもう一度来るのをいやがっていることを私は知っている。）（《鼠趣》）

一方、日本語の「再び」は下記のような命令、意志などの文も見られるが、僅かである。

39）なぜならあまりに目立ってしまうために、周りから叩かれてしまうからです。そこで 再び 、初めの言葉を思い出して下さい。（『Dr.コパの「人脈」風水』）

40）出家することは年を重ねてからでも遅くはない。私はそんなふうに考えました。再び 、この世で生きていこう。（『子どもの言葉はどこに消えた？』）

このように、日本語「再び」と比べて、中国語“再”は否定的な意味を表す文に傾斜していることが指摘でき、さらに、必要性、願望、可能などのポテンシャルな用法が多く使用されている傾向がみられる。史锡尧（1996）は「“再”の特徴は鮮明的な主観性と未然性である」と主張したが、本章での調査結果は、その主張を裏付けるものである。

中国語の“再”はポテンシャルな用法が多いということに対して、日本語の「再び」はアクチュアルな用法が多いという傾向が見られる。

4.4. 主節、従属節について

「再び」と“再”が位置している文は主節か従属節か、さらに、何種類の従属節であるか、という問題について調べると、その結果は表 3 のようになる。

表 3 「再び」と“再”の位置している節

節	日本語 239 例		中国語 182 例	
主節	（126）	52.72%	（87）	47.80%
従属節	（113）	49.28%	(95)	52.20%

従属節の仮定節	(10) 4.18%	(35) 19.23%

41）[主節]　他感到一分钟也不能再耽搁。(一分間でも遅らせるわけにいかないと彼は思った。)　(《辛格博士的忏悔》)

42）[仮定従属節]　水再涨上去，怎么办呢？(水がもう一度上がったらどうするの？)(《额木尔脱险记》)

43）[主節]　しかし、カッターネオはこの説得を 再び 拒絶した。(『イタリア史』)

44）[仮定従属節]　話し合いの後、再び 挙手させると，「秋である」は０人となった。(『小学３年生の教え方大事典』)

日中の主節、従属節の比率は似た傾向を示しているが、中国語“再”のほうは、仮定従属節の使用率が比較的高い。

5. まとめ

日中頻度副詞「再び」と“再”の意味の対照、形態の比較、動詞との組み合わせ、述語特徴などの側面から考察してみた結果は、以下のようにまとめられる。

①意味：「再び」と“再”には「動作を繰り返す様子を表す」という共通点があるが、中国語の“再”は「事態の継続」という意味もある。

②形態：両方とも主に動詞述語の前にきて、連用修飾語の機能として働く。日本語「再び」のほうは名詞にかかる用例も僅かながら見られる。

③共起動詞の意味タイプ：日本語の「再び」が非人間主体の動詞と共起する比率は中国語の“再”を大幅に上回る。中国語の“再”の、人間主体の動詞の中での、精神的な活動を表す動詞との共起率は日本語「再び」の３倍以上である。

④述語特徴：「再び」が修飾する述語はほとんど肯定的な表現である一方、中国語の“再”は否定的な表現との共起率が４割近くという大きな差がみられる。また、節関係から見ると、中国語“再”が仮定従属節に用いられる率は日本語「再び」の４倍近くなっている。モダリティからみれば、中国語のほうは勧誘、命令など他人への働きかけ文も全体の３割以上であるが、日本語のほうは僅かである。以上より、中国語のほうはポテンシャルな用法がより目立っていると考えられる。最も異なった文法的特徴は、中国語の“再”は主観性と未然性が強い性格を持っていることであろう。

第四章　ほかの「～再～」／“～再～”

以上の「再」「再度」「再三」のほかには、「再三再四」、「一再」、「再再」という「～再～」形の中日同形副詞が少しながら、両言語では用いられている。本章では、以上の三つの対象語について、日中対照の視点から、それぞれの意味、形態、共起動詞の意味タイプ、述語形式などの側面に注目し考察する。

1. 日中の[再三再四]

まず、『現代副詞用法事典』を参考すると、日本語の「再三再四」の意味は下記のようにまとめられる。

・さいさんさいし説明してやっと納得してもらった。

・夫はさいさんさいし注意しても忘れ物がやまない。

【解説】何度も繰り返すことを強調する様子を表す。ややマイナスイメージの語。述語にかかる修飾語として用いられる。「さいさん」を強調した語であるが、目的への言及がなく、どのような結果になったかは暗示しない。また、何度も同じ行為を繰り返すことについて主体の根気は暗示されるが、慨嘆や迷惑などの暗示は少ない。

また、『国語大辞典』における歴史的な意味も調べてみる。

[名詞]再三を強めていう語。ある動作がくりかえし何度も行われるさま。たびたび。多く副詞的に用いる。

①新撰字解（1872）〈中村守男〉「再三再四　サイサンサイシ　イクタビモクリカヘシ」

②近世紀聞（1875-81）〈染崎延房〉六・三「再三再四諫むけれども大炊頭には更に用ゐず」

③浮雲（1887-89）〈二葉亭四迷〉二・七「尚ほ彼方を向いて鵠立（たたずん）でゐたが、再三再四虚辞儀をさしてから」

④福翁自伝（1899）〈福沢諭吉〉幼少の時「私が多年衣食を授けて世話をして遣るにも拘はらず再三再四の不埒」

⑤紅楼夢—二七回「況且他再三再四的和我説了」

つづいて、中国語の“再三再四”についてまとめる。

《汉典》における意味は“ 反复多次（何回も繰り返すこと）　连续多次”となっている。

① 我哥哥向老监察再三再四保证道:今年如让野猪抢去一个包谷,我拿命来赔

②元 范康 《竹叶舟》第二折：“今日我这道友再三再四的度脱你出家，你则不省悟。”

③《水浒传》第六二回：“ 宋江 杀羊宰马，大排筵宴，请出 卢员外 来赴席，再三再四，谦让在中间里坐了。”

④丁玲 《韦护》第二章三：“ 韦护 再三再四观察她，有时觉得很接近，有时简直是太难

捉摸了。”

日中の辞書の解説により、「再三再四」の使い方は古代から現代まで、両言語において、ほぼ同じ用法であろう。

現代日中両言語には「再三再四」の使用例が少ないが、下記のような例文がある。なお、上記で使った日本語「再三」の 254 例の中で「再三再四」の使用数は 15 例である。形態から見れば、「再三再四にわたる＋N」、「再三再四＋の＋N」、「再三再四＋V」となる。

1）しかし維新期の混乱は行政機構の 再三再四にわたる 編成替えを余儀なくさせ、入会地を含む山林原野の地租改正は、明治八年からの鶴岡県の下で着手され、その完了時点の明治十年十一月においては山形県の管轄下にあった。(『農村社会の史的構造』)

2）小早川秀秋の一万六〇〇〇人は、三成の 再三再四 の催促にも動かず、逆に大谷吉継の陣営に襲いかかった。(『日本を創った戦略集団』)

3）五人が帰らないと日朝交渉は大変なことになる、と鈴木大使は 再三再四 、警告したそうだ。(『SAPIO』)

また、上述した中国語「再三」の 337 例の中で「再三再四」の使用数は 7 例しかない。形態から見れば、「再三再四＋的／地＋V」、「再三再四＋V」という副詞的な用法がある。

4）他 再三再四的 嘱咐“干员”们，务必把这句话照原样说清楚。（彼は再三再四にわたって、「この話をそのまま言いなさい。」と「幹部」達に言いつけた。）(《四世同堂》)

5）张艺谋也帮着我 再三再四地 赔不是，并保证不重犯，要小伙子开恩。（張芸謀もわたしとともに再三再四にわたって謝って、二度としないと誓って、若い男に許してほしいと頼んだ。）(《我和张艺谋的友谊与爱情——〈往事悠悠〉》)

6）叶民主看了实在过意不去，再三再四 要他不必再来，可科长却始终不肯。（葉民主が済まないと思って、再三再四にわたって、彼にもう来ないでって頼んたが、課長が全然聞かない。）(《大陆作家》)

要するに、日本語の「再三再四」は使用率が中国語よりやや多い傾向が見られる。中国語の述語を修飾する連用修飾語以外にも、日本語のほうで名詞を修飾する連体修飾用法が多少ある。文中での位置からみれば、中国語の場合は、文の頭にくることはないが、日本語の場合は、文の頭にくる例が二つある。また、形態から捉えた「再三再四にわたる」という形は、どういう形成過程であるのかについては、今後の課題としたい。

2. 日中の「一再」／“一再”

日中の「再」には、「ふたたび、もう一度」の意味がある。ともに、動詞、あるいは動作を表す名詞の前に位置して、その動作の重複を意味する。たとえば、「再会・再刊・再起・

再建・再現・再生・再選・再出発」である。ここでは、同形副詞「一再」について分析する。

2.1. 意味の対照

ます、日本語の「一再」について、『日本国語大辞典』（第 2 版）における意味は、下記のようにまとめられる。

①「一再」:【名詞】一、二度。一、二回。

（1）蔭涼軒日録-文明一七年（1485）十月一六日「自月翁和尚被督詩。一再固辞之不允」

（2）童子問(1707)中・三〇「其宜子孫繁衍保数百年宗社。而纔一再伝而亡」

（3）真善美日本人（1891）＜三宅雪嶺＞日本人の能力「豊臣秀吉が西海を征して十数万兵を挙ぐる一再に止らず」

（4）日本の下層社会（1899）＜横山源之助＞日本の社会運動・三・一「解散せられたること一再、猛悪なる選挙干渉を見たることあり」

（5）竹沢先生と云ふ人（1924-25）＜長与善郎＞竹沢先生の人生観・四「嚇し文句や、苦情を云はれる事一再でないので」

②「一再ならず」: 一度や二度ではなく何度も。

（1）黒い眼と茶色の目（1914）＜徳富蘆花＞一・四「父母の当惑顔を見ることが一再（イッサイ）ならずあった」

（2）日本ロオレライ（1948）＜井上友一郎＞「従来一再ならず陸路で失敗した挙句の知恵で、船で運ぶのを思ひ付いた」

つづいて、《现代汉语词典》(第 6 版)によって、中国語の“一再”は副詞として用いられて、「一度ならず,何度も,再三」の意味をあらわす。例えば、“一再表示感谢”（繰り返しお礼を言う。）“一再强调”（何度も強調する。）

さらに、歴史上の用法をまとめてみると、以下のようになる。

①数詞 :“第一，二次。谓一次以后再加一次”(一回、もう一回)、唐の時代まで用いられた。

（1）若在长家子弟臣妾属役宾客，则里尉以谯于什伍，什伍已谯于长家，谯敬而勿复。一再 则宥，三则不赦。(《管子・立政第四》)

（2）酒酣，临邛 令前奏琴，曰 :‘窃闻 长卿 好之，愿以自娱。’相如辞谢,为鼓 一再行 。(《史记・司马相如列传》)

“行 : 曲引之意”（曲の意味）“鼓一再行” : 鼓一两曲（一つ、二つの曲を演奏する）。“一再”は物の量を表す並列フレーズである。

（3）夫一杨叶射而中之，中之 一再 ，行败穿不可复射矣。(《论衡校释》卷第八)

“中之 一再 ” : “不只一个”（一つだけじゃない），“一再”は述語動詞“中”の後に位置しているが、動作の量を表さず、物の量を表すフレーズで、文の中で目的語になる。

古代中国語では、数詞が述語になることが可能であった。また、動詞の前に位置して、

連用修飾語にもなれる。この場合は動作の数量を表す。“一再则宥”の“一再”は二つの数詞が並列して使われていると考えられる。

以上のような用例から分析して、“一再+（V）”、“一再＋N”和“V＋一再”という多様な形態が見られる。また、文中での機能からいえば、古代中国語では、“数詞”が述語になれ、また、動詞の前に来て修飾用語として、動作の量を表す。ようするに、述語、目的語、連用修飾語の機能を果たすのである。

②時間副詞“一次又一次；屡次。”（一度ならず,何度も,再三）

（1）读书一览輒不忘，至《论语》“贤贤易色”，一再 诵之。(《新唐书·章怀太子传》)

(2) 我从不放过在作品以外说话的机会, 我反复说明, 一再提醒读者我的用意在什么地方。(《探索集·灌输和宣传》)

時代の変化とともに、“一再+（V）”という形態が数詞として働き、“一再＋N”和“V＋一再”の形が消え、主に動詞の前で連用修飾語の機能を果たすようになった。“一再”の副詞化が唐の時代から始まり、宋・元の時代に、基本的に完成され、明・清の時代には、完全に定着している。

日本語の「一、二度。一、二回。」という解釈は中国語の古代の用法①にあたると思われる。「一再ならず」の「一度や二度ではなく何度も」という意味は中国語“一再”の副詞用法にあたると思われる。

2.2. 文中での形態および文法的特徴

日本語のデータベースをみると、18 例しか見当たらない。「現代汉语语料库词语频率表」による、2,000 万文字数の資料で、“一再”の使用数は 250 回、“再三”の使用数は 124 回である。

表 1 **日中の「一再」／“一再”の比較**

一再	日本語		中国語	
形態	「一再」。	「一再ならず」＋V	“一再＋N”“V＋一再”（古代）	“一再+（V）”（現代）
品詞	名詞	副詞	数詞	副詞
機能	述語	連用修飾語	述語、連体修飾語、目的語	連用修飾語
意味	一、二度／一、二回	一度や二度ではなく何度も	一回、もう一回	一度ならず, 何度も, 再三

7）これが孔子の有朋である。しかし又、君に疏んぜられ、位を失ったこともあり、天下周遊の途次には、生命の危険にさらされたことも 一再 ではなかった。かかる逆境においても、孔子は常に分に安んじ命に立ち、われ五十にして天命を知る（爲政、四）と言って

いる。(『論語の講義』)

8) こういう体験は、私のみならず古くから特養ホームで働いている人は 一再ならず していると思います。(『私たちが考える老人ホーム』)

9) 他 一再 强调，自己的建议“并不是什么创新，只不过是借鉴历史的经验……”。(「私の意見は新しいものではなく、歴史からいただいた経験だけだ。」彼は再三にわたって強調している。)《啊，十里秦淮……》)

10) 这种想法 一再 出现在先知的口中。(こういう考えがよく先知達に言われている。)(《宗教通史简编》)

日本語の「一再」は名詞として、文中で述語になりうる。また「一再ならず」は主に動詞の前にきて、修飾用語になっている。そして、①「【名詞】一、二度。一、二回。」の使い方は少ない。その一方、②「一再ならず」:「一度や二度ではなく何度も。」という使い方は圧倒的に多く使われている。現代日本語には、「一再」が話し言葉として、使われる例は見当たらない。僅かな例文でやや古典的な書き言葉として使われていると思われる。ようするに、古代中国語から伝わった「一再」は、中国語の“一再”のように話し言葉として発達せず、古典文書だけに残っていると考えられる。重複を表す言葉として、日本語では「一再」ではなく、漢語の「再三」がよく使われる現状もみられる。

3. 日中の「再再」／“再再”

現代日中両言語では「再再」の使用は多くない。データ資料から例文をできる限り抽出し、日中対照の側面から検証する。

3.1. 意味の対照

『日本国語大辞典』(第 2 版)における「再再」の意味は下記のようである。

【再再】(名詞)(形動):ある動作がくりかえし何度も行われること。また、そのさま。たびたび。再三。

*元禄版古今著聞集(1254)一八・知足院忠実饗箏師匠宗輔事「その時盃饌をまうけられて さいさいに すすめられけり」

*虎明本狂言・武悪(室町末ー近世初)「さいさい わたくしかたへ人をおこしてござ有が」

*浮世草子・傾城色三味線(1701)京・四「こんな仕合一代のうちに、さいさいは なき銀もうけなれば」

*付焼刃(1905)<幸田露伴>三「欲って他の者を叱責する気味に争ったことが 再々 (サイサイ)だった」

古く「切々」「細々」と書いて同じ意に用いた例も見られるが、「さいさい」と仮名書きになっている例は便宜上本項に収めた。

『明鏡国語辞典』によると、「再再」が副詞として用いられ、「ある言動をくり返すさま。

たびたび。再三。」の意味を表す。すなわち、日本語の「再再」は古代の名詞、形容動詞の用法から、現代の副詞用法に至ったことが分かった。

《现代汉语词典》(第 6 版)によると、中国語の“再再”は“一次又一次，连续多次。”（一回もう一回、くりかえし何度も行われること）の意味を表す。

川剧《柳荫记》第一场：“可叹小女英台 ，一心女扮男装，要到杭州尼山攻书，是我 再再 苦劝，谁知蠢才性犟，不遵父命。”

(娘の英台は男装して杭州の尼山に勉強に行こうって、わたしは何度も止めたが、あいつはしつこくて全然聞かない。)

沙汀 《困兽记》十八：“ 田畴 再再 申言，要他重对生命发生热爱，现在已经不可能了。”

（命を大切にしよう、と田疇は彼にふたたび申し上げたが、もうだめかもしれない)。

日中両言語における「再再」は、「繰り返し何度も行われること」という意味で変わらない。中国語の「再再」が副詞として動詞を修飾することに比べ、日本語の「再再」は動詞を修飾する以外に、名詞または形容動詞としても用いられる。

3.2 形態および文法的特徴

限られた例文ではあるが、中国語の“再再”は「再再＋Ｖ」の形で、後ろにくる動詞を修飾する。下記例 11)—12)のように、“再再”の後にくる動詞は「徘徊、寻思」などの心・精神を表す動詞である。

11）我 再再 向遥远地方，作灵感徘徊。（私は何回も遠くを眺めて、アイデアのことで思索している。）(《月满拾散》)

12）走着路，再再 寻思道：“不好！（歩きながら、再三考えたら、「しまった」と思った。）(《西游记》)

次の例 13）は前後の文脈からみれば、前文には同じ動作（事態）が「再」に修飾されて一回現れているが、後文にはその動作（事態）がもう一度発生することになっている。

13）组合一个空间再打破这个空间，再再 打破 再再 组合。（新しい空間を作り出して、またそれを破って、再々破って、再々組み合わせる。）(《人民日报》1995-6)

また、文中での位置をみてみると、「再再」は動詞述語の前にきて連用修飾語の働きをする。例 14）の場合は、主語「槌声」の後ろにくる「再再」について、修飾している動詞「響くなど」が省略されているのだろう。

14）槌声 再再 、成绩斐然…（槌声が再々、成績が優れている。）(《人民日报》1994-2)

例 15）の「再再」は「一而再再而三」の慣用句での使用であるので、ここでは除外している。例 16）の「再」は「さらに」の意味で、頻度副詞の用法ではないので、対象にしていない。

15）一而 再再 而三地做工作，正面做不通，就从侧面动员。（再三再四にわたって進めていて、正面からいけないなら、側面からいく。）(《人民日报》1995-12)

16）一个人一开始写文章，到后来写文章，到再后来、再再 后来，他的写作的动因不可能一

直是一样的。（初めて文章を書くこと、後で書くこと、また後の後、さらに後の後の後になると、そのきっかけはずっと変わらないわけではない。）（《作家文摘》1994）

日本語の例文には「再々」と「再再」の二種類の書き方があるが、便宜上で同じように扱うことにする。

パターン①「再再＋動作名詞」→名詞連語として文中で用いられる。

17）地区再開発促進　事業地区 再再発促 進事業は、計画的な再開発が必要とされた市街地等において敷地の共同化等により中高層…（《建設白書》）

18）情報通信審議会（秋山喜久会長）は十三日総会を開き、地域通信市場の競争が進展しない場合は、NTT再々編 などが必要とする二次答申を片山虎之助総務相に提出した。（『琉球新報』）

19）一つの信仰に身を置く人々は、よほど 再々反省 をして見ないと、うっかりとこの学問には入って行けません。（『柳田國男全集』）

20）JR 東も JR 九州の八十六の 再再 復活を見習って、五十八の復活をしてもいいのでは無いでしょうか……？（Yahoo!ブログ）

「再々」は「反省」と組み合わさり、「再々反省」という動作名詞になり、文中で目的語の役割を果たす。例 17）－19）では、「再再」は名詞の前にきて、名詞の用法といえるが、名詞のほうは全て動作を表すものであるので、副詞のような使い方と思われる。一方、「再々」が副詞的な用法として、「反省をして」の動詞述語を修飾しているというとり方もあり得るだろう。20）「再再復活」は前に「八十六の」という名詞連体修飾成分がくるので、文中で目的語の働きを果たしている。

パターン②「再再＋動作名詞＋する」→動詞として文中で用いられる。

21）さらに、再々婚した ３人目の夫の不審な死―彼女が類を見ない犯罪を犯した背景に何があった。（『女性セブン』）

22）『海の口笛』以来ヒロイン役が定着した飯塚澄子が、その年の秋に 再再演された『秘密の花園』が終わった後に、置き手紙をして突然劇団を辞めてしまったのである。（『教室を路地に！』）

23）なお、正史の鄭成功は、慶安六年廈門・金門に拠り日本への援兵を 再々要請している が、幕府はこれを断っているのだ。（『猿飛佐助』）

パターン③「再再＋動詞」

24）赤城がホテルへ 再々押しかけてくる ようになると重大事である。（『片翼だけの天使』）

25）なんだか、汚いことをしたみたいねとイヤ味を言われたことも 再々ある。（『片翼だけの天使』）

「再々」がうしろの動詞「押しかけてくる」、「ある」を修飾して、副詞的な用法になっている。

パターン④「再再＋に＋動詞」

26）さきに、義景は、浅井方が 再々に 頼むので近江への出兵を決意したが、その家中、一族の者は反対して一人も応じなかった。(『物語日本の歴史』)

「再再」の現代使用例が少ないので、動詞とのコロケーションなどを日中対照することは困難である。ようするに、意味上では同じように用いられているのである。また、形態から見れば、日本語のほうは副詞以外にも、名詞的な使用が古代には存在していたが、現代日本語には、動作名詞の前、または動詞の前にきて修飾用法を果たす。

4. まとめ

最後に、「再」を含む同形副詞について、分かりやすく、下記の表の形でまとめる。

表 2 日中副詞「再び」「再度」「再三」「再三再四」「一再」「再再」の比較

特徴 / 日中副詞	意味		文中での機能			共起動詞の意味				述語特徴					
	プラス	マイナス	修飾語	規定語	述語	非人間	人間物	人間精	人間社	肯定	否定	主節	従属節	時制	働きかけ
再び（日）	－	－	◎	－	－	○	○	△	○	◎	△	○	仮定△	過・非	－
再　（中）	－	－	◎	－	－	△	○	○	◎	◎	○	○	仮定○	未来	○
再度（日）	－	－	○	△		△	◎	○	◎	◎	－	○	文頭△		
（中）	－	－	○	－	－	○	○	△	◎	◎	－	○	文頭—		
再三（日）	－	○	◎	○	△	－	△	△	◎	◎	－	○	逆接○		
（中）	－	－	◎	－	△	－	△	○	◎	◎	－	△	逆接○		
再三再四（日）	－	○	○	△	－										
（中）	－	－	○	－	－										
一再（日）	－	－	○	－	△										
（中）	－	－	○	－	－										
再再（日）	－	－	○	形容動詞 △											
（中）	－	－	○	－	－										

◎　ある（多い）

○　ある（ふつう）

△　ある（わずか）

－　ない

結論と今後の課題

以上、日本語と中国語の同形数字副詞について、副詞と動詞との組み合わせを調査し、動詞の意味のタイプ、その述語形式、文中での位置などを中心に検討してきた。これらの考察により、日中両言語には多くの共通点と相違点があることが確認できた。副詞と動詞とのコロケーションにおける差異が比較的大きいものに「一向」「一旦」「一一」「再三」があり、比較的小さいものに「一時」「一度」「一概」「再度」「再」がある。また、「一挙」「一斉」の両語は日中の差異があまり見られない。最後に、本研究で明らかになったことをまとめ、今後の課題を述べる。

第一部では、日中両言語におけるコロケーションに関する先行研究を踏まえて、数字「一」／“一”を含む副詞と動詞とのコロケーションを、おもに「連続的な量」と「非連続的な量」と２分類し、「量規定的なむすびつき」という特徴が得られた。

第二部では日中両言語における数字「一」を含む二字副詞について、対訳コーパス、日本語 BCCWJ コーパス、中国語 CCL コーパスを用いて調査を行った。その結果、①日中の「一挙」と「一斉」は動詞と方法規定的なむすびつきをつくり、両言語における差異が比較的小さいこと、②日本語の「一概に」は「言う」などの言語表現をさししめす動詞と共起することが多く、中国語の“一概”と同じく「すべて、全部」という空間的な量規定的なむすびつきをつくることが明らかになった。

また、「一時」、「一向」と「一旦」はともに中国語古代における時間の意味を持っているが、言語の発展とともに、中国語の“一向”はそのまま、継続動詞とむすびつき、時間量という量規定的なむすびつきをつくるようになった。そして、日本語の「一向に」は時間量から程度量という量規定的なむすびつきとなった。また、日本語の「一旦」は時間量という量規定的なむすびつきが多少使用されているが、中国語の“一旦”は時間量というむすびつきが徐々になくなり、文全体にかかる陳述的な意味を帯びてきた。「一時」は現代日中両言語においてともに時間的な量というむすびつきが使用されている。

日本語の「一一」は精神的活動をさししめす動詞と共起することが多く、動作をおこなうときの行為者の心構え、物事のとりあつかいかたの側面から特徴付けが行われ、「行為に対する態度」という質規定的なむすびつきとなった。一方、日本語「一つ一つ」は中国語の“一一”と近い使い方が見られ、「人の動作の特徴づけ」という質規定的なむすびつきとなった。「一度」／“一度”には同じ傾向もみられた。日本語「一度」は中国語“一度”と比べて、陳述的な意味という独自の役割を果たすようになった。

第三部では日中両言語における「再」を含む副詞について、「再」、「再度」、「再三」および「一再」、「再再」、「再三再四」を比較した。その結果、動詞との組み合わせからみれば、いずれも「頻度」という「時間的な量」という量規定的なむすびつきとなっていることが明らかになった。

漢語構成からみれば、「再度」は「再」と「渡る」の動作をあらわす「度」と組み合わさって、偏正複合語となっていて、動作行為の発生回数を限定的に修飾している。それに

対して、ほかの「再三」「一再」「再再」「再三再四」は数詞「二」の意味を表す「再」が数詞「一」、「三」などと組み合わさって、並列連合複合語となって、うしろの動作行為の発生回数を限定するというより、それを強調するニュアンスが感じられる。中国語の“一度”は動作行為の発生時間量を表す機能が残っているが、特に存在、作用などを表す動詞との共起が可能である。しかし、“再度”の場合は、“度”の時間量をあらわす役割がなくなり、動作行為の発生回数しか表せなくなった。日本語では、「一度」と「再度」の主な役割は動作行為の回数を表すことであるが、“度”の時間量を表す役割はほとんど見いだせない。でも、「一度」の場合は陳述的な意味を帯びるようになったが、「再度」の場合は具体的な動作のアクチュアルな回数を表す。その違いの根拠は数詞「一」、「二」（再）と何か関係があるかどうか、本論文では保留される。今後は、中日同形副詞の範囲を広げ、副詞と動詞とのコロケーションの差異について深く調査を進めていきたい。

最後に、中日同形語以外に日本語類義副詞「うっかり」「おもわず」についても、動詞とのコロケーションを検討した。副詞と共起する動詞には大きな差異が存在することが分かった。これも日本語教育現場に重要な手がかりを提供する。

補充考察：日本語の類義語「思わず／うっかり」の動詞との共起

本研究は中日同形副詞について副詞と動詞とのコロケーションから対照考察するものである。その結果、動詞とのむすびつきでは中日同形副詞において様々な差異が見られることが明らかになった。同一言語において、類義副詞の場合はどうなるのかについて、本研究では主な対象としてあつかうわけではないが、補足的にすこしふれる。日本語の類義語「思わす」「うっかり」について動詞とのコロケーションを分析した結果、それぞれの共起している動詞がかなり異なっていることが分かった。

1. はじめに

主体の意図性に関わる副詞には、意図的であるものと、非意図的であるものとがあるが、本研究では、後者の主体の非意図性に関わる副詞に着目して、「思わず」「うっかり」を例に文中での動詞との組み合わせを考察することとする。

2. 先行研究

李澤熊（2001，2002）は「思わず，無意識に，我知らず，知らず知らず，いつの間にか，いつしか」グループと「うっかり（と），うかうか（と），うかつに，うかつにも」グループに分けて、各語の相互の意味相違点を分析した。両グループとも主体の非意図性に関わる副詞であるが、各々において意味の特徴をもっている。「思わず」グループは「ある行為を気づかないまま行う場合に用いられる」という点で共通しており、「うっかり」グループは「非意図的であることを表す。話し手が主体の行為や状態に対して、マイナス評価を与えることを表す」という共通点をもっている。

酒井悠香（1998）は「つい、うっかり、うかうかと、うかつに、思わず、しらずしらず、無意識に」の１グループを無自覚の行為であることをあらわす副詞として、類義語の意味分析を行った。それぞれの副詞がよく組み合わさる動詞、また、どのような文に現れるかという見方から、副詞の意味の特徴について、ある一定の傾向がみられる事を明らかにしている。

3. 研究方法

本章では、李澤熊（2001，2002）の両グループから、分析対象を一つずつ取り上げ、「思わず」と「うっかり」を中心にして、酒井（1998）の研究方法でそれぞれの動詞との組み合わせ、それぞれの文型共起について、多数のデータからさらに具体的に考察する。分析にあたっては、データベース「KOTONOHA」『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用い、本・雑誌・新聞の範囲で「思わず」、「うっかり」の語で検索し、表示されたそれぞれの 500 句を対象にして、「思わず」の有効実例 448 句、「うっかり」の 352 句を基とする。

4. 考察一：動詞との組み合わせ

酒井悠香（1998）は、動詞との組み合わせについて、「思わず」と「うっかり」は共通点を持っているが、それぞれに違いもあると言及している。

まず、「思わず」の意味については、①動作主体が予期しない場面や出来事にであって、意図せずに時間をおかず反射的に反応する様子。②自覚しないままに行動したと動作主体がとらえる様子と分類している。

①の意味では、「思わず」は具体的な動作をあらわす意志動詞や無意志動詞、とくに発話活動、生理活動、身体活動などの動詞と組み合わさって表現されるとしている。

例：聖火の点火に 思わず 歓声を上げた。

例：つめたい空気に、思わず 身震いする。　（酒井悠香（1998））

また、②の意味では、具体的な一つの動作を表す動詞に限定されず、一つ一つの動作を総合した意味をもつ動詞ともくみあわさって表現されるとしている。

例：酒場の勘定がなぜ高いか、どうやって酒場が駄目になったかを書き続け、
思わず 長くなり、とりとめがなくなった。　（酒井悠香（1998））

次に、「うっかり（と）」は意志動詞と組み合わさり、普通は動作者が意識的にする行為について、＜不注意で＞動作者のコントロールを外れて行ったことを表し、無意志動詞の中でも、「忘れる」「間違える」のような、注意すれば防ぐことができる動作を表す動詞とくみあわさる。しかし、「汗をかく」「発作をおこす」「しびれがきれる」「カッとなる」のような生理活動や心理活動を表す動詞は「うっかり（と）」と組み合わせないとしている。

4.1. 「用の類」における使用傾向

『分類語彙表』（増補改訂版）に基づき、副詞「思わず」と「うっかり」の後に来る動詞を分類してみると、以下のような傾向が見られる。

動詞分布範囲は『分類語彙表』の「2. 用の類」の下位三項目、すなわち「抽象的関係」「人間活動―精神及び行為」「自然物および自然現象」のすべてにまたがっている。その中でも、最も多い項目はともに「人間活動―精神及び行為」の類に集中していることが明らかとなった。

表 1 共起動詞の意味対照

2. 用の類	思わず	うっかり
「2.1 抽象的関係」	10.94%	25.00%
「2.3 人間活動―精神及び行為」	87.50%	72.16%

「2.5 自然物および自然現象」	1.56%	2.84%

「思わず」

1）少し春と人に酔ったせいか、思わず 道草を食ってしまった。(『写真から写真へ』)

「道草を食う」2.1 抽象的関係　　2.15 作用　　2.1520 進行・過程・経由

2）その視線をたどったジェマは、思わず 息をのんだ。ネイサンが大きな革のソファーに美しいブロンドの女性と並んで座っている。(『炎のハート』)

「息をのむ」2.3 人間活動—精神及び行為　2.30 心　2.3002 感動・興奮

3）「マーシーと呼んでね」　マーシーは力なく言った。サムは 思わず 止めていた息をゆっくり吐きだした。(『夏色のマーシー』)

「息を吐き出す」2.5 自然現象　　2.57 生命　　2.5710 生理

「うっかり」

4）だから、学校で他の子に石を投げたり、うっかり 教科書をなくしたりしたときなど、父のそばを何食わぬ顔で通り抜け……　(『ジョイ・ラック・クラブ』)

「無くす」2.1 抽象的関係 2.12 存在　　2.1250 消滅

5）しかし、全部配り終わっても、なんと私の分だけはなかった。うっかり 忘れたのだろう。(『ぼけナース』)

「忘れる」2.3 精神及び行為　　2.30 心　2.3050 学習・習慣・記憶

6）食べきれないで残しておいたものに、うっかり、カビがはえてしまったというのです。(『帝国ホテルが教えてくれたこと』)

「生える」2.5 自然現象　2.57 生命　　2.5701 生

4.2. 分布傾向

「思わず」と「うっかり」の共通点

さらに詳しい動詞の下位分類によると、分布範囲はほぼ同じ傾向が見られる。「抽象的関係」の分類では、「作用」（なる、出る、漏らす、落ちる…）の使用例が集中的に多い。「人間活動—精神及び行為」の分類では、ともに「心」「言語」「生活」三つの項目が多数であることが分った。

表 2 共起動詞の三分類

2. 用の類	下位項目	思わず	うっかり
2. 1 抽象的関係	2. 11 類	0.00%	0.28%
	2. 12 存在	0.67%	3.13%
	2. 13 様相	0.45%	0.85%
	2. 15 作用	9.15%	20.45%

	2.16 時間	0.00%	0.28%
	2.17 空間	0.67%	0.00%
2.3 人間活動―精神及び行為	2.30 心	48.66%	30.40%
	2.31 言語	15.85%	22.73%
	2.32 芸術	0.22%	0.28%
	2.33 生活	19.20%	8.24%
	2.34 行為	2.01%	3.40%
	2.35 交わり	0.45%	1.14%
	2.36 待遇	0.22%	1.42%
	2.37 経済	0.67%	2.27%
	2.38 事業	0.22%	1.98%
2.5 自然物および自然現象	2.50 自然	0.00%	0.28%
	2.51 物質	0.00%	0.85%
	2.57 生命	1.56%	1.70%

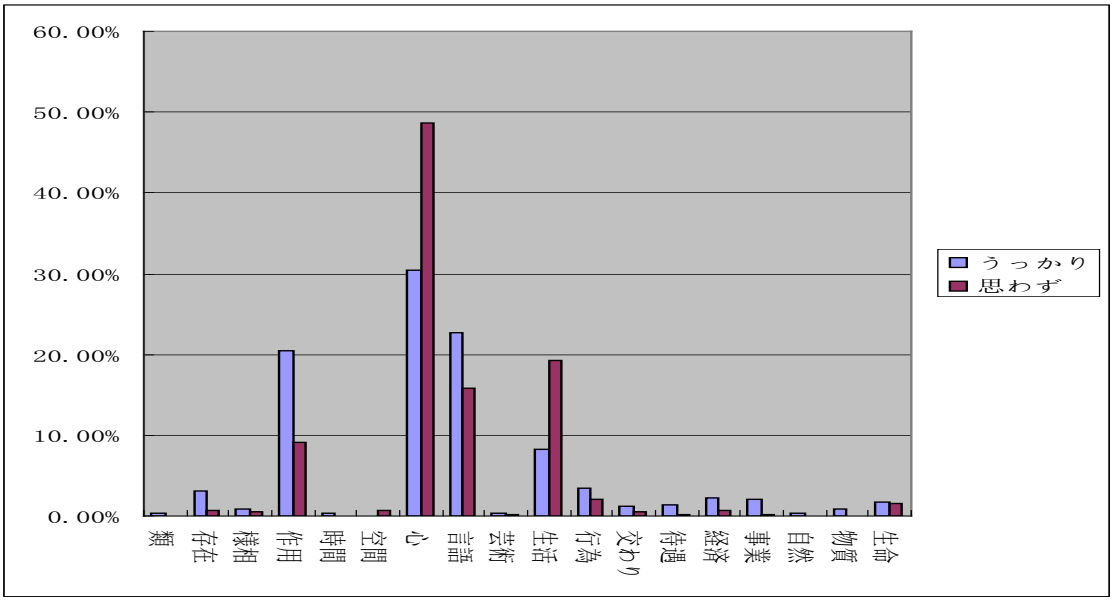

図１ 「思わず」と「うっかり」の共起動詞

「心」における使用傾向

「心」の分類において、「思わず」にはくみあわさる動詞が多い。たとえば、「表情・態度」（笑む、涙ぐむ、泣く、眉をひそめる…）、「声」（叫ぶ、声を上げる、呻く…）「感動・興奮」（感心する、息を呑む、ぎくりする…）などである。それに対し、「うっかり」のほうはその種の動詞との組み合わせは少なく、「忘れる、失念する、かけ忘れる、買い忘れる、真似する」のような「学習・習慣・記憶」の動詞例が多い。「忘れる」とむすびつく「思わ

ず」は一回だけの出現であり、この種の動詞と組み合わさることがほとんどないことが分かる。「見る」の動詞は両方にあるが、「思わず」のほうが多い。

表 3 「心」の下位分類

2.30 心（下位分類）	思わず	うっかり
2.3000 心	0.22%	1.42%
2.3001 感覚	0.45%	0.57%
2.3002 感動・興奮	4.69%	0.00%
2.3003 飢渇・酔い・疲れ・睡眠など	0.45%	1.70%
2.3011 快・喜び	0.00%	0.28%
2.3012 恐れ・怒り・悔しさ	0.67%	0.00%
2.3013 安心・焦・満足	0.67%	0.00%
2.3014 苦悩・悲哀	0.22%	0.00%
2.3020 好悪・愛憎	0.00%	0.28%
2.3030 表情・態度	13.39%	1.14%
2.3031 声	14.29%	0.28%
2.3040 信念・努力・忍耐	0.00%	0.57%
2.3041 自信・誇り・恥・反省	0.22%	0.28%
2.3050 学習・習慣・記憶	0.22%	13.64%
2.3061 思考・意見・疑い	0.89%	1.14%
2.3062 注意・認識・了解	1.12%	0.28%
2.3066 判断・推測・評価	0.00%	0.85%
2.3067 決心・解決・決定・迷い	0.67%	0.28%
2.3071 論理・証明・偽り・誤り・訂正など	0.00%	1.70%
2.3091 見る	9.38%	3.41%
2.3092 見せる	0.00%	0.57%
2.3093 聞く・味わう	1.12%	1.99%

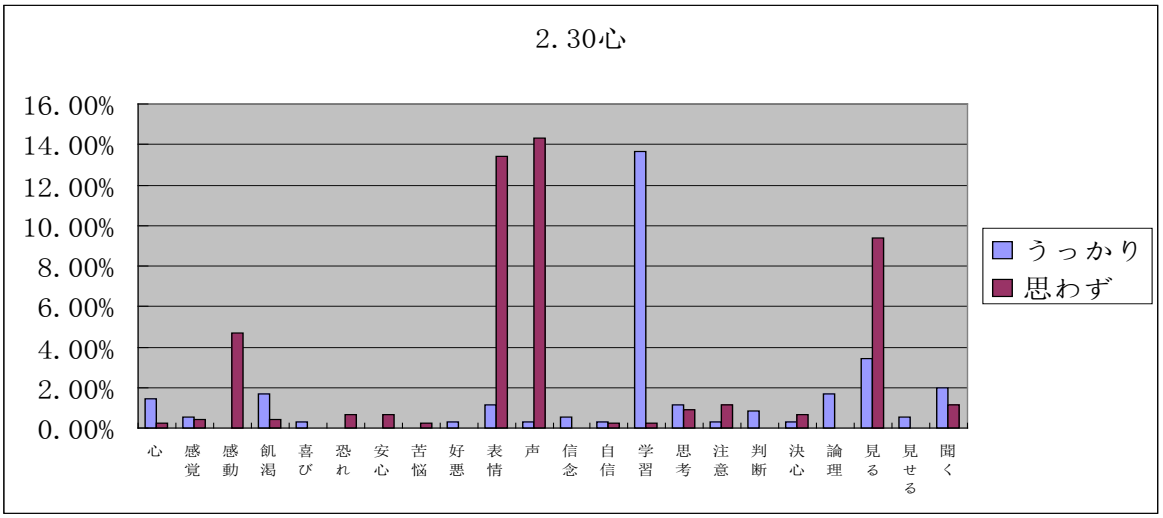

図 2　「心」項目における「うっかり」と「思わず」の使用傾向

「言語」における使用傾向

「言語」の分類結果によると、「思わず」は「言語活動」（セリフを吐く、つぶやく、本音が飛び出す…）に多いが、「うっかり」も「言語活動」（言う・口が滑る・口を滑らす・滑らせる・口にする・しゃべる…）に多く、同じ傾向が見られる。

表 4 言語の下位分類

2.31 言語（下位分類）	思わず	うっかり
2.3100 言語活動	12.72%	16.19%
2.3102 名	0.00%	0.28%
2.3103 表現	0.00%	0.28%
2.3122 通信	0.22%	0.00%
2.3123 伝達・報知	0.00%	0.57%
2.3131 話・談話	0.22%	1.42%
2.3132 問答	2.01%	0.85%
2.3133 会議・論議	0.00%	0.28%
2.3151 書き	0.67%	2.84%

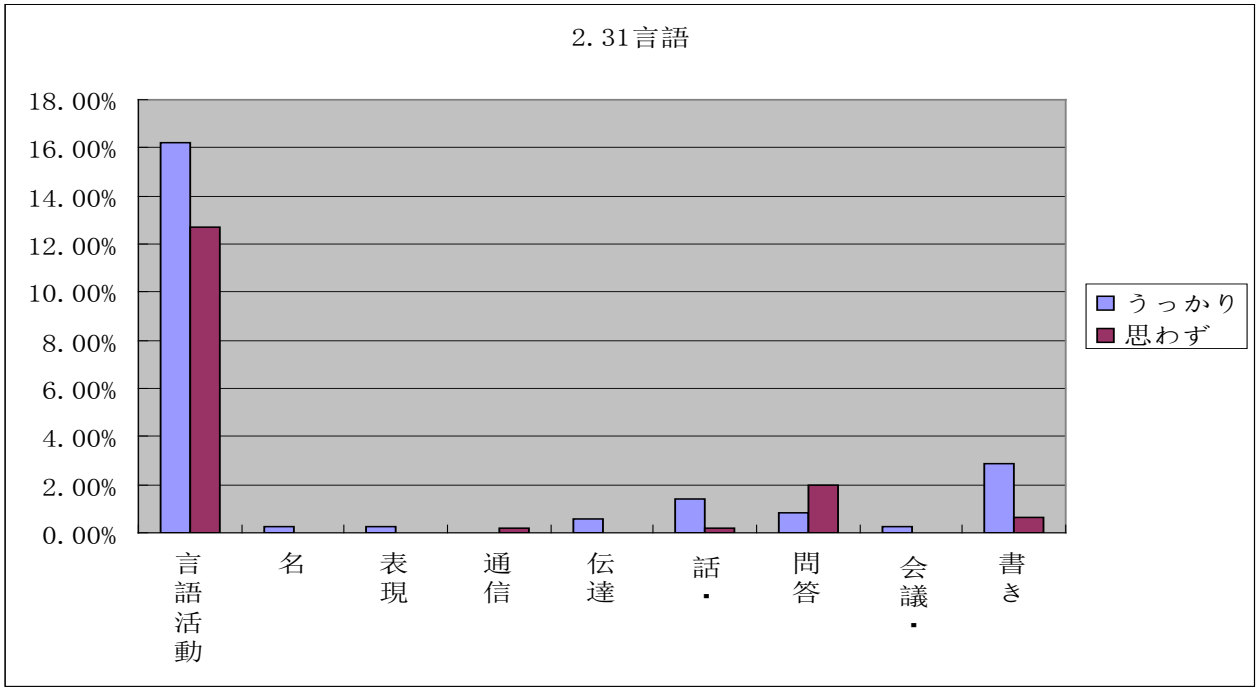

図 3 「言語」項目における「うっかり」と「思わず」の使用傾向

「生活」における使用傾向

「生活」の使用例を分析すると、「思わず」は人間の身体動作を表す動詞、例えば「身振り」（うなずく、首をふる、顔を上げる…）「立ち居」（へたりこむ、背伸びをする、顔を伏せる…）「手足の動作」（抱き締める、叩く、足を踏み出す…）「口・鼻・目の動作」（つばを飲み込む、溜息を吐く…）で多い。これらの項目の合計は「うっかり」（持つ、足を踏み外す、目を離す…）を大きく上回る。

表 5 生活の下位分類

2.33 生活（下位分類）	思わず	うっかり
2.3330 生活・起臥	0.22%	0.00%
2.3331 食生活	0.22%	2.27%
2.3332 衣生活	0.00%	0.57%
2.3360 行事	0.22%	0.00%
2.3390 身振り	3.13%	0.00%
2.3391 立ち居	4.69%	0.28%
2.3392 手足の動作	8.71%	4.55%
2.3393 口・鼻・目の動作	2.01%	0.57%

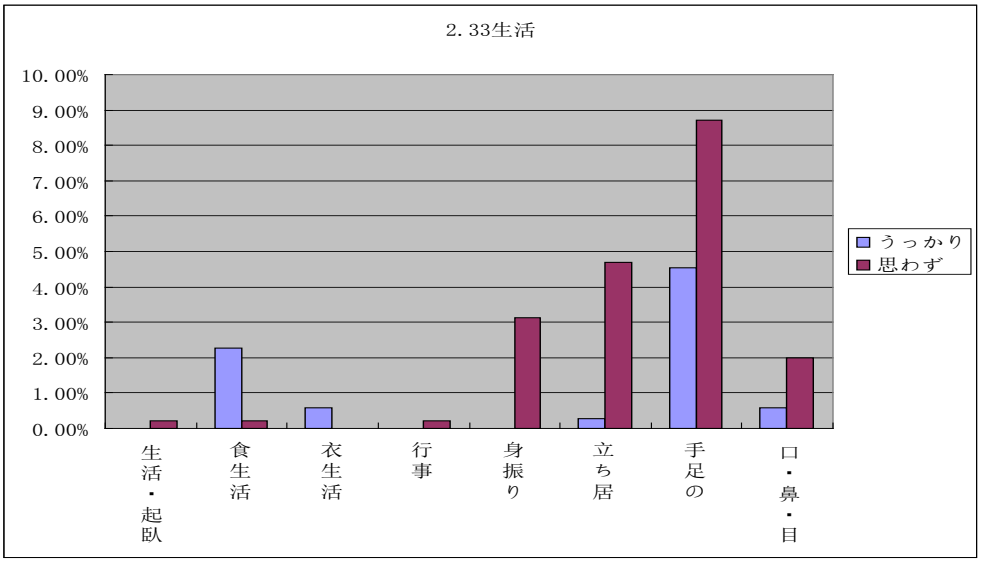

図４ **「生活」項目における「うっかり」と「思わず」の使用傾向**

以上のデータを分析してみると、「思わず」と「うっかり」の後に来る動詞の種類が異なっている。「思わず」の主な意味は、「動作主体が予期しない場面や出来事にであって、意図せずに時間をおかず反射的に反応する様子」であり、そのため、身体に関わる具体的な動作を表す動詞と組み合わさる傾向がより強いようである。「手足口鼻目の動作」「立ち居」「身振り」、または具体的動作による「表情・態度」「声」のほうでも多用される傾向が見られ、動作者の本能的なものであるイメージがある。それに対して、「うっかり」は脳、思想などによる「学習・習慣・記憶」のような抽象的な動詞と組み合わさる傾向が見られる。「うっかり」は動作者がつねに意識的に注意しているが、なんらかの不注意で、動作者のコントロールを外れて行ったことを表す。「言語活動」における「思わず」と「うっかり」の使用傾向が似ているが、これは「言語活動」は人間の本能と思想との融合産物であるのが、原因になっていると考える。

5. 考察二：述語および動詞文型

宮島（1983）は述語のムードを中心として、命令との共存ができないという観点から取り上げた「積極的にとることのできない状態」を表す副詞「思わず」と「うっかり」の相違点を分析した。「思わず」が命令・禁止ともに共存できないのに対し、「うっかり」は命令には使えないが禁止は成り立つ。「うっかり」はマイナスに評価される傾向があり、禁止とは共存できても、命令とは共存できないと考えられる。

「おもわず」

＊　おもわず　手を　あげろ。（命令文）

＊　おもわず　手を　あげるなよ。（禁止）

＊　おもわず　庭に　でては　いけない。（禁止）

＊　おもわず　戸を　あけるんじゃ　ないよ。(禁止)
「うっかり」
＊　うっかり　手を　あげろ。(命令文)
　うっかり　さわるなよ。(禁止)
　実例の中で、命令、勧誘、依頼の使用はみつからなかったが、文型の使用傾向が違っていることが見られた。

表 6　文型の比較

文型	思わず	うっかり
A～てしまう	16.96%	32.58%
B（～と、～ば、たら、なら）	1.79%	19.26%
C～たくなる（ほしくなる、気分になる）	4.69%	—
D～そうになる	3.57%	1.42%

思わず：

7）いっぱしの言い方をするものだから、真裕子は思わず笑ってしまった。（『晩鐘』）
8）目の見たものに、頭がついていけない。「あんなに細いんですね」思わず舌を滑らせたら、アニマルセックスについてあまりにも無知である（『アンナの工場観光』）
9）自分が自分じゃない気がした。「わたしの顔って、こんなふうだったっけ。」思わずつぶやくと、ママは、にがわらいをした。（『幽霊屋敷のなぞを追え！』）
10）めったにひとに甘えない母が、今、私に甘えている。思わず時計を見ると、もう十時をまわっていた。（『されど道づれ嫁姑』）
11）私が「わが子ながらつくづく情けないという思いですね」と思わずことばを添えると、母親は、「ほんとに、情けない限りです」とことばを強めるのです。（『プロカウンセラーが明かす子どもの個性を伸ばす魔法の聞き方』）
12）それに思わず見てしまえば、意外に側にいた赦那が伽羅の顔を覗き込んでいた。(『ずっとあなただけ』)
13）黒ヘビはにげるようすもなく、じっと、タケシを見ている。きみわるい目だ。思わず、強く、パイプをふりおろしたら……「えっ！」黒ヘビが、かんたんに、ちぎれた。（『ゆうれいねずみがささやいた』）
14）僕は、なにか見てはいけないものを見たような気がして、思わず立ち止まると、先生が軽く振り返り手招きする。(『幻覚』)
15）友だちと打ち合わせ中。後でかける」　「あっ…。呼び出したのはそっちだろうが！」
　思わずテーブルの足を蹴飛ばすとコーヒーがこぼれ、大事な席次表に茶色い染みを作っ

た。(『悪いオンナ』)

16）形もいろいろあって集めるのも楽しいでしょう。陶磁器店には必ずあるので 思わず 手にしたくなります。(『韓国陶磁器めぐり』)

17）「マット、もう電話を切らないと。何かが持ち上がったみたいなの」思わず 、ガースは咳き込みそうになった。(『カラメールの恋人たち』4)

うっかり：

18）しょうじき、「クソックラエ！」といいたいところだが、うっかり そんなことを口ばしってしまったらこの世ではもう呼吸ができなくなるかもしれない。 (『土地の文明』)

19）これが馬鹿にできず、うっかり リュックなどを置くと、ブスブス突き刺さりそう（楼蘭古城にたたずんで）

20）そこまで探り出したあとは、かつて夫婦だった二人の問題ということになる。うっかり 私が子供を連れ出そうものなら、それこそ誘拐犯ということになる。(『罅・街の詩』)

21）登山道にちがいない。が、ときおり突風が吹くうえに、足もとがひどくぬかるんでいる。うっかり 気を抜いたりすれば、たちまちスッテンコロリといきそうで、(『日本楽名山』)

22）私が無知ぶりをさらけ出したら、あるいは、―思ったことを うっかり 口に出したら、子どもたちに恥をかかせてしまう。(『アスペルガー的人生』)

23）智津香の存在を一顧だにしない。こんにちはと、うっかり 声をかけそうになり、慌てて口をつぐんだ。(『フェティッシュ』)

「～てしまう」との共起について

酒井悠香（1998）は「うっかり」のほうが「～てしまう」の形の述語をとることがよくあると指摘した。条件づけの付き添い文で、マイナスの意味を持つ条件を提示することもある。ただし、ここでは「思わず」の使用は言及されていない。本章での観察によると、「うっかり」の「～てしまう」使用例数は 32.58%であるが、「思わず」は 16.96%であるという結果が見られる。「うっかり」の「不注意」の原因で、防止できることを失敗するという意味は、「～てしまう」の「予期しなかったこと、期待しなかったことがおこることをあらわす」という用法とで何らかのつながりがあると考える。「思わず」のほうは、「～てしまう」のもつ「非意図化」という機能がより関連しているのではないだろうか。

条件文との共起について

ごいしろう（1980）では、「うっかり」は条件文でも用いられるが、「思わず」は用いられないと指摘されている。「思わず」が仮定的な文の従属節で用いられないことから，「〈既成事実〉あるいは〈実現確実と考えられること〉についてしか用いられない」。本章では「うっかり」と「思わず」の「～と、ば、たら、なら」の条件文共起を分析した。「うっかり」には 19.26%という多数の使用が見られる。「思わず」ではないとはいえないが 1.79%しか使用例数がないことが分かった。「うっかり」が複文の従属節に現れる場合は、その述語

の表す動作を「うっかり」すると、主節の述語の表す好ましくない事態が起きることを表し、そうならないように注意を喚起するという表現になる。

【謝辞】

本論文の作成にあたっては、多くの方々のお助けをいただきました。

まず、テーマの決定から論文の完成まで温かくご指導くださった指導教授の村木新次郎先生に感謝を申しあげます。また、温かいご批判と素直なご意見をくださった楊華先輩、「山城ことばの会」の皆、皆様のお力添えがなければ本論文も完成には至りませんでした。

また、筆者の勤務校である青島農業大学の佐藤敦信先生を始めとする方々には日本語の文法や用法について貴重なご援助をいただきました。そして、温かく見守ってくれた日中両国の友人、お世話になったすべての方々に、心から感謝を申し上げます。

最後に、この長い道のりを陰で支えてくれた家族の皆、ありがとうございました。

【本研究での表記について】

- 例示する単語や例文について、日本語は「　　」で、中国語は“　　”で示した。中国文の日本語訳は（　　）で示した。
- 書名については、日本語で表記したものは『　　』、中国語で表記したものは《　》を使用した。なお、論文については日本語で表記したものは「　　」、中国語で表記したものは＜　＞で示した。
- 中国語については制定された簡体字で記し、日本語については現代仮名遣いおよび常用漢字で記した。
- 本研究ではまったく成立しないものは「×」で示す。成立するかどうか判断し難いものや、非常に不自然な感じを与えるものは「*」で示した。
- 中国語の例文については、参考として日本語訳を付したが、文法的な説明に関しては中国語文の方を参考にしていただきたい。

【用例の出典・データベース】

中国語：

- 国家语委现代汉语平衡语料库（www.cncorpus.org）
- 北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库检索系统（网络版）
（http://ccl.pku.edu.cn:8080/）
- 日本語：国立国語研究所現代 日本語書き言葉均衡コーパス通常版
（https://chunagon.ninjal.ac.jp/）
- 対　訳：北京日本学研究センター（2003）『中日対訳コーパス（ 第一版 ）』

【参考文献】

荒川清秀（1979）「中国語と漢語-文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて-」『愛知大学文学論叢』62

荒屋勒（1983）「日中同形語」『大東文化大学紀要〈人文科学〉』21 大東文化大学

石堅・王健康（1983）「日中同形語における文法的ズレ」『日本語と中国語の対照研究』別冊　大阪外国語大学日中語対照研究会

石黒圭（2004）「中国語母語話者の作文に見られる漢語副詞の使い方の特徴」『一橋大学留生センター紀要』

今井洋子（2000）「上級学習者における格助詞「に」「を」の習得－「精神的活動動詞」と共起する名詞の格という観点から」『日本語教育』

岩田一成（2013）『日本語数量詞の諸相』くろしお出版

李澤熊(2001)「副詞（的機能を持つ表現）の意味分析―思わず，無意識に，我知らず，知らず知らず，いつの間にか，いつしか―」『世界の日本語教育』11 国際交流基金

李澤熊(2002)「非意図的であることを表す副詞（的機能を持つ表現）の意味分析―うっかり（と），うかうか（と），うかつに，うかつにも―」『日本語科学』12 国書刊行会

臼田寿恵吉（1909）『日本口語法精義』松邑三松堂

大塚秀明(1990)「日中同形語について」『外国語教育論集』12 筑波大学外国語センター

大河内康憲（1997）「 日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

小矢野哲夫(1982)「副詞の意味記述について-方法と実際-」『日本語・日本文化』11 大阪外国語大学留学生別科

金子亨（1995）『言語の時間表現』ひつじ書房

金田一秀穂監修（2006）『知っておきたい日本語結びついたことばコロケーション辞典』学習研究社

加藤美紀（2003）「もののかずをあらわす数詞の用法について」『日本語科学』13

北原博雄（1996）「連用用法における個体数量詞と内容数量詞」『国語学』

言語学研究会（1983）『日本語文法連語論(資料編)』むぎ書房

工藤浩（1982）「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」国立国語研究所『研究報告集 3』秀英出版

国立国語研究所（編集）（ 2004）『分類語彙表』(増補改訂版）国立国語研究所資料集

江雯薫（2011）「頻度副詞に関する一考察―低頻度をあらわす副詞をめぐって」『比較文化研究』99

高英善（2005）「副（詞「一一（いちいち)」とその周辺の語彙」『言語文化研究』（4）ごいじろう(1980)「ことばの意味 81 ウッカリ・ツイ・オモワズ」『月刊百科』216 平凡社

酒井悠美(1998)「無自覚の行為であることをあらわす副詞」『国文学解釈と鑑賞』第 63 巻第 1 号

朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳（1995）『文法講義－朱徳熙教授の中国語文法要説』白帝社
鈴木康之（1978-79）「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ（14）」『教育国語』55-59 号
高橋太郎（1994）『動詞の研究』むぎ書房
田中義廉 1874『小学日本文典』猫穴書屋
田中春美・他編（1988）『現代言語学事典』成美堂
建石始（2006）「非指示的名詞句における数詞「一」の独自性」『日本語文法学会第 7 回大会発表予 稿集』
中川正之（2002）「中国語の形容詞が日本語でサ変動詞になる要因」『日本語学と言語学』明治書院
中右実（1980）「文副詞の比較」国廣哲彌編『日英語比較講座第 2 巻文法』大修館
中根淑（1876）『日本文典』森屋治兵衛
新川忠（1979）「「副詞と動詞とのくみあわせ」試論」『言語の研究』むぎ書房
仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版
野田尚史（2007）「文法的なコロケーションと意味的なコロケーション」『日本語学』26　明治書院
日本語文法学会編（2014）『日本語文法事典』大修館書店
文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
橋本進吉（1939）『改制新文典別記文語篇』冨山房
飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』東京堂出版
姫野昌子監修（2004）『日本語表現活用辞典』大修館書店
松下大三郎（1928）『改選標準日本文法』紀元社
益岡隆志・田窪行則 1992『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版
まつもとひろたけ（1979）「に格の名詞と形容詞とのくみあわせ」『言語の研究』
宮島達夫(1983)「状態副詞と陳述」『副用語の研究』明治書院
村木新次郎（2004）「現代日本語における漢語の品詞性」『日語研究』第 2 輯
村木新次郎（2004）「漢語の品詞性を再考する」『同志社女子大学日本語日本文学』16
村木新次郎（2007a）「コロケーションとは何か」『日本語学』26－12　明治書院
村木新次郎(2007b)「日本語の節の類型」『同志社女子大学学術研究年報』第 58 巻
村木新次郎（2008）「中国語の形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語について」『2008 清华大学日本语言学国际研讨会论文提要集』清華大学外语系日本语言文化研究中心
矢野健太郎（1965）　「数と日本人の生活」『言語生活』166 号　名古屋大学教養部
山田 潔（1997）「 抄物における副詞「一向(二)」の諸相」『學苑』
山田孝雄(1908)『日本文法論』宝文館
渡辺実(1949)「陳述副詞の機能」『国語国文』18-1
渡辺実（1957）「品詞論の諸問題―副用語・付属語」『日本文法講座 1 総論』明治書院

渡辺実（1971）『国語構文論』塙書房
渡辺実（1983）『副用語の研究』明治書院
常晓宏（2014）《魯迅作品中的日語借詞》南開大学出版社
陈全静（2011）〈数词的紧邻连用与“一再”、“再三”的副词化〉《安徽师范大学学报》
陈庆斌（1998）〈浅谈一字的音形义及其用法〉《理论学习月刊》第二期
陈望道(1978)《文法简论》上海教育出版社
丁声樹（1961）《现代汉语语法讲话》商务印书馆
董秀芳(2002)〈论句法结构的词汇化〉《语言研究》华中科技大学
方香兰(2011)〈试析中日同形副词“多少”〉《牡丹江大学学报》
何宝年(2012) 《中日同形词研究》 东南大学出版社
侯仁鋒（1997）「同形語の品詞の相違についての考察」『日本学研究』
胡裕树(1979)《现代汉语》第 2 版(修订本) 上海教育出版社
黄伯荣・廖序东（1978)《现代汉语》高等教育出版社
黎锦熙(1924) 《新著国语文法》商务印书馆
李全祥(2001)〈说“一”看汉字文化底蕴〉 锦州师范大学学报
李裕德(1998) 《现代汉语词语搭配》商务印书馆
林杏光等(1994)《现代汉语动词大词典》北京语言学院出版社
刘红妮(2007)〈 “一律”的词汇化、语法化以及认知阐释〉玉溪师范学院学报
刘红妮(2008) 〈“一+N”的词汇化与语法化—以“一概”的个案研究为例〉 《湛江师范学院学报》
刘坚・曹广顺・吴福祥（1995）〈论诱发汉语词汇语法化的若干因素〉 《中国语文》中国社会科学院语言研究所
刘世儒(1962)〈魏晋南北朝动量词研究〉《中国语文》4
刘晓忱(2016)〈汉日同形异义副词对比分析及偏误研究〉 渤海大学硕士论文
刘月华・潘文娱・故韡(2010) 《实用现代汉语语法（增订本)》商务印书馆
劉月華等著　相原茂等訳（1988)『現代中国語文法総覧』くろしお出版
吕叔湘(1956)《中国文法要略》商务印书馆
吕叔湘(1979)《汉语语法分析问题》商务印书馆
马建忠(1898)《马氏文通》商务印书馆
马庆株(1992)《汉语动词和动词结构》北京语言学院出版社
彭広陸（2013）〈中国語の新語に見られる日本語からの借用語〉（特集日本と中国ことばの交流日本語学 32(13)
任冬娜（2007)《对“一”的意义范畴的中日对比研究—以认知语言学为视角》 吉林大学硕士论文
施建军，徐一平，谯燕編著（2012)《汉日语同形副词研究》学苑出版社
施建军（2014)「コーパス言語学の立場から中日同形語の分類を考え直す」《外语教育研究》

施建军，谯燕（2016）〈中日同形词意义用法距离的计量研究—以对译比构建的 F-measure 为尺度〉《解放军外国语学院学报 》
史金生，胡晓萍（2004）〈动量副词的类别及其选择性〉《语文研究》
石立殉(2012)「中国語“一概”と日本語「一概」構文上の異同一肯定・否定を中心に」《日语教育与日本学研究-大学日语教育研究国际研讨会论文集》华东理工大学出版社
史锡尧（1996）〈 “再”语义分析——并比较“再”、“又” 〉《汉语学习》
万礼(2012a) 「非意図的な意味を持つ副詞と動詞のくみあわせ ： 「思わず」「うっかり」を例にして 」『国際連語論学会 連語論研究(1) 研究会報告』32
万礼(2012b)「日本語の「いちいち」「一つ一つ」と中国語の“一一”の対照」『対照言語学研究』海山文化研究所
万礼(2015)〈试分析表动作重复的汉日频度副词-再三，再三再四，一再，再度，再再〉《日本学研究》第七辑 南开大学出版社
王力(1943)《中国现代语法》商务印书馆
王力(1980)《汉语史稿》中华书局
王霞(2005)〈汉语动宾搭配自动识别研究〉《语言文字应用》
吴伯芳(1990)〈关于动量词的起源〉《语文辅导》华南师范大学
闫文文（2010)《特殊数词“一”的研究》东北师范大学 博士论文
杨荣祥（2005)《近代汉语副词研究》商务印书馆
于冬梅（2013)《中日同形异义汉字语研究》 厦门大学出版社
赵元任(1979)《汉语口语语法》商务印书馆
张志公(1953)《汉语语法年常识》中国青年出版社,
张志公（1982)《现代汉语》(试用本）人民教育出版社
张焕香(2011)〈频度副词与否定副词共现时语序的不对称〉《中国语言文字研究》
張金艶・他（2007)『ここが違う日中漢字語』鳥取大学国際交流センター
张静(1980)《新编现代汉语》上海教育出版社
张寿康 林杏光(1992)《现代汉语实词搭配词典》商务印书馆
张谊生(1996)〈现代汉语副词“才”的句式与搭配〉汉语学习
周小兵，邓小宁(2002)〈“一再”和“再三”的辨析〉《汉语学习》
朱德熙（1982)《语法讲义》 商务印书馆
朱京伟（2013） 〈《清议报》中的四字日语借词〉 《日语学习与研究》
朱京伟(2012)〈《时务报》(1896-98)中的日语借词—文本分析与二字词部分〉《日语学习与研究》
邹海清(2006)〈频率副词的范围和类别〉《世界汉语教学》
人民教育出版社(1956)《暂拟汉语教学语法系统》
人民教育出版社(1984)《中学教学语法系统提要》(试用)
F. R. パーマー編・大束百合子訳（1968)『フアース言語論集（Ⅱ）1952－59』研究社

Halliday, M. (1966) Patterns in Words. The Listener, Vol. Lxxv, No.1920
Leech，G.(1981) Semantics: The Study of Meaning. Harmondsworth: Penguin.
Kjellmer, G. (1984) Some Thoughts on Collocation Distincveness. In Aarts,J.and Meijs,W.(eds).Corpus linguistics Ⅱ.
Sinclair,J (1991) Corpus, concordance, collocation. Oxford: Oxford University Press.

【辞書】

相原茂 (2002)『中日辞典』(第二版) 講談社
伊地智善継編 (2002)『中国語辞典』白水社
上野忠司・顧明輝編 (1996)『標準目中辞典』白帝社
北原保雄編 (2002)『明鏡国語辞典』大修館書店
小学館 (1992)『中日辞典』
日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部編 (2000)『日本国語大辞典』(第2版) 小学館
松村明編 (2006)『大辞林(第三版)』 三省堂
岑玉珍主编(2013)《汉语副词词典》北京大学出版社
李行健主编（2010）《现代汉语规范词典》(第2版) 外语教学与研究出版社语文出版社
吕叔湘主编（2012）《现代汉语八百词》（增订本）商务印书馆
徐中舒主编（2010）《汉语大字典》（第2版）四川出版集团，湖北长江出版集团，四川辞书出版社，崇文书局
张斌主编（2013）《现代汉语虚词词典》商务印书馆
中国社会科学院语言研究所词典编辑室编(2012)《现代汉语词典》(第6版)商务印书馆
《汉典》http://www.zdic.net/